

**AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/
AQ6373B/AQ6375/AQ6375B
光スペクトラムアナライザ
リモートコントロール
ユーザーズマニュアル**

はじめに

このたびは、AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B 光スペクトラムアナライザをお買い上げいただきましてありがとうございます。

このリモートコントロールユーザズマニュアルは、AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B、AQ6375、AQ6375B 共通のもので、下記の内容を説明しています。

- GP-IB インタフェース
- RS-232 インタフェース
- イーサネットインタフェース
- 通信コマンド
- プログラム機能

ご使用前にこのマニュアルをよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになったあとは、ご使用時にすぐにご覧になれるところに、大切に保存してください。ご使用中に操作がわからなくなったときなどにきっとお役に立ちます。

なお、AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に関するマニュアルは、このマニュアルの他に以下のマニュアルがあります。あわせてお読みください。

AQ6370C

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ6370C 光スペクトラムアナライザ ユーザズマニュアル	IM AQ6370C-01JA	AQ6370C の通信機能とプログラム機能を 除く全機能とその操作方法について説 明しています。CD に収録
AQ6370C 光スペクトラムアナライザ スタートガイド	IM AQ6370C-02JA	AQ6370C の使用上の注意点、設置方法、 各部の名称、仕様について説明しています。

AQ6370D

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ6370D 光スペクトラムアナライザ ユーザズマニュアル	IM AQ6370D-01JA	AQ6370D の通信機能とプログラム機能を 除く全機能とその操作方法について説 明しています。CD に収録
AQ6370D 光スペクトラムアナライザ スタートガイド	IM AQ6370D-02JA	AQ6370D の使用上の注意点、設置方法、 各部の名称、仕様について説明しています。

AQ6373

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ6373 光スペクトラムアナライザ ユーザズマニュアル	IM AQ6373-01JA	AQ6373 の通信機能とプログラム機能を 除く全機能とその操作方法について説 明しています。CD に収録
AQ6373 光スペクトラムアナライザ スタートガイド	IM AQ6373-02JA	AQ6373 の使用上の注意点、設置方法、 各部の名称、仕様について説明しています。

AQ6373B

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ6373B 光スペクトラムアナライザ ユーザズマニュアル	IM AQ6373B-01JA	AQ6373B の通信機能とプログラム機能を 除く全機能とその操作方法について説 明しています。CD に収録
AQ6373B 光スペクトラムアナライザ スタートガイド	IM AQ6373B-02JA	AQ6373B の使用上の注意点、設置方法、 各部の名称、仕様について説明しています。

AQ6375

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ6375 光スペクトラムアナライザ ユーザズマニュアル	IM AQ6375-01JA	AQ6375 の通信機能とプログラム機能を 除く全機能とその操作方法について説 明しています。CD に収録
AQ6375 光スペクトラムアナライザ スタートガイド	IM AQ6375-02JA	AQ6375 の使用上の注意点、設置方法、 各部の名称、仕様について説明しています。

AQ6375B

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ6375B 光スペクトラムアナライザ ユーザーズマニュアル	IM AQ6375B-01JA	AQ6375B の通信機能とプログラム機能を除く全機能とその操作方法について説明しています。CD に収録
AQ6375B 光スペクトラムアナライザ スタートガイド	IM AQ6375B-02JA	AQ6375B の使用上の注意点、設置方法、各部の名称、仕様について説明しています。

ご注意

- ・ 本書の内容は、性能・機能の向上などにより、将来、予告なしに変更することがあります。また、実際の表示内容が本書に記載の表示内容と多少異なることがあります。
- ・ 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社・支店・営業所までご連絡ください。
- ・ 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。

商標

- ・ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Adobe、Acrobat は、アドビシステムズ社の登録商標または商標です。
- ・ 本文中の各社の登録商標または商標には、®、TM マークは表示していません。
- ・ その他、本文中に使われている会社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。

履歴

- ・ 2010 年 9 月 初版発行
- ・ 2011 年 1 月 2 版発行
- ・ 2011 年 10 月 3 版発行
- ・ 2014 年 4 月 4 版発行
- ・ 2015 年 3 月 5 版発行
- ・ 2015 年 7 月 6 版発行
- ・ 2015 年 11 月 7 版発行
- ・ 2017 年 5 月 8 版発行
- ・ 2017 年 10 月 9 版発行
- ・ 2018 年 10 月 10 版発行
- ・ 2019 年 4 月 11 版発行
- ・ 2021 年 1 月 12 版発行

本機器を安全にご使用いただくために

本機器は、専門知識のある方がご使用いただくことを前提に開発された製品です。

本機器は IEC 規格保護クラス II (保護接地端子付き) の製品です。

本機器を正しく安全に使用していただくため、本機器の操作にあたっては下記の安全注意事項を必ずお守りください。このマニュアルで指定していない方法で使用すると、本機器の保護機能が損なわれることがあります。

このマニュアルは製品の一部として重要な内容を含んでいます。本機器を廃棄するまで、本機器を使用するときにすぐご覧になれるところに、このマニュアルを大切に保存してください。なお、これらの注意に反したご使用により生じた障害については、YOKOGAWA は責任と保証を負いかねます。

本機器には、次のようなシンボルマークを使用しています。



“取扱注意” (人体および機器を保護するために、ユーザーズマニュアルやサービスマニュアルを参照する必要がある場所に付いています。)



交流



ON(電源)



OFF(電源)

このマニュアルで使用している記号

注記

このマニュアルでは、注記を以下のようなシンボルで区別しています。



本機器で使用しているシンボルマークで、人体への危険や機器の損傷の恐れがあることを示すとともに、その内容についてユーザーズマニュアルを参照する必要があることを示します。ユーザーズマニュアルでは、その参照ページに目印として、「警告」「注意」の用語と一緒に使用しています。

警 告

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険があるときに、その危険を避けるための注意事項が記載されています。

注 意

取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険があるときに、それを避けるための注意事項が記載されています。

Note

本機器を取り扱ううえで重要な情報が記載されています。

操作説明ページで使用しているシンボル

各章で操作説明をしているページでは、説明内容を区別するために、次のようなシンボル / 表示文字 / 用語を使用しています。

操 作

数字で示す順序で各操作をしてください。ここでは、初めて操作することを前提に手順を説明しています。したがって設定内容を変更する場合は、すべての操作を必要としない場合があります。

解 説

操作に関連する設定内容や限定事項について説明しています。

操作説明中の表示文字と用語

操作キーとソフトキー

操作説明のところに記載されている太字の英数字は、操作対象のパネル上の操作キーの文字や、画面に表示されるソフトキー / メニューの文字を示します。

SHIFT + 操作キー

SHIFT キーを押して、SHIFT キーを点灯させてから、操作キーを押すという意味です。押した操作キー下側にある紫色文字の設定メニューが画面に表示されます。

単位

k 「1000」の意味です。使用例：12kg、100kHz

K 「1024」の意味です。使用例：459K バイト（ファイルのデータサイズ）

このマニュアルの利用方法

このマニュアルの構成

このユーザズマニュアルは、以下に示す第 1 章～第 8 章および付録・索引で構成されています。

第 1 章 リモートコントロール機能

各種通信インタフェースとプログラム機能の概要について説明しています。

第 2 章 GP-IB インタフェース (GP-IB1 ポート)

PC をコントローラとして本機器をコントロールする GP-IB1 ポートの機能・仕様などについて説明しています。

第 3 章 イーサネットインタフェース

イーサネットインタフェースの機能・仕様などについて説明しています。

第 4 章 シリアル (RS-232) インタフェース

シリアル (RS-232) インタフェースの機能・仕様などについて説明しています。

第 5 章 GP-IB インタフェース (GP-IB2 ポート)

本機器をコントローラとして他の機器をコントロールする GP-IB2 ポートの機能・仕様などについて説明しています。

第 6 章 ステータスレジスタ

ステータスバイトや各種レジスタ、キューなどについて説明しています。

第 7 章 リモートコマンド

使用できる全コマンドについて 1 つずつ説明しています。

第 8 章 プログラム機能

本機器をコントローラとして、他の機器をコントロールするプログラム機能について説明しています。

付録 AQ6317 互換の GB-IP コマンドについて

AQ6317 とのコマンドの互換性について説明しています。

索引

アルファベット順、50 音順の 2 種類の索引があります

目次

	はじめに	i
	本機器を安全にご使用いただくために	iii
	このマニュアルで使用している記号	iv
	このマニュアルの利用方法	v
第 1 章	リモートコントロール機能	
	1.1 リモートインタフェース	1-1
	1.2 リモート / ローカルの切り替え	1-2
	1.3 リモートコマンドの送受信について	1-3
第 2 章	GP-IB インタフェース (GP-IB1 ポート)	
	2.1 GP-IB による接続	2-1
	2.2 GP-IB インタフェースの機能	2-3
	2.3 GP-IB インタフェースの仕様	2-4
	2.4 GP-IB アドレスの設定	2-5
	2.5 インタフェースメッセージに対する応答	2-8
	2.6 サンプルプログラム	2-10
第 3 章	イーサネットインタフェース	
	3.1 イーサネットによる接続	3-1
	3.2 イーサネットの設定	3-2
	3.3 サンプルプログラム	3-9
第 4 章	シリアル (RS-232) インタフェース	
	4.1 シリアル (RS-232) インタフェースによる接続	4-1
	4.2 コマンドによるリモート制御について	4-4
	4.3 RS-232 の設定	4-5
第 5 章	GP-IB インタフェース (GP-IB2 ポート)	
	5.1 GP-IB2 による接続	5-1
	5.2 GP-IB インタフェースの仕様	5-2
	5.3 GP-IB アドレスの設定	5-3
第 6 章	ステータスレジスタ	
	6.1 ステータスレジスタについて	6-1
	6.2 ステータスバイトレジスタ	6-3
	6.3 スタンダードイベントステータスレジスタ	6-5
	6.4 オペレーションステータスレジスタ	6-7
	6.5 クエッションナブルステータスレジスタ	6-10
第 7 章	リモートコマンド	
	7.1 シンタックス記述の規則とコマンドの種類	7-1
	7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表	7-4
	7.3 ANALYSIS 設定パラメータ	7-22
	7.4 リモートコマンドツリー	7-31
	7.5 共通コマンド	7-39

	目次
7.6 機器固有コマンド	7-42
ABORt Sub System コマンド	7-42
APPLication Sub System コマンド	7-42
CALCulate Sub System コマンド	7-45
CALibration Sub System コマンド	7-70
DISPlay Sub System コマンド	7-72
FORMat Sub System コマンド	7-77
HCOPY Sub System コマンド	7-78
INITiate Sub System コマンド	7-78
MEMory Sub System コマンド	7-79
MMEMory Sub System コマンド	7-79
PROGram Sub System コマンド	7-84
SENSe Sub System コマンド	7-84
STATus Sub System コマンド	7-88
SYStem Sub System コマンド	7-89
TRACe Sub System コマンド	7-93
TRIGger Sub System コマンド	7-96
UNIT Sub System コマンド	7-98
7.7 解析結果出力フォーマット	7-99
第 8 章	プログラム機能
8.1 プログラムの編集	8-1
8.2 プログラムの実行	8-9
8.3 プログラム機能用コマンド	8-15
8.4 プログラム機能による外部機器制御	8-53
8.5 サンプルプログラム	8-55
付録	AQ6317 互換の GP-IB コマンドについて
コマンドモードの切替	付 -1
AQ6317 ステータスバイト	付 -3
AQ6317 互換コマンド一覧	付 -4
測定感度 HIGH1、HIGH2、HIGH3 について	付 -17

索引

1.1 リモートインタフェース

本機器は、以下のリモートインタフェースを備えています。

GP-IB1(IEEE488.2 2 章参照)

PC などのコントローラにより、本機器をリモートコントロールするときに使用します。コントローラやそのコントローラで制御される他の機器を接続します。

本機器の制御にはリモートコマンドを使用します。

リモートコマンドは SCPI(Standard Commands for Programmable Instruments) に準拠した本機器のネイティブコマンドの他に、従来器 AQ6317 と互換性を持つコマンドの 2 種類が用意されています(付録参照)。AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B の GP-IB は本機能に相当します。

GP-IB2(IEEE488.1 5 章参照)

本機器がコントローラになって、外部機器をリモートコントロールするときに使用します。本機器のプログラム機能を使って制御する外部機器を接続します。AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B には本機能はありません。

イーサネット(3 章参照)

PC などのコントローラから、ネットワークを使って本機器をリモートコントロールするときに使用します。

RS-232(4 章参照)

PC などのコントローラから、本機器をリモートコントロールするときに使用します。

GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポート

使用目的によって、GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポートを使い分ける必要があります。

AQ6370D の GP-IB ポートは GP-IB1 ポートに相当します。AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B には GP-IB2 ポートはありません。

GP-IB1 ポートは、PC から本機器をコントロールする場合に使用します。

GP-IB2 ポートは、本機器から外部機器をコントロールする場合に使用します。

そのため、以下にご注意ください。

- PC などのコントローラを GP-IB2 ポートに接続しても、本機器をリモートコントロールすることはできません。
- 波長可変光源やプログラム機能でコントロールしようとする外部機器を GP-IB1 ポートに接続しても、リモートコントロールできません。
- GP-IB1 と GP-IB2 ポートは、互いに独立しています。したがって、GP-IB1 ポートに接続されたコントローラから、GP-IB2 ポートに接続された外部機器に直接メッセージを送ることはできません。
- PC などのコントローラが GP-IB1 ポートに接続されている状態で、GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポートを接続すると正常に動作しません。
GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポートを接続しないか、システムコントローラ機能を OFF に設定してください。初期値は ON です。

1.2 リモート / ローカルの切り替え

ローカル→リモート切り替え時

ローカル状態のときにコントローラから REN(Remote Enable)、ATN を「True」にしたリスンアドレスを受け取ると、リモート状態になります。

- ・ リモート状態の時は REMOTE ランプが点灯します。
- ・ LOCAL キー以外はキーが効かなくなります。
- ・ ローカル状態での設定は、リモート状態になっても保持されます。
- ・ コントローラから LLO(Local Lock Out) のメッセージを受け取るとローカルロックアウト状態になります。ローカルロックアウト状態で LOCAL キーを押してもローカル状態に戻りません。ローカルロックアウト状態を解除してから LOCAL キーを押してください。ローカルロックアウト状態を解除するには、コントローラから REN を「False」にして送信してください。

リモート→ローカル切り替え時

リモート状態のときに LOCAL キーを押すと、ローカル状態になります。ただし、ローカルロックアウト状態の時はローカル状態に戻りません。

- ・ REMOTE ランプが消えます。
- ・ キー操作が可能になります。
- ・ リモート状態での設定は、ローカル状態になっても保持されます。
- ・ コントローラから GTL(Go To Local) メッセージを受け取るか、REN を「False」にしてもローカル状態になります。

1.3 リモートコマンドの送受信について

バッファについて

入力バッファ

本機器の入力バッファは1段で、バッファサイズは1 Mbytes です。

バッファサイズを超えるデータを受信した場合は、先頭の1 Mbytes よりもうしろのデータは破棄されます。このとき、先頭の1 Mbytes のデータのうち、最後のコマンドセパレータ以降のコマンドも削除してコマンド処理を行います。

出力バッファ

本機器の出力バッファは1段で、バッファサイズは1 Mbytes です。

最新のデータだけを保持します。

(データがバッファに保持されている状態でトーカコマンドを受け付けると、保持していたデータをクリアして新しいデータを持ちます)

複数のトーカコマンドを組み合わせて実行してバッファサイズを超えるトーカデータが発生した場合は、以下の動作を行います。

- ・スタンダードイベントステータスレジスタのクエリエラービット (QYE) を1にセットします。
- ・出力バッファをクリアします。
- ・出力バッファをオーバーした以降も、受信済みのコマンドの処理を続けます。
ただし、トーカコマンドにより発生するトーカデータは、出力バッファに格納されません。

エラーバッファ

本機器のエラーバッファは1段で最新のエラー情報だけを保持します。

メッセージターミネータ

本機器では、以下のメッセージターミネータを用いることができます。

プログラムメッセージターミネータ

- ・EOI (End-Of-Identify) 信号のアサート
- ・LF(改行)文字
- ・LF+EOI

ここで、LFをASCIIのラインフィード(0Ah)、CR+LFについてはCR(0Dh)をwspとして認識するため、結果としてCR+LFもメッセージターミネータとして使用できます。

また、波形をバイナリで転送したときは、EOIだけがメッセージターミネータになります。

応答メッセージターミネータ

応答メッセージターミネータはLF+EOIを用います。

リモートコマンドの受信

- ・コマンド受信を完了すると、GP-IBバスを解放します。
- ・コマンド動作実行中に次のコマンドを受信した場合には、そのコマンドを取り込み、受信バッファに保存したあと、GP-IBバスを解放します。
- ・受信バッファにコマンドが存在する場合には、それ以降のコマンドがGP-IBバス上に存在していても、取り込みは行いません。
- ・先行コマンドの動作が完了すると、受信バッファのコマンド実行とクリアを行います。そして、次のコマンドがバス上にあれば受信バッファへの取り込み動作を行います。
- ・1つの出力ステートメントに複数のコマンドが含まれている場合は、全てのコマンドを取り込み、記述順に処理を行います。この場合、ステートメント最後のコマンド動作の実行を開始しない限り、次のコマンドを取り込めません。

データの問い合わせ

- ・ 外部コントローラによるデータの問い合わせは、クエリコマンドとコントローラからのデータ出力要求により行います。
- ・ クエリコマンドは、コマンドの後ろに "?" が付いた形式になっています。
- ・ 引数を持つクエリコマンドの場合には、"?" の後ろに <wsp> + <引数> の形式で指定します。
- ・ 本機器がクエリコマンドを受信した場合、その時点でのクエリコマンドに対する応答を、出力バッファに準備します。
- ・ 出力バッファのデータは、コントローラの入力ステートメントがあるか、もしくは新たなクエリコマンドを受信するまで保持されます。
- ・ 複数のクエリコマンドが、セミコロン ";" により連続指定記述されている場合には、すべてのクエリコマンドに対応した応答を出力バッファに準備します。
この場合、次に行われるデータ出力要求に対して、準備されているすべてのデータを一括で出力します。

タイムアウト時間の設定

30 秒以上の通信タイムアウト時間の設定を推奨します。

本機器は、約 10 分間隔でオートオフセットを約 30 秒間実行します。

オフセット実行中にタイムアウトを発生しないように、外部コントローラの通信タイムアウト時間を 30 秒以上に設定してください。

通信タイムアウト時間の設定方法については、使用するリモートインタフェースカードの取扱説明書をご覧ください。

本機器は、デフォルトでオートオフセット機能が ON に設定されており、約 10 分間隔でアナログ回路のオフセット処理が実行されます。オフセット処理には約 30 秒かかります。AQ6373 と AQ6375 では、このオフセット処理中は、リモートコマンドの受信処理や実行処理、およびトカデータ送信の各処理が中断します。中断中に外部コントローラがリモートコマンドの送信やトカデータの出力要求を行った場合、本機器はオフセット処理が完了するまで要求された処理ができないため、外部コントローラで通信タイムアウトによるエラーが発生する恐れがあります。

通信タイムアウト時間を 30 秒以上に設定したくない場合

オフセット処理を手動で実行し、通信タイムアウトによるリモート動作不良を防ぎます。あらかじめオートオフセット機能を OFF に設定し、測定シーケンスの合間にオフセット処理を手動で実行します。オフセット処理が完了するまで、約 30 秒間待ちます。


オフセット処理完了後、測定シーケンスを再開します。

リモートコマンドは次のとおりです。

オートオフセット機能をオフにする :CALibration:ZERO off

オフセット処理をマニュアル実行する :CALibration:ZERO once

Note

- ・ オフセット間隔は 10 分を推奨します。
 - ・ AUTO OFFSET キーが OFF の場合には、時間の経過に伴うオフセット変動により、レベル軸性能が低下する恐れがあります。通常は ON 状態でご使用ください。
 - ・ AUTO OFFSET キーが ON のときは、画面最下部に  が表示されます。
-

デバイストリガ機能

GET(Group Execute Trigger) 受信時は、シングル掃引を行います。

2.1 GP-IB による接続

GP-IB ケーブル

本機器の GP-IB コネクタは、IEEE St'd 488-1978 規格の 24 ピンコネクタです。GP-IB ケーブルは、IEEE St'd 488-1978 に合ったものを使用してください。

接続方法

本機器には GP-IB1、GP-IB2 の 2 つのポートがあります。AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B の GP-IB は GP-IB1 に相当します。

GP-IB1 ポート：PC と接続して本機器を PC からリモートコントロールできます。

GP-IB2 ポート：本機器のプログラム機能を使って、接続した機器をリモートコントロールできます。AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B には GP-IB2 ポートはありません。

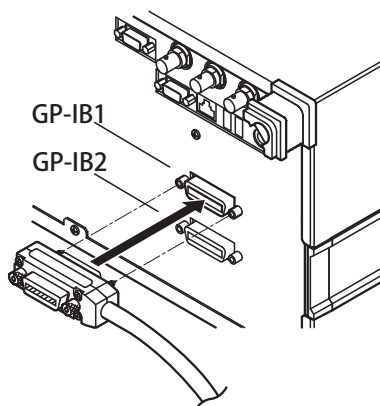
ここでは、GP-IB1 ポートに接続してください。

本機器および本機器に接続する機器の電源を OFF にします。

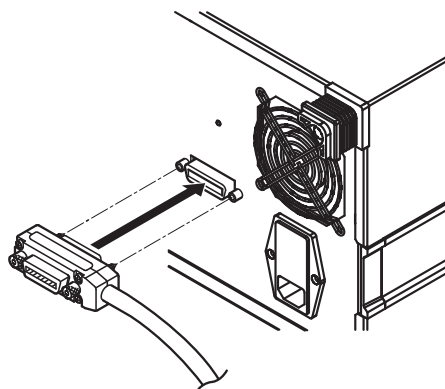
本機器背面にある GP-IB1 ポートにケーブルを接続します。

注 意

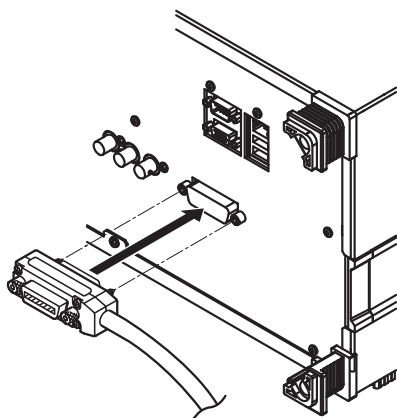
通信ケーブルを接続したり、取り外したりするときは、必ず PC および本機器の電源を OFF にしてください。OFF にしないと、誤動作が生じたり、内部回路を破損することがあります。



AQ6370C/AQ6373/AQ6375



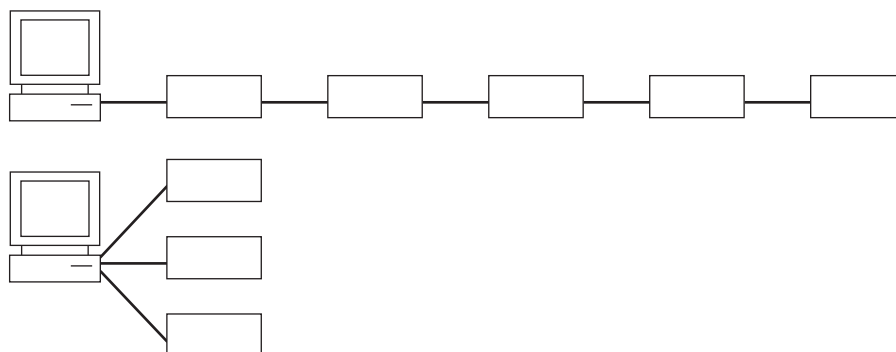
AQ6370D-01/AQ6370D-10/AQ6370D-20/
AQ6373B-01/AQ6373B-10/AQ6375B



AQ6370D-02/AQ6370D-12/AQ6370D-22/AQ6373B-02/AQ6373B-12

接続時の注意

- GP-IB ケーブルのコネクタに付いているねじは、しっかりと固定してください。
- 何本かのケーブルを接続して、複数の機器を接続することができます。ただし、1 つのバス上にコントローラを含め 15 台以上の機器を接続することはできません。
- 複数の機器を接続するときは、それぞれのアドレスを同じに設定することはできません。
- 機器間をつなぐケーブルは 2m 以下のものを使用してください。
- ケーブルの長さは合計で 20m を超えないようにしてください。
- 通信を行っているときは、少なくとも全体の 2/3 以上の機器の電源を ON にしておいてください。
- 複数の機器を接続するときは、下図に示すようなりニア形またはスター形の結線にしてください。その組み合わせも可能です。ループ形の結線はできません。



2.2 GP-IB インタフェースの機能

GP-IB インタフェースの機能

リスナ機能

- ・ 電源の ON/OFF と通信の設定を除き、本機器のキー操作で設定できる同じ内容の設定ができます。
- ・ コントローラからの出力指令で、設定データや波形データなどを受けることができます。
- ・ その他、ステータスレポートに関するコマンドなどを受けることができます。

トーカー機能

- ・ 設定データや波形データなどを出力することができます。

Note

リスンオンリ、トークオンリ、およびコントローラ機能はありません。

リモート / ローカル切り替え時の動作

ローカル→リモート切り替え時

ローカル状態のときにコントローラから REN(Remote Enable)、ATN を「True」にしたリスンアドレスを受け取ると、リモート状態になります。

- ・ リモート状態の時は REMOTE ランプが点灯します。
- ・ LOCAL キー以外のキーが効かなくなります。
- ・ ローカル状態での設定は、リモート状態になっても保持されます。
- ・ コントローラから LLO(Local Lock Out) のメッセージを受け取るとローカルロックアウト状態になります。ローカルロックアウト状態で LOCAL キーを押してもローカル状態に戻りません。ローカルロックアウト状態を解除してから LOCAL キーを押してください。ローカルロックアウト状態を解除するには、コントローラから REN を「False」にして送信してください。

リモート→ローカル切り替え時

リモート状態のときに LOCAL キーを押すと、ローカル状態になります。ただし、ローカルロックアウト状態の時はローカル状態に戻りません。

- ・ REMOTE ランプが消えます。
- ・ キー操作が可能になります。
- ・ リモート状態での設定は、ローカル状態になっても保持されます。
- ・ コントローラから GTL(Go To Local) メッセージを受け取るか、REN を「False」にしてもローカル状態になります。

Note

GP-IB インタフェースは、他のインタフェース (シリアル (RS-232)、USB、イーサネット通信インタフェース) と同時に使用できません。

2.3 GP-IB インタフェースの仕様

GP-IB インタフェースの仕様

電氣的・機械的仕様：	IEEE St'd 488-1978 に準拠
機能的仕様：	下表
プロトコル：	IEEE St'd 488.2-1992 に準拠
使用コード：	ISO(ASCII) コード
モード：	アドレスサブルモード
アドレス設定：	SYSTEM メニューの GP-IB の設定画面で、0 ～ 30 のアドレスを設定可能。
リモート状態解除：	LOCAL を押すことで、リモート状態の解除可能。ただし、コントローラにより Local Lockout されているときは無効。

機能的仕様

機能	サブセット名	内容
ソースハンドシェーク	SH1	送信ハンドシェークの全機能あり
アクセプタハンドシェーク	AH1	受信ハンドシェークの全機能あり
トーカ	T6	基本トーカ機能、シリアルポール、MLA(My Listen Address) によるトーカ解除機能あり、トークオンリ機能なし
リスナ	L4	基本リスナ機能、MTA(My Talk Address) によるリスナ解除機能あり、リスンオンリ機能なし
サービスリクエスト	SR1	サービスリクエストの全機能あり
リモートローカル	RL1	リモート/ローカルの全機能あり
パラレルポール	PP0	パラレルポール機能なし
デバイスクリア	DC1	デバイスクリアの全機能あり 出力バッファのクリアあり 入力バッファのクリア(未処理コマンドのクリア)あり エラーバッファのクリアあり STB、ESR のクリアあり
デバイストリガ	DT0	デバイストリガ機能あり
コントローラ	C0	コントローラ機能なし
電気特性	E1	オープンコレクタ

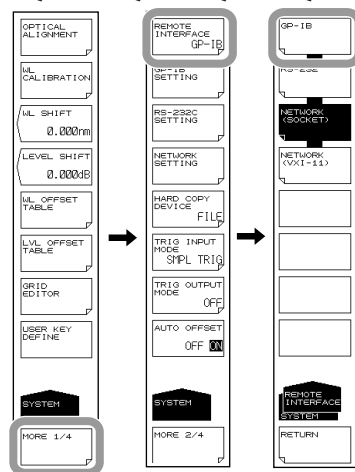
2.4 GP-IB アドレスの設定

操 作

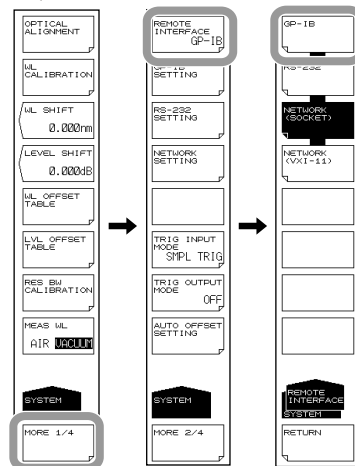
通信インタフェースの選択

1. **SYSTEM** を押します。システム設定メニューが表示されます。
2. **MORE 1/4** のソフトキーを押します。通信インタフェース設定メニューが表示されます。
3. **REMOTE INTERFACE** のソフトキーを押します。使用するインタフェースの設定メニューが表示されます。
4. **GP-IB** のソフトキーを押して、通信インタフェースを GP-IB に設定します。

AQ6370C/AQ6373/AQ6375/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B



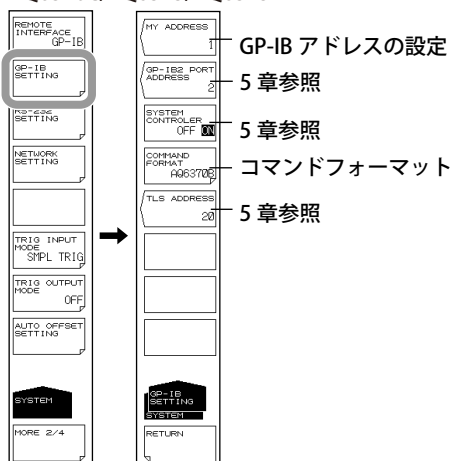
AQ6370D



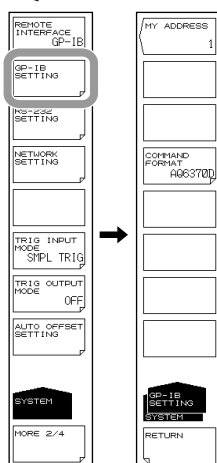
アドレスの設定

5. GP-IB SETTING のソフトキーを押します。GP-IB に関する設定メニューが表示されます。
6. MY ADDRESS のソフトキーを押します。GP-IB アドレス設定画面が表示されます。
7. ロータリノブまたは矢印キーで GP-IB アドレスを設定し、ENTER を押します。

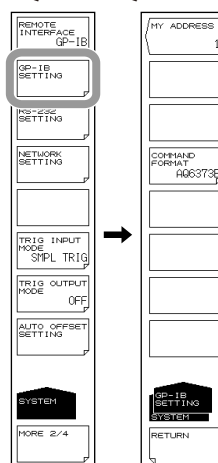
AQ6370C/AQ6373/AQ6375



AQ6370D



AQ6373B/AQ6375B



コマンドフォーマットの設定

8. AQ6317 コマンドを使用する場合に操作します。
COMMAND FORMAT のソフトキーを押します。コマンドフォーマットの設定メニューが表示されます。
9. 通常は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に設定します。
AQ6317 コマンドを使用する場合は、AQ6317 に設定します。

本機器のキー操作で設定できる内容をコントローラで設定するときや、コントローラに設定データや波形データを出力するときは、下記の設定をします。

GP-IB アドレスの設定

アドレスサブルモードのときの、本機器のアドレスを次の範囲で設定します。

0 ~ 30

GP-IB で接続できる各装置は、GP-IB システム内で固有のアドレスを持ちます。このアドレスによって他の装置と識別されます。したがって、本機器をパーソナルコンピュータなどに接続するときは、本機器のアドレスを他の機器と重ならないように設定する必要があります。

Note

- ・ コントローラが他のデバイスも含めて、GP-IB を使用中はアドレスを変更しないでください。
- ・ GP-IB 2 ポートとは異なるアドレスに設定してください。

コマンドフォーマットの設定

通常は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードに設定します。シリーズ製品である AQ6317 用のコマンドを使って通信する場合は、AQ6317 に設定します。AQ6317 との互換性のあるコマンドについては、付録をご覧ください。

Note

コントローラ機能と TLS アドレスは、GP-IB2 ポートを使って外部機器をコントロールするときに設定します。
GP-IB1 ポートには無効な設定です。

2.5 インタフェースメッセージに対する応答

インタフェースメッセージに対する応答

ユニラインメッセージに対する応答

IFC(Interface Clear)

トーカ、リスナを解除します。データ出力中のときは出力を中止します。

REN(Remote Enable)

リモート状態 / ローカル状態を切り替えます。

IDY(Identify) はサポートしていません。

マルチラインメッセージ (アドレスコマンド) に対する応答

GTL(Go To Local)

ローカル状態へ移行します。

SDC(Selected Device Clear)

- ・ 受信中のプログラムメッセージ (コマンド) と、出力キューをクリアします。
- ・ 実行中の *OPC、*OPC? は無効になります。
- ・ *WAI は直ちに終了します。

PPC(Parallel Poll Configure)、GET(Group Execute Trigger)、TCT(Take Control) はサポートしていません。

マルチラインメッセージ (ユニバーサルコマンド) に対する応答

LLO(Local Lockout)

フロントパネルの SHIFT + CLEAR の操作を無効にし、ローカル状態への移行を禁止します。

DCL(Device Clear)

SDC と同じ動作をします。

SPE(Serial Poll Enable)

バス上のすべての機器のトーカ機能をシリアルポールモードにします。コントローラは各機器を順番にポーリングします。

SPD(Serial Poll Disable)

バス上のすべての機器のトーカ機能のシリアルポールモードを解除します。

PPU(Parallel Poll Unconfigure) はサポートしていません。

インタフェースメッセージとは

インタフェースメッセージは、インタフェースコマンドまたはバスコマンドとも呼ばれ、コントローラから発せられるコマンドのことです。次のような分類になっています。

ユニラインメッセージ

1 本の管理ラインを経由してメッセージを送ります。次の 3 種類があります。

IFC(Interface Clear)

REN(Remote Enable)

IDY(Identify)

マルチラインメッセージ

8本のデータラインを経由してメッセージを送ります。次のように分類されます。

アドレスコマンド

機器がリスナあるいはトーカに指定されているときに有効なコマンドです。次の5種類があります。

リスナに指定している機器に有効なコマンド

GTL(Go To Local)
SDC(Selected Device Clear)
PPC(Parallel Poll Configure)
GET(Group Execute Trigger)

トーカに指定している機器に有効なコマンド

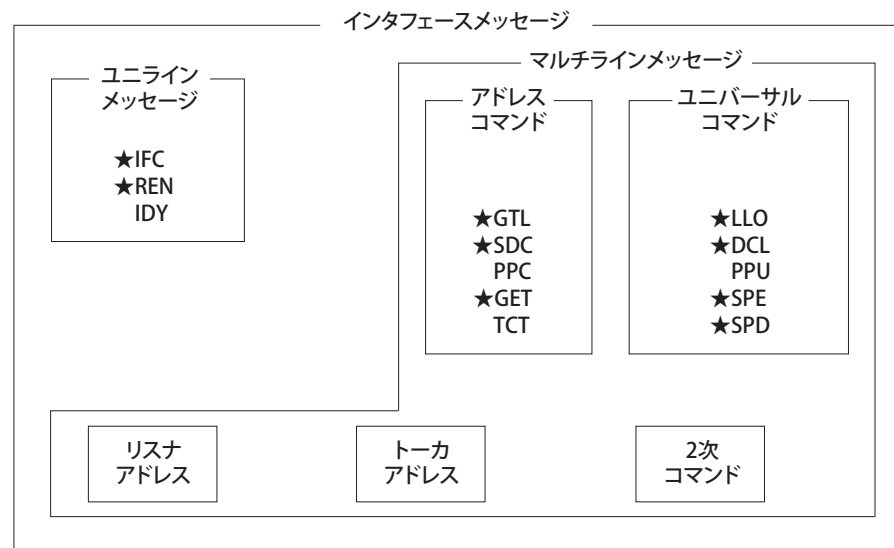
TCT(Take Control)

ユニバーサルコマンド

リスナ・トーカの指定の有無に関わらず、すべての機器に有効です。次の5種類があります。

LLO(Local Lockout)
DCL(Device Clear)
PPU(Parallel Poll Unconfigure)

その他、インタフェースメッセージとして、リスナアドレス、トーカアドレス、2次コマンドがあります。



★印は本機器でサポートしているインタフェースメッセージです。

Note

SDC と DCL の違い

マルチラインメッセージのうち、SDC はトーカ・リスナの指定が必要なアドレスコマンド、DCL はトーカ・リスナの指定が不要なユニバーサルコマンドです。したがって、SDC はある特定の機器を対象にしますが、DCL はバス上のすべての機器を対象にします。

2.6 サンプルプログラム

GP-IB ポートを使用して本機器をリモートコントロールする例を示します。
下記のプログラム例は、言語として Visual Basic 6.0 を使用しています。
また、GP-IB コントローラとして National Instruments 社 (以下 NI 社) 製 GP-IB ボードを使用し、ライブラリとして NI 社の提供するドライバを使用しています。

サンプルプログラム 1

測定条件 (中心波長、スパン、感度、サンプル数) を設定したあと、SINGLE 掃引を実行します。

SINGLE 掃引が終了したら、THRESH によるスペクトル幅解析を実行し、その結果を画面に出力します。

```
Const BOARD_ID = 0                                ' GP-IB Interface card
                                                Address
Const osa = 1                                     ' OSA GP-IB Address

Private Sub AQ637XTEST()
    Dim intData As Integer
    Dim dblMeanWL As Double
    Dim dblSpecWd As Double
    Dim strData As String

    ' === GP-IB Interface setting ===
    ' send IFC
    Call SendIFC(BOARD_ID)

    ' assert th REN GPIB line
    intAddrList(0) = NOADDR
    Call EnableRemote(BOARD_ID, intAddrList())

    ' GPIB time out setting
    Call ibtmo(BOARD_ID, T30s)                    ' Time out = 30sec

    ' === Set the measurement parameter ===
    Call SendGPIB(osa, "*RST")                     ' Setting initialize
    Call SendGPIB(osa, "CFORM1")                   ' Command mode set
                                                (AQ637X mode)
    Call SendGPIB(osa, ":sens:wav:cent 1550nm")     ' sweep center wl
    Call SendGPIB(osa, ":sens:wav:span 10nm")       ' sweep span
    Call SendGPIB(osa, ":sens:sens mid")            ' sens mode = MID
    Call SendGPIB(osa, ":sens:sweep:points:auto on") ' Sampling Point = AUTO

    ' === Sweep execute ===
    Call SendGPIB(osa, ":init:smode 1")             ' single sweep mode
    Call SendGPIB(osa, "*CLS")                      ' status clear
    Call SendGPIB(osa, ":init")                    ' sweep start

    ' === Wait for sweep complete ===
    Do
        Call SendGPIB(osa, ":stat:oper:even?")     ' get Operation Event
                                                Register
        strData = RecieveGPIB(osa)
        intData = Val(strData)
    Loop While ((intData And 1) <> 1)                ' Bit0: Sweep status

    ' === Analysis ===
    Call SendGPIB(osa, ":calc:category swth")       ' Spectrum width
                                                analysis(THRESH type)
    Call SendGPIB(osa, ":calc")                    ' Analysis Execute
    Call SendGPIB(osa, ":calc:data?")              ' get data
    strData = RecieveGPIB(osa)
```

```

' === Capture analytical results ===
dblMeanWL = Val(Left(strData, 16))           ' get mean wavelegnth
dblSpecWd = Val(Mid(strData, 18, 16))        ' get spectrum width

' === Output the result to the screen ===
MsgBox ("MEAN WL: " & dblMeanWL * 1000000000# & " nm" & vbCrLf & _
        "SPEC WD: " & dblSpecWd * 1000000000# & " nm")

' === Disconnect ===
Call EnableLocal(BOARD_ID, intAddrList())
End Sub

'=====
' Sub routine
' Send Remote Command
'=====
Sub SendGPIB(intAddr As Integer, strData As String)
    Call Send(BOARD_ID, intAddr, strData, NLen)
    If (ibsta And EERR) Then
        MsgBox " GP-IB device can't write"
    End If
End Sub

'=====
' Sub routine
' Recieve query data
'=====
Function RecieveGPIB(intAddr As Integer) As String
    Const READSIZE = 10000
    Dim strBuffer As String

    strBuffer = Space(READSIZE)
    RecieveGPIB = ""
    Do
        DoEvents

        Call Receive(BOARD_ID, intAddr, strBuffer, STOPend)
        If (ibsta And EERR) Then
            MsgBox " GP-IB device can't read."
            RecieveGPIB = ""
            Exit Function
        Else
            RecieveGPIB = RecieveGPIB & Left(strBuffer, ibcnt1)
        End If
    Loop Until ((ibsta And EEND) = EEND)
End Function

```

サンプルプログラム 2

本機器の画面イメージを内部メモリに BMP ファイルとして保存し、ファイル転送コマンドを使用してファイルを PC 上に読み込みます。

読み込んだファイルを、PC 上に "C:\test.bmp" というファイル名で保存します。

```

Const BOARD_ID = 0                                'GP-IB Interface card Address
Const osa = 1                                     'OSA GP-IB Address

Private Sub Command1_Click()
    Dim intAddrList(31) As Integer
    Dim intData As Integer
    Dim lngDataSize As Long
    Dim strData As String
    Dim intI As Integer
    Dim byteData() As Byte
    Dim byteSaveData() As Byte
    Dim lngL As Long

    '----- GP-IB Interface setting
    ' send IFC
    Call SendIFC(BOARD_ID)

    ' assert th REN GPIB line
    intAddrList(0) = NOADDR
    Call EnableRemote(BOARD_ID, intAddrList())

    ' GPIB time out setting
    Call ibtmo(BOARD_ID, T30s)                    'Time out = 30sec

    '----- send command to OSA
    Call SendGPIB(osa, "CFORM1")                  ' Command mode set(AQ637X mode)

    Call SendGPIB(osa, ":mmem:stor:grap color,bmp,""test"",int")
                                                    ' Save bmp file to internal memory
    Call SendGPIB(osa, ":mmem:data? ""test.bmp"",int")
                                                    ' get file data from OSA
    lngDataSize = RecieveBinaryGPIB(osa, byteData())
                                                    ' Recieve binary block data

    If byteData(0) <> Asc("#") Then                ' check first data
        MsgBox "Data format error"
        Exit Sub
    End If

    '----- calculate data size
    intData = byteData(1) - Asc("0")
    strData = ""
    For intI = 1 To intData
        strData = strData + Chr(byteData(intI + 1))
    Next intI
    lngDataSize = Val(strData)                    ' data size

    '----- make save data
    ReDim byteSaveData(lngDataSize)
    For lngL = 0 To lngDataSize - 1
        byteSaveData(lngL) = byteData(lngL + intData + 2)
    Next lngL

    '----- save data to file
    Open "c:\test.bmp" For Binary As #1
        Put #1, , byteSaveData
    Close #1

    '----- Disconnect
    Call EnableLocal(BOARD_ID, intAddrList())
    MsgBox "Complete"
End Sub

```



```

'=====
' Sub routine
' Send Remote Command
'=====
Sub SendGPIB(intAddr As Integer, strData As String)
    Call Send(BOARD_ID, intAddr, strData, NLen)
    If (ibsta And EERR) Then
        MsgBox " GP-IB device can't write"
    End If
End Sub

'=====
' Sub routine
' Recieve Binary query data
'=====
Function RecieveBinaryGPIB(intAdr As Integer, byteArray() As Byte) As
Long
    Const READSIZE = 1200000          ' MAX 1.2MB
    Dim lngSize As Long
    Dim lngL As Long
    Dim lngPos As Long
    Dim ud As Integer
    Dim byteLow As Byte
    Dim byteHigh As Byte
    Dim strA As String

    Dim intDummy(READSIZE) As Integer
    lngSize = 0

'----- open device
    ud = ildev(0, intAdr, 0, T30s, 1, 0)
    lngPos = 0

'----- read data
    Do
        DoEvents
        Call ibrdi(ud, intDummy, READSIZE)
        If (ibsta And EERR) Then
            MsgBox "GP-IB device can't Read(GPIB:" & intAdr & ")"
            RecieveBinaryGPIB = 0
            Exit Function
        Else
            ReDim Preserve byteArray(lngPos + ibcntl + 2)
            For lngL = 0 To ibcntl / 2 - 1
                strA = Right("0000" & Hex(intDummy(lngL)), 4)
                byteHigh = Val("&H" + Left(strA, 2))
                byteLow = Val("&H" + Right(strA, 2))
                byteArray(lngPos) = byteLow
                byteArray(lngPos + 1) = byteHigh
                lngPos = lngPos + 2
            Next lngL
            End If
        Loop While (ibcntl = READSIZE)

        RecieveBinaryGPIB = lngPos
    End Function

```

3.1 イーサネットによる接続

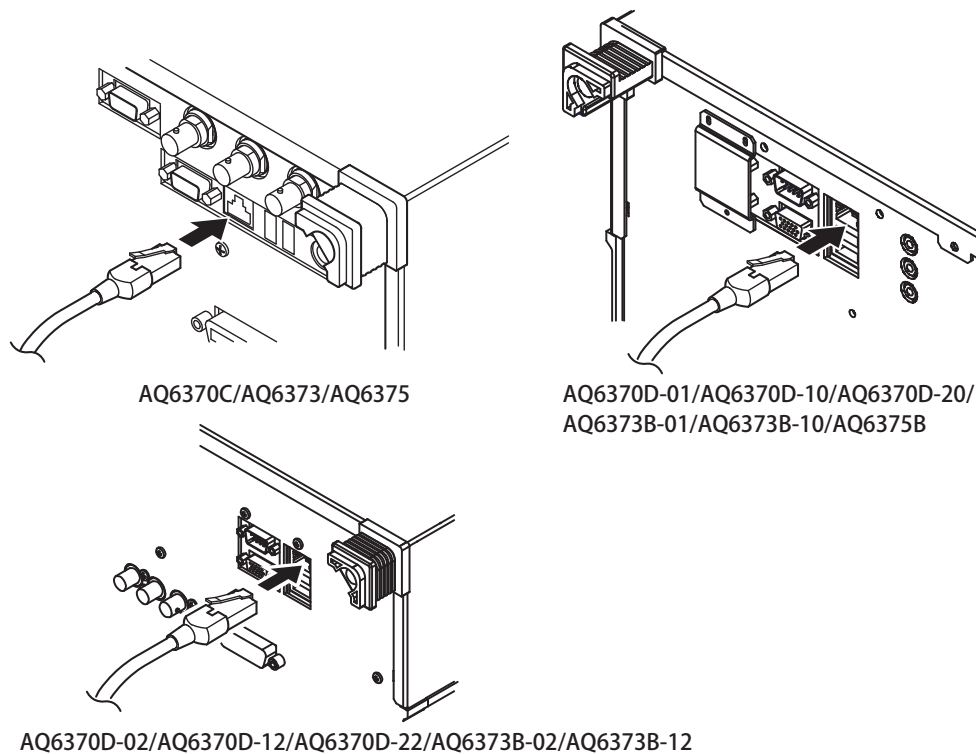
イーサネットインタフェースを使って LAN に接続し、PC から本機器を制御できます。

イーサネットインタフェースの仕様

通信ポート数：	1
電氣的・機械的仕様：	IEEE802.3 準拠
伝送方式：	Ethernet (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T(AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B))
伝送速度：	10Mbps/100Mbps/1000Mbps(AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B)
通信プロトコル：	TCP/IP
コネクタ形状：	RJ45 コネクタ
使用するポート番号：	10001/tcp (初期値)

接続方法

ハブなどに接続された UTP(Unshielded Twisted-Pair) ケーブルまたは STP(Shielded Twisted-Pair) ケーブルを本機器のリアパネルにある ETHERNET ポートに接続します。



接続時の注意

- ・ 本機器と PC との接続には、必ずハブを介してストレートケーブルを使用してください。
- ・ UTP ケーブル (ストレートケーブル) を使用する場合は、必ずカテゴリ 5 のものを使用してください。

3.2 イーサネットの設定

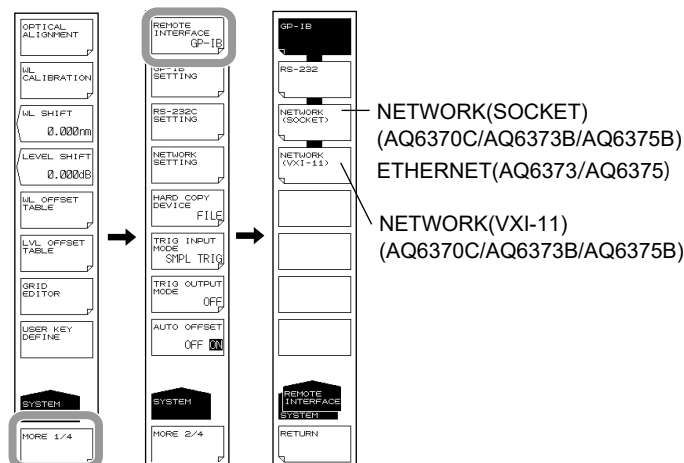
操 作

通信インタフェースの選択

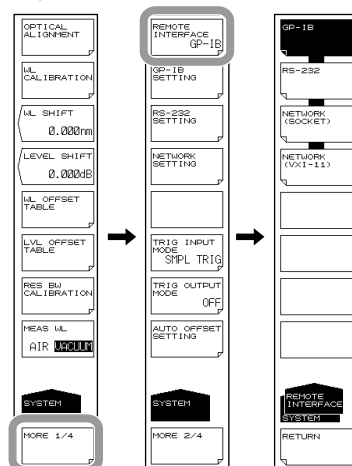
1. **SYSTEM** を押します。システム設定メニューが表示されます。
2. **MORE 1/4** のソフトキーを押します。通信インタフェース設定メニューが表示されます。
3. **REMOTE INTERFACE** のソフトキーを押します。使用するインタフェースの設定メニューが表示されます。
4. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では、**NETWORK(SOCKET)** または **NETWORK(VXI-11)** のソフトキーを押して、通信インタフェースをイーサネットに設定します。

AQ6373 と AQ6375 では、**ETHERNET** ソフトキーを押して、通信インタフェースをイーサネットに設定します。

AQ6370C/AQ6373/AQ6375/AQ6373B/AQ6375B/AQ6375B

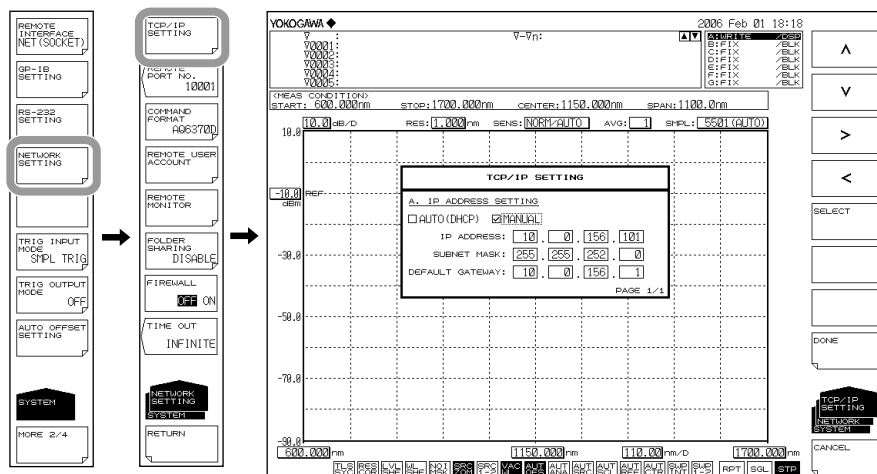


AQ6370D



TCP/IP の設定

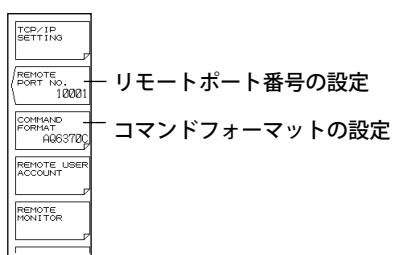
5. NETWORK SETTING のソフトキーを押します。イーサネットに関する設定メニューが表示されます。
6. TCP/IP SETTING のソフトキーを押します。TCP/IP の設定メニューが表示されます。



7. <、> のソフトキーで、AUTO(DHCP) または MANUAL のどちらかを選択します。
8. SELECT のソフトキーを押します。選択した項目がチェックされます。
9. MANUAL を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。<、>、^、V のソフトキーで入力位置を選択し、ENTER を押します。
AUTO を選択した場合は、操作 10 に進んでください。
10. ロータリノブまたは矢印キーで数値を入力し、ENTER を押します。
11. すべての設定が終了したら、DONE のソフトキーを押します。

リモートポート番号の設定 (VXI-11 では、この設定は使用されません。)

12. REMOTE PORT NO. のソフトキーを押します。ポート番号の設定画面が表示されます。
13. ロータリノブまたは矢印キーでポート番号を入力し、ENTER を押します。

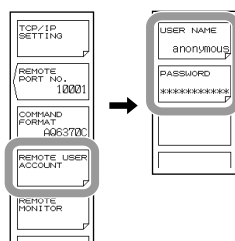


コマンドフォーマットの設定

14. AQ6317 コマンドを使用する場合に操作します。
COMMAND FORMAT のソフトキーを押します。コマンドフォーマットの設定メニューが表示されます。
15. 通常は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に設定します。
AQ6317 コマンドを使用する場合は、AQ6317 に設定します。

ユーザー名、パスワードの設定 (VXI-11 では、この設定は使用されません。)

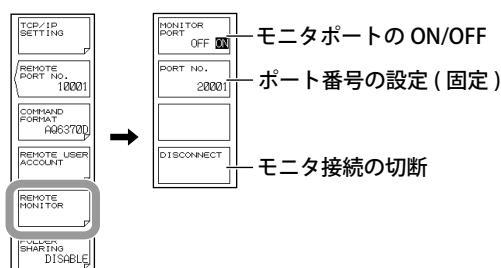
16. REMORTE USER ACCOUNT のソフトキーを押します。ユーザー名、パスワードの設定メニューが表示されます。



17. USER NAME のソフトキーを押します。ユーザー名の設定画面が表示されます。初期値は anonymous です。
18. ユーザー名を英数文字 11 文字以内で設定します。
ユーザー名を anonymous に設定した場合は、パスワードの設定は必要ありません。
19. PASSWORD のソフトキーを押します。パスワードの設定画面が表示されます。
20. パスワードを英数文字 11 文字以内で設定します。

リモートモニタの設定 (AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B)

21. REMOTE MONITOR のソフトキーを押します。リモートモニターの設定メニューが表示されます。
22. MONITOR PORT のソフトキーを押します。ソフトキーを押すごとに ON/OFF が切り替わります。ON のときにリモートモニタができます。

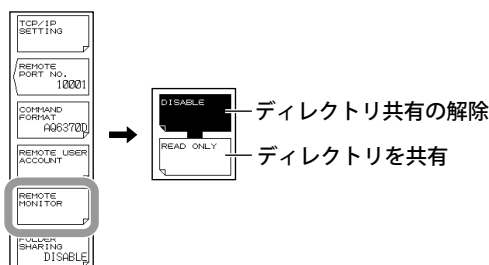


・ リモートモニタ接続の切断

23. DISCONNECT のソフトキーを押します。PC からのモニタ接続状態が切断されます。

ディレクトリ共有の設定 (AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B)

24. FOLDER SHAREING のソフトキーを押します。ディレクトリ共有の設定メニューが表示されます。
25. READ ONLY のソフトキーを押します。本機器のユーザー領域ディレクトリが共有されます (読み込みだけ)。



- ディレクトリ共有の解除

26. DISABLE のソフトキーを押します。ユーザー領域ディレクトリの共有が解除されます。

リモートタイムアウトの設定 (AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B)

(VXI-11 では、この設定は使用されません。)

27. TIME OUT のソフトキーを押します。
28. ロータリノブ、矢印キーまたはテンキーでタイムアウト時間を入力します。

解 説

本機器の TCP/IP を設定します。

TCP/IP の設定

本機能を正しく使用するためには、本機器の IP アドレスを正しく設定する必要があります。

本機器を接続するネットワーク上に DHCP サーバーが用意されている場合、本機器に与えられる IP アドレスは自動的に設定されます。その場合は、[SYSTEM] <NETWORK SETTING><TCP/IP SETTING> の IP ADDRESS SETTING は "AUTO" にセットしてください。本機器を接続するネットワークの詳細については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Note

- 本機器をネットワークに接続して起動する場合、起動処理（画面の下側に初期化動作の進行状況を示す「STEP 1/9」～「STEP 9/9」が表示されます）に数分間かかる場合があります。
- 起動処理が完了して測定画面が表示されたあとに、ネットワーク経由で PC から本機器へ接続できるようになるまで数分間かかる場合があります。また、しばらくの間、以下のソフトキーが無効となる場合があります。
 - REMOTE INTERFACE キー
 - NETWORK SETTING キー
 - SYSTEM INFORMATION キー
 - PARAMETER INITIALIZE キー

REMOTE PORT NO.(VXI-11 では、この設定は使用されません。)

ETHERNET によりリモート制御するためのポート番号を設定します。(Default: 10001)

ユーザー認証について (VXI-11 では、この設定は使用されません。)

イーサネットを使ってネットワーク経由で PC から本機器に接続する場合、ユーザー認証が必要です。ユーザー名が anonymous の場合は、パスワードは必要ありません。本機器は、平文認証と MD5 アルゴリズム (RSA Data Security, Inc. MD5 Message Digest Algorithm) に対応しています。

リモートモニタ

ETHERNET ポートを使用して、PC からネットワーク経由で本機器画面のモニタリングや本機器の操作ができます。この機能を使用するには、別途リモートモニタ用のソフトウェアが必要です。リモートモニタ用のソフトウェアについては、お買い求め先にお問い合わせください。

ディレクトリの共有

本機器の内部メモリのユーザー領域のディレクトリを PC 上で共有化できます。ユーザー領域のディレクトリを共有化すると、ディレクトリ内のファイルをネットワーク経由で PC から読み込めます。なお、本機器への保存はできません。

タイムアウト時間 (AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B)(VXI-11 では、この設定は使用されません。)

リモート状態で、通信していない時間が設定した時間を経過すると、自動的に通信を切断してローカル状態になります。

タイムアウト時間を変更すると、経過時間がリセットされます。

設定できる時間は、INFINITE(0s)、1 ～ 21600s(6 時間) です。

コマンドによるリモート制御

LAN ポートを使用して、本機器をリモートで制御できます。

リモートコマンドは GP-IB による制御の際と同じコマンドを使用します。

AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では VXI-11 による制御にも対応しています。

インタフェースの切り替えについて

リモート制御に使用するインタフェースを GP-IB、RS-232、NETWORK(SOCKET)*1、NETWORK(VXI-11)*1、または ETHERNET*2 から選択します。

*1 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B の場合

*2 AQ6373/AQ6375 の場合

インタフェースを切り替えると接続状態はリセットされます。これ以外には、コントローラ側からの切断操作がない限り接続は維持されます。

リモートコマンド

GP-IB によるリモートコントロールと同様に、コマンドフォーマットを AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードと AQ6317 互換モードから選択できます。

SRQ による割り込み

LAN によるリモート制御時は、SRQ による割り込みは発生しません。

ステータスレジスタ

ステータスレジスタは、GP-IB によるリモート制御時と同様に動作します。

ステータスレジスタは、" *STB?" コマンドまたは "SPOLL?" コマンドを使用することで、GP-IB のシリアルポートと同様に読み出すことができます。

*STB?: <COMMAND FORMAT> キーの設定が AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B の場合

SPOLL? : <COMMAND FORMAT> キーの設定が AQ6317 の場合

デリミタについて

LAN によるリモート制御時のデリミタは、CR + LF 固定です。

トーカーデータの送信

本機器は、トーカーデータを制御 PC から受信すると、制御 PC のバッファにデータを送信します。制御 PC のバッファデータを読み込んでデータを取得してください。

接続

本機器は、1 台のコントローラ (外部 PC 等) とだけ接続できます。すでにコントローラと接続した状態で、他のコントローラから接続要求があった場合、新しい接続は行わずに現状の接続が維持されます。

コンピュータ名

本機器のコンピュータ名は以下のとおりです。

AQ6370C のとき "6370C@@@@@@" (@@@@@@: 計器番号)

AQ6370D のとき "6370D@@@@@@" (@@@@@@: 計器番号)

AQ6373 のとき "6373@@@@@@" (@@@@@@: 計器番号)

AQ6373B のとき "6373B@@@@@@" (@@@@@@: 計器番号)

AQ6375 のとき "AQ6375@@@@@@" (@@@@@@: 計器番号)

AQ6375B のとき "AQ6375B@@@@@@" (@@@@@@: 計器番号)

計器番号は本機器背面に 9 桁の英数字で記載されています。

コンピュータ名は変更できません。

LAN によるリモート制御に必要なコマンド

LAN によるリモート接続には OPEN コマンドによる認証が必要です。認証を受けないと接続できません。

OPEN、CLOSE コマンドともに AQ6317 モードでも有効です。

OPEN

機能 ユーザー名を送信し、ユーザー認証を開始します。

構文 OPEN<wsp>"username"
username= ユーザー名

例 OPEN "yokogawa"
-> AUTHENTICATE CRAM-MD5.

解説 OPEN コマンドにより、以下の手順で認証が行われます。

平文認証の場合

1. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に OPEN "username" を送信し、AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B からの応答メッセージを取得します。
2. 取得したメッセージが "AUTHENTICATE CRAM-MD5." であることを確認します。
3. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B にパスワードを送信します (user name が anonymous のときはパスワードは何でも可)。
4. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B から "READY" のメッセージを取得すると認証が完了します。AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B の REMOTE ランプが点灯し、リモートコマンド送信が可能になります。ユーザー名やパスワードが違う場合は認証に失敗し、接続が解除されます。

暗号化認証の場合

1. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に OPEN "username" を送信し、AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B からの応答メッセージを取得します。
2. 取得したメッセージが "AUTHENTICATE CRAM-MD5." であることを確認します。
3. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に "AUTHENTICATE CRAM-MD5 OK." を送信し、AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B の応答メッセージ (チャレンジ文字列) を取得します。
4. 取得したチャレンジ文字列とパスワードを、MD5 方式でハッシュ計算します (user name が anonymous のときはパスワードは何でも可)。
5. 得られたハッシュデータ (16 進数小文字 x 32 文字) を AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に送信し、応答メッセージを取得します。
6. AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B から "READY" のメッセージを取得すると認証が完了します。AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B の REMOTE ランプが点灯し、リモートコマンド送信が可能になります。ユーザー名やパスワードが違う場合は認証に失敗し、接続が解除されます。

CLOSE

機能 コネクションを OFF にし、ローカル状態に切り替えます。

構文 CLOSE

例 CLOSE

3.3 サンプルプログラム

サンプルプログラム 1

イーサネットを使用して本機器をリモートコントロールする例を示します。

ここでは、言語として Visual Basic 6.0 を使用しています。

測定条件 (中心波長、スパン、感度、サンプル数) を設定したあと、SINGLE 掃引を実行します。

SINGLE 掃引が終了したら、THRESH によるスペクトル幅解析を実行し、その結果を画面に出力します。

```
Private Sub AQ637XTEST()
    Dim intData As Integer
    Dim dblMeanWL As Double
    Dim dblSpecWd As Double
    Dim strData As String

    ' === Connect ===
    Winsock1.RemoteHost = "192.168.1.100"           ' OSA IP address
    Winsock1.RemotePort = 10001                     ' OSA remote port num
    Winsock1.Connect

    ' === Wait to connect complete ===
    While (Winsock1.State <> sckConnected)
        DoEvents
    Wend

    ' === Authentication by OPEN Command ===
    SendLan "open ""anonymous""
    ReceiveLan strData
    SendLan " "
    ReceiveLan strData
    If (Left(strData, 5) <> "ready") Then
        MsgBox "User authentication error."
        Exit Sub
    End If

    ' === Set the measurement parameter ===
    SendLan "*RST"                                ' Setting initialize
    SendLan "CFORM1"                             ' Command mode set
                                                (AQ637X mode)
    SendLan ":sens:wav:cent 1550nm"               ' sweep center wl
    SendLan ":sens:wav:span 10nm"                 ' sweep span
    SendLan ":sens:sens mid"                      ' sens mode = MID

    SendLan ":sens:sweep:points:auto on"          ' Sampling Point = AUTO
    ' === Sweep execute ===
    SendLan ":init:smode 1"                       ' single sweep mode
    SendLan "*CLS"                                ' status clear
    SendLan ":init"                               ' sweep start

    ' === Wait for sweep complete ===
    Do
        SendLan ":stat:oper:even?"                ' get Operation Event
                                                Register
        ReceiveLan strData
        intData = Val(strData)
    Loop While ((intData And 1) <> 1)              ' Bit0: Sweep status
```

3.3 サンプルプログラム

```
' === Analysis ===
SendLan ":calc:category swth"           ' Spectrum width
                                         analysis(THRESH type)

SendLan ":calc"                         ' Analysis Execute
SendLan ":calc:data?"                   ' get data
ReceiveLan strData

' === Capture analytical results ===
dblMeanWL = Val(Left(strData, 16))       ' get mean wavelegnth
dblSpecWd = Val(Mid(strData, 18, 16))    ' get spectrum width

' === Output the result to the screen ===
MsgBox ("MEAN WL: " & dblMeanWL * 1000000000# & " nm" & vbCrLf & _
        "SPEC WD: " & dblSpecWd * 1000000000# & " nm")

' === Disconnect ===
Winsock1.Close

'Wait to disconnect complete
While (Winsock1.State <> sckClosed)
    DoEvents
Wend

End Sub

'=====
' Sub routine
' Send Remote Command
'=====
Sub SendLan(strData As String)
    Winsock1.SendData strData & vbCrLf
    DoEvents
End Sub

'=====
' Sub routine
' Receive query data
'=====
Sub ReceiveLan(strData As String)
    Dim strData2 As String

    strData = ""
    Do
        Winsock1.GetData strData2, vbString
        strData = strData + strData2
        DoEvents
    Loop While (Right(strData, 1) <> vbLf)
End Sub
```

サンプルプログラム 2

本機器の画面イメージを内部メモリに BMP ファイルとして保存し、ファイル転送コマンドを使用してファイルを PC 上に読み込みます。

読み込んだファイルを、PC 上に "C:\test.bmp" というファイル名で保存します。

```

Const TIMEOUT = 1                                ' time out(sec)

Private Sub cmdConnect_Click()
    Dim strData As String
    Dim byteData() As Byte
    Dim lngDataSize As Long

    '=== Connect ===
    If (ConnectLan("192.168.1.100", 10001) = False) Then
        MsgBox "Connection error"
        Winsock1.Close
        Exit Sub
    End If

    ' === Authentication by OPEN Command ===
    SendLan "open ""anonymous""                  ' Send user name
    lngDataSize = ReceiveLan(strData)
    If (lngDataSize = -1) Then
        MsgBox "Data Receive Error"
        Winsock1.Close
        Exit Sub
    End If

    SendLan " "                                    ' Send password
    lngDataSize = ReceiveLan(strData)
    If (lngDataSize = -1) Then
        MsgBox "Data Receive Error"
        Winsock1.Close
        Exit Sub
    End If
    If (Left(strData, 5) <> "ready") Then
        MsgBox "User authentication error."
        Winsock1.Close
        Exit Sub
    End If

    '----- send command to OSA
    Call SendLan("CFORM1")                        ' Command mode
                                                set(AQ637X mode)
    Call SendLan(":mmem:stor:grap color,bmp,""test"",int")
        ' Save bmp file to internal memory
    Call SendLan(":mmem:data? ""test.bmp"",int")    ' get file data from
                                                OSA
    lngDataSize = ReceiveBinaryLan(byteData())    ' Recieve binary block
                                                data

    '----- save data to binary file
    Open "c:\test.bmp" For Binary As #1
        Put #1, , byteData
    Close #1

    '----- Disconnect
    Winsock1.Close

    'Wait to disconnect complete
    While (Winsock1.State <> sckClosed)
        DoEvents
    Wend
    MsgBox "Complete"
End Sub

```

3.3 サンプルプログラム

```
'=====
' Sub routine
' Connect OSA via ETHERNET
'   in: strIP   IP Address(Ex. "192.168.1.100") or Computer Name
'         intPort   port number (Ex. 10001)
'   out:      none
'   ret:      OK/NG   true: OK, false: NG
'=====
Function ConnectLan(strIP As String, intPort As Integer) As Boolean
    Dim sglStart As Single
    Dim sglEnd As Single
    Dim sglNow As Single
    Dim bConnect As Boolean

    sglStart = Timer()
    sglEnd = sglStart + TIMEOUT
    bConnect = True

    ' === Connect ===
    Winsock1.RemoteHost = strIP                ' OSA IP address
    Winsock1.RemotePort = intPort              ' OSA remote port num
    Winsock1.Connect

    ' === Wait to connect complete ===
    While ((Winsock1.State <> sockConnected) And (bConnect = True))
        DoEvents
        ' Timeout check
        sglNow = Timer()
        If (sglNow < sglStart) Then sglNow = sglNow + 86400
        If sglNow >= sglEnd Then bConnect = False
    Wend

    '----- return value set
    ConnectLan = bConnect
End Function

'=====
' Sub routine
' Send Remote Command
'=====
Sub SendLan(strData As String)
    Winsock1.SendData strData & vbCrLf
    DoEvents
End Sub

'=====
' Sub routine
' Receive query data
'   in:      none
'   out:     strData      Receive data
'   ret:     Receive data size (Error: -1)
'=====
Function ReceiveLan(strData As String) As Long
    Dim strData2 As String
    Dim sglStart As Single
    Dim sglEnd As Single
    Dim sglNow As Single
    Dim bTimeout As Boolean

    sglStart = Timer()
    sglEnd = sglStart + TIMEOUT
    bTimeout = False
```

```

strData = ""
Do
    ' data receive
    DoEvents
    Winsock1.GetData strData2, vbString
    strData = strData + strData2

    ' Timeout check
    sglNow = Timer()
    If (sglNow < sglStart) Then sglNow = sglNow + 86400
    If sglNow >= sglEnd Then bTimeout = True
Loop While ((Right(strData, 1) <> vbLf) And (bTimeout = False))

' return value set
If bTimeout = True Then
    ReceiveLan = -1
Else
    ReceiveLan = Len(strData)
End If

```

End Function

```

'=====
' Sub routine
' Recieve Binary query data
'   in:      none
'   out:     byteArray      Receive data (byte array)
'   ret:     Receive data size (Error: -1)
'=====
Function ReceiveBinaryLan(byteArray() As Byte) As Long
    Dim lngPos As Long
    Dim lngTempPos As Long
    Dim bData As Byte
    Dim intI As Integer
    Dim intJ As Integer
    Dim strA As String
    Dim lngDataLength As Long
    Dim byteDummy() As Byte
    Dim sglStart As Single
    Dim sglEnd As Single
    Dim sglNow As Single
    Dim bTimeout As Boolean

    sglStart = Timer()
    sglEnd = sglStart + TIMEOUT
    bTimeout = False
    '-----
    '   Header block
    '-----
    Call ReadIPBin(bData)                                ' Receive 1byte

    If bData = Asc("#") Then
        Call ReadIPBin(bData)                            ' Receive 1byte

    intI = bData - Asc("0")
    strA = ""
    For intJ = 0 To intI - 1
        Call ReadIPBin(bData)                            ' Receive 1byte
        strA = strA + Chr(bData)
    Next intJ
    lngDataLength = Val(strA)                            ' block data size

    ReDim byteArray(lngDataLength)

```

3.3 サンプルプログラム

```
'-----
' Recieve binary data block
'-----

lngPos = 0
lngTempPos = 0
ReDim byteDummy(lngDataLength)
Winsock1.GetData byteDummy, vbArray + vbByte, lngDataLength
' Receive binary data

Do
    DoEvents
    If (lngTempPos > UBound(byteDummy)) Then
        Winsock1.GetData byteDummy, vbArray + vbByte, lngDataLength
        ' Continue to receive

        lngTempPos = 0
    Else
        byteArray(lngPos) = byteDummy(lngTempPos)
        lngPos = lngPos + 1
        lngTempPos = lngTempPos + 1
    End If

    'Timeout check
    sglNow = Timer()
    If (sglNow < sglStart) Then sglNow = sglNow + 86400
    If sglNow >= sglEnd Then bTimeout = True
    Loop Until ((lngPos = lngDataLength) Or (bTimeout = True))
End If

' return value set
If bTimeout = True Then
    ReceiveBinaryLan = -1
Else
    ReceiveBinaryLan = lngDataLength
End If
End Function

'=====
' Read binary data(1byte)
'=====
Sub ReadIPBin(byteData As Byte)
    Dim sglStart As Single
    Dim sglEnd As Single
    Dim sglNow As Single
    Dim bTimeout As Boolean

    sglStart = Timer()
    sglEnd = sglStart + TIMEOUT
    bTimeout = False

    '----- wait until data received or timeout
    Do
        DoEvents

        'Timeout check
        sglNow = Timer()
        If (sglNow < sglStart) Then sglNow = sglNow + 86400
        If sglNow >= sglEnd Then bTimeout = True
        Loop Until ((Winsock1.BytesReceived > 1) Or (bTimeout = True))

        Winsock1.GetData byteData, vbByte, 1
        ' 1byte read
    End Sub
```

4.1 シリアル (RS-232) インタフェースによる接続

シリアルインタフェースの機能と仕様

受信機能

フロントパネルのキー操作による設定と同じ設定ができます。
設定情報の出力要求を受けられます。

送信機能

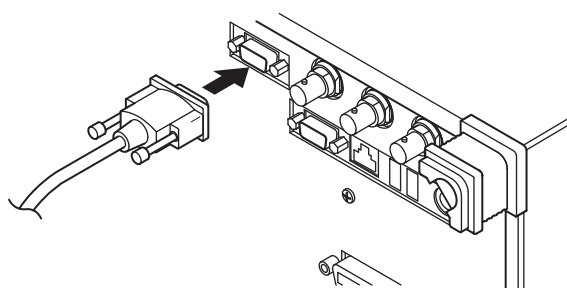
設定情報、測定結果を出力できます。

シリアル (RS-232) インタフェースの仕様

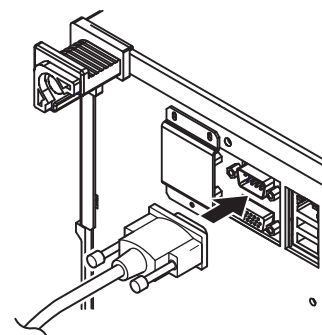
電気的特性：	EIA-574 規格に準拠 (EIA-232(RS-232) 規格の 9 ピン用)
接続方式：	ポイント対ポイント
通信方式：	全 2 重
同期方式：	調歩同期式
ボーレート：	1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、115200
スタートビット：	1 ビット固定
データ長：	8 ビット固定
パリティ：	偶数 (EVEN)、奇数 (ODD)、パリティなし
ストップビット：	1 ビット固定
コネクタ：	DELC-J9PAF-13L6(JAE または相当品)
フローコントロール：	RS/CS を用いたハードウェアハンドシェイクか、何もフローコントロールをしないかを選択できます。

接続方法

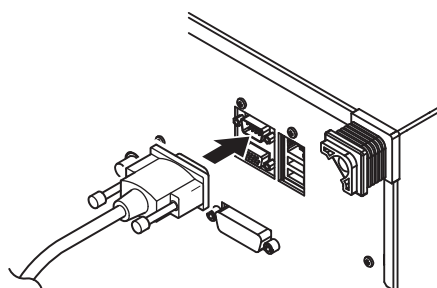
下図のように接続してください。



AQ6370C/AQ6373/AQ6375

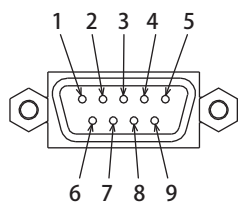


AQ6370D-01/AQ6370D-10/AQ6370D-20/
AQ6373B-01/AQ6373B-10/AQ6375B



AQ6370D-02/AQ6370D-12/AQ6370D-22/AQ6373B-02/AQ6373B-12

コネクタと信号名

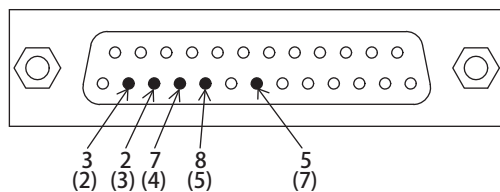


DELC-J9PAF-13L6 相当品

- 2 RD(Received Data) : PC からの受信データです。
信号方向 入力
- 3 SD(Send Data) : PC への送信データです。
信号方向 出力
- 5 SG(Signal Ground) : 信号用接地です。
- 7 RS(Request to Send) : PC からデータを受信するときのハンドシェイク方式です。
信号方向 出力
- 8 CS(Clear to Send) : PC へデータを送信するときのハンドシェイク方式です。
信号方向 入力

* 1、4、6、9 ピンは使用しません。

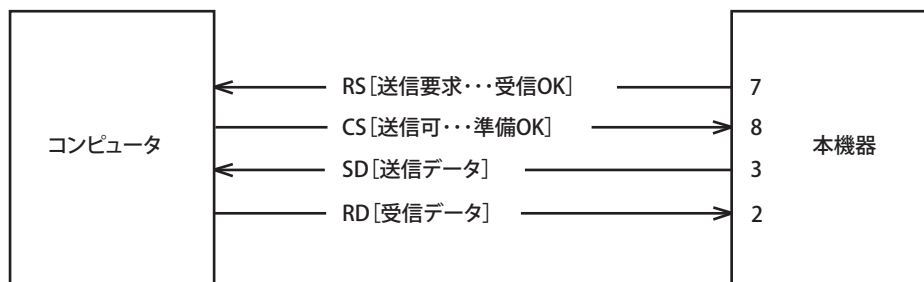
9 ピン -25 ピン変換コネクタと信号名



カッコ内の数字は、25 ピンコネクタのピン番号です。

信号の方向

本機器のシリアルインタフェースで使用する信号の方向を下図に示します。



RS-232 規定の信号一覧と JIS および CCITT 規定の略号

信号表

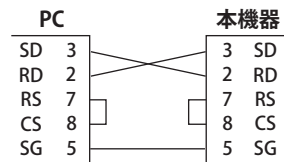
ピン番号 (9ピンコネクタ)	略号			名称
	RS-232	CCITT	JIS	
5	AB (GND)	102	SG	信号用接地
3	BA (TXD)	103	SD	送信データ
2	BB (RXD)	104	RD	受信データ
7	CA (RTS)	105	RS	送信要求
8	CB (CTS)	106	CS	送信可

信号線の結線例

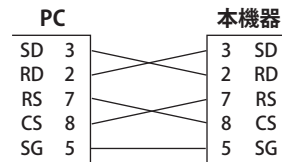
ピン番号は、9 ピンコネクタのものです。

一般的には、クロスケーブルを使用してください。

• OFF-OFF/XON-XON



• Hard(CS-RS)



4.2 コマンドによるリモート制御について

RS-232 ポートを使用して、本機器をリモート制御できます。
本機器をリモート制御する場合は、クロスケーブルを使って本機器と PC を接続してください。

また、リモートコマンドは GP-IB によるリモート制御と同じです。

SRQ による割り込みについて

RS-232 によるリモート制御では、SRQ による割り込みは発生しません。

ステータスレジスタについて

ステータスレジスタは、GP-IB によるリモート制御時と同様に動作します。
ステータスレジスタは、" *STB?" コマンドまたは "SPOLL?" コマンドを使用することで、GP-IB のシリアルポールと同様に読み出すことができます。

*STB?:<COMMAND FORMAT> キーの設定が AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/
AQ6375/AQ6375B の場合

SPOLL? : <COMMAND FORMAT> キーの設定が AQ6317 の場合

デリミタについて

RS-232 によるリモート制御でのデリミタは、CR + LF 固定です。

トークデータの送信について

本機器は、トークデータを制御 PC から受信すると、制御 PC のバッファにデータを送信します。制御 PC のバッファデータを読み込んでクエリデータを取得してください。

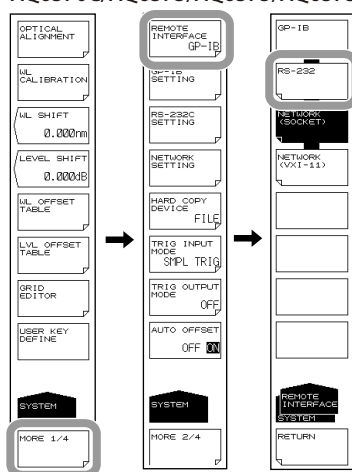
4.3 RS-232 の設定

操 作

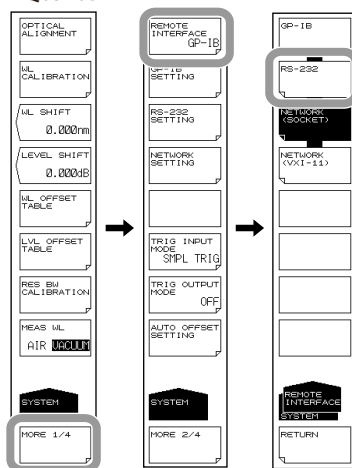
通信インターフェースの選択

1. **SYSTEM** を押します。システム設定メニューが表示されます。
2. **MORE 1/4** のソフトキーを押します。通信インターフェース設定メニューが表示されます。
3. **REMOTE INTERFACE** のソフトキーを押します。使用するインターフェースの設定メニューが表示されます。
4. **RS-232** のソフトキーを押して、通信インターフェースを **RS-232** に設定します。

AQ6370C/AQ6373/AQ6375/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B

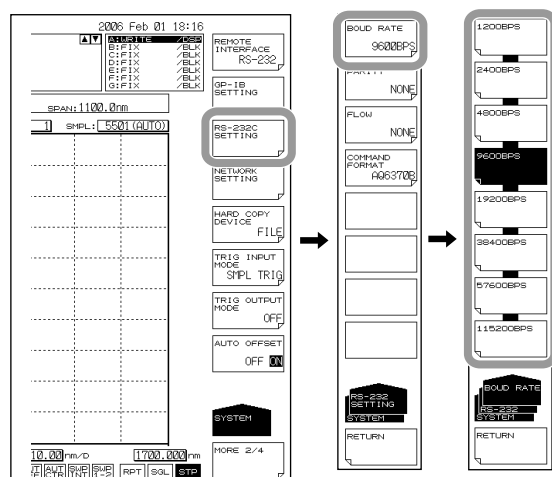


AQ6370D



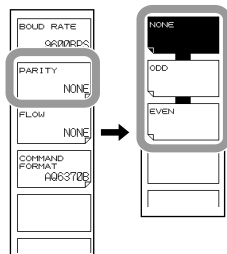
ボーレートの設定

5. RS-232 SETTING のソフトキーを押します。RS-232 に関する設定メニューが表示されます。
6. BOUD RATE のソフトキーを押します。ボーレート設定メニューが表示されます。
7. 設定するボーレートに対応するソフトキーを押します。ボーレートが設定されます。



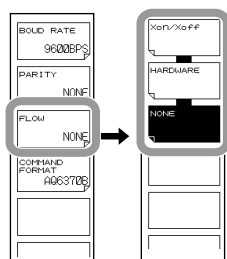
パリティの設定

8. PARITY のソフトキーを押します。パリティ設定メニューが表示されます。
9. 設定するパリティに対応するソフトキーを押します。パリティが設定されます。



フローコントロールの設定

10. FLOW のソフトキーを押します。フローコントロール設定メニューが表示されます。
11. 設定するフローコントロールに対応するソフトキーを押します。フローコントロールが設定されます。



コマンドフォーマットの設定

12. AQ6317 コマンドを使用する場合に操作します。

COMMAND FORMAT のソフトキーを押します。コマンドフォーマットの設定メニューが表示されます。

13. 通常は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B に設定します。
AQ6317 コマンドを使用する場合は、AQ6317 に設定します

解 説

本機器のキー操作で設定できる内容をコントローラで設定するときや、コントローラに設定データや波形データを出力するときは、下記の設定をします。

ボーレートの設定

次の中から選択します。

1200bps、2400bps、4800bps、9600bps、19200bps、38400bps、57600bps、115200bps

パリティの設定

次の中から選択します。

NONE、ODD、EVEN

フローコントロールの設定

送信データ制御 - 受信データ制御を、次の中から選択します。

Xon/Xoff、HARDWARE、NONE

コマンドフォーマットの設定

通常は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードに設定します。
シリーズ製品である AQ6317 用のコマンドを使って通信する場合は、AQ6317 に設定します。AQ6317 との互換性のあるコマンドについては、付録をご覧ください。

5.1 GP-IB2 による接続

GP-IB ケーブル

本機器の GP-IB コネクタは、IEEE St'd 488-1978 規格の 24 ピンコネクタです。GP-IB ケーブルは、IEEE St'd 488-1978 に合ったものを使用してください。

接続方法

本機器には GP-IB1、GP-IB2 の 2 つのポートがあります。AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B には GP-IB2 ポートはありません。

GP-IB1 ポート： PC と接続して本機器を PC からリモートコントロールできます。

GP-IB2 ポート： 本機器のプログラム機能を使って、接続した機器をリモートコントロールできます。

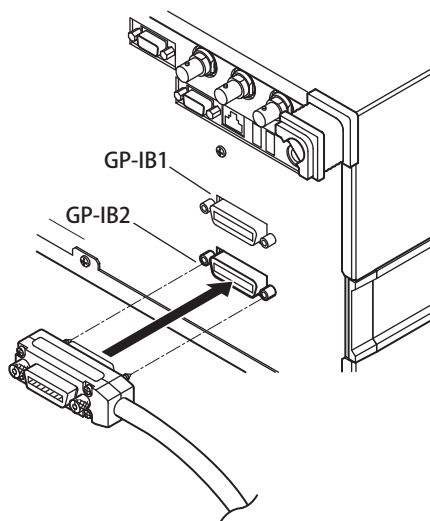
ここでは、GP-IB2 ポートに接続してください。

本機器および本機器に接続する機器の電源を OFF にします。

本機器背面にある GP-IB2 ポートにケーブルを接続します。

注 意

通信ケーブルを接続したり、取り外したりするときは、必ず接続機器および本機器の電源を OFF にしてください。OFF にしないと、誤動作を生じたり、内部回路を破損することがあります。



AQ6370C/AQ6373/AQ6375

接続時の注意については、2 章の「2.1 GP-IB による接続」をご覧ください。

5.2 GP-IB インタフェースの仕様

GP-IB インタフェースの仕様

電氣的・機械的仕様：	IEEE St'd 488-1978 に準拠
機能的仕様：	下表
プロトコル：	IEEE St'd 488.2-1992 に準拠
使用コード：	ISO(ASCII) コード
モード：	アドレスサブルモード
アドレス設定：	SYSTEM メニューの GP-IB の設定画面で、0 ～ 30 のアドレスを設定可能。
リモート状態解除：	LOCAL を押すことで、リモート状態の解除可能。ただし、コントローラにより Local Lockout されているときは無効。

機能的仕様

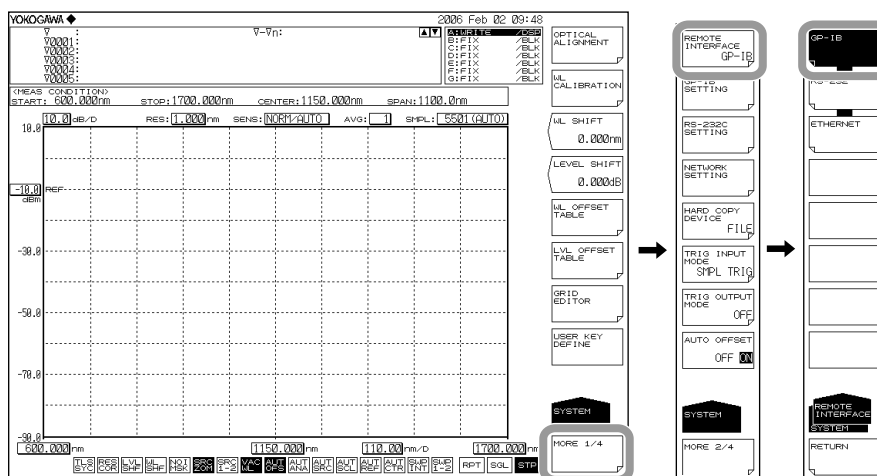
機能	サブセット名	内容
ソースハンドシェーク	SH1	送信ハンドシェークの全機能あり
アクセプタハンドシェーク	AH1	受信ハンドシェークの全機能あり
トーカ	T4	基本トーカ機能あり
リスナ	L2	基本リスナ機能あり
サービスリクエスト	SR0	サービスリクエスト機能なし
リモートローカル	RL0	ローカルロックアウト機能なし
パラレルポール	PP0	パラレルポール機能なし
デバイスクリア	DC0	デバイスクリア機能なし
デバイストリガ	DT0	デバイストリガ機能あり
コントローラ	C1	システムコントローラ IFC 送信
	C2	コントローラインチャージ
	C3	REN 送信
C28	インタフェースメッセージ送信	
電気特性	E1	オープンコレクタ

5.3 GP-IB アドレスの設定

操 作

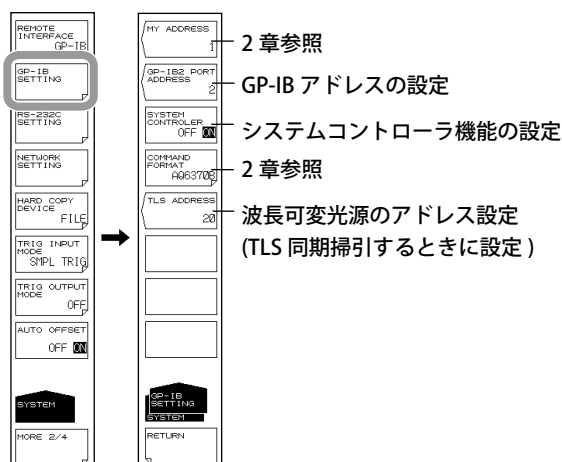
通信インタフェースの選択

1. **SYSTEM** を押します。システム設定メニューが表示されます。
2. **MORE 1/4** のソフトキーを押します。通信インタフェース設定メニューが表示されます。
3. **REMOTE INTERFACE** のソフトキーを押します。使用するインタフェースの設定メニューが表示されます。
4. **GP-IB** のソフトキーを押して、通信インタフェースを GP-IB に設定します。



アドレスの設定

5. **GP-IB SETTING** のソフトキーを押します。GP-IB に関する設定メニューが表示されます。
6. **GP-IB2 PORT ADDRESS** のソフトキーを押します。GP-IB2 ポートアドレス設定画面が表示されます。
7. ロータリノブまたは矢印キーで GP-IB2 ポートアドレスを設定し、**ENTER** を押します。



システムコントローラ機能の設定 (AQ6370C/AQ6373/AQ6375)

8. SYSTEM CONTROLLER のソフトキーを押して、ON または OFF に設定します。
外部機器をコントロールする場合は ON に設定します。

波長可変光源の GP-IB アドレスの設定 (同期掃引するときに設定、AQ6370C/AQ6373/AQ6375)

9. TLS ADDRESS のソフトキーを押します。TLS アドレス設定画面が表示されます。
10. ロータリノブまたは矢印キーで TLS アドレスを設定し、ENTER を押します。

解 説

本機器のプログラム機能を使って、外部機器をコントロールする場合は、下記の設定をします。

GP-IB2 ポートアドレスの設定

アドレスサブルモードのときの、本機器のアドレスを次の範囲で設定します。
0 ～ 30

GP-IB で接続できる各装置は、GP-IB システム内で固有のアドレスを持ちます。このアドレスによって他の装置と識別されます。したがって、本機器のアドレスを他の機器と重ならないように設定する必要があります。

また、本機器の GP-IB アドレス (MY ADDRESS) とは異なるアドレスを設定してください。

システムコントローラ機能の設定

プログラム機能を使って、本機器をコントローラとして使用する場合は ON に設定します。

TLS アドレスの設定

本機器がコントロールする波長可変光源の GP-IB アドレスを指定します。

Note

- ・ パーソナルコンピュータなどのコントローラを GP-IB2 ポートに接続しても、本機器をリモートコントロールすることはできません。
- ・ 波長可変光源やプログラム機能でコントロールしようとする外部機器を GP-IB1 ポートに接続しても、リモートコントロールできません。
- ・ GP-IB1 と GP-IB2 ポートは、互いに独立しています。したがって、GP-IB1 ポートに接続されたコントローラから、GP-IB2 ポートに接続された外部機器に直接メッセージを送ることはできません。
- ・ PC などのコントローラが GP-IB1 ポートに接続されている状態で、GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポートを接続すると正常に動作しません。
GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポートを接続しないか、システムコントローラ機能を OFF に設定してください。初期値は ON です。

6.1 ステータスレジスタについて

本機器は、下表のステータスレジスタを備えています。ステータスレジスタの全体図を次ページに記載します。

本機器は、IEEE488.2 および SCPI で規定された下記のレジスタを備えています。

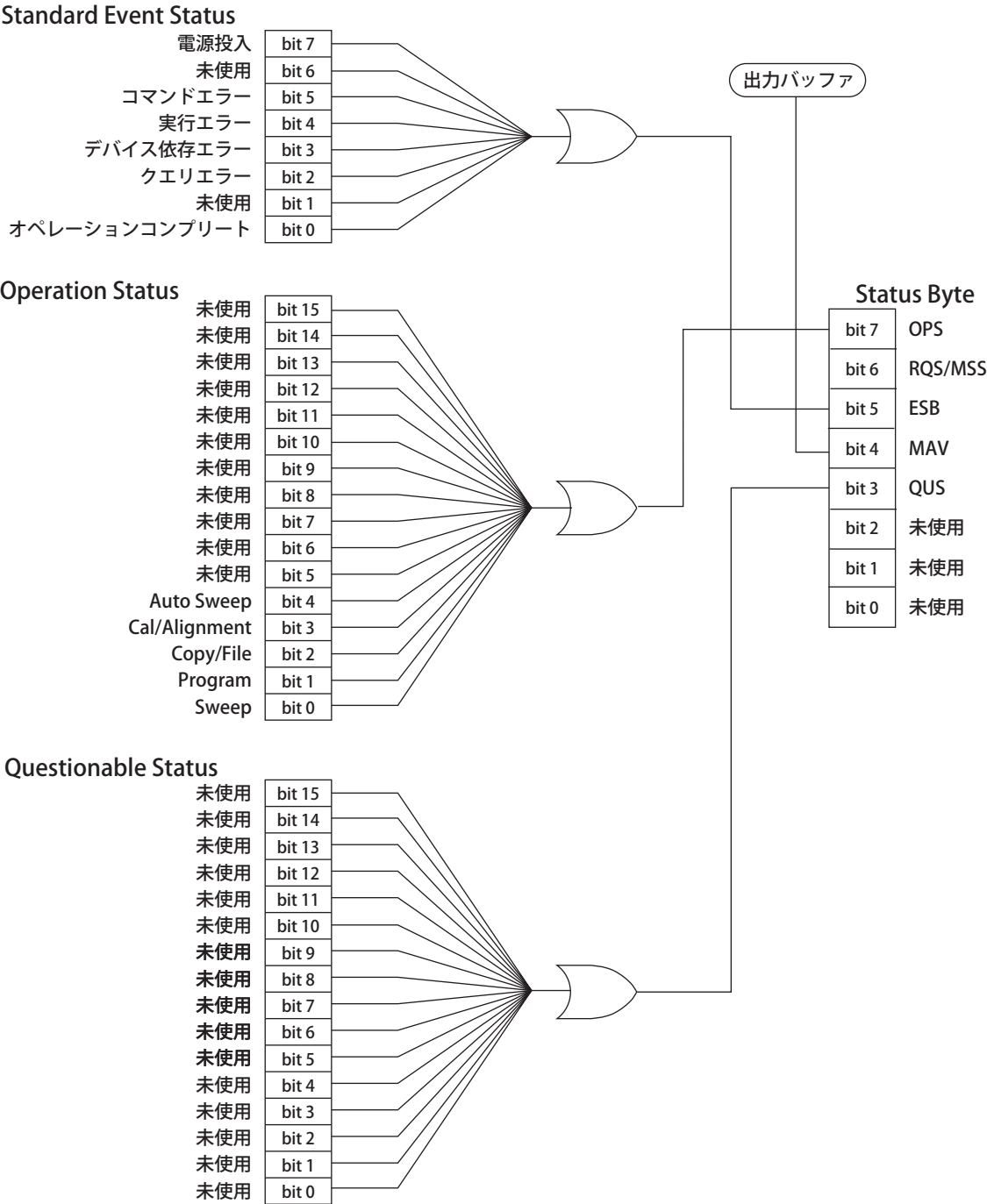
- ステータスバイトレジスタ
- スタンダードイベントステータスレジスタ
- オペレーションステータスレジスタ
- クエッションナブルステータスレジスタ

また、各レジスタのサマリ情報として、オペレーションステータスビット (OPS) とクエッションナブルステータスビット (QUS) を、ステータスバイトレジスタの拡張ビットに割り当てています。

ステータスレジスタ一覧

レジスタ名	内容
ステータスバイトレジスタ	IEEE488.2 で規定されたレジスタ
STB: Status Byte Register	同上
SRE: Service Request Enable Register	同上
スタンダードイベントステータスレジスタ	IEEE488.2 で規定されたレジスタ
ESR: Standard Event Status Register	同上
ESE: Standard Event Status Register	同上
オペレーションステータスレジスタ	動作の実行情報を提供 (掃引中、コピー中、CAL 中、等)
Operation Event Register	イベントの有無を表すレジスタ。イベントはラッチされる
Operation Event Enable Register	サマリビット (OPS) 生成時の条件マスク用レジスタ
クエッションナブルステータスレジスタ	未割り当て
Questionable Event Register	イベントの有無を表すレジスタ。イベントはラッチされる
Questionable Event Enable Register	サマリビット (QUS) 生成時の条件マスク用レジスタ

ステータスレジスタ全体図

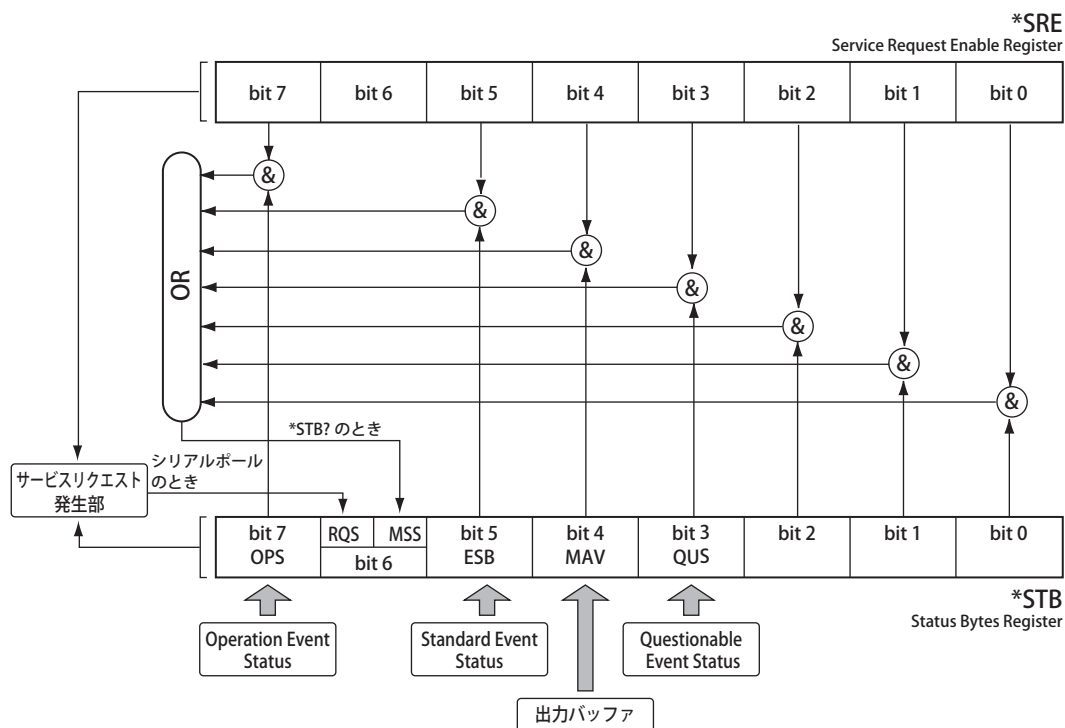


6.2 ステータスバイトレジスタ

構成

以下にステータスバイトレジスタの構成を示します。本レジスタの内容や動作は、IEEE488.2 に準じています。

また、本機器では、OPS ビットと QUS ビットを拡張しています。



Status Byte Register の内容

Bit	イベント名	説明	Decimal value
Bit 7	OPS	動作ステータスのサマリビット	128
Bit 6	RQS, MSS	1 つ以上のサービス要求があるときに "1"	64
Bit 5	ESB	Standard Event Status Register のサマリビット	32
Bit 4	MAV	出力バッファにデータが存在するときに "1"	16
Bit 3	QUS	疑問ステータスのサマリビット	8
Bit 2	None	未使用 (常に 0)	0
Bit 1	None	未使用 (常に 0)	0
Bit 0	None	未使用 (常に 0)	0

ステータスバイトレジスタ

読み取り

シリアルポールや *STB? 共通クエリで読み取ることができます。ただし、読み取り方法の違いにより、bit 6 の情報が変わります。

- ・ シリアルポールで読み取った場合
RQS メッセージが bit 6 の情報として読み取られます。
読み取り後に RQS メッセージはクリアされます。
- ・ *STB? 共通クエリで読み取った場合
MSS サマリメッセージが bit 6 の情報として読み取られます。
読み取り後も MSS メッセージは変化しません。

bit 6 以外の内容は変化しません。

読み取り動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

書き込み

割り当てられたステータスデータ構造の状態が変化したときにだけ、書き換えられます。
書き込み動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

クリア

*CLS 共通コマンドにより、出力キューと MAV ビットを除くすべてのイベントレジスタとキューがクリアされます。

クリア動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

サービスリクエストイネーブルレジスタ

読み取り

*SRE? 共通クエリで読み取ることができます。

未使用ビットの bit 6 の値は常に 0 です。読み取っても内容はクリアされません。

読み取り動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

書き込み

*SRE 共通コマンドで書き込むことができます。

また、未使用ビットの bit 6 の設定値は常に無視されます。

書き込み動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

クリア

次の条件でクリアされます。

- ・ *SRE 共通コマンドでデータ "0" をセットする
- ・ 電源投入

本レジスタは、以下のときはクリアされません。

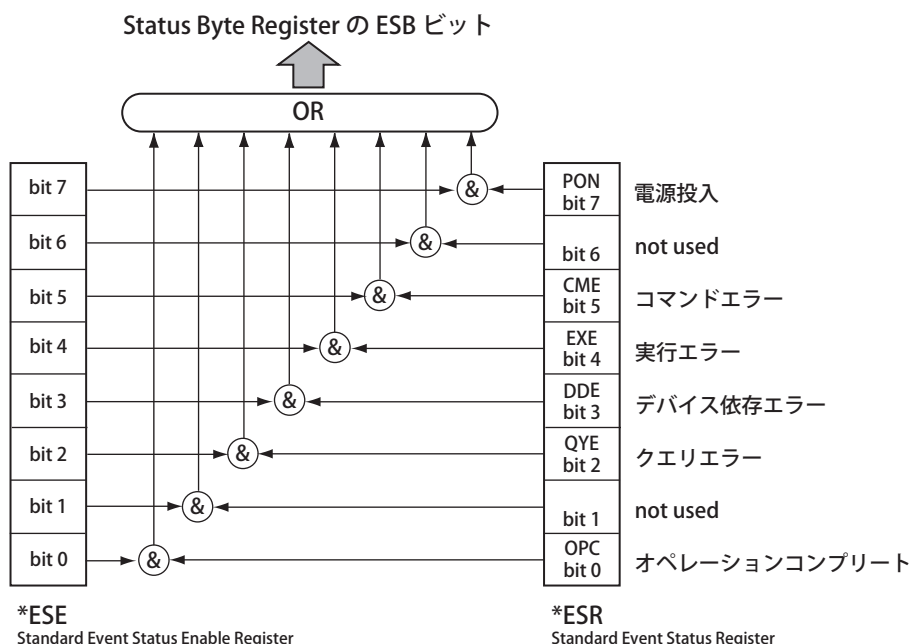
- ・ *RST コマンドの受信
- ・ *CLS コマンドの受信
- ・ デバイスクリア (DCL, SDC)

クリア動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

6.3 スタンダードイベントステータスレジスタ

構成

以下にスタンダードイベントステータスレジスタの構成を示します。本レジスタの内容や動作は、IEEE488.2 に準じています。



Standard Event Status Register の内容

Bit	イベント名	説明	Decimal value
Bit 7	PON (パワー ON)	電源が OFF → ON へ遷移 起動時に "1" になる	128
Bit 6	None	未使用 (常に 0)	0
Bit 5	CME (コマンドエラー)	構文エラーを検出・認識不可能なコマンドを検出 プログラムメッセージの 1 番目のバイトとプログラ ムメッセージターミネータの間で GET に 遭遇した	32
Bit 4	EXE (実行エラー)	プログラムヘッダーに続くプログラムデータが 有効範囲外 デバイスのステートに矛盾したプログラム メッセージを受信	16
Bit 3	DDE (デバイス固有エラー)	CME、EXE、QYE 以外の原因によるエラー	8
Bit 2	QYE (クエリエラー)	出力が存在しない状態で出力キューにアクセス した 出力キューデータが失われた	4
Bit 1	None	未使用 (常に 0)	0
Bit 0	OPC (オペレーション コンプリート)	コマンド動作完了 *OPC 時のみ有効 *OPC? の場合には無効	1

スタンダードイベントステータスレジスタ

読み取り

*ESR? 共通クエリで読み取ることができます。
読み取りにより、レジスタの内容はクリアされます。
読み取り動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

書き込み

レジスタの内容をクリアできます。クリア以外、書き込むことはできません。

クリア

次の条件でクリアされます。

- ・ *CLS 共通コマンド
- ・ *ESR? 共通クエリ

クリア動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

スタンダードイベントステータスイネーブルレジスタ

読み取り

*ESE? 共通クエリで読み取ることができます。
読み取り動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

書き込み

*ESE 共通コマンドで書き込むことができます。
書き込み動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

クリア

次の条件でクリアされます。

- ・ *ESE 共通コマンドでデータ "0" をセットする
- ・ 電源投入

以下のときにはクリアされません。

- ・ *RST コマンドの受信
- ・ *CLS コマンドの受信
- ・ デバイスクリア (DCL, SDC)

クリア動作は、IEEE488.2 規格に準じます。

6.4 オペレーションステータスレジスタ

オペレーションステータスレジスタは、本機器の動作ステータスをレポートします。
本機器の状態はオペレーションコンディションレジスタで示されます。

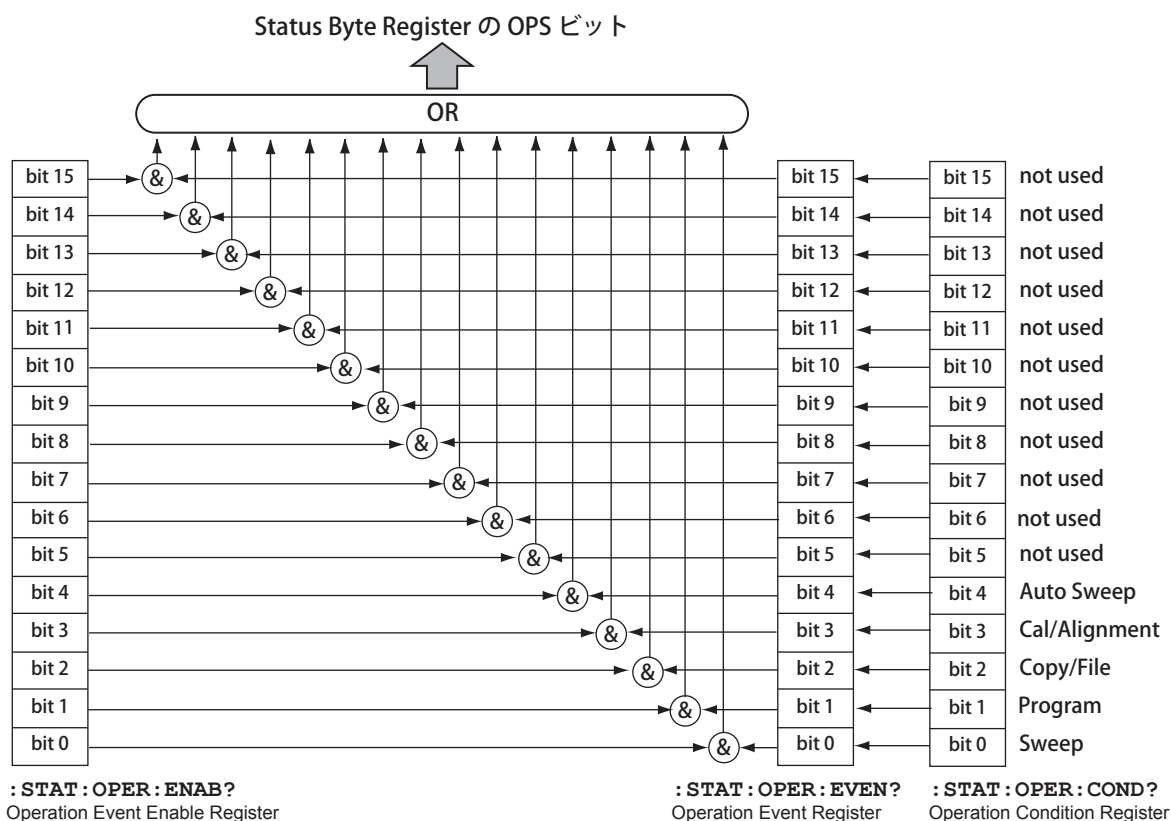
オペレーションコンディションレジスタでの変化は、オペレーションイベントレジスタに反映されます。オペレーションステータスレジスタを参照することで、動作ステータスの変化をとらえられます。

また、オペレーションイベントレジスタのサマリ情報が、ステータスバイトレジスタの OPS ビットにセットされます。ここでは、オペレーションイベントイネーブルレジスタが "1" に指定されたビットに対応するステータスだけがサマリ情報に含まれます。

構成

以下にオペレーションステータスレジスタの構成を示します。

Operation Status Register の構造



6.4 オペレーションステータスレジスタ

Operation Status Register の内容

Bit	イベント名	説明	Decimal value
Bit 15	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 14	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 13	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 12	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 11	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 10	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 9	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 8	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 7	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 6	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 5	Not used	予備 (常に 0)	0
Bit 4	Auto Sweep	AUTO 掃引の追い込み動作完了	16
Bit 3	Cal / Alignment	波長 CAL / アライメント動作、分解能校正動作	8
Bit 2	Copy / File	プリントアウトやファイル操作完了	4
Bit 1	Program	プログラム機能の実行完了	2
Bit 0	Sweep	掃引動作完了	1

オペレーションコンディションレジスタ

読み取り

:STATus:OPERation:CONDition? クエリ・コマンドで、読み取ることができます。
読み取りを行っても、レジスタの内容はクリアされません。

書き込み

本レジスタは、本機器の状態が変化した場合にだけ、その状態の変化に対応したビットがセット / リセットされます。
書き込むことはできません。

クリア

クリアはできません。

オペレーションイベントレジスタ

読み取り

:STATus:OPERation[:EVENT?] クエリ・コマンドで、読み取ることができます。
読み取りにより、レジスタの内容はクリアされます。

書き込み

レジスタの内容をクリアできます。クリア以外、書き込むことはできません。
<クリア>

次の条件でクリアされます。

- ・:STATus:OPERation[:EVENT?] クエリ・コマンドによる読み取り時
- ・:STATus:PRESet コマンドによる初期化時
- ・*CLS 共通コマンド
- ・電源投入
- ・オペレーション・イベント・イネーブル・レジスタ

読み取り

:STATus:OPERation:ENABLE? クエリ・コマンドで、読み取ることができます。

書き込み

:STATus:OPERation:ENABle コマンドで、書き込むことができます。

クリア

次の条件でクリアされます。

- :STATus:OPERation:ENABle コマンドでデータ "0" をセット
- 電源投入

以下のときにはクリアされません。

- *RST コマンドの受信
- *CLS コマンドの受信
- デバイスクリア (DCL, SDC)

6.5 クエッションナブルステータスレジスタ

クエッションナブルステータスレジスタは、本機器のクエッションナブルステータスをレポートします。

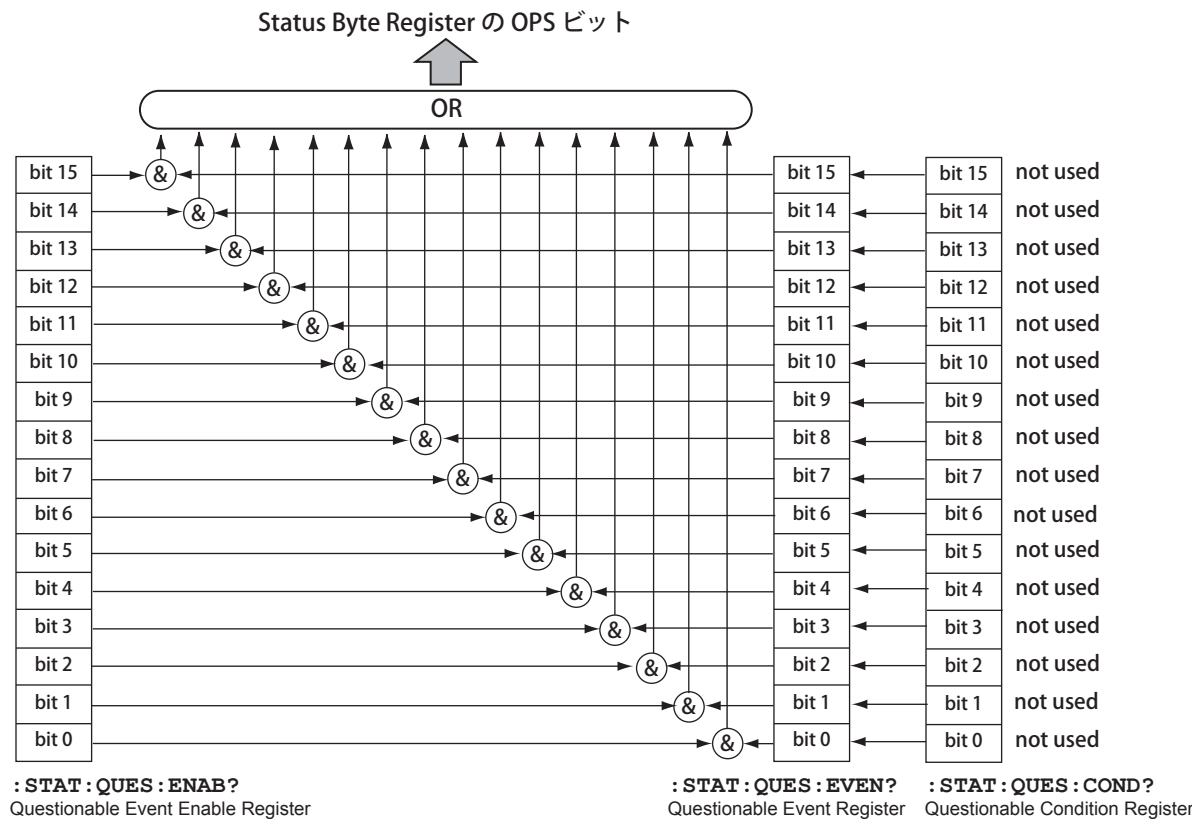
本レジスタは全て未割り当てになっています。ただし、レジスタの読み出し / 書き込み等の動作は正常に行えます。

イベントレジスタのサマリ情報は、ステータスバイトレジスタの QUS ビットにセットされます。

構成

以下にクエッションナブルステータスレジスタの構成と内容を示します。

クエッションナブルステータスレジスタの構成



クエッションナブルステータスの内容

Bit	イベント名	説明	Decimal value
Bit 0 ~ 15	Not used	予備 (常に 0)	0

クエッションナブルコンディションレジスタ

読み取り

:STATus:QUEStionable:CONDition? クエリ・コマンドで、読み取ることができます。読み取りを行っても、レジスタの内容はクリアされません。

書き込み

本レジスタは、本機器の状態が変化した場合だけ、その状態の変化に対応したビットがセット/リセットされます。書き込むことはできません。

クリア

クリアはできません。

クエッションナブルイベントレジスタ

読み取り

:STATus:QUEStionable[:EVENT?] クエリ・コマンドで、読み取ることができます。読み取りにより、レジスタの内容はクリアされます。

書き込み

レジスタの内容をクリアできます。クリア以外、書き込むことはできません。

クリア

次の条件でクリアされます。

- ・ :STATus:QUEStionable[:EVENT?] クエリ・コマンドによる読み取り時
- ・ :STATus:PRESet コマンドによる初期化時
- ・ *CLS 共通コマンド
- ・ 電源投入

クエッションナブルイベントイネーブルレジスタ

読み取り

:STATus:QUEStionable:ENABLE? クエリ・コマンドで、読み取ることができます。

書き込み

:STATus:QUEStionable:ENABLE コマンドで、書き込むことができます。

クリア

次の条件でクリアされます。

- ・ :STATus:QUTStionable:ENABLE コマンドでデータ "0" をセット
- ・ 電源投入

以下のときはクリアされません。

- ・ *RST コマンドの受信
- ・ *CLS コマンドの受信
- ・ デバイスクリア (DCL, SDC)

7.1 シンタックス記述の規則とコマンドの種類

以下の内容は、本書に記載する共通コマンドおよび機器固有コマンドを対象としています。

測定値とパラメータは、特殊なコマンドを除き、すべて ASCII 文字列で送受信します。

シンタックス記述の規則

規則	説明
	リスト中の要素をどれか 1 つ選ぶことを示す。 例： A B C = A か B か C のいずれか 1 つ
[]	括弧内のアイテムは任意指定
{ }	括弧内のアイテムはコマンド中に複数回指定可能
<wsp> * ¹	スペース
<integer>	整数値
<NRf>	指数表記値
<"file name">	ファイル名はディレクトリ部分を除いて、拡張子込みで最大 56 文字。 ダブルクォーテーション (") で文字列を囲う
<trace name>	トレース名 (TRA TRB TRC TRD TRE TRF TRG)
<marker>	マーカ番号 (0: 移動マーカ、1 ~ 1024: 固定マーカ)
<"string">	文字列 ダブルクォーテーション (") で文字列を囲う

*1: ホワイト・スペース (<wsp>) について
ASCII 文字セットの 00h ~ 20h(0Ah(LF) を除く) に対応する文字を、ホワイト・スペースと定義します。
ホワイト・スペースは、パラメータを指定する場合のコマンドとパラメータの間に入れるとき、およびパラメータにおけるファイル名等の文字列中のスペースを除いて任意に指定でき、プログラムを読みやすくするために使用できます。

コマンドの種類

本機器のコマンドは、下記の 3 種類に分類できます。

シーケンシャルコマンド

- ・ 最も一般的なコマンドです。
- ・ 当コマンドの動作が完了するまで、他のコマンドの動作を実行しません。
- ・ 他のコマンド動作が完了するまで、他の動作を開始しません。

被オーバーラップコマンド

- ・ 当コマンドの動作中に、他のコマンドオーバーラップコマンドの実行が可能なコマンドです。

コマンド例: INITiate 掃引の実行

オーバーラップコマンド

- ・ 被オーバーラップコマンドの動作中に実行可能なコマンドです。
- ・ シーケンシャルコマンド実行中、またはシーケンシャルコマンドが未処理の状態では、実行できません。

コマンド例: ABORT 測定、校正動作の停止

*STB? ステータスバイトの読み込み

複数のコマンドの一括送信

「7.5 共通コマンド」および「7.6 機器固有コマンド」に記載のコマンドを使用して、コマンド文字列を作成し、本機器に送信します。

セミコロン ";" で各コマンドを区切り、単一の出力ステートメントに複数のコマンドを記述した場合、コマンドは記述順に実行されます。

リモートコマンドの書式について

短形式と長形式

本機器の GP-IB コマンドは、短形式、長形式の両方に対応しています。

本書に記載のコマンドにおいて、大文字で記載されている部分は当該コマンドの短形式です。

INITiate コマンドの短形式は INIT、長形式は INITIATE です。

大文字と小文字

本機器では、大文字と小文字の区別をしません。

読み取り値はすべて大文字で記述します。

サブシステムによる SCPI コマンドのグループ化

本機器では、サブシステムによる SCPI コマンドのグループ化に対応しています。

同じサブシステムに属し、サブシステムの階層構造の同じレベルに存在するコマンドは、組み合わせて送ることができ、コマンドの間をセミコロンで区切ります。

例

例に使用するコマンドの階層構造

```
:SENSe          :SETTing
                  :ATTenuator
                  :WAVelength
                  :STOP
                  :START
```

- SENSE:WAVelength:START 1500NM;STOP 1600NM (○)
- SENSE:WAVelength:START 1500NM;ATTenuator ON (×)
(理由：同じ階層ではないため)
- SENSE:WAVelength:START 1500NM;;STOP 1600NM (×)
(理由：セミコロン ";" の後にはコロン ":" は不要なため)

数値

・本機器が受信する場合には、複数の表記方法に対応しています。

・本機器が送信する場合には、基本単位のみ使用します。

実数部の桁数は、整数部 1 桁 (符号付き)、小数点以下 8 桁固定。

指数部の桁数は、3 桁固定。

例：受信可能数値 (1550nm の場合)

1550nm、1.55um、1550E-9、1.55E-6 など

例：送信数値 (1550nm の場合)

+1.55000000E-006 のみ

・受け取った数値が内部で取り扱う数値範囲より高い精度の場合は、下位の切り捨てではなく四捨五入を行います。

・本機器が対応する乗数サフィックスは以下のとおりです。

乗数	ニーモニック	乗数	ニーモニック
1E18	EX (エクサ)	1E-3	M (ミリ)
1E15	PE (ペタ)	1E-6	U (マイクロ)
1E12	T (テラ)	1E-9	N (ナノ)
1E9	G (ギガ)	1E-12	P (ピコ)
1E6	MA (メガ)	1E-15	F (フェムト)
1E3	K (キロ)	1E-18	A (アト)

コマンド中のパラメータ指定

コマンドの中にパラメータを使用する場合、コマンドとパラメータの間にはスペースを入れる必要があります。

パラメータとパラメータの間は、カンマ","で区切ります。コマンドを読みやすくするために、カンマの前後にスペースを入れることもできます。

AQ6317 互換コマンド

本機器は AQ6317 用 GP-IB コマンドと互換性のあるコマンドをサポートしています。

AQ6317 用 GP-IB コマンドと互換性のあるコマンドを使用する場合は、**SYSTEM** キーによる SYSTEM メニューで、AQ6317 互換モードに設定してください。

AQ6370 との相違点について

本機器のリモートコマンドは、AQ6370 用リモートコマンドと以下の点が異なります。

1. *IDN クエリのトーカデータ

AQ6370: "YOKOGAWA, AQ6370,----"

AQ6370C: "YOKOGAWA, AQ6370C,----"

AQ6370D: "YOKOGAWA, AQ6370D,----"

AQ6373: "YOKOGAWA, AQ6373,----"

AQ6373B: "YOKOGAWA, AQ6373B,----"

AQ6375: "YOKOGAWA, AQ6375,----"

AQ6375B: "YOKOGAWA, AQ6375B,----"

2. <CHOP MODE> の設定で "CHOP" が削除されています。

AQ6370C/AQ6370D/DAQ6373/AQ6373B が "CHOP" を指定するコマンドを受信したときは、"SWITCH" として処理されます。

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

本機器の各機能を設定する時に使用するソフトキーに対応したリモートコマンドを一覧表で示します。

AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B、AQ6375、AQ6375B について、一部の機器だけに有効なコマンドには備考欄にその形名を記載しています。すべての機器に有効なコマンドには形名を記載していません。

SWEEP

ソフトキー	リモートコマンド
AUTO	:INITiate:SMODE<wsp>AUTO 3;:INITiate
REPEAT	:INITiate:SMODE<wsp>REPeat 2;:INITiate
SINGLE	:INITiate:SMODE<wsp>SINGle 1;:INITiate
STOP	:ABORt
SEGMENT MEASURE	:INITiate:SMODE<wsp>SEGment 4;:INITiate
SEGMENT POINT*****	:SENSe:SWEep:SEGment:POINts<wsp><integer>
SWEEP MKR L1-L2 ON/OFF	:SENSe:WAVelength:SRANge<wsp>OFF ON 0 1
SWEEP INTVL *****sec	:SENSe:SWEep:TIME:INTerval<wsp><integer>[SEC]

CENTER

ソフトキー	リモートコマンド	備考
CENTER WL ****.***nm	:SENSe:WAVelength:CENter<wsp><NRf>[M]	
CENTER FREQ ***.***THz	:SENSe:WAVelength:CENter<wsp><NRf>[HZ]	
CENTER WNUM ****.***cm ⁻¹	:SENSe:WAVelength:CENter<wsp><NRf>	AQ6375
START WL ****.***nm	:SENSe:WAVelength:STARt<wsp><NRf>[M]	
START FREQ ***.***THz	:SENSe:WAVelength:STARt<wsp><NRf>[HZ]	
START WNUM ****.***cm ⁻¹	:SENSe:WAVelength:STARt<wsp><NRf>	AQ6375
STOP WL ****.***nm	:SENSe:WAVelength:STOP<wsp><NRf>[M]	
STOP FREQ ***.***THz	:SENSe:WAVelength:STOP<wsp><NRf>[HZ]	
STOP WNUM ****.***cm ⁻¹	:SENSe:WAVelength:STOP<wsp><NRf>	AQ6375
PEAK → CENTER	:CALCulate:MARKer:SCENter	
AUTO CENTER ON/OFF	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SCENter:AUTO<wsp>OFF ON 0 1	
VIEW → MEAS	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALE]:SMSCale	

SPAN

ソフトキー	リモートコマンド	備考
SPAN****.nm	:SENSe:WAVelength:SPAN<wsp><NRf>[M]	
SPAN WNUM****.cm ⁻¹	:SENSe:WAVelength:SPAN<wsp><NRf>	AQ6375
START WL****.nm	:SENSe:WAVelength:StARt<wsp><NRf>[M]	
START FREQ***.THz	:SENSe:WAVelength:StARt<wsp><NRf>[HZ]	
START WNUM****.cm ⁻¹	:SENSe:WAVelength:StARt<wsp><NRf>	AQ6375
STOP WL****.nm	:SENSe:WAVelength:StOP<wsp><NRf>[M]	
STOP FREQ***.THz	:SENSe:WAVelength:StOP<wsp><NRf>[HZ]	
STOP WNUM****.cm ⁻¹	:SENSe:WAVelength:StOP<wsp><NRf>	AQ6375
Onm SWEEP TIME**sec	:SENSe:SWEEp:TIME:ONM<wsp><integer>[SEC]	
VIEW → MEAS	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SMSCale	

LEVEL

ソフトキー	リモートコマンド
REF LEVEL	
LOG	:DISPlay[:WINDow]:Y1[:SCALe]:RLEVel<wsp><NRf>[DBM]
LIEAR	:DISPlay[:WINDow]:Y1[:SCALe]:RLEVel<wsp><NRf>[NW UM MW]
LOG SCALE**.*dB/D	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>[DB]
LIN SCALE	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:SPACing<wsp>LINear 1
LIN BASE LEVEL**.*mW	:DISPlay[:WINDow]:Y1[:SCALe]:BLEVel<wsp><NRf>[MW]
PEAK → REF LEVEL	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SRLevel
AUTO REF LEVEL ON/OFF	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SRLevel:AUTO
LEVEL UNIT dBm / dBm/nm	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:UNIT<wsp>DBM DBM/NM
Y SCALE SETTING	
Y SCALE DIVISION 8/10/12	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:DNUMber<wsp>8 10 12
REF LEVEL POSITION **DIV	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:RPOSition<wsp><integer>[DIV]
SUB LOG**.*dB/D	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>[DB]
SUB LIN**.*D	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>
SUB SCALE**.*dB/km	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>[DB/KM]
SUB SCALE**.*%/D	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>[%]
OFST LVL または SCALE MIN **.*dB	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:OLEVel<wsp><NRf>[DB]
LENGTH**.*km	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:LENGth<wsp><NRf>[KM]
AUTO SUB SCALE ON/OFF	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:AUTO<wsp>OFF ON 0 1
SUB REF LVL POSITION **DIV	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:RPOSition<wsp><integer>[DIV]

Note

AQ6375 の場合、横軸が波数のときは LEVEL UNIT に dBm/nm や W/nm を選択できません。
(DBM/NM のパラメータを設定できません。)

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

SETUP

ソフトキー	リモートコマンド	備考
RESOLUTION *.***nm	:SENSe:BANDwidth[:BWIDth[:RESolution] <wsp><NRf>[M Hz]	
SENS/MODE @@@@+@+		
NORM/HOLD	:SENSe:SENSe<wsp>NHLD 0	
NORM/AUTO	:SENSe:SENSe<wsp>NAUT 1	
NORM	:SENSe:SENSe<wsp>NORMa1 6	
MID	:SENSe:SENSe<wsp>MID 2	
HIGH1	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH1 3	AQ6370C/AQ6370D AQ6373/AQ6373B
HIGH1/CHOP	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH1 3	AQ6375/AQ6375B
HIGH2	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH2 4	AQ6370C/AQ6370D AQ6373/AQ6373B
HIGH2/CHOP	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH2 4	AQ6375/AQ6375B
HIGH3	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH3 5	AQ6370C/AQ6370D AQ6373/AQ6373B
HIGH3/CHOP	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH3 5	AQ6375/AQ6375B
CHOP MODE @@@@		
OFF	:SENSe:CHOPPer<wsp>OFF 0	AQ6370C/AQ6370D AQ6373/AQ6373B
SWITCH	:SENSe:CHOPPer<wsp>SWITCh 2	AQ6370C/AQ6370D AQ6373/AQ6373B
AVG TIMES ***	:SENSe:AVERage:COUnT<wsp><integer>	
SAMPLINT POINT AUTO	:SENSe:SWEEp:POINts:AUTO<wsp>OFF ON 0 1	
SAMPLING POINT *****	:SENSe:SWEEp:POINts<wsp><integer>	
SAMPLING INTVL *.****nm	:SENSe:SWEEp:STEP<wsp><NRf>[M]	
MEAS WL AIR/VAC	:SENSe:CORRection:RVELocity:MEDIum<wsp> AIR VACuum 0 1	AQ6370C/AQ6373 AQ6373B/AQ6375/ AQ6375B
SWEEP SPEED 1x/2x	:SENSe:SWEEp:SPEEd<wsp>1x 2x 0 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
HORZN SCALE nm/THz	:UNIT:X<wsp>WAVeLength FREQuency 0 1	AQ6370C/AQ6373
HORZN SCALE @@@@		
nm	:UNIT:X<wsp>WAVeLength 0	
THz	:UNIT:X<wsp>FREQuency 1	
cm ⁻¹	:UNIT:X<wsp>WNUmber 2	AQ6375/AQ6375B
PLS LIGHT MEASURE		
PEAK HOLD **msec	:TRIGger[:SEQuence]:STATe<wsp> OFF ON PHOLd 0 1 2	
EXT TRIGGER MODE	:TRIGger[:SEQuence]:STATe<wsp> OFF ON PHOLd 0 1 2	
GATE MODE ***.msec	:TRIGger[:SEQuence]:GATE:TIME	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
GATE LOGIC	:TRIGger[:SEQuence]:GATE:LOGic	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
TRIGGER SETTING		
EDGE RISE/FALL	:TRIGger[:SEQuence]:SLOPe<wsp>RISE FALL 0 1	
DELAY ****.μs	:TRIGger[:SEQuence]:DELay<wsp><NRf>[S]	
TLS SYNC SWEEP ON/OFF	:SENSe:SWEEp:TLSSync<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6375
RESOLN CORRECT	:SENSe:SETTing:CORRection<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D AQ6373/AQ6373B
SMOOTHING ON/OFF	:SENSe:SETTing:SMOothing<wsp>OFF ON 0 1	AQ6373/AQ6373B AQ6375B
FIBER CORE SIZE	:SENSe:SETTing:FIBer<wsp>SMALl LARGe 0 1	AQ6373/AQ6373B
FIBER CONNECTOR	:SENSe:SETTing:FCOnnector<wsp> NORMa1 ANGLed 0 1	AQ6370C/AQ6370D

ZOOM

ソフトキー	リモートコマンド	備考
ZOOM CENTER WL ****.*nm	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:CENTer <wsp><NRf>[M]	
ZOOM CENTER FREQ ***.*THz	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:CENTer <wsp><NRf>[HZ]	
ZOOM CENTER WNUM ****.*cm ⁻¹	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:CENTer <wsp><NRf>	AQ6375 /AQ6375B
ZOOM SPAN ****.*nm	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SPAN <wsp><NRf>[M]	
ZOOM SPAN ***.*THz	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SPAN <wsp><NRf>[HZ]	
ZOOM SPAN WNUM ****.*cm ⁻¹	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SPAN <wsp><NRf>	AQ6375 /AQ6375B
ZOOM START WL ****.*nm	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:STA-Rt <wsp><NRf>[M]	
ZOOM START FREQ ***.*THz	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:START <wsp><NRf>[HZ]	
ZOOM START WNUM ****.*cm ⁻¹	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:START <wsp><NRf>	AQ6375 /AQ6375B
ZOOM STOP WL ****.*nm	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:STOP <wsp><NRf>[M]	
ZOOM STOP FREQ ***.*THz	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:STOP <wsp><NRf>[HZ]	
ZOOM STOP WNUM ****.*cm ⁻¹	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:STOP <wsp><NRf>	AQ6375 /AQ6375B
PEAK → ZOOM CTR	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SZCenter	
OVERVIEW DISPLAY OFF/L/R	:DISPlay[:WINDow]:OVIEW:POSition<wsp> OFF LEFT RIGHT 0 1 2	
OVERVIEW SIZE LARGE/SMALL	:DISPlay[:WINDow]:OVIEW:SIZE<wsp> LARGE SMALL 0 1	
INITIAL	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]: INITialize	

DISPLAY

ソフトキー	リモートコマンド	備考
NORMAL DISPLAY	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>OFF 0	
SPLIT DISPLAY	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1	
SPLIT DISPLAY		
TRACE A UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRA,UP LOW 0 1	
TRACE B UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRB,UP LOW 0 1	
TRACE C UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRC,UP LOW 0 1	
TRACE D UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRD,UP LOW 0 1	
TRACE E UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRE,UP LOW 0 1	
TRACE F UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRF,UP LOW 0 1	
TRACE G UP/LOW	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition<wsp>TRG,UP LOW 0 1	
HOLD		
UPPER HOLD ON/OFF	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:UPPer<wsp>OFF ON 0 1	
LOWER HOLD ON/OFF	:DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:LOWer<wsp>OFF ON 0 1	
LABEL	:DISPlay[:WINDow]:TEXT:DATA<wsp><string>	
NOISE MASK ***dB	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMASt<wsp><NRf>[DB]	
MASK LINE VERT / HRZN	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMASt:TYPE<wsp>VERTical HORIZontal 0 1	
TRACE CLEAR		
ALL TRACE	:DISPlay[:WINDow]:TEXT:CLEar	
DISPLAY OFF	:DISPlay[:WINDow]<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

TRACE

ソフトキー	リモートコマンド
ACTIVE TRACE	
A	:TRACe:ACTive<wsp>TRA
B	:TRACe:ACTive<wsp>TRB
C	:TRACe:ACTive<wsp>TRC
D	:TRACe:ACTive<wsp>TRD
E	:TRACe:ACTive<wsp>TRE
F	:TRACe:ACTive<wsp>TRF
G	:TRACe:ACTive<wsp>TRG
VIEW @ DISP/BLANK	:TRACe:STATe:<trace name><wsp>ON OFF 1 0
WRITE @	:TRACe:ATTRibute:<trace name><wsp>WRITe 0
FIX @	:TRACe:ATTRibute:<trace name><wsp>FIX 1
HOLD @	
MAX HOLD	:TRACe:ATTRibute:<trace name><wsp>MAX 2
MIN HOLD	:TRACe:ATTRibute:<trace name><wsp>MIN 3
ROLL AVG @ ***	:TRACe:ATTRibute:RAVG:<trace name><wsp><integer>
CALCULATE C@@@@	
LOG MATH@@@@	
C=A-B(LOG)	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A-B (LOG)
C=B-A(LOG)	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>B-A (LOG)
C=A+B(LOG)	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A+B (LOG)
LIN MATH@@@@	
C=A+B(LIN)	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A+B (LIN)
C=A-B(LIN)	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A-B (LIN)
C=B-A(LIN)	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>B-A (LIN)
C=1-k(A/B) k:****	:CALCulate:MATH:TRC:K<wsp><Nrf>; :CALCulate:MATH:TRC<wsp>1-K (A/B)
C=1-k(B/A) k:****	:CALCulate:MATH:TRC:K<wsp><Nrf>; :CALCulate:MATH:TRC<wsp>1-K (B/A)
CALCULATE F@@@@	
LOG MATH@@@@	
F=C-D(LOG)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>C-D (LOG)
F=D-C(LOG)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>D-C (LOG)
F=C+D(LOG)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>C+D (LOG)
F=D-E(LOG)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>D-E (LOG)
F=E-D(LOG)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>E-D (LOG)
F=D+E(LOG)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>D+E (LOG)
CALCulate F@@@@	
LIN MATH@@@@	
F=C+D(LIN)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>C+D (LIN)
F=C-D(LIN)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>C-D (LIN)
F=D-C(LIN)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>D-C (LIN)
F=D+E(LIN)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>D+E (LIN)
F=D-E(LIN)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>D-E (LIN)
F=E-D(LIN)	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>E-D (LIN)
POWER/NBW@@@@@@@@	
F=PWR/NBW A	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>PWRNBWA AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
F=PWR/NBW B	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>PWRNBWB AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
F=PWR/NBW C	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>PWRNBWC AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
F=PWR/NBW D	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>PWRNBWD AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
F=PWR/NBW E	:CALCulate:MATH:TRF<wsp>PWRNBWE AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
BANDWIDTH	:CALCulate:MATH:TRF:PNBW: BWIDth BAND AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド
CALCulate G@@@	
LOG MATH@@@	
G=C-F(LOG)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>C-F (LOG)
G=F-C(LOG)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>F-C (LOG)
G=C+F(LOG)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>C+F (LOG)
G=E-F(LOG)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>E-F (LOG)
G=F-E(LOG)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>F-E (LOG)
G=E+F(LOG)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>E+F (LOG)
LIN MATH@@@	
G=C+F(LIN)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>C+F (LIN)
G=C-F(LIN)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>C-F (LIN)
G=F-C(LIN)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>F-C (LIN)
G=E+F(LIN)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>E+F (LIN)
G=E-F(LIN)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>E-F (LIN)
G=F-E(LIN)	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>F-E (LIN)
NORMALIZE@@@	
G=NORM A	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>NORMA
G=NORM B	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>NORMB
G=NORM C	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>NORMC
CURVE FIT@@@	
G=CVFIT A	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>CVFTA
G=CVFIT B	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>CVFTB
G=CVFIT C	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>CVFTC
G=MKR FIT	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>MKRFT
THRESH **dB	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:THResh<wsp><NRf> [DB]
OPERATION AREA	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:OPARea<wsp>ALL INL1-L2 OUTL1-L2 0 1 2
FITTING ALGO	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:FALGo<wsp>GAUSS LORENz 3RD 4TH 5TH 0 1 2 3 4
CURVE FIT PK@@@	
G=PKCVFIT A	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>PKCVFTA
G=PKCVFIT B	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>PKCVFTB
G=PKCVFIT C	:CALCulate:MATH:TRG<wsp>PKCVFTC
THRESH **dB	:CALCulate:MATH:TRG:PCVFT:THResh<wsp><NRf> [DB]
OPERATION AREA	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:OPARea<wsp>ALL INL1-L2 OUTL1-L2 0 1 2
FITTING ALGO	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:FALGo<wsp>GAUSS LORENz 3RD 4TH 5TH 0 1 2 3 4
TRACE LIST	-
TRACE COPY	:TRACe:COPIY<wsp><source trace name>,<destination trace name>
TRACE CLEAR	:TRACe:DELeTe<wsp><trace name>

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

MARKER

ソフトキー	リモートコマンド	備考
MKR ACTIVE ON/OFF , SET MARKER	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp><marker>, ON 1	
CLEAR MARKER	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp><marker>,OFF 0	
MARKER → CENTER	:CALCulate:MARKer:SCENter	
MARKER → ZOOM CTR	:CALCulate:MARKer:SZCenter	
MARKER → REF LEVEL	:CALCulate:MARKer:SRLevel	
ADVANCED MARKER		
MARKER 1 SELECT @@@@@@@	:CALCulate:AMARKer[1]:X<wsp><NRF>[M Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
MARKER TRACE		
A	:CALCulate:AMARKer[1]:TRACe<wsp>TRA	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
B	:CALCulate:AMARKer[1]:TRACe<wsp>TRB	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
C	:CALCulate:AMARKer[1]:TRACe<wsp>TRC	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
D	:CALCulate:AMARKer[1]:TRACe<wsp>TRD	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
E	:CALCulate:AMARKer[1]:TRACe<wsp>TRF	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
G	:CALCulate:AMARKer[1]:TRACe<wsp>TRG	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
OFF	:CALCulate:AMARKer[1][:STATe]<wsp>OFF 0	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
NORMAL	:CALCulate:AMARKer[1]:FUNCTion:PRESet	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
POWER DENSITY	:CALCulate:AMARKer[1]:FUNCTion:PDENsity : NOISe[:STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL POWER	:CALCulate:AMARKer[1]:FUNCTion:INTEgral[: STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL RANGE ***.GHz	:CALCulate:AMARKer[1]:FUNCTion:INTEgral: IRANge<wsp><integer>[Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
MARKER 2 SELECT @@@@@@@	:CALCulate:AMARKer2:X<wsp><NRF>[M Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
MARKER TRACE		
A	:CALCulate:AMARKer2:TRACe<wsp>TRA	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
B	:CALCulate:AMARKer2:TRACe<wsp>TRB	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
C	:CALCulate:AMARKer2:TRACe<wsp>TRC	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
D	:CALCulate:AMARKer2:TRACe<wsp>TRD	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
E	:CALCulate:AMARKer2:TRACe<wsp>TRF	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
G	:CALCulate:AMARKer2:TRACe<wsp>TRG	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
OFF	:CALCulate:AMARKer2[:STATe]<wsp>OFF 0	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
NORMAL	:CALCulate:AMARKer2:FUNCTion:PRESet	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
POWER DENSITY	:CALCulate:AMARKer2:FUNCTion:PDENsity : NOISe[:STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL POWER	:CALCulate:AMARKer2:FUNCTion:INTEgral[: STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL RANGE ***.GHz	:CALCulate:AMARKer2:FUNCTion:INTEgral: IRANge<wsp><integer>[Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド	備考
MARKER 3 SELECT @@@@@@	:CALCulate:AMARker3:X<wsp><NRF> [M Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
MARKER TRACE		
A	:CALCulate:AMARker3:TRACe<wsp>TRA	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
B	:CALCulate:AMARker3:TRACe<wsp>TRB	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
C	:CALCulate:AMARker3:TRACe<wsp>TRC	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
D	:CALCulate:AMARker3:TRACe<wsp>TRD	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
E	:CALCulate:AMARker3:TRACe<wsp>TRF	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
G	:CALCulate:AMARker3:TRACe<wsp>TRG	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
OFF	:CALCulate:AMARker3[:STATe]<wsp>OFF 0	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
NORMAL	:CALCulate:AMARker3:FUNCTion:PRESet	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
POWER DENSITY	:CALCulate:AMARker3:FUNCTion:PDENSity : NOISe[:STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL POWER	:CALCulate:AMARker3:FUNCTion:INTEgral[: STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL RANGE ***.GHz	:CALCulate:AMARker3:FUNCTion:INTEgral: IRANge<wsp><integer> [Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
MARKER 4 SELECT @@@@@@	:CALCulate:AMARker4:X<wsp><NRF> [M Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
MARKER TRACE		
A	:CALCulate:AMARker4:TRACe<wsp>TRA	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
B	:CALCulate:AMARker4:TRACe<wsp>TRB	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
C	:CALCulate:AMARker4:TRACe<wsp>TRC	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
D	:CALCulate:AMARker4:TRACe<wsp>TRD	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
E	:CALCulate:AMARker4:TRACe<wsp>TRF	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
G	:CALCulate:AMARker4:TRACe<wsp>TRG	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
OFF	:CALCulate:AMARker4[:STATe]<wsp>OFF 0	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
NORMAL	:CALCulate:AMARker4:FUNCTion:PRESet	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
POWER DENSITY	:CALCulate:AMARker4:FUNCTion:PDENSity : NOISe[:STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL POWER	:CALCulate:AMARker4:FUNCTion:INTEgral[: STATe]<wsp>ON 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL RANGE ***.GHz	:CALCulate:AMARker4:FUNCTion:INTEgral: IRANge<wsp><integer> [Hz]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
SEARCH		
PEAK SEARCH	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
BOTTOM SEARCH	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MINimum	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
NEXT LEVEL SEARCH	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum:NEXT :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MINimum:NEXT	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド	備考
NEXT SEARCH RIGHT	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum:RIGHT	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
NEXT SEARCH LEFT	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MINimum:LEFT	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
BANDWIDTH **.nm	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION: PDENsity :NOISe:BWIDth :BANDwidth<wsp> <NRf>[M]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
ALL CLEAR	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:AOFF	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
ALL MARKER CLEAR	:CALCulate:MARKer:AOFF	
LINE MKR 1 ON/OFF	:CALCulate:LMARker:X<wsp>1,<NRf>[M]	
LINE MKR 2 ON/OFF	:CALCulate:LMARker:X<wsp>2,<NRf>[M]	
LINE MKR 3 ON/OFF	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>3,<NRf>[DBM]	
LINE MKR 4 ON/OFF	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>4,<NRf>[DBM]	
MKR L1-L2 → SPAN	:CALCulate:LMARker:SSPan	
MKR L1-L2 → ZOOM SPAN	:CALCulate:LMARker:SZSPan	
LINE MARKER ALL CLEAR	:CALCulate:LMARker:AOFF	
MARKER DISPLAY		
OFFSET	:CALCulate:MARKer:FUNCTION:FORMat<wsp>OFFSet 0	
SPACING	:CALCulate:MARKer:FUNCTION:FORMat<wsp>SPACing 1	
MARKER AUTO UPDATE ON/OFF	:CALCulate:MARKer:FUNCTION:UPDate<wsp>OFF ON 0 1	
MARKER UNIT nm THz	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp> WAVelength FREQuency 0 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B
MARKER UNIT @@@		AQ6375/AQ6375B
nm	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp>WAVelength 0	AQ6375/AQ6375B
THz	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp>FREQuency 1	AQ6375/AQ6375B
cm ⁻¹	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp>WNUMber 2	AQ6375/AQ6375B
SEARCH/ANA L1-L2 ON/OFF	:CALCulate:LMARker:SRANge<wsp>OFF ON 0 1	
SEARCH/ANA ZOOM AREA ON/OFF	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SRANge<wsp> OFF ON 0 1	
MARKER LIST PRINT	:HCOPY[:IMMediate]:FUNCTION:MARKer:LIST	AQ6370C/AQ6373/ AQ6375

PEAK SEARCH

ソフトキー	リモートコマンド	備考
PEAK SEARCH	:CALCulate:MARKer:MAXimum	
BOTTOM SEARCH	:CALCulate:MARKer:MINimum	
NEXT LEVEL SEARCH	:CALCulate:MARKer:MAXimum:NEXT または :CALCulate:MARKer:MINimum:NEXT	
NEXT SEARCH RIGHT	:CALCulate:MARKer:MAXimum:RIGHT または :CALCulate:MARKer:MINimum:RIGHT	
NEXT SEARCH LEFT	:CALCulate:MARKer:MAXimum:LEFT または :CALCulate:MARKer:MINimum:LEFT	
SET MARKER	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp><marker>, ON 1	
CLEAR MARKER	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp><marker>,OFF 0	
ALL MARKER CLEAR	:CALCulate:MARKer:AOff	
AUTO SEARCH ON/OFF	:CALCulate:MARKer:AUTO<wsp>OFF ON 0 1	
MODE DIFF **. **dB	:CALCulate:PARAmeter:COMMon:MDIFF<wsp><NRf>[DB]	
SEARCH/ANA L1-L2 ON/OFF	:CALCulate:LMARKer:SRANge<wsp>OFF ON 0 1	
SEARCH/ANA ZOOM AREA ON/OFF	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SRANge<wsp> OFF ON 0 1	
SEARCH MODE SINGL/MULTI	:CALCulate:MARKer:MSearch<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/ AQ6370D/ AQ6373B AQ6375B
THRESH **. **dB	:CALCulate:MARKer:MSearch:THResh<wsp> <NRf>[DB]	AQ6370C/ AQ6370D/ AQ6373B AQ6375B
SORT BY WL/LVL	:CALCulate:MARKer:MSearch:SORT<wsp> WAVelength LEVel 0 1	AQ6370C/ AQ6370D/ AQ6373B AQ6375B

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ANALYSIS

ソフトキー	リモートコマンド	備考
SPEC WIDTH@@@		
THRESH	:CALCulate:CATegory<wsp>SWThresh 0	
ENVELOPE	:CALCulate:CATegory<wsp>SWENvelope 1	
RMS	:CALCulate:CATegory<wsp>SWRMs 2	
PEAK RMS	:CALCulate:CATegory<wsp>SWPKrms 3	
NOTCH	:CALCulate:CATegory<wsp>NOTCh 4	
ANALYSIS1@@@@		
DFB-LD	:CALCulate:CATegory<wsp>DFBLd 5	
FP-LD	:CALCulate:CATegory<wsp>FPLD 6	
LED	:CALCulate:CATegory<wsp>LED 7	
SMSR	:CALCulate:CATegory<wsp>SMSR 8	
POWER	:CALCulate:CATegory<wsp>POWer 9	
PMD	:CALCulate:CATegory<wsp>PMD 10	
ANALYSIS2@@@@		
OSNR (WDM)	:CALCulate:CATegory<wsp>OSNR 11	AQ6373
WDM	:CALCulate:CATegory<wsp>WDM 11	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375/AQ6375B
EDFA-NF	:CALCulate:CATegory<wsp>NF 12	
FILTER-PK	:CALCulate:CATegory<wsp>FILPk 13	
FILTER-BTM	:CALCulate:CATegory<wsp>FILBtm 14	
WDM FIL-PK	:CALCulate:CATegory<wsp>WFPeak 15	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375/AQ6375B
WDM FIL-BTM	:CALCulate:CATegory<wsp>WFBtm 16	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375/AQ6375B
COLOR	:CALCulate:CATegory<wsp>COLor 17	AQ6373/AQ6373B
ANALYSIS EXECUTE (@@@@)	:CALCulate[:IMMEDIATE]	
SPEC WIDTH THRESH **.*dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory] :SWThresh:TH<wsp><NRf>[DB]	
SWITCH DISPLAY		
TRACE&TABLE	:CALCulate:DISPlay<wsp>0	
TABLE	:CALCulate:DISPlay<wsp>1	
TRACE	:CALCulate:DISPlay<wsp>2	
GRAPH&TABLE	:CALCulate:DISPlay<wsp>3	AQ6370C/AQ6370D
GRAPH	:CALCulate:DISPlay<wsp>4	AQ6370C/AQ6370D
LINE MARKER Y1/Y2	:CALCulate:DISPlay:GRAPh:LMARker 1 2,<NRf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D
AUTO ANALYSIS ON/OFF	:CALCulate[:IMMEDIATE]:AUTO<wsp>OFF ON 0 1	
RESULT PRINT	:HCOPY[:IMMEDIATE]:FUNctIon:CALCulate:LIST	
RESULT SAVE	:MMEMory:STORe:AREsult<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal]	
SEARCH/ANA L1-L2 ON/OFF	:CALCulate:LMARker:SRANge<wsp>	
SEARCH/ANA ZOOM AREA ON/OFF	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe] :SRANge<wsp>OFF ON 0 1	

ソフトキー	リモートコマンド	備考
GRID EDITOR		
200GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>200GHZ 4	AQ6370D
100GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>100GHZ 3	AQ6370D
50GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>50GHZ 2	AQ6370D
25GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>25GHZ 1	AQ6370D
12.5GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>12.5GHZ 0	AQ6370D
CUSTOM	:SYSTem:GRID<wsp>CUSTom 5	AQ6370D
START WL ****.****nm	:SYSTem:GRID:CUSTom:STArt<wsp><NRf>[M HZ]	AQ6370D
STOP WL ****.****nm	:SYSTem:GRID:CUSTom:STOP<wsp><NRf>[M HZ]	AQ6370D
SPACING ***.***GHz	:SYSTem:GRID:CUSTom:SPACing<wsp><NRf>[GHZ]	AQ6370D
VALUE EDIT	-	
INSERT	:SYSTem:GRID:CUSTom:INSert<wsp><NRf>[M HZ]	AQ6370D
DELETE	:SYSTem:GRID:CUSTom:DELeTe<wsp><integer>	AQ6370D
REFERENCE WAVELENGTH ****.****nm	:SYSTem:GRID:REfERENCE<wsp><NRf>[HZ]	AQ6370D

Note

AQ6375/AQ6375B の場合、横軸が波数のときは ANALYSIS2 に含まれるすべてのソフトキーが無効になります。ANALYSIS2 に含まれる解析機能を実行できません。また、これらのパラメータを設定できません。

MEMORY

ソフトキー	リモートコマンド	備考
SAVE		
A TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRA	
B TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRB	
C TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRC	
D TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRD	
E TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRE	
F TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRF	
G TRACE → MEMORY	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRG	
RECALL		
MEMORY → A TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRA	
MEMORY → B TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRB	
MEMORY → C TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRC	
MEMORY → D TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRD	
MEMORY → E TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRE	
MEMORY → F TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRF	
MEMORY → G TRACE	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRG	
MEMORY CLEAR	:MEMory:CLear<wsp><integer>	

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

FILE

ソフトキー	リモートコマンド	備考
WRITE		
DRIVE INT/EXT	:MMEMory:CDrive<wsp>INTernal EXTernal	
FILE NAME	:MMEMory:CDIRectory<wsp><directory name>	
(TRACE)	:MMEMory:STORe:TRACe<wsp><trace name>, BIN CSV,<"file name">[,INTernal EXTernal]	
(ALL TRACE)	:MMEMory:STORe:ATRAce<wsp><"file name">[,INTernal EXTernal]	
(MEMORY)	:MMEMory:STORe:MEMory<wsp><integer>, BIN CSV,<"file name">[,INTernal EXTernal]	
(GRAPHICS)	:MMEMory:STORe:GRAPhics<wsp>B&W COLor PCOLor,BMP TIFF,<"file name">[,INTernal EXTernal]	
(SETTING)	:MMEMory:STORe:SETTing<wsp><"file name">[,INTernal EXTernal]	
(DATA)	:MMEMory:STORe:DATA<wsp><"file name">[,INTernal EXTernal]	
OUTPUT ITEM SETTING		
DATE&TIME ON/OFF	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp>DATE,OFF ON 0 1	
LABEL ON/OFF	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp>LABel,OFF ON 0 1	
DATA AREA ON/OFF	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp>DATA,OFF ON 0 1	
CONDITION ON/OFF	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp>CONDition,OFF ON 0 1	
TRACE DATA ON/OFF	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp>TRACe,OFF ON 0 1	
FILE TYPE CSV/DT6	:MMEMory:STORe:DATA:TYPE<wsp>CSV DT 0 1	
WRITE MODE ADD/OVER	:MMEMory:STORe:DATA:MODE<wsp>ADD OVER 0 1	
(PROGRAM)	:MMEMory:STORe:PROGram<wsp><integer>,<"file name">[,INTernal EXTernal]	

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド	備考
(TEMPLATE)	:MMEMory:STORe:TEMPLate<wsp> <template>,<"file name"> [,INTernal EXTernal]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
(LOGGING)	:MMEMory:STORe:DLOGging<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
<CSV DATA SAVE>	:MMEMory:STORe:DLOGging:CSAVe<wsp> OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
<TRACE DATA SAVE>	:MMEMory:STORe:DLOGging:TSAVe<wsp> OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
READ		
DRIVE INT/EXT	:MMEMory:CDRive<wsp>INTernal EXTernal	
(TRACE)	:MMEMory:LOAD:TRACe<wsp><trace name>, <"file name">[,INTernal EXTernal]	
(ALL TRACE)	:MMEMory:LOAD:ATRAce<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal]	
(MEMORY)	:MMEMory:LOAD:MEMory<wsp><integer>, <"file name">[,INTernal EXTernal]	
(SETTING)	:MMEMory:LOAD:SETTing<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal]	
(DATA)	:MMEMory:LOAD:DATA<wsp><"file name"> [,INTernal EXTernal]	
(PROGRAM)	:MMEMory:LOAD:PROGram<wsp><integer>, <"file name">[,INTernal EXTernal]	
(TEMPLATE)	:MMEMory:LOAD:PROGram<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal]	
(LOGGING)	:MMEMory:LOAD:DLOGging<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B
AUTO FILE NAME	:MMEMory:ANAMe<wsp>NUMBer DATE	AQ6370D/AQ6375B
REMOVE USB STRAGE	:MMEMory:REMOve	
FILE OPERATION		
DRIVE INT/EXT	:MMEMory:CDRive<wsp>INTernal EXTernal	
DELETE	:MMEMory:DELeTe<wsp><"file name"> [,INTernal EXTernal]	
COPY	:MMEMory:COpy<wsp> <"source file name">[,INTernal EXTernal],<"destination file name"> [,INTernal EXTernal]	
RENAME	:MMEMory:REName<wsp><"new file name">, <"old file name">[,INTernal EXTernal]	
MAKE DIRECTORY	:MMEMory:MDIRectory<wsp> <"directory name">[,INTernal EXTernal]	

PROGRAM

ソフトキー	リモートコマンド
PROGRAM EXECUTE	:PROGram:EXECute<wsp><integer>

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

SYSTEM

ソフトキー	リモートコマンド	備考
OPTICAL ALIGNMENT	:CALibration:ALIGn[:IMMediate]	
BUILT-IN SOURCE	:CALibration:INTErnal[:IMMediate]	AQ6370D-L0 (内蔵光源なし)
EXTERNAL LASER	:CALibration:EXTErnal[:IMMediate]	AQ6370D-L0 (内蔵光源なし)
WL CALIBRATION		
BUILT-IN SOURCE	:CALibration:WAVelength:INTErnal[:IMMediate]	AQ6370C/AQ6370D AQ6375/AQ6375B
EXTERNAL LASER ****.***nm	:CALibration:WAVelength:EXTErnal:SOURce <wsp>LASer 0; :CALibration:WAVelength:EXTErnal :WAVelength<wsp><NRf>[M]	
EXTERNAL GAS CELL ****.***nm	:CALibration:WAVelength:EXTErnal:SOURce <wsp>GASCell 1; :CALibration:WAVelength:EXTErnal :WAVelength<wsp><NRf>[M]	AQ6370C/AQ6370D AQ6375/AQ6375B
EMISSION LINE ****.***nm	:CALibration:WAVelength:EXTErnal:SOURce <wsp>EMISSION 2; :CALibration:WAVelength:EXTErnal :WAVelength<wsp><NRf>[M]	AQ6373B
WL SHIFT **.***nm	:SENSe:CORREction:WAVelength:SHIFt<wsp> <NRf>[M]	
LEVEL SHIFT ***.***dB	:SENSe:CORREction:LEVel:SHIFt<wsp><NRf>[DB]	
WL OFFSET TABLE	:CALibration:WAVelength:OFFSet: TABLE<wsp><integer>,<NRf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373 AQ6373B/AQ6375
LVL OFFSET TABLE	:CALibration:POWer:OFFSet:TABLE<wsp> <integer>,<NRf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373 AQ6373B/AQ6375
GRID EDITOR		
200GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>200GHZ 4	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
100GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>100GHZ 3	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
50GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>50GHZ 2	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
25GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>25GHZ 1	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
12.5GHz SPACING	:SYSTem:GRID<wsp>12.5GHZ 0	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
CUSTOM	:SYSTem:GRID<wsp>CUSTom 5	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
START WL ****.***nm	:SYSTem:GRID:CUSTom:STARt<wsp><NRf>[M HZ]	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
STOP WL ****.***nm	:SYSTem:GRID:CUSTom:STOP<wsp><NRf>[M HZ]	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
SPACING ***.GHz	:SYSTem:GRID:CUSTom:SPACing<wsp><NRf>[GHZ]	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
VALUE EDIT	-	
INSERT	:SYSTem:GRID:CUSTom:INSert<wsp><NRf>[M HZ]	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B
DELETE	:SYSTem:GRID:CUSTom:DELeTe<wsp><integer>	AQ6370C/AQ6375
REFERENCE WAVELENGTH ****.***nm	:SYSTem:GRID:REFeRence<wsp><NRf>[HZ]	AQ6370C/AQ6375 AQ6375B

Note

AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは GRID EDITOR のソフトキーが実行できません。

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド	備考
USER KEY DEFINE	-	
GP-IB2 PORT ADDRESS **	:SYSTem:COMMunicate:GPIB2:ADDRes<wsp><integer>	AQ6370C/AQ6373/AQ6375
COMMAND FORMAT	:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp>AQ6317 AQ6370C 0 1	AQ6370C
	:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp>AQ6317 AQ6370D 0 1	AQ6370D
	:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp>AQ6317 AQ6373 0 1	AQ6373
	:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp>AQ6317 AQ6373B 0 1	AQ6373B
	:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp>AQ6317 AQ6375 0 1	AQ6375
	:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp>AQ6317 AQ6375B 0 1	AQ6375B
TLS ADDRESS **	:SYSTem:COMMunicate:GPIB2:TLS:ADDRes<wsp><integer>	AQ6370C/AQ6375
MONITOR PORT ON/OFF	:SYSTem:COMMunicate:RMONitor<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
HARD COPY DEVICE		AQ6370C/AQ6373/AQ6375
INTERNAL	:HCOPY:DESTination<wsp>INTernal 0	
EXTERNAL	:HCOPY:DESTination<wsp>EXTernal 1	
FILE	:HCOPY:DESTination<wsp>FILE 2	
TRIG INPUT MODE	:TRIGger[:SEQuence]:INPut<wsp>ETRigger STRigger SENable 0 1 2	SENable 2 は AQ6370C で設定可。
TRIG OUTPUT MODE	:TRIGger[:SEQuence]:OUTPut<wsp>OFF STATUS 0 1	
AUTO OFFSET ON/OFF	:CALibration:ZERO[:AUTO]<wsp>OFF ON 0 1 ONCE	AQ6373/AQ6375
AUTO OFFSET SETTING		
AUTO OFFSET ON/OFF	:CALibration:ZERO[:AUTO]<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
INTERVAL ***min	:CALibration:ZERO[:AUTO]:INTerval<wsp><integer>	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
UNCAL WARN DISPLAY ON/OFF	:SYSTem:DISPlay:UNCal<wsp>OFF ON 0 1	
BUZZER		
CLICK ON/OFF	:SYSTem:BUZZer:CLICk<wsp>OFF ON 0 1	
WARNING ON/OFF	:SYSTem:BUZZer:WARNing<wsp>OFF ON 0 1	
LEVEL DISP DIGIT		
1DIG	:UNIT:POWer:DIGit<wsp>1	
2DIG	:UNIT:POWer:DIGit<wsp>2	
3DIG	:UNIT:POWer:DIGit<wsp>3	
WINDOW TRANSPARENT ON/OFF	:SYSTem:DISPlay:TRANSPARENT<wsp>OFF ON 0 1	
SET CLOCK	:SYSTem:DATE<wsp><year>,<month>,<day> :SYSTem:TIME<wsp><hour>,<minutes>,<seconds>	
SELECT COLOR		
COLOR 1	:DISPlay:COLor<wsp>1	
COLOR 2	:DISPlay:COLor<wsp>2	
COLOR 3	:DISPlay:COLor<wsp>3	
COLOR 4	:DISPlay:COLor<wsp>4	
COLOR 5	:DISPlay:COLor<wsp>5	
B&W	:DISPlay:COLor<wsp>0	

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド	備考
OPERATION LOCK	:SYSTem:OLOck	AQ6370C/AQ6370D AQ6375B/AQ6373B
REMOVE USB STRAGE	:MMEMory:REMove	
SYSTEM INFORMATION		
SYSTEM INFO	:SYSTem:INFormation?<wsp>0 1	
RES BW CALIBRATION	:CALibration{:BANDwidth BWIDTH}: WAVelength?	AQ6370C/AQ6370D
EXECUTE	:CALibration{:BANDwidth BWIDTH}[: IMMediate]	AQ6370C/AQ6370D
INITIALIZE	:CALibration{:BANDwidth BWIDTH}: INITialize	AQ6370C/AQ6370D
PARAMETER INITIALIZE		
ALL CLEAR	:SYSTem:PRESet	
VERSION	-	
MEAS WL AIR/VAC	:SENSe:CORRection:RVELocity: MEDium<wsp>AIR VACuum 0 1	AQ6370D

ADVANCE

ソフトキー	リモートコマンド	備考
TEMPLATE		
GO/NO GO ON/OFF	:TRACe:TEMPlate:GONogo<wsp>OFF ON 0 1	
TEMPLATE DISPLAY		
UPPER LINE DISPLAY ON/OFF	:TRACe:TEMPlate:DISPlay<wsp>UPPer, OFF ON 0 1	
LOWER LINE DISPLAY ON/OFF	:TRACe:TEMPlate:DISPlay<wsp>LOWer, OFF ON 0 1	
TARGET LINE DISPLAY ON/OFF	:TRACe:TEMPlate:DISPlay<wsp>TARGet, OFF ON 0 1	
TYPE		
UPPER	:TRACe:TEMPlate:TTYPe<wsp>UPPer	
LOWER	:TRACe:TEMPlate:TTYPe<wsp>LOWer	
UPPER & LOWER	:TRACe:TEMPlate:TTYPe<wsp>U&L	
TEMPLATE EDIT		
ALL DELETE	:TRACe:TEMPlate:DATA:ADELeTe<wsp> UPPer LOWer TARGet	
MODE ABS/REL	:TRACe:TEMPlate:DATA:MODE<wsp>UPPer LOWer TARGet, ABSolute RELative	
EXTRA POL TYPE		
TYPE A	:TRACe:TEMPlate:DATA:ETYPe<wsp>UPPer LOWer TARGet, A 1	
TYPE B	:TRACe:TEMPlate:DATA:ETYPe<wsp>UPPer LOWer TARGet, B 2	
NONE	:TRACe:TEMPlate:DATA:ETYPe<wsp>UPPer LOWer TARGet, NONE 0	
TEMPLATE SHIFT	:TRACe:TEMPlate:LEVel:SHIFt<wsp><NRf> :TRACe:TEMPlate:WAVelength:SHIFt<wsp> <NRf>	
DATA LOGGING		
START/STOP	:APPLication:DLOGging:STATe<wsp> STOP START 0 1	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375B/AQ6373B
SETUP		
LOGGING PARAMETER		AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375B/AQ6373B
LOGGING ITEM	:APPLication:DLOGging:LPARameter: ITEM<wsp>0 1 2 3	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375B/AQ6373B
LOGGING MODE	:APPLication:DLOGging:LPARameter: LMODE<wsp>1 2	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375B/AQ6373B
MINIMUM INTERVAL	:APPLication:DLOGging:LPARameter: INTERval<wsp><integer>[SEC]	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6375B/AQ6373B

7.2 ソフトキーとリモートコマンドの対応表

ソフトキー	リモートコマンド	備考
TEST DURATION	:APPLication:DLOGging:LPARameter:TDURation<wsp><integer>[sec]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
PEAK THRESH TYPE	:APPLication:DLOGging:LPARameter:PDEtect:TTYpe<wsp>ABSolute RELative	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
THRESH(ABS)	:APPLication:DLOGging:LPARameter:PDEtect:ATHResh<NRf>[DBM]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
THRESH(REL)	:APPLication:DLOGging:LPARameter:PDEtect:RTHResh<NRf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
CH MATCHING λ THRESH	:APPLication:DLOGging:LPARameter:MTHResh<wsp><NRf>[M]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
TRACE LOGGING	:APPLication:DLOGging:LPARameter:TLOGging<wsp>OFF ON 0 1	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
DESTINATION MEMORY	:APPLication:DLOGging:LPARameter:MEMory<wsp>INTernal EXTernal	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
LOGGING DATA SAVE	:MMEMory:STORe:DLOGging<wsp><"file name">[,INTernal EXTernal]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B
LOGGING DATA LOAD	:MMEMory:LOAD:DLOGging<wsp><"file name">[,INTernal EXTernal]	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B/AQ6373B

COPY

ソフトキー	リモートコマンド
COPY	:HCOPY[:IMMediate]

FEED

ソフトキー	リモートコマンド	備考
FEED	:HCOPY[:IMMediate]:FEED	AQ6370C/AQ6373/AQ6375

PRESET

ソフトキー	リモートコマンド	備考
PRESET	:SYSTem:PRESet	AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B

7.3 ANALYSIS 設定パラメータ

[ANALYSIS] キーによる設定パラメータ

[ANALYSIS] キーによる設定パラメータは、解析タイプによって設定するパラメータが異なります。[ANALYSIS] キー内の <PARAMETER SETTING> キーのコマンドは、通常のコマンドとは独立して設定します。

以下に ANALYSIS パラメータ設定コマンドを示します。

SPEC WIDTH

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
THRESH	
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWThresh:TH<wsp><Nrf>[DB]
K **.***	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWThresh:K<wsp><Nrf>
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWThresh:MFIT<wsp>OFF ON 0 1
ENVELOPE	
THRESH LEVEL1 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWENvelope:TH1<wsp><Nrf>[DB]
THRESH LEVEL2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWENvelope:TH2<wsp><Nrf>[DB]
K **.***	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWENvelope:K
PEAK RMS	
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWPKrms:TH<wsp><Nrf>[DB]
K **.***	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SWPKrms:K<wsp><Nrf>[DB]
NOTCH	
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NOTCh:TH<wsp><Nrf>[DB]
K **.***	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NOTCh:K<wsp><Nrf>[DB]
Type	
PEAK	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NOTCh:TYPE<wsp>PEAK 0
BOTTOM	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NOTCh:TYPE<wsp>BOTTom 1

ANALYSIS 1

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
DFB-LD	
-XdB WIDTH	
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd<wsp>SWIDth,ALGO,<data>
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd<wsp>SWIDth,TH,<Nrf>[DB]
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd<wsp>SWIDth,TH2,<Nrf>[DB]
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd<wsp>SWIDth,K,<Nrf>
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd<wsp>SWIDth,MFIT,OFF ON 0 1
MODE DIFF *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd<wsp>SWIDth,MDIFF,<Nrf>[DB]

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド	備考
DFB-LD		
SWIDTH		
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SWIDTH,ALGO,<data>	
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SWIDTH,TH,<Nrf>[DB]	
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SWIDTH,TH2,<Nrf>[DB]	
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SWIDTH,K,<Nrf>	
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SWIDTH,MFIT,OFF ON 0 1	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SWIDTH,MDIFF,<Nrf>[DB]	
SMSR		
SMSR MODE	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SMSR,SMODE,SMSR1 SMSR2 SMSR3 SMSR4	SMSR3 SMSR4は AQ6370C/AQ6370D /AQ6373B/AQ6375B で設定可。
SMSR MASK ± **.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SMSR,SMASK,<Nrf>[M]	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>SMSR,MDIFF,<Nrf>[DB]	
RMS		
		AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>RMS,ALGO,<data>	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>RMS,TH,<Nrf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>RMS,K,<Nrf>	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>RMS,MDIFF,<Nrf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
POWER		
SPAN **.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>POWER,SPAN,<Nrf>[M]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
OSNR		
		AQ6370C/AQ6370D
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,MDIFF,<Nrf>[DB]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
NOISE ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,NALGO,<data>	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
NOISE AREA **.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,NAREa,<Nrf>[M]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
MASK AREA **.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,MAREa,<Nrf>[M]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
FITTING ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,FALGO,<data>	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
NOISE BW **.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,NBW,<Nrf>[M]	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
SIGNAL POWER	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,SPOWER,<data>	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
INTEGRAL RANGE	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLd <wsp>OSNR,IRANGE,<Nrf>	AQ6370C/AQ6370D AQ6373B/AQ6375B
FP-LD		
SPECTRUM WIDTH		
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>SWIDTH,ALGO,<data>	
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>SWIDTH,TH,<Nrf>[DB]	
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>SWIDTH,TH2,<Nrf>[DB]	
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>SWIDTH,K,<Nrf>	
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>SWIDTH,MFIT,OFF ON 0 1	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>SWIDTH,MDIFF,<Nrf>[DB]	

7.3 ANALYSIS 設定パラメータ

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド	備考
MEAN WAVELENGTH		
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MWAVelength,ALGO,<data>	
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MWAVelength,TH,<NRf>[DB]	
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MWAVelength,TH2,<NRf>[DB]	
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MWAVelength,K,<NRf>	
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MWAVelength,MFIT,OFF ON 0 1	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MWAVelength,MDIFF,<NRf>[DB]	
TOTAL POWER		
OFFSET LEVEL *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>TPower,OFFSet,<NRf>[DB]	
MODE NO.		
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MNUmber,ALGO,<data>	
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MNUmber,TH,<NRf>[DB]	
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MNUmber,TH2,<NRf>[DB]	
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MNUmber,K,<NRf>	
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MNUmber,MFIT,OFF ON 0 1	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD <wsp>MNUmber,MDIFF,<NRf>[DB]	
LED		
SPECTRUM WIDTH		
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>SWIDth,ALGO,<data>	
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>SWIDth,TH,<NRf>[DB]	
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>SWIDth,TH2,<NRf>[DB]	
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>SWIDth,K,<NRf>	
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>SWIDth,MFIT,OFF ON 0 1	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>SWIDth,MDIFF,<NRf>[DB]	
MEAN WAVELENGTH		
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>MWAVelength,ALGO,<data>	
THRESH **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>MWAVelength,TH,<NRf>[DB]	
THRESH2 **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>MWAVelength,TH2,<NRf>[DB]	
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>MWAVelength,K,<NRf>	
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>MWAVelength,MFIT,OFF ON 0 1	
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>MWAVelength,MDIFF,<NRf>[DB]	
TOTAL POWER		
OFFSET LEVEL *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED <wsp>TPower,OFFSet,<NRf>[DB]	
SMSR		
SMSR MODE	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SMSR: MODE<wsp>SMSR1 SMSR2 SMSR3 SMSR4	SMSR3 SMSR4 (は AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373B/AQ6375B で設定可)
SMSR MASK ± **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:SMSR: MASK<wsp><NRf>[M]	
POWER		
OFFSET LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:PoweR: OFFSet<wsp><NRf>[DB]	
PMD		
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:PMD: TH<wsp><NRf>[DB]	

ANALYSIS 2 (波数モードのときは無効)

AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときはこれらのパラメータを設定できません。

ANALYSIS パラメータ リモートコマンド

WDM (AQ6373/AQ6373B の場合はソフトキーの表示が OSNR(WDM) になります。)

CHANNEL DETECTION SETTING

THRESH LEVEL	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:TH<wsp><NRf>[DB]
MODE DIFF **:***dB	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:MDIFF<wsp><NRf>[DB]
DISPLAY MASK OFF/ON **:***dB	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:DMASK<wsp><NRf>[DB]

INTERPOLATION SETTING

NOISE ALGO

AUTO-FIX	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NALGo<wsp>AFIX 0
MANUAL-FIX	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NALGo<wsp>MFIx 1
AUTO-CTR	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NALGo<wsp> ACENter 2
MANUAL-CTR	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NALGo<wsp> MCENter 3
PIT	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NALGo<wsp>PIT 4

FITTING AREA :CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NARea<wsp><NRf>[M]

MASK AREA :CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:MARea<wsp><NRf>[M]

FITTING ALGO

LINEAR	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:FALGo<wsp>LINear 0
GAUSS	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:FALGo<wsp> GAUSs 1
LORENZ	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:FALGo<wsp> LORenz 2
3RD POLY	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:FALGo<wsp>3RD 3
4TH POLY	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:FALGo<wsp>4TH 4
5TH POLY	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:FALGo<wsp>5TH 5

NOISE BW **:***nm :CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:NBW<wsp><NRf>[M]

DUAL TRACE :CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:DUAL<wsp>OFF|ON|
ON/OFF 0|1

DISPLAY SETTING

DISPLAY TYPE

ABSOLUTE	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:DTYPe<wsp> ABSolute 0
RELATIVE	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:DTYPe<wsp> RELatibe 1 (AQ6373/AQ6373B の場合、設定できません。)
DRIFT(MEAS)	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:DTYPe<wsp> MDRift 2
DRIFT(GRID)	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:DTYPe<wsp> GDRift 3 (AQ6373/AQ6373B の場合、設定できません。)

CH RELATION

OFFSET	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:RELation<wsp> OFFSet 0
SPACING	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:RELation<wsp> SPACing 1
REF CH	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:RCH<wsp> <integer>
MAX/MIN RESET	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:MMReset
OUTPUT SLOPE ON/OFF	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:OSLope<wsp>OFF ON 0 1
POINT DISPLAY ON/OFF	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WDM:PDISplay<wsp> OFF ON 0 1

7.3 ANALYSIS 設定パラメータ

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
OTHER SETTING (AQ6375 の場合、無効です。)	
SIGNAL POWER	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM:SPower<wsp> PEAK INTEgral 0 1
INTEGRAL RANGE	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM:IRANge<wsp><NRf>
EDFA NF (AQ6373/AQ6373B の場合、無効です。)	
CHANNNEL DETECTION	
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:TH<wsp><NRf>[DB] **.***dB
MODE DIFF **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MDIFF<wsp><NRf> [DB]
INTERPOLATION SETTING	
OFFSET(IN) **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:IOFFset<wsp><NRf> [DB]
OFFSET(OUT) **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:OOFFset<wsp><NRf> [DB]
ASE ALGO	
AUTO-FIX	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:AALGo<wsp>AFIX 0
MANUAL-FIX	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:AALGo<wsp>MFIx 1
AUTO-CTR	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:AALGo<wsp> ACENter 2
MANUAL-CTR	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:AALGo<wsp> MCENter 3
FITTING AREA	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FARea<wsp><NRf>[M]
MASK AREA	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MARea<wsp><NRf>[M]
FITTING ALGO	
LINEAR	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp>LINear 0
GAUSS	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp>GAUSS 1
LORENZ	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp>LORenZ 2
3RD POLY	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp>3RD 3
4TH POLY	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp>4TH 4
5TH POLY	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp>5TH 5
POINT DISPLAY ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:PDISplay<wsp>OFF ON 0 1
NF CALCULATION SETTING	
RES BW	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:RBWidth<wsp>MEASur ed CAL 0 1
SHOT NOISE	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:SNOise<wsp>OFF ON 0 1
OTHER SETTING (AQ6373/AQ6373B/AQ6375 の場合、無効です。)	
SIGNAL POWER	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:SPower<wsp> PEAK INTEgral 0 1
INTEGRAL RANGE	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:IRANge<wsp>< NRf>

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
FILTER-PK	
PEAK LEVEL	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>PLEVel, SW, OFF ON 0 1
PEAK WAVELENGTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>PWAVelength, SW, OFF ON 0 1
CENTER WAVELENGTH	
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>MWAVelength, ALGO, <data>
THRESH LEVEL **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>MWAVelength, TH, <NRf>[DB]
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>MWAVelength, K, <NRf>
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>MWAVelength, MFIT, OFF ON 0 1
MODE DIFF **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>MWAVelength, MDIFf, <NRf>[DB]
SPECTRUM WIDTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>SWIDth, SW, OFF ON 0 1
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp> SWIDth, ALGO, <data>
THRESH LEVEL **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp> SWIDth, TH, <NRf>[DB]
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILPk<wsp> SWIDth, K, <NRf>
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILPk<wsp> SWIDth, MFIT, OFF ON 0 1
MODE DIFF **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILPk<wsp> SWIDth, MDIFf, <NRf>[DB]
CROSS TALK	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>XTALk, SW, OFF ON 0 1
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>XTALk, ALGO, <data>
THRESH LEVEL **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>XTALk, TH, <NRf>[DB]
K	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILPk<wsp>XTALk, K, <NRf>
MODE FIT ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>XTALk, MFIT, OFF ON 0 1
MODE DIFF **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>XTALk, MDIFf, <NRf>[DB]
CH SPACE ± **. **nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>XTALk, CSPace, <NRf>[M]
SEARCH AREA ± **. **nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILPk<wsp>XTALk, SAREa, <NRf>[M]
RIPPLE WIDTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>RWIDth, SW, OFF ON 0 1
THRESH LEVEL **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>RWIDth, TH, <NRf>[DB]
MODE DIFF **. **dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILPk<wsp>RWIDth, MDIFf, <NRf>[DB]

7.3 ANALYSIS 設定パラメータ

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
FILTER BOTTOM	
BOTTOM LEVEL	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>BLEVel, SW,OFF ON 0 1
BOTTOM WAVELENGTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp> BWAVelength,SW,OFF ON 0 1
CENTER WAVELENGTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp> CWAVelength,SW,OFF ON 0 1
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp> CWAVelength,ALGO,<data>
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp> CWAVelength,TH,<NRf>[DB]
CENTER WAVELENGTH	
MODE DIFF *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp> CWAVelength,MDIFF,<NRf>[DB]
NOTCH WIDTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>NWIDTH, SW,OFF ON 0 1
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>NWIDTH, ALGO,<data>
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>NWIDTH, TH,<NRf>[DB]
MODE DIFF *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>NWIDTH, MDIFF,<NRf>[DB]
CROSS TALK	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>XTALK, SW,OFF ON 0 1
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>XTALK, ALGO,<data>
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>XTALK, TH,<NRf>[DB]
MODE DIFF *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>XTALK, MDIFF,<NRf>[DB]
CH SPACE ± *.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>XTALK, CSPace,<NRf>[M]
SEARCH AREA ± *.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>XTALK, SARea,<NRf>[M]
WDM FIL-PK (AQ6373/AQ6373B の場合、無効です。)	
CHANNEL DETECTION/ NOMINAL WAVELENGTH	
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> NWAVelength,ALGO,<data>
THRESH LEVEL **.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> NWAVelength,TH,<NRf>[DB]
MODE DIFF *.***dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> NWAVelength,MDIFF,<NRf>[DB]
TEST BAND *.***nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> NWAVelength,TBAND<NRf>[DB]
PEAK WAVELENGTH/LEVEL	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> PWAVelength,SW,OFF ON 0 1

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
WDM FIL-PK	
XdB WIDTH / CENTER WAVELENGTH	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> CWAVelength, SW, OFF ON 0 1
THRESH LEVEL **.*dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp> CWAVelength, TH, <NRf>[DB]
XdB STOP BAND	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>SBAND, SW, OFF ON 0 1
THRESH LEVEL **.*dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>SBAND, TH, <NRf>[DB]
XdB PASS BAND	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>PBAND, SW, OFF ON 0 1
THRESH LEVEL	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>PBAND, TH, <NRf>[DB]
TEST BAND *.*nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>PBAND, TBAND, <NRf>[DB]
RIPPLE	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>RIPple, SW, OFF ON 0 1
TEST BAND *.*nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>RIPple, TBAND, <NRf>[DB]
CROSS TALK	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>XTALk, SW, OFF ON 0 1
SPACING *.*nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>XTALk, SPACing, <NRf>[M]
TEST BAND *.*nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak<wsp>XTALk, TBAND, <NRf>[DB]
WDM FIL-BTM (AQ6373/AQ6373B の場合、無効です。)	
CHANNEL DETECTION/ NOMINAL WAVELENGTH	
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp> NWAVelength, ALGO, <data>
THRESH LEVEL **.*dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp> WFBOTTOM, TH, <NRf>[DB]
MODE DIFF *.*dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp> NWAVelength, MDIFF, <NRf>[DB]
TEST BAND *.*nm	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp> NWAVelength, TBAND<NRf>[DB]
BOTTM WAVELENGTH/LEVEL	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp> BWAVelength, SW, OFF ON 0 1
XdB NOTCH WIDTH/CENTER	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp> CWAVelength, SW, OFF ON 0 1
XdB STOP BAND	
ALGO	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>SBAND, ALGO, <data>
THRESH LEVEL **.*dB	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>SBAND, TH, <NRf>[DB]
XdB ELIMINATION BAND	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>EBAND, SW, OFF ON 0 1

7.3 ANALYSIS 設定パラメータ

ANALYSIS パラメータ	リモートコマンド
WDM FIL-BTM	
XdB ELIMINATION BAND	
THRESH LEVEL **.*dB	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>EBAND, TH,<NRf>[DB]
TEST BAND *.*.*nm	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>EBAND, TBAND,<NRf>[DB]
RIPPLE	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>RIPPLE, SW,OFF ON 0 1
TEST BAND *.*.*nm	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>RIPPLE, TBAND,<NRf>[DB]
CROSS TALK	
SW ON/OFF	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM <wsp>XTALK, SW,OFF ON 0 1
SPACING *.*.*nm	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>XTALK, SPACING,<NRf>[M]
TEST BAND *.*.*nm	:CALCulate:PARameter[:CATegory]:WFBOTTOM<wsp>XTALK, TBAND,<NRf>[DB]

データロギング機能の <ANALYSIS PARAMETER> による設定パラメータ

[ADVANCE] キー -> <DATA LOGGING> -> <SETUP> 内の <ANALYSIS PARAMETER> による設定パラメータは、ロギング対象によって設定するパラメータが異なります。

- **ロギング対象が WDM のとき**
本節の [ANALYSIS] キーによる設定パラメータの ANALYSIS2 と同じです。
- **ロギング対象が DFB-LD のとき**
本節の [ANALYSIS] キーによる設定パラメータの ANALYSIS1 と同じです。

7.4 リモートコマンドツリー

コマンド	パラメータ	参照ページ
共通コマンド		
*CLS	none	7-40
*ESE	<integer>	7-40
*ESE?	none	7-40
*ESR?	none	7-40
*IDN?	none	7-40
*OPC	none	7-40
*OPC?	none	7-40
*RST	None	7-41
*SRE	<integer>	7-41
*SRE?	none	7-41
*STB?	none	7-41
*TRG	none	7-41
*TST?	none	7-41
*WAI	none	7-41
ABORT	none	7-42
APPLiCation		
:DLOGging		
:ETIME?	none	7-42
:LPARameter		
:INTerval	<integer>	7-42
:ITEM	0 1 2 3	7-43
:LMODE	1 2	7-43
:MEMory	INTernal EXTernal	7-43
:MTHResh	<NRf>	7-43
:PDETect		
:ATHResh	<NRf>	7-43
:RTHResh	<NRf>	7-44
:TTYPe	ABSolute RELative	7-44
:TDURation	<integer>	7-44
:TLOGging	OFF ON 0 1	7-44
:STATe	STOP START 0 1	7-44
CALCulate		
:AMARKer[1 2 3 4]		
:AOFF	none	7-45
:FUNCTion		
:INTegral		
:IRANGe	<NRf>[Hz]	7-45
:RESult?	none	7-45
[:STATe]	OFF ON 0 1	7-46
:PDENSity NOISe		
:BWIDTH BANDwidth	<NRf>[M]	7-46
:RESult?	none	7-46
[:STATe]	OFF ON 0 1	7-46
:PRESet	none	7-47
:MAXimum	none	7-47
:LEFT	none	7-47
:NEXT	none	7-47
:RIGHT	none	7-47
:MINimum	none	7-47
:LEFT	none	7-48
:NEXT	none	7-48
:RIGHT	none	7-48

7.4 リモートコマンドツリー

コマンド	パラメータ	参照ページ
[:STATe]	OFF ON 0 1	7-48
:TRACe	TRA TRB TRC TRD TRE TRF TRG	7-48
:X	<NRf>[M Hz]	7-49
:Y?	none	7-49
:ARESolution?	<trace name>,[<start point>,<stop point>]	7-49
:CATegory	SWThresh SWENvelope SWRMs SWPKrms NOTCh DFBLd FPLD LED SMSR POWer PMD WDM NF FILPk FILBtm WFPeak WFBtm OSNR COLor	7-50
:DATA?	none	7-50
:CGAiN?	none	7-50
:CNF?	none	7-50
:COLor?	none	7-51
:CPOWers?	none	7-51
:CSNR?	none	7-51
:CWAVelengths?	none	7-51
:DFBLd?	none	7-52
:NCHannels?	none	7-52
:OSLope?	none	7-52
:DISPlay	0 1 2 3 4	7-52
:GRAPh:LMARker:Y	1 2,<NRf>[DB]	7-52
[:IMMediate]	none	7-52
:AUTO	OFF ON 0 1	7-53
:LMARker		
:AOFF	none	7-53
:SRANge	OFF ON 0 1	7-53
:SSPan	none	7-53
:SZSPan	none	7-53
:X	1 2,<NRf>[M Hz]	7-53
:Y	3 4,<NRf>[DBM/DB/%)	7-53
:MARKer		
:AOFF	none	7-53
:AUTO	OFF ON 0 1	7-54
:FUNCTioN		
:FORMat	OFFSet SPACing 0 1	7-54
:UPDate	OFF ON 0 1	7-54
:MAXimum	none	7-54
:LEFT	none	7-54
:NEXT	none	7-54
:RIGHT	none	7-54
:SCENter	none	7-54
:AUTO	OFF ON 0 1	7-54
:SRLevel	none	7-54
:AUTO	OFF ON 0 1	7-55
:SZCenter	none	7-55
:MINimum	none	7-55
:LEFT	none	7-55
:NEXT	none	7-55
:RIGHT	none	7-55
:MSEarch	OFF ON 0 1	7-55
:SORT	WAVelength LEVel 0 1	7-55
:THResh	<NRf>[DB]	7-55
:SCENter	none	7-55
:SRLevel	none	7-56
[:STATe]	<marker>,OFF ON 0 1	7-56
:SZCenter	none	7-56
:UNIT	WAVelength FREQuency WNUmber	7-56
:X	<marker>,<NRf>[M Hz]	7-56
:X?	<marker> ALL	7-56
:Y?	<marker> ALL	7-56

コマンド	パラメータ	参照ページ
:MATH		
:TRC	A-B (LOG) B-A (LOG) A+B (LOG) A+B (LIN) A-B (LIN) B-A (LIN) 1-K (A/B) 1-K (B/A)	7-57
:K	<NRf>	7-57
:TRF	C-D (LOG) D-C (LOG) C+D (LOG) D-E (LOG) E-D (LOG) D+E (LOG) C+D (LIN) C-D (LIN) D-C (LIN) D+E (LIN) D-E (LIN) E-D (LIN) PWRNBWA PWRNBWB PWRNBWC PWRNBWD PWRNBWE	7-57
:PNBW:BWIDth	<NRf> [M]	7-57
:TRG	C-F (LOG) F-C (LOG) C+F (LOG) E-F (LOG) F-E (LOG) E+F (LOG) C+F (LIN) C-F (LIN) F-C (LIN) E+F (LIN) E-F (LIN) F-E (LIN) NORMA NORMB NORMC CVFTA CVFTB CVFTC MKRFT PKCVFTA PKCVFTB PKCVFTC	7-57
:CVFT		
:FALGo	GAUSS LORENz 3RD 4TH 5TH 0 1 2 3 4	7-57
:OPARea	ALL INL1-L2 OUTL1-L2 0 1 2	7-58
:THResh	<integer> [DB]	7-58
:PCVFt:THResh	<integer> [DB]	7-58
:PARAmeter		
[:CATegory]		
:DFBLd	<item>, <paramater name>, <data>	7-58
:FILBtm	<item>, <paramater name>, <data>	7-59
:FILPk	<item>, <paramater name>, <data>	7-59
:FPLD	<item>, <paramater name>, <data>	7-60
:LED	<item>, <paramater name>, <data>	7-60
:NF		
:AALGo	AFIX MFIx ACENter MCENter 0 1 2 3	7-61
:FALGo	LINear GAUSS LORENz 3RD 4TH 5TH 0 1 2 3 4 5	7-61
:FARea	<NRf> [M]	7-61
:IOFFset	<NRf> [DB]	7-61
:IRANge	<NRf>	7-61
:MARea	<NRf> [M]	7-62
:MDIFf	<NRf> [DB]	7-62
:OOFfset	<NRf> [DB]	7-62
:PDISplay	OFF ON 0 1	7-62
:TH	<NRf> [DB]	7-62
:RBWidth	MEASured CAL 0 1	7-62
:SNOise	OFF ON 0 1	7-63
:SPOWer	PEAK INTEgral 0 1	7-63
:NOTCh		
:K	<NRf>	7-63
:TH	<NRf> [DB]	7-63
:TYPE	PEAK BOTTom 0 1	7-63
:PMD:TH	<NRf> [DB]	7-63
:POWer:OFFSet	<NRf> [DB]	7-64
:SMSR		
:MASK	<NRf> [M]	7-64
:MODE	SMSR1 SMSR2 SMSR3 SMSR4	7-64
:SWENvelope		
:K	<NRf>	7-64
:TH1	<NRf> [DB]	7-64
:TH2	<NRf> [DB]	7-64
:SWPKrms		
:K	<NRf>	7-64
:TH	<NRf> [DB]	7-65

7.4 リモートコマンドツリー

コマンド	パラメータ	参照ページ
:SWRMs		
:K	<NRf>	7-65
:TH	<NRf>[DB]	7-65
:SWThresh		
:K	<NRf>	7-65
:MFIT	OFF ON 0 1	7-65
:TH	<NRf>[DB]	7-65
:WDM		
:DMASK	<NRf>[DB]	7-66
:DTYPe	ABSolute RELative MDRift GDRIft 0 1 2 3	7-66
:DUAL	OFF ON 0 1	7-66
:FALGo	LINear GAUSs LORenZ 3RD 4TH 5TH 0 1 2 3 4 5	7-66
:IRANge	<NRf>	7-67
:MARea	<NRf>[M]	7-67
:MDIFf	<NRf>[DB]	7-67
:MMReset	None	7-67
:NALGo	AFIX MFIX ACENter MCENter PIT 0 1 2 3 4	7-67
:NARea	<NRf>[M]	7-67
:NBW	<NRf>[M]	7-67
:OSLope	OFF ON 0 1	7-68
:PDISplay	OFF ON 0 1	7-68
:RCH	<integer>	7-68
:RELation	OFFSet SPACing 0 1	7-68
:SPOWer	PEAK INTEgral 0 1	7-68
:TH	<NRf>[DB]	7-68
:WFBottom	<item>,<paramater name>,<data>	7-69
:WFPeak	<item>,<paramater name>,<data>	7-69
:COMMON		
:MDIFf	<NRf>[DB]	7-69
CALibration		
:ALIGN		
[:IMMediate]	none	7-70
:EXTernal[:IMMediate]	none	7-70
:INTernal[:IMMediate]	none	7-70
:BANDwidth :BWIDth		
[:IMMediate]	none	7-70
:INITialize	none	7-70
:WAVelength?	none	7-70
:POWer		
:OFFSet:TABLE	<integer>,<NRf>[DB]	7-70
:WAVelength		
:EXTernal		
[:IMMediate]	none	7-70
:SOURce	LASer GASCell EMISsion	7-71
:WAVelength	<NRf>M	7-71
:INTernal[:IMMediate]	none	7-71
:OFFSet:TABLE	<integer>,<NRf>	7-71
:ZERO[:AUTO]	OFF ON 0 1 ONCE	7-71
:INTerval	<integer>	7-71
:STATus?	none	7-71

コマンド	パラメータ	参照ページ
DISPlay		
:COLor	0 1 2 3 4 5	7-72
[:WINDow]	OFF ON 0 1	7-72
:OView		
:POSition	OFF LEFT RIGHT 0 1 2	7-72
:SIZE	LARGE SMALL 0 1	7-72
:SPLit	OFF ON 0 1	7-72
:HOLD		
:LOWer	OFF ON 0 1	7-72
:UPPer	OFF ON 0 1	7-72
:POSition	<trace name>,UP LOW 0 1	7-72
:TEXT		
:CLEar	none	7-73
:DATA	<"string">	7-73
:TRACe		
:X[:SCALE]		
:CENTer	<NRf> [M HZ]	7-73
:INITialize	none	7-73
:SMSCale	none	7-73
:SPAN	<NRf> [M HZ]	7-73
:SRANge	OFF ON 0 1	7-73
:START	<NRf> [M HZ]	7-74
:STOP	<NRf> [M HZ]	7-74
:Y		
:NMAsk	<NRf>DB	7-74
:TYPE	VERTical HORizontal 0 1	7-74
[:SCALE]		
:DNUMber	8 10 12	7-74
:Y1		
[:SCALE]		
:BLEVel	<NRf> [W MW UW NW]	7-74
:PDIVision	<NRf> [DB]	7-75
:RLEVel	<NRf> [DBM W]	7-75
:RPOSition	<integer> [DIV]	7-75
:SPACing	LOGarithmic LINear 0 1	7-75
:UNIT	DBM W DBM/NM W/NM 0 1 2 3	7-75
:Y2		
[:SCALE]		
:AUTO	OFF ON 0 1	7-76
:LENGth	<NRf> [KM]	7-76
:OLEVel	<NRf> [DB DB/KM]	7-76
:PDIVision	<NRf> [DB DB/KM %]	7-76
:RPOSition	<integer> [DIV]	7-76
:SMINimum	<NRf> [%]	7-76
:UNIT	DB LINear DB/KM [%] 0 1 2 3	7-77
FORMat		
[:DATA]	REAL[,64 ,32] ASCIi	7-77
HCOPy		
:DESTination	INTernal FILE 0 2	7-78
[:IMMediate]	none	7-78
:FEED	[<integer>]	7-78
:FUNCTion		
:CALCulate:LIST	none	7-78
:MARKer:LIST	none	7-78
INITiate		
[:IMMediate]	none	7-78
:SMODE	SINGLE REPeat AUTO SEGment 1 2 3 4	7-78

7.4 リモートコマンドツリー

コマンド	パラメータ	参照ページ
MEMory		
:CLear	<integer>	7-79
:EMPTy?	<integer>	7-79
:LOAD	<integer>,<trace name>	7-79
:STORe	<integer>,<trace name>	7-79
MMEMory		
:ANAMe	NUMBer DATE	7-79
:CATalog?	[INTernal EXTernal]	7-79
:CDIRectory	<"directory name">	7-80
:CDRive	INTernal EXTernal	7-80
:COPY	<"source file name">[,INTernal EXTernal] <"destination file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:DATA?	<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:DELete	<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:LOAD		
:ATRace	<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:DLOGging	<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:MEMory	<integer>,<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:PROGram	<integer>,<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-80
:SETTing	<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-81
:TEMplate	<template>,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-81
:TRACe	<trace name>,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-81
:MDIRectory	<"directory name">[,INTernal EXTernal]	7-81
:REMove	none	7-81
:REName	<"new file name">,<"old file name">[,INTernal EXTernal]	7-81
:STORe		
:ARESult	<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-81
:ATRace	<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-81
:DATA	<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-81
:ITEM	DATE LABel DATA CONDition TRACe,OFF ON 0 1	7-82
:MODE	ADD OVER 0 1	7-82
:TYPE	CSV DT 0 1	7-82
:DLOGging	<"file name">[,INTernal EXTernal]	7-82
:CSAVe	OFF ON 0 1	7-82
:TSAVe	OFF ON 0 1	7-82
:GRAPhics	B&W COLor PCOLor,BMP TIFF,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-83
:MEMory	<integer>,BIN CSV,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-83
:PROGram	<integer>,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-83
:SETTing	<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-83
:TEMplate	<template>,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-83
:TRACe	<trace name>,BIN CSV,<"filename">[,INTernal EXTernal]	7-83
PROGram		
:EXECute	<integer>	7-84

コマンド	パラメータ	参照ページ
SENSe		
:AVERage:COUNT	<integer>	7-84
:BANDwidth[:BWIDth[:RESolution]	<NRf>[M Hz]	7-84
:CHOPper	OFF SWITCh 0 2	7-84
:CORRection		
:LEVel:SHIFt	<NRf>[DB]	7-84
:RVELocity:MEDium	AIR VACuum 0 1	7-85
:WAVelength:SHIFt	<NRf>[M]	7-85
:SENSe	NHLD NAUT NORMal MID HIGH1 HIGH2 HIGH3	7-85
:SETting		
:CORRection	OFF ON 0 1 2 MODE1 MODE2	7-85
:FCONnetcor	NORMal ANGLed 0 1	7-85
:FIBer	SMALl LARGe 0 1	7-85
:SMOothing	OFF ON 0 1	7-85
:SWEep		
:POINts	<integer>	7-86
:AUTO	OFF ON 0 1	7-86
:SEGment:POINts	<integer>	7-86
:SPEed	1x 2x 0 1	7-86
:STEP	<NRf>[M]	7-86
:TIME		
:ONM	<integer>[SEC]	7-86
:INTerval	<integer>[SEC]	7-86
:TLSSync	OFF ON 0 1	7-87
:WAVelength		
:CENTer	<NRf>[M HZ]	7-87
:SPAN	<NRf>[M HZ]	7-87
:SRANge	OFF ON 0 1	7-87
:STARt	<NRf>[M HZ]	7-87
:STOP	<NRf>[M HZ]	7-87
STATus		
:OPERation		
:CONDition?	none	7-88
:ENABl	<integer>	7-88
[:EVENT]?	none	7-88
:PRESet	none	7-88
:QUEStionable		
:CONDition?	none	7-88
:ENABle	<integer>	7-88
[:EVENT]?	none	7-88
SYSTem		
:BUZZer		
:CLIC	OFF ON 0 1	7-89
:WARning	OFF ON 0 1	7-89
:COMMunicate		
:CFORMat	AQ6317 AQ6370 AQ6370C AQ6370D AQ6373 AQ6373B AQ6375 AQ6375B 0 1	7-89
:GPIB2		
:ADDress	<integer>	7-89
:SCONtroller	OFF ON 0 1	7-90
:TLS:ADDress	<integer>	7-90
:LOCKout	OFF ON 0 1	7-90
:RMONitor	OFF ON 0 1	7-90
:DATE	yyyy,mm,dd	7-90
:DISPlay		
:TRANSPARENT	OFF ON 0 1	7-90
:UNCal	OFF ON 0 1	7-90

7.4 リモートコマンドツリー

コマンド	パラメータ	参照ページ
:ERRor		
[:NEXT]?	none	7-90
:GRID	12.5GHZ 25GHZ 50GHZ 100GHZ 200GHZ	7-91
:CUSTom	CUSTom 0 1 2 3 4 5	7-91
:CLEar:ALL	none	7-91
:DELeTe	<grid number>	7-91
:INSert	<NRF>[M HZ]	7-91
:SPACing	<NRF>[GHZ]	7-91
:START	<NRF>[M HZ]	7-91
:STOP	<NRF>[M HZ]	7-91
:REFerence	<NRF>[M HZ]]	7-92
:INFormation?	0 1	7-92
:FSPEed?		7-92
:OLOCK	OFF ON 0 1,<"password">	7-92
:PRESet	none	7-92
:TIME	hh,mm,ss	7-92
:VERSion?		7-92
TRACe		
:ACTive	<trace name>	7-93
:ATTRibute[:<trace name>]	WRITE FIX MAX MIN RAVG CALC	7-93
:RAVG[:<trace name>]	<integer>	7-93
:COPY	<source trace>,<destination trace>	7-93
[:DATA]		
:SNUMber?	<trace name>	7-93
:X?	<trace name>[,<start point>,<stop point>]	7-94
:Y?	<trace name>[,<start point>,<stop point>]	7-94
:PDENsity?	<trace name>,<NRF>[,<start point>,<stop point>]	7-94
:DELeTe	<trace name>	7-94
:ALL		7-94
:STATe[:<trace name>]	OFF ON 0 1	7-94
:TEMPlate		
:DATA	<template>,<wavelength>,<level>	7-95
:ADELeTe	<template>	7-95
:ETYPe	<template>,NONE A B 0 1 2	7-95
:MODE	<template>,ABSolute RELative 0 1	7-95
:DISPlay	<template>,OFF ON 0 1	7-95
:GONogo	OFF ON 0 1	7-96
:LEVe:SHIFt	<NRF>[DB]	7-96
:RESult?		7-96
:TTYPe	UPPer LOWer U&L 0 1 2	7-96
:WAVelength:SHIFt	<NRF>[M]	7-96
TRIGger		
[:SEQUence]		
:DELay	<NRF>[S MS US]	7-96
:GATE		
:TIME	<NRF>[s]	7-96
:LOGic	POSI NEGA 0 1	7-96
:SLOPe	RISE FALL 0 1	7-97
:STATe	OFF ON PHOLd GATE 0 1 2 3	7-97
:INPut	ETRigger STRigger SENable 0 1 2	7-97
:OUTPut	OFF SStatus 0 1	7-97
:PHOLd:HTIME	<NRF>[s]	7-97
UNIT		
:POWer:DIGit	1 2 3	7-98
:X	WAVelength FREQuency WNUMber 0 1 2	7-98

7.5 共通コマンド

本機器は、下表に記載してある「必須」の共通コマンドをサポートしています。

コマンド 名称	IEEE488.2 規格	AQ6370C/AQ6370D/ AQ6373/AQ6375*
*AAD Accept Address Command	オプション	
*CAL? Calibration Query	オプション	
*CLS Clear Status Command	必須	○
*DDT Define Device Trigger Command	DT1 でオプション	
*DDT? Define Device Trigger Query	DT1 でオプション	
*DLF Disable Listener Function Command	オプション	
*DMC Define Macro Command	オプション	
*EMC Enable Macro Command	オプション	
*EMC? Enable Macro Query	オプション	
*ESE Standard Event Status Enable Command	必須	○
*ESE? Standard Event Status Enable Query	必須	○
*ESR? Standard Event Status Register Query	必須	○
*GMC? Get Macro Contents Query	オプション	
*IDN? Identification Query	必須	○
*IST? Individual Status Query	PP1 の場合必須	
*LMC? Learn Macro Query	オプション	
*LRN? Learn Device Setup Query	オプション	
*OPC Operation Complete Command	必須	○
*OPC? Operation Complete Query	必須	○
*OPT Option Identification Query	オプション	
*PCB Pass Control Back Command	C0 以外なら必須	
*PMC Purge Macro Command	オプション	
*PRE Parallel Poll Register Enable Command	PP1 の場合必須	
*PRE? Parallel Poll Register Enable Query	PP1 の場合必須	
*PSC Power On Status Clear Command	オプション	
*PSC? Power On Status Clear Query	オプション	
*PUD Protected User Data Command	オプション	
*PUD? Protected User Data Query	オプション	
*RCL Recall Command	オプション	
*RDT Resource Description Transfer Command	オプション	
*RDT? Resource Description Transfer Query	オプション	
*RST Reset Command	必須	○
*SAV Save Command	オプション	
*SRE Service Request Enable Command	必須	○
*SRE? Service Request Enable Query	必須	○
*STB? Read Status Byte Query	必須	○
*TRG Trigger Command	DT1 なら必須	○
*TST? Self-Test Query	必須	○
*WAI Wait-to-Continue Command	必須	○

○：AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6375 で対応しているコマンド

7.5 共通コマンド

*CLS (Clear Status)

機能	ステータスバイトレジスタにサマリが反映されるすべてのイベントステータスレジスタをクリアします。
構文	*CLS
例	*CLS
解説	<ul style="list-style-type: none">出力キューを除くすべてのキューと MAV サマリメッセージを除くすべてのイベントレジスタをクリアします。本コマンド実行後、OCIS(Operation Complete Command Idle State) および、OQIS(Operation Complete Query Idle State) になります。シーケンシャルコマンドです。

*ESE (Standard Event Status Enable)

機能	標準イベントイネーブルレジスタを設定 / 問い合わせます。
構文	*ESE<wsp><integer> *ESE?
例	<integer> = 0 ~ 255 *ESE 251 *ESE? -> 251
解説	<ul style="list-style-type: none">ビットのセットされている項目が有効になります。下記の場合に初期値になります。 電源投入時 "0" をセットしたとき下記の場合は設定値を変更しません。 *RST *CLS デバイスクリア (DCL, SDC)初期値は 0 です。シーケンシャルコマンドです。

*ESR? (Standard Event Status Register)

機能	標準イベントステータスレジスタの値を問い合わせ、同時にクリアします。
構文	*ESR?
例	*ESR? -> 251
解説	<ul style="list-style-type: none">本クエリの戻り値は、ESE (Event Status Enable Register) には影響されません。オーバーラップコマンドです。

*IDN? (Identification)

機能	機器のタイプとファームウェアバージョンを問い合わせます。
構文	*IDN?
例	*IDN? -> YOKOGAWA,AQ6370C,aaaaaaaa,bb.bb aaaaaaaa: シリアルナンバー (9 桁の文字列) bb.bb: ファームウェアバージョン
解説	<ul style="list-style-type: none">カンマで区切られた 4 フィールドのデータを出します。 フィールド 1 : 製造業者 "YOKOGAWA" フィールド 2 : モデル "AQ6370C" または "AQ6370D" または "AQ6373" または "AQ6375" フィールド 3 : 本機器のシリアルナンバー フィールド 4 : ファームウェアバージョンシーケンシャルコマンドです。AQ6370C の場合は、フィールド 2 が "AQ6370C" になります。AQ6370D の場合は、フィールド 2 が "AQ6370D" になります。AQ6373 の場合は、フィールド 2 が "AQ6373" になります。AQ6375 の場合は、フィールド 2 が "AQ6375" になります。

*OPC (Operation Complete)

機能	処理待ち動作がすべて終了していれば、標準イベントステータスレジスタ (ESR) のビット 0(OPC) を設定 / 問い合わせます。
構文	*OPC *OPC?
例	*OPC *OPC? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">本コマンドを認識した時点で、OCIS(Operation Complete Command Idle State) から OCAS(Operation Complete Command Active State) へ遷移し、ノーオペレーションペンディングフラグが "True" になったとき、ESR のビット 0(OPC) をセットし、OCIS に復帰します。以下の条件の時、本コマンドは無効となり、OCIS に強制復帰します。 Power ON デバイスクリア *CLS, *RST コマンドオーバーラップコマンドです。

***RST (Reset)**

機能	デバイスリセットを実行し、本機器を既知の状態 (初期状態) に戻します。
構文	*RST
例	*RST
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理中の動作を停止し、ただちに本機器を既知の設定値 (初期値) にする ・ 本機器のパラメータクリアが実行されます。 ・ 以下の項目は変更されません。 GP-IB インターフェースの状態 GP-IB アドレス 出力キュー SRE ESE 本機器の仕様に影響するキャリブレーションデータ ・ オーバーラップコマンドです。

***SRE (Service Request Enable)**

機能	サービスリクエストイネーブルレジスタを設定 / 問い合わせます。
構文	*SRE <wsp><integer> *SRE?
例	<integer> = 0 ~ 255 *SRE 250 *SRE? -> 250
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビットのセットされている項目が有効になる ・ 下記の場合に初期値になります。 電源投入時 "0" をセットしたとき ・ 下記の場合は設定値を変更しません。 *RST *CLS デバイスクリア (DCL, SDC) ・ 初期値は 0 です。 ・ シーケンシャルコマンドです。

***STB? (Read Status Byte)**

機能	ステータスバイトレジスタの現在値を問い合わせます。
構文	*STB?
例	*STB? -> 251
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ レジスタ内容を読み出しても、STB はクリアしない ・ オーバーラップコマンドです。

***TRG (Trigger)**

機能	コマンドを受信した直前の掃引条件で、<SINGLE> 掃引を実行します。
構文	*TRG
例	*TRG
解説	:INITialte:CONTinuous コマンドの設定状態によらず、<SINGLE> 掃引を行います。 被オーバーラップコマンドです。

***TST? (Self Test)**

機能	本機器のセルフテストを実行し、ステータスを問い合わせます。
構文	*TST?
例	*TST? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起動時の初期化シーケンスのうち下記の動作を実行し、実行結果を出力します。初期化動作中は、画面は波形画面を保持します。 モータの原点復帰動作 AMP のオートオフセット ・ 正常な場合は「0」、モータイニシャライズエラーのときは「1」、AMP オフセットエラーのときは「2」が返されます。 ・ シーケンシャルコマンドです。

***WAI (Wait to Continue)**

機能	現在のコマンドの実行が終了するまで、本機器が他のコマンドを実行しないようにします。
構文	*WAI
例	*WAI
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ デバイスクリアにより無効になります。 ・ 後続コマンドがオーバーラップコマンドの場合に意味があります。他のコマンドの場合には、意味を持ちません。 ・ シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

ABORt Sub System コマンド

:ABORt

機能	測定、校正などの動作を停止します。
構文	ABORt
例	ABORt
解説	<ul style="list-style-type: none">停止対象は以下の通り。 :APPLication:DLOGging:STAtE :CALibration:ALIGn[:IMMediate] :CALibration:ALIGn:EXTernal[:IMMediate] :CALibration:ALIGn:INTernal[:IMMediate] :CALibration:BANDwidth BWIDth[:IMMediate] :CALibration:WAVelength :INITiate :PROGram:EXECute :HCOPy[:INITiate] :HCOPy[:INITiate]:FUNction:CALCulate:LIST :HCOPy[:INITiate]:FUNction:MARKer:LISTオーバーラップコマンドです。

APPLication Sub System コマンド

概要

- 本サブシステムはデータロギング機能のコマンドがまとめられています。

:APPLication:DLOGging:ETIme?

機能	データロギングの経過時間 (秒) を問い合わせます。
構文	:APPLication:DLOGging:ETIme? 応答 <integer> <integer> =経過時間 [sec]
例	:APPLICATION:DLOGGING:ETIME? -> 10220
解説	<ul style="list-style-type: none">オーバーラップコマンドです。AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。データロギング停止中は本コマンドは無効になります。

:APPLication:DLOGging:LPAParameter:INTERval

機能	データロギングの測定間隔を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPAParameter:INTERval<wsp><integer>[SEC] :APPLication:DLOGging:LPAParameter:INTERval? <integer> =測定間隔 [sec] (0 = SWEEP TIME)
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:INTERVAL 10 :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:INTERVAL? -> 10
解説	<ul style="list-style-type: none">データロギング実行中は本コマンドは無効になります。シーケンシャルコマンドです。AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARameter:ITEM

機能	データロギングの対象を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARameter:ITEM <wsp>0 1 2 3 :APPLication:DLOGging:LPARameter:ITEM? 0 1 2 3 : データロギングの対象 0 = WDM、1 = PEAK、2 = MULTI-PEAK、3 = DFB-LD
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:ITEM 0 :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:ITEM? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARameter:LMODe

機能	データロギングのモード (最大チャネル数モード / 最大ロギング回数モード) を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARameter:LMODe<wsp>1 2 :APPLication:DLOGging:LPARameter:LMODe? 1 2 : モード 1 = 最大チャネル数モード (MODE1 : MAX 1024ch、2001 回) 2 = 最大ロギング回数モード (MODE2 : MAX 256ch、10001 回)
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:LMODe 1 :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:LMODe -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARameter:Memory

機能	データロギングした波形ファイルの一時保存先を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARameter:Memory<wsp>INTERNAL EXTERNAL :APPLication:DLOGging:LPARameter:Memory? INTERNAL = 内部メモリ EXTERNAL = USB ストレージメディア
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:MEMORY INTERNAL :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:MEMORY? -> INT
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARameter:MTHResh

機能	データロギングのチャネルマッチング波長 λ のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARameter:MTHResh<wsp><NRf>[M] :APPLication:DLOGging:LPARameter:MTHResh?<NRf>[M] = 波長 λ のしきい値 [m]
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:MTHResh 0.1nm :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:MTHResh? -> +1.00000000E-010
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARameter:PDETECT:ATHResh

機能	データロギングのモードを検出するためのしきい値 (絶対値) を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARameter:PDETECT:ATHResh<NRf>[DBM] :APPLication:DLOGging:LPARameter:PDETECT:ATHResh? <NRf>[DBM] = ピーク検出しきい値 (絶対値) [dBm]
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:PDETECT:ATHRESH -20.0dbm :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:PDETECT:ATHRESH? -> -2.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:PDE Tect:RTHResh

機能	データロギングのモードを検出するためのしきい値 (相対値) を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:PDE tect:RTHResh<NRf>[DB] :APPLication:DLOGging:LPARAmeter:PDE tect:RTHResh? <NRf>[DB] = ピーク検出しきい値 (相対値) [dB]
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:PDE TECT:RTHRESH 30.0db :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:PDE TECT:RTHRESH? -> +3.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:PDE Tect:TTYPe

機能	データロギングのモード (ピーク / ボトム) を検出するためのしきい値の指定方法を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:PDE tect:TTYPe<wsp>ABSolute RELative :APPLication:DLOGging:LPARAmeter:PDE tect:TTYPe? ABSolute = 絶対値 RELative = 相対値
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:PDE TECT:TTYPE ABSOLUTE :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:PDE TECT:TTYPE? -> ABS
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:TDU Ration

機能	データロギングの測定時間 (秒) を設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:TDU ration<wsp><integer>[sec] :APPLication:DLOGging:LPARAmeter:TDU ration? <integer> = 測定時間 [sec]
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:TDU ration 3600 :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:TDU ration? -> 3600
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:TLO Gging

機能	データロギングのときに波形もロギングするかしないかを設定 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:LPARAmeter:TLOG ging<wsp>OFF ON 0 1 :APPLication:DLOGging:LPARAmeter:TLOG ging? OFF = 波形データ保存機能 OFF ON = 波形データ保存機能 ON
例	:APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:TLOG GING OFF :APPLICATION:DLOGGING:LPARAMETER:TLOG GING? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:APPLication:DLOGging:STATe

機能	データロギングを開始 / 停止 / 問い合わせします。
構文	:APPLication:DLOGging:STATe<wsp>STOP START 0 1 :APPLication:DLOGging:STATe? START = データロギングを開始する STOP = データロギングを停止する 応答 0 = 停止、1 = 実行中
例	:APPLICATION:DLOGGING:STATE 1 :APPLICATION:DLOGGING:STATE? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> データロギング実行中は以下のコマンドだけが有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> 共通コマンド (*TRG と *TST を除く) すべてのクエリコマンド ABORT 被オーバーラップコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

CALCulate Sub System コマンド

概要

- 本サブシステムには、次の機能に関するコマンドがまとめられています。
 - 解析機能 (Spectrum Width、ANALYSIS1、ANALYSIS2)
 - Peak/Bottom サーチ機能
 - マーカ機能 (デルタマーカ、ラインマーカ)
 - トレース間演算機能
 - 拡張マーカ機能 (移動マーカ、パワースペクトル密度マーカ、積分パワーマーカ)
- 次の手順で、解析機能をリモート制御します。
 - 解析アルゴリズムの選択 (CALCulate:CATegory コマンド)
 - 解析パラメータの設定 (CALCulate:PARameter コマンド)
 - 解析機能の実行 (CALCulate:[IMMEDIATE] コマンド)
 - 解析結果の取得 (CALCulate:DATA? コマンド)
- 次のコマンドを使用して、Peak/Bottom サーチ機能をリモート制御します。
CALCulate:MARKer:MAXimum | MINimum コマンド
- 次のコマンドを使用して、マーカ機能をリモート制御します。
デルタマーカ: CALCulate:MARKer コマンド
ラインマーカ: CALCulate:LMARKer コマンド
- 次のコマンドを使用して、トレース間演算機能をリモート制御します。
CALCulate:MATH コマンド

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:AOFF

- | | |
|----|--|
| 機能 | 拡張マーカ (移動マーカ / パワースペクトル密度マーカ / 積分パワーマーカ) をすべてクリアし、拡張マーカ機能を OFF にします。 |
| 構文 | :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:AOFF
[1 2 3 4]: 拡張マーカ番号 |
| 例 | :CALCULATE:AMARKER:AOFF |
| 解説 | <ul style="list-style-type: none"> クリア後は拡張マーカ機能が自動的に OFF になります。 どの拡張マーカを指定しても、すべての拡張マーカをクリアします。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。 |

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:INTEGRal:IRANge

- | | |
|----|---|
| 機能 | 指定した積分パワーマーカの積分周波数幅を設定 / 問い合わせします。 |
| 構文 | :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:INTEGRal:IRANge<wsp><Nrf>[Hz]
:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:INTEGRal:IRANge?
[1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
<Nrf> = 積分周波数幅 [Hz] |
| 例 | :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:INTEGRAL:IRANge 40GHz
:CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:INTEGRAL:IRANge? -> 4.00000000E+010 |
| 解説 | <ul style="list-style-type: none"> 指定した拡張マーカが未設置または積分パワーマーカでない場合は実行エラーになります。 指定した拡張マーカが未設置または積分パワーマーカでない場合はクエリエラーになります。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。 |

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:INTEGRal:RESult?

- | | |
|----|--|
| 機能 | 指定した積分パワーマーカの積分演算値を問い合わせます。 |
| 構文 | :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:INTEGRal:RESult?
[1 2 3 4]: 拡張マーカ番号 |
| 例 | :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:INTEGRAL:RESULT? -> -1.00000000E+001 |
| 解説 | <ul style="list-style-type: none"> 取得されるマーカレベルの単位は、設置されたマーカトレースの Y 軸単位に依存します。 指定した拡張マーカが未設置または積分パワーマーカでない場合はクエリエラーになります。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。 |

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:INTEgral[:STATe]

機能	指定した積分パワーマーカをマーカトレースの中央位置に配置します。 また、指定した積分パワーマーカの状態を問い合わせます。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:INTEgral[:STATe]<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:INTEgral[:STATe]? [1 2 3 4]:拡張マーカ番号
例	応答 0 = OFF、1 = ON :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:INTEGRAL ON :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:INTEGRAL? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> 積分パワーマーカを設置すると、パワースペクトル密度マーカ (:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:PDENsity :NOISe[:STATe] コマンド) は OFF になります。 積分パワーマーカを設置済みの拡張マーカに本コマンドで OFF のパラメータを指定すると、拡張マーカは移動マーカになります。拡張マーカが未設置のときは本コマンドで OFF のパラメータを指定しても、拡張マーカは未設置のままです。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:PDENsity|:NOISe:BWIDth|:BANDwidth

機能	指定したパワースペクトル密度マーカの正規化帯域幅を設定 / 問い合わせします。
構文	:CALCulate:AMARker:FUNCTION:PDENsity :NOISe:BWIDth :BANDwidth<wsp><NRf>[m] :CALCulate:AMARker:FUNCTION:PDENsity :NOISe:BWIDth :BANDwidth}? <NRf> = 正規化帯域幅 [m]
例	:CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:PDENSITY:BWIDTh 0.1nm :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:PDENSITY:BWIDTh -> +1.00000000E-010
解説	<ul style="list-style-type: none"> 拡張マーカ 1 ~ 4 で共通の設定です。どの拡張マーカ番号を指定しても同じ動作になります。 指定した拡張マーカが未設置またはパワースペクトル密度マーカでない場合は実行エラーになります。 指定した拡張マーカが未設置またはパワースペクトル密度マーカでない場合はクエリエラーになります。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:PDENsity|:NOISe:RESult?

機能	指定したパワースペクトル密度マーカのパワースペクトル密度値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:PDENsity :NOISe:RESult? [1 2 3 4]:拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:PDENSITY:RESULT? -> -1.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> 取得されるマーカレベルの単位は、設置されたマーカトレースの Y 軸単位に依存します。 指定した拡張マーカが未設置またはパワースペクトル密度マーカでない場合はクエリエラーになります。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:PDENsity|:NOISe[:STATe]

機能	指定した拡張マーカをパワースペクトル密度マーカに設定します。また、指定したパワースペクトル密度マーカの状態を問い合わせます。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:PDENsity :NOISe[:STATe]<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:PDENsity :NOISe[:STATe]? [1 2 3 4]:拡張マーカ番号
例	応答 0 = OFF、1 = ON :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:PDENSITY ON :CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:PDENSITY? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> パワースペクトル密度マーカを設置すると、積分パワーマーカ (:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:INTEgral[:STATe] コマンド) は OFF になります。 パワースペクトル密度マーカを設置済みの拡張マーカに本コマンドで OFF のパラメータを指定すると、拡張マーカは移動マーカになります。拡張マーカが未設置のときは本コマンドで OFF のパラメータを指定しても、拡張マーカは未設置のままです。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:FUNCTION:PRESet

機能	指定した拡張マーカを移動マーカに変更します。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:FUNCTION:PRESet [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:FUNCTION:PRESET
解説	<ul style="list-style-type: none"> 拡張マーカをパワースペクトル密度マーカまたは積分パワーマーカとして設置している場合に、拡張マーカを移動マーカに直接変更できます。 このとき、マーカの設置位置は変わりません。拡張マーカが未設置のときは本コマンドを実行しても、拡張マーカは未設置のままです。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MAXimum

機能	ピークを検出し、指定した拡張マーカを設置します。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:MAXIMUM
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MAXimum:LEFT

機能	現在の指定した拡張マーカ位置より左側に存在する最も近いピークを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum:LEFT [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:MAXIMUM:LEFT
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MAXimum:NEXT

機能	現在の指定した拡張マーカ位置のレベル以下となる最も大きなピークを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum:NEXT [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:MAXIMUM:NEXT
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MAXimum:RIGHT

機能	現在の指定した拡張マーカ位置より右側に存在する最も近いピークを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MAXimum:RIGHT [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:MAXIMUM:RIGHT
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum

機能	ボトムを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:MINimum [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号
例	:CALCULATE:AMARKER:MINIMUM
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum:

LEFT

- 機能 現在の指定した拡張マーカ位置より左側に存在する最も近いボトムを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
- 構文 **:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum:LEFT**
[1|2|3|4]: 拡張マーカ番号
- 例 **:CALCulate:AMARker:MINimum:LEFT**
- 解説
- 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。
 - 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。
 - シーケンシャルコマンドです。
 - AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum:

NEXT

- 機能 現在の指定した拡張マーカ位置のレベル以上となる最も小さなボトムを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
- 構文 **:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum:NEXT**
[1|2|3|4]: 拡張マーカ番号
- 例 **:CALCulate:AMARker:MINimum:NEXT**
- 解説
- 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。
 - 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。
 - シーケンシャルコマンドです。
 - AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum:

RIGHT

- 機能 現在の指定した拡張マーカ位置より右側に存在する最も近いボトムを検出し、指定した拡張マーカを配置します。
- 構文 **:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:MINimum:RIGHT**
[1|2|3|4]: 拡張マーカ番号
- 例 **:CALCulate:AMARker:MINimum:RIGHT**
- 解説
- 指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。
 - 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。
 - シーケンシャルコマンドです。
 - AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4][:STATe]

- 機能 指定した拡張マーカを設置するしないを設定 / 問い合わせします。
- 構文 **:CALCulate:AMARker[1|2|3|4][:STATe]<wsp>OFF|ON|0|1**
:CALCulate:AMARker[1|2|3|4][:STATe]?
[1|2|3|4]: 拡張マーカ番号
応答 0 = OFF、1 = ON
- 例 **:CALCulate:AMARker ON**
:CALCulate:AMARker? -> 1
- 解説
- 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。
 - シーケンシャルコマンドです。
 - AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:TRACe

- 機能 指定した拡張マーカを設置するトレースを設定 / 問い合わせします。
- 構文 **:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:TRACe<wsp>><trace name>**
:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:TRACe?
[1|2|3|4]: 拡張マーカ番号
<trace name> = トレース
TRA ~ TRG = トレース A ~ トレース G
- 例 **:CALCulate:AMARker:TRACE TRA**
:CALCulate:AMARker:TRACE? -> TRA
- 解説
- 指定した拡張マーカが未設置の場合でもトレースを設定 / 問い合わせできます。
 - 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。
 - シーケンシャルコマンドです。
 - AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:X

機能	指定した拡張マーカを指定した位置に配置します。また、指定した拡張マーカの X 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:X<wsp><NRF>[M HZ] :CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:X? [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号 <NRF> = 拡張マーカ位置 応答 <NRF> = 拡張マーカ位置
例	:CALCulate:AMARker:X 1550.000nm :CALCulate:AMARker:X? -> +1.550000000E-006
解説	<ul style="list-style-type: none"> 取得される拡張マーカの X 値の単位は、:CALCulate:MARKer:UNIT コマンドの設定に依存します。 配置時に、指定した拡張マーカが未設置の場合は移動マーカを設置します。 問い合わせ時に、指定した拡張マーカが未設置の場合はクエリエラーになります。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:AMARker[1|2|3|4]:Y?

機能	指定した拡張マーカの Y 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:AMARker[1 2 3 4]:Y? [1 2 3 4]: 拡張マーカ番号 応答 <NRF> = 拡張マーカレベル
例	:CALCulate:AMARker:X? -> -1.000000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> 取得される拡張マーカレベルの単位は、設置されたマーカトレースの Y 軸単位に依存します。 指定した拡張マーカが積分パワーマーカまたはパワースペクトル密度マーカの場合でも、移動マーカと同じレベル値を返します。積分パワー値またはパワースペクトル密度値は返しません。 指定した拡張マーカが未設置の場合はクエリエラーになります。 拡張マーカ番号を指定しないときは、拡張マーカ 1 が指定されます。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:ARESolution?

機能	指定したトレースの分解能実力値データを問い合わせます。
構文	:CALCulate:ARESolution?<wsp><trace name>,[<start point>,<stop point>] <trace name> 取得するトレース (TRA TRB TRC TRD TRE TRF TRG) <start point> 転送するサンプル範囲(開始点) (1 to 50001) <stop point> 転送するサンプル範囲(終了点) (1 to 50001)
例	CALCulate:ARESolution? -> +1.89759145E-009,+1.89744762E-009,+1.89730346E-009,....
解説	<ul style="list-style-type: none"> 波長値で出力します。 <start point>、<stop point> のパラメータを省略したときは、指定トレースの全サンプルデータが出力されます。 :FORMat[:DATA] の設定に従い、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B 用のコマンドです。 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:CATegory

機能	解析の種類を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:CATegory<wsp>{SWThresh SWENvelope SWRMs SWPKrms NOTCh DFBLd FPLD LED SMSR POWer PMD OSNR WDM NF FILPk FILBtm WFPeak WFBtm COLor 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17}
	:CALCulate:CATegory?
	SWThresh 0 スペクトル幅解析 (THRESH)
	SWENvelope 1 スペクトル幅解析 (ENVELOPE)
	SWRMs 2 スペクトル幅解析 (RMS)
	SWPKrms 3 スペクトル幅解析 (PEAK-RMS)
	NOTCh 4 ノッチ幅解析
	DFBLd 5 DFB-LD パラメータ解析
	FPLD 6 FP-LD パラメータ解析
	LED 7 LED パラメータ解析
	SMSR 8 SMSR 解析
	POWer 9 パワー解析
	PMD 10 PMD 解析
	OSNR WDM 11 OSNR(WDM), WDM 解析
	NF 12 NF 解析
	FILPk 13 FILTER PEAK 解析
	FILBtm 14 FILTER BOTTOM 解析
	WFPeak 15 WDM FIL-PK 解析
	WFBtm 16 WDM FIL-BTM 解析
	COLor 17 COLOR 解析
例	:CALCulate:CATegory SWThresh :CALCulate:CATegory? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none">・本コマンドを実行しても、CALCulate[:IMMediate] コマンドを実行しないと解析は実行されません。・シーケンシャルコマンドです。・AQ6370C/AQ6370D の場合、次のパラメータを設定できません。 OSNR, COLor・AQ6373/AQ6373B の場合、次のパラメータを設定できません。 NF, WFPeak, WFBtm・AQ6375/AQ6375B の場合、次のパラメータを設定できません。 OSNR, COLor 波数モードのときは ANALYSIS2 に含まれる解析機能を実行できません。次のパラメータを設定できません。 WDM, NF, FILPk, FILBtm, WFPeak, WFBtm

:CALCulate:DATA?

機能	解析結果を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA?
例	:CALCulate:DATA?
解説	<ul style="list-style-type: none">・最後の解析実行時の解析結果を問い合わせます。・解析機能が未実施のときはクエリエラーになります。・応答例は「7.7 解析結果の出力フォーマット」を参照。・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:CGain?

機能	EDFA-NF 解析結果の GAIN 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:CGain?
例	:CALCulate:DATA:CGain? -> +1.00000000E+001,+1.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none">・解析機能が未実施のときはクエリエラーになります。・該当する戻り値がない場合は、0 を返します。 (実施した解析が EDFA-NF 解析ではない場合など)・出力されるチャンネル数 は :CALCulate:DATA:NCHannels? で取得できます。・:FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:CNF?

機能	EDFA-NF 解析結果の NF 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:CNF?
例	:CALCulate:DATA:CNF? -> +1.00000000E+001,+1.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none">・:CALCulate[:IMMediate] が未実施のときはクエリエラーになります。・該当する戻り値がない場合は、0 を返します。 (実施した解析が EDFA-NF 解析ではない場合など)・出力されるチャンネル数 は :CALCulate:DATA:NCHannels? で取得できます。・:FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:COLor?

機能	測定光源のドミナント波長および、xy 色度図における測定光源の x 座標、y 座標、z 座標、色温度、偏差を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:COLor?
例	:CALCulate:DATA:COLor? -> +0.58237440E-006,+4.30500000E-001,+4.03000000E-001,+1.66500000E-001,+3.10300000E+003,+0.01320000E+000
解説	<ul style="list-style-type: none"> OSNR 値のような ":CALCulate:DATA?" コマンドでは出力されない解析結果も出力されます。次の項目が出力されます。略号で示します。略号の意味については、7.7 節をご覧ください。 <dominant wl>,<x col>,<y col>,<z col>,<color temp>,<dev> 該当する戻り値がない場合は、0 を返します。 AQ6373B 用のコマンドです。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:CPOwers?

機能	OSNR(WDM), WDM, EDFA-NF, WDM FIL-PK, WDM FIL-BTM 解析結果のレベル値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:CPOwers?
例	:CALCulate:DATA:CPOwers? -> +1.00000000E+001,+1.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> 解析機能が未実施のときはクエリエラーになります。 該当する戻り値がない場合は、0 を返す 出力されるチャンネル数 は :CALCulate:DATA:NCHannels? により取得できる。 出力される値は、実行した解析によります。 OSNR(WDM): LEVEL または MEAS LEVEL WDM: LEVEL または MEAS LEVEL EDFA-NF: INPUT LEVEL WDM FIL-PK: PEAK LEVEL(SW が OFF でも出力される) WDM FIL-BTM: PEAK LEVEL(SW が OFF でも出力される) :FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:CSNR?

機能	WDM 解析結果の SNR 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:CSNR?
例	:CALCulate:DATA:CSNR? -> +4.00000000E+001,+4.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> 解析機能が未実施のときはクエリエラーになります。 該当する戻り値がない場合は、0 を返す (実施した解析が WDM 解析ではない場合など) 出力されるチャンネル数 は :CALCulate:DATA:NCHannels? により取得できます。 :FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:CWAVelengths?

機能	OSNR(WDM), WDM, EDFA-NF, WDM FIL-PK, WDM FIL-BTM 解析結果の波長値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:CWAVelengths?
例	:CALCulate:DATA:CWAVelengths? -> +1.55000000E-006,+1.56000000E-006
解説	<ul style="list-style-type: none"> 解析機能が未実施のときはクエリエラーになります。 該当する戻り値がない場合は、0 を返します。 出力されるチャンネル数 は :CALCulate:DATA:NCHannels? で取得できます。 出力される値は、実行した解析に依存します。 OSNR(WDM): WAVELENGTH または MEAS WL WDM: WAVELENGTH または MEAS WL EDFA-NF: WAVELENGTH WDM FIL-PK: NOMINAL WAVELENGTH WDM FIL-BTM: NOMINAL WAVELENGTH :FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:DATA:DFBLd?

機能	DFB-LD 解析結果を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:DFBLd?
例	:CALCULATE:DATA:DFBLD? ->
解説	<ul style="list-style-type: none">・:CALCulate[:IMMediate] コマンドが未実施のときはクエリエラーになります。・該当する戻り値がない場合は、0 を返します。(実施した解析が DFB-LD 解析ではない場合など)・OSNR 値のような ":CALCulate:DATA?" コマンドでは出力されない解析結果も出力されます。次の項目が出力されます。略号で示します。略号の意味については、7.7 節をご覧ください。 <peak wl>,<peak lvl>,<center wl>,<spec wd>,<smsr(L)>,<smsr(R)>,<mode ofst(L)>,<mode ofst(R)>,<snr>,<power>,<rms>,<Krms>・シーケンシャルコマンドです。・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:DATA:NCHannels?

機能	OSNR(WDM), WDM, EDFA-NF, WDM FIL-PK, WDM FIL-BTM 解析結果のチャネル数を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:NCHannels?
例	:CALCULATE:DATA:NCHANNELS? -> 16
解説	<ul style="list-style-type: none">・解析機能が未実施のときはクエリエラーになります。・該当する戻り値がない場合は、0 を返します。・:FORMat[:DATA] の設定に関わらず、ASCII データで出力されます。・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:DATA:OSLOpe?

機能	OSNR(WDM)、WDM 解析結果の OUTPUT SLOPE 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:DATA:OSLOpe?
応答	<NRf> = output slope 値 [dB/nm] または [dB/THz]
例	:CALCULATE:DATA:OSLOPE? -> +2.45352623E-001
解説	<ul style="list-style-type: none">・解析機能が未実施の時はクエリエラーになります。・該当する戻り値がない場合は、0 を返します。(実施した解析が WDM 解析ではない場合など)・OUTPUT SLOPE 値の出力が OFF に設定されていても解析結果を問い合わせできます。・:FORMat[:DATA] コマンドの設定にかかわらず、ASCII データで出力されます。・シーケンシャルコマンドです。・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:DISPlay

機能	解析結果の出力画面形式を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:DISPlay<wsp>0 1 2 3 4 :CALCulate:DISPlay?
	0 : TRACE&TABLE 1 : TABLE 2 : TRACE 3 : GRAPH&TABLE 4 : GRAPH
例	:CALCULATE:DISPLAY 1 :CALCULATE:DISPLAY? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">・シーケンシャルコマンドです。・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:DISPlay:GRAPH:LMARKer:Y

機能	解析結果のグラフ画面にラインマーカ Y1、Y2 の位置を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:DISPlay:GRAPH:LMARKer:Y<wsp>1 2,<NRf>[DB] :CALCulate:DISPlay:GRAPH:LMARKer:Y?<wsp>1 2
	1 : ラインマーカ Y1、2 : ラインマーカ Y2 <NRf> : ラインマーカの位置
例	:CALCULATE:DISPLAY:GRAPH:LMARKER: Y 1,3.4 :CALCULATE:DISPLAY:GRAPH:LMARKER:Y? 1 -> +3.40000000E+000
解説	<ul style="list-style-type: none">・EDFA-NF 解析結果をグラフ表示しているときに有効なコマンドです。・シーケンシャルコマンドです。・AQ6370C/AQ6370D で使用可能なコマンドです。

:CALCulate[:IMMediate]

機能	解析を実行します。 解析を実行したかどうかを問い合わせます。
構文	:CALCulate[:IMMediate] :CALCulate[:IMMediate]?
	0 : 未実施 1 : 実施済み
例	:CALCULATE :CALCULATE? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">・最後に設定された解析機能の設定条件によって、解析機能を実行します。・解析機能が実行されるタイミングは、次のとおり。<ul style="list-style-type: none">・:CALCulate[:IMMediate] コマンドを実行したとき・:CALCulate:PARAmeter コマンドで、パラメータ設定を変更したとき・シーケンシャルコマンドです。・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは ANALYSIS2 に含まれる解析機能を実行できません。次のパラメータを設定できません。 WDM, NF, FILPk, FILBtm, WFPeak, WFBtm

:CALCulate[:IMMediate]:AUTO

機能 自動解析機能を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate[:IMMediate]:AUTO<wsp>OFF|ON|0|1

:CALCulate[:IMMediate]:AUTO?

0: OFF

1: ON

例 :CALCULATE:AUTO ON

:CALCULATE AUTO? -> 1

解説

- 自動解析機能が ON のときは、掃引終了後にアクティブになっている解析機能を自動的に実行します。
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:LMARker:AOff

機能 ラインマーカをすべてクリアします。

構文 :CALCulate:LMARker:AOff

例 :CALCULATE:LMARKER:AOff

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:LMARker:SRANge

機能 解析範囲をラインマーカ L1、L2 間に限定するかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:LMARker:SRANge<wsp>OFF|ON|0|1

:CALCulate:LMARker:SRANge?

0: OFF

1: ON

例 :CALCULATE:LMARKER:SRANGE ON

:CALCULATE:LMARKER:SRANGE? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:LMARker:SSPan

機能 ラインマーカ L1、L2 間を SPAN に設定します。

構文 :CALCulate:LMARker:SSPan

例 :CALCULATE:LMARKER:SSPAN

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:LMARker:SZSPan

機能 ラインマーカ L1、L2 の間を ZOOM SPAN に設定します。

構文 :CALCulate:LMARker:SZSPan

例 :CALCULATE:LMARKER:SZSPAN

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:LMARker:X

機能 ラインマーカ L1、L2 の位置を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:LMARker:X<wsp>1|2,<Nrf>[M|HZ]

:CALCulate:LMARker:X?<wsp>1|2

1、2 = ラインマーカ番号

<Nrf> = ラインマーカの位置

応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合

<Nrf> [m|Hz]

AQ6375/AQ6375B の場合

<Nrf> [m|Hz|m⁻¹]

例 :CALCULATE:LMARKER:X 1,1550.000nm

:CALCULATE:LMARKER:X? 1 ->

+1.550000000E-006

解説

- 指定したラインマーカが未設置の場合はクエリエラーになります。
- シーケンシャルコマンドです。
- AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:CALCulate:LMARker:Y

機能 ラインマーカ L3、L4 の位置を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:LMARker:Y<wsp>3|4,<Nrf>[DBM|DB|%]

:CALCulate:LMARker:Y?<wsp>3|4

3、4 = ラインマーカ番号

<Nrf> = ラインマーカの位置

例 :CALCULATE:LMARKER:y 3,-10dBm

:CALCULATE:LMARKER:y? 3 ->

-1.000000000E+001

解説

- 指定したラインマーカが未設置の場合はクエリエラーになります。
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:AOff

機能 マーカをすべてクリアします。

構文 :CALCulate:MARKer:AOff

例 :CALCULATE:MARKER:AOff

解説

- シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:MARKer:AUTO

機能	オートサーチ機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer: AUTO<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:MARKer:AUTO? 0=OFF 1=ON
例	:CALCULATE:MARKER:AUTO ON :CALCULATE:MARKER:AUTO? -> 1
解説	・ オートサーチ機能が ON のときは、掃引終了後にアクティブトレースに対してピーク / ボトムサーチを自動的に実行します。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:FUNCTION:FORMat

機能	マーカエリアに表示される差し引き値のフォーマットを設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:FUNCTION:FORMat<wsp> OFFSet SPACing 0 1 :CALCulate:MARKer:FUNCTION:FORMat? OFFSet= 移動マーカに対する各マーカの差を表示 SPACing= 隣のマーカに対する各マーカの差を表示 応答 0=OFFSet、1=SPACing
例	:CALCULATE:MARKER:FUNCTION: FORMAT SPACING :CALCULATE:MARKER:FUNCTION:FORMAT? -> 1
解説	・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:FUNCTION:UPDate

機能	アクティブトレース更新時の固定マーカの自動アップデート機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:FUNCTION:UPDate<wsp> OFF ON 0 1 :CALCulate:MARKer:FUNCTION:UPDate? 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:MARKER:FUNCTION:UPDATE ON :CALCULATE:MARKER:FUNCTION:UPDATE? -> 1
解説	・ 自動アップデート機能が ON の場合、アクティブトレースを更新すると自動的に固定マーカのレベル位置が波形に追従します。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum

機能	ピークを検出し、移動マーカを設置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:LEFT

機能	現在の移動マーカ位置より左側に存在する最も近いピークを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:LEFT
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:LEFT
解説	・ 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:NEXT

機能	現在の移動マーカ位置のレベル以下となる最も大きなピークを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:NEXT
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:NEXT
解説	・ 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:RIGHT

機能	現在の移動マーカ位置より右側に存在する最も近いピークを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:RIGHT
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:RIGHT
解説	・ 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:SCENter

機能	ピーク波長を検出し、測定中心波長に設定します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SCENter
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SCENTER
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:SCENter:AUTO

機能	自動的にピーク波長を検出して測定中心波長に設定する機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SCENter:AUTO<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:MARKer:MAXimum:SCENter:AUTO? 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SCENTER: AUTO ON :CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SCENTER:AUTO? -> 1
解説	・ 本機能が ON のときは、掃引が終了するごとにアクティブトレースの波形のピーク波長を検出し、測定中心波長に自動的に設定します。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:SRLevel

機能	ピークレベルを検出し、基準レベルに設定します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SRLevel
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SRLEVEL
解説	・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:SRLevel:AUTO

機能	自動的にピークレベルを検出して基準レベルに設定する機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SRLevel:AUTO 0<wsp>OFF ON 0 1
例	応答 0=OFF、1=ON :CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SRLEVEL:AUTO ON CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SRLEVEL:AUTO? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> 本機能が ON のときは、掃引が終了するごとにアクティブトレースの波形のピークレベルを検出し、基準レベルに自動的に設定します。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MAXimum:SZCenter

機能	ピーク波長を検出し、表示中心波長に設定します。
構文	:CALCulate:MARKer:MAXimum:SZCenter
例	:CALCULATE:MARKER:MAXIMUM:SZCENTER
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MINimum

機能	ボトムを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MINimum
例	:CALCULATE:MARKER:MINIMUM
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MINimum:LEFT

機能	現在の移動マーカ位置より左側に存在する最も近いボトムを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MINimum:LEFT
例	:CALCULATE:MARKER:MINIMUM:LEFT
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MINimum:NEXT

機能	現在の移動マーカ位置のレベル以上となる最も小さなボトムを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MINimum:NEXT
例	:CALCULATE:MARKER:MINIMUM:NEXT
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MINimum:RIGHT

機能	現在の移動マーカ位置より右側に存在する最も近いボトムを検出し、移動マーカを配置します。
構文	:CALCulate:MARKer:MINimum:RIGHT
例	:CALCULATE:MARKER:MINIMUM:RIGHT
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MSEarch

機能	サーチ機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:MSEarch<wsp> OFF ON 0 1 :CALCulate:MARKer:MSEarch? OFF 0: サーチ機能がシングルサーチになります。 ON 1: サーチ機能がマルチサーチになります。 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:MARKER:MSEARCH on :CALCULATE:MARKER:MSEARCH? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> 設定した時点で、それぞれのサーチを実行します。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MSEarch:SORT

機能	マルチサーチの検出リストの並び順を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:MSEarch:SORT<wsp> WAVelength LEVel 0 1 :CALCulate:MARKer:MSEarch:SORT? WAVelength 0: 波長の短い順に表示されます。 LEVel 1: ピークサーチの場合はレベルが高い順、ボトムサーチの場合はレベルが低い順に表示されます。 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:MARKER:MSEARCH:SORT WAV :CALCULATE:MARKER:MSEARCH:SORT? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none"> シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:MARKer:MSEarch:THResh

機能	マルチサーチのしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:MSEarch:THResh<wsp> <NRf>[DB] :CALCulate:MARKer:MSEarch:THResh? <NRf>: しきい値 [dB] 例 :CALCULATE:MARKER:MSEARCH:THRESH 50DB :CALCULATE:MARKER:MSEARCH? -> +5.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> シーケンシャルコマンドです。 AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:CALCulate:MARKer:SCENTER

機能	現在の移動マーカの波長を測定中心波長に設定します。
構文	:CALCulate:MARKer:SCENTER
例	:CALCULATE:MARKER:MINIMUM:SCENTER
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:MARKer:SRLevel

機能	現在の移動マーカのレベルを基準レベルに設定します。
構文	:CALCulate:MARKer:SRLevel
例	:CALCULATE:MARKER:MINIMUM:SRLEVEL
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer[:STATe]

機能	指定したマーカを移動マーカの位置に配置または削除します。また、指定したマーカの状態を問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp> <marker>,<OFF ON 0 1> :CALCulate:MARKer[:STATe]?<wsp><marker> <marker>: マーカ番号 (0 は移動マーカ) 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:MARKER:STATE 1,ON :CALCULATE:MARKER:STATE 1 -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカがアクティブではないときに固定マーカをセットしようとすると、実行エラーになります。 移動マーカを指定した場合は、画面中央に配置します。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:SZCenter

機能	現在の移動マーカの波長を表示中心波長に設定します。
構文	:CALCulate:MARKer:SZCenter
例	:CALCULATE:MARKER:SZCENTER
解説	<ul style="list-style-type: none"> 移動マーカが OFF の場合は実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MARKer:UNIT

機能	マーカ値の表示単位を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp> WAVelength FREQuency WNUMber 0 1 2 :CALCulate:MARKer:UNIT? パラメータ AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 WAVelength 0 FREQuency 1 AQ6375/AQ6375B の場合 WAVelength 0 FREQuency 1 WNUMber 2 応答 0=WAVelength、1=FREQuency、 2=WNUMber
例	:CALCULATE:MARKER:UNIT FREQUENCY :CALCULATE:MARKER:UNIT? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。 WNUMber は AQ6375/AQ6375B のみ有効です。

:CALCulate:MARKer:X

機能	指定したマーカを指定した位置に配置します。
構文	指定したマーカの X 値を問い合わせます。 :CALCulate:MARKer:X<wsp><marker>,<NRf>[M HZ] :CALCulate:MARKer:X?<wsp><marker> ALL <marker>= マーカ番号 (0: 移動マーカ) ALL= 設置済みのすべてのマーカ <NRf>= マーカ位置 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 <marker> 指定時 <NRf> [m Hz] ALL 指定時 <integer>,<NRf>,<NRf>,...,<NRf> AQ6375/AQ6375B の場合 <NRf> [m Hz m ⁻¹]
例	:CALCULATE:MARKER:X 0,1550.000nm :CALCULATE:MARKER:X? 0 -> +1.55000000E-006
解説	<ul style="list-style-type: none"> 設置済みのマーカを指定した場合は、マーカの移動になります。 指定したマーカが未設置の場合はクエリエラーになります。 ALL を指定した場合 (例> :CALC:MARK:X? ALL) は、設置済みのすべてのマーカの X 値を返します。設置済みマーカ数を <integer> で出力し、続けてマーカ値を連続で出力します。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。 ALL は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B のみ有効です。

:CALCulate:MARKer:Y?

機能	指定したマーカの Y 値を問い合わせます。
構文	:CALCulate:MARKer:Y?<wsp><marker> ALL <marker>= マーカ番号 (0: 移動マーカ) ALL= 設置済みのすべてのマーカ <marker> 指定時 <NRf>= マーカレベル ALL 指定時 <integer>,<NRf>,<NRf>,...,<NRf>
例	:CALCULATE:MARKER:Y? 0 -> -1.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none"> 取得されるマーカレベルの単位は、アクティブトレースの Y 軸単位に依存します。 指定したマーカが未設置の場合はクエリエラーになります。 ALL を指定した場合 (例> :CALC:MARK:Y? ALL) は、設置済みのすべてのマーカの Y 値を返します。設置済みマーカ数を <integer> で出力し、続けてマーカ値を連続で出力します。 シーケンシャルコマンドです。 ALL は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B のみ有効です。

:CALCulate:MATH:TRC

- 機能 TRACE C の演算機能を設定 / 問い合わせます。
- 構文 :CALCulate:MATH:TRC<wsp>A-B (LOG) | B-A (LOG) | A+B (LOG) | A+B (LIN) | A-B (LIN) | B-A (LIN) | 1-K (A/B) | 1-K (B/A) |
- 例 :CALCulate:MATH:TRC?
- :CALCULATE:MATH:TRC A-B (LOG)
- :CALCULATE:MATH:TRC? -> A-B (LOG)
- 解説
- ・本コマンドにより TRACE C の演算機能を設定すると、TRACE C の属性は自動的に "CALC" 属性になります。
 - ・TRACE C が演算トレースではないときは "NONE" を返します。
 - ・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRC:K

- 機能 TRACE C の演算機能のパラメータ K を設定 / 問い合わせます。
- 構文 :CALCulate:MATH:TRC:K<wsp><Nrf>
- :CALCulate:MATH:TRC:K?
- <Nrf>= パラメータ K
- 例 :CALCULATE:MATH:TRC:K 0.1
- :CALCULATE:MATH:TRC:K? ->
- +1.00000000E-001
- 解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRF

- 機能 TRACE F の演算機能を設定 / 問い合わせます。
- 構文 :CALCulate:MATH:TRF<wsp>C-D (LOG) | D-C (LOG) | C+D (LOG) | D-E (LOG) | E-D (LOG) | D+E (LOG) | C+D (LIN) | C-D (LIN) | D-C (LIN) | D+E (LIN) | D-E (LIN) | E-D (LIN) | PWRNBWA | PWRNBWB | PWRNBWC | PWRNBWD | PWRNBWE
- 例 :CALCulate:MATH:TRF?
- :CALCULATE:MATH:TRF C-D (LOG)
- :CALCULATE:MATH:TRF? -> C-D (LOG)
- 解説
- ・本コマンドにより TRACE F の演算機能を設定すると、TRACE F の属性は自動的に "CALC" 属性になります。
 - ・TRACE F が演算トレースではないときは "NONE" を返します。
 - ・PWRNBWA、PWRNBWB、PWRNBWC、PWRNBWD、PWRNBWE は AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B のみに有効です。
 - ・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRF:PNBW:BWIDth|**BANDwidth**

- 機能 パワースペクトル密度トレースの正規化帯域幅を設定 / 問い合わせます。
- 構文 :CALCulate:MATH:TRF:PNBW:BWIDth|
- BANDwidth<wsp><Nrf>[m]
- :CALCulate:MATH:TRF:PNBW:BWIDth|
- BANDwidth?
- <Nrf>= 正規化帯域幅 [m]
- 例 :CALCULATE:MATH:TRF:PNBW:BAND 0.1nm
- :CALCULATE:MATH:TRF:PNBW:BAND? ->
- 1.00000000E-010
- 解説
- ・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B 用コマンドです。
 - ・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRG

- 機能 TRACE G の演算機能を設定 / 問い合わせます。
- 構文 :CALCulate:MATH:TRG<wsp>C-F (LOG) | F-C (LOG) | C+F (LOG) | E-F (LOG) | F-E (LOG) | E+F (LOG) | C+F (LIN) | C-F (LIN) | F-C (LIN) | E+F (LIN) | E-F (LIN) | F-E (LIN) | NORMA | NORMB | NORMC | CVFTA | CVFTB | CVFTC | MKRFT | PKCVFTA | PKCVFTB | PKCVFTC
- 例 :CALCulate:MATH:TRG?
- :CALCULATE:MATH:TRG C-F (LOG)
- :CALCULATE:MATH:TRG? -> C-F (LOG)
- 解説
- ・本コマンドにより TRACE G の演算機能を設定すると、TRACE G の属性は自動的に "CALC" 属性になります。
 - ・TRACE G が演算トレースではないときは "NONE" を返します。
 - ・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:FALGo

- 機能 TRACE G フィットtingカーブ機能のフィッティングカーブ関数を設定 / 問い合わせます。
- 構文 :CALCulate:MATH:TRG:CVFT:FALGo<wsp><algorithm>
- :CALCulate:MATH:TRG:CVFT:FALGo?
- <algorithm>
- GAUSS=GAUSS
- LORENZ=LORENZ
- 3RD=3RD POLY
- 4TH=4TH POLY
- 5TH=5TH POLY
- 応答 0 = GAUSS 1 = LORENZ、
- 2 = 3RD POLY 3 = 4TH POLY
- 4 = 5TH POLY
- 例 :CALCULATE:MATH:TRG:CVFT:FALGO GAUSS
- :CALCULATE:MATH:TRG:CVFT:FALGO? -> 1
- 解説
- ・設定は、カーブフィットおよびピークカーブフィット共通です。
 - ・シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:OPAREa

機能	カーブフィットおよびピークカーブフィット時の演算エリアを設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:OPAREa<wsp>ALL INL1-L2 OUTL1-L2 0 1 2 :CALCulate:MATH:TRG:CVFT:OPAREa? ALL= 設定波長範囲すべて INL1-L2= ラインマーカ 1、2 に囲まれた範囲 OUTL1-L2= ラインマーカ 1、2 の外側の範囲 応答 0=ALL、1=INL1-L2、2=OUTL1-L2
例	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT: OPAREa inl1-l2 :CALCulate:MATH:TRG:CVFT:OPAREa? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> 設定は、カーブフィットおよびピークカーブフィット共通です。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:THResh

機能	カーブフィット時のしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:THResh<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:MATH:TRG:CVFT:THResh? <NRf>= しきい値 [DB]
例	:CALCulate:MATH:TRG:CVFT:THRESH 10db :CALCulate:MATH:TRG:CVFT:THRESH? -> 10
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:MATH:TRG:PCVFt:THResh

機能	ピーク・カーブフィット時のしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:MATH:TRG:PCVFt:THResh<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:MATH:TRG:PCVFt:THResh? <NRf>= しきい値 [DB]
例	:CALCulate:MATH:TRG:PCVFt:THRESH 10db :CALCulate:MATH:TRG:PCVFt:THRESH? -> 10
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFB

Ld

機能	DFB-LD 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。		
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLD <wsp><item>,<paramater>,<data> :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:DFBLD ?<wsp><item>,<paramater> <item>= パラメータ設定を行う解析アイテム <paramater>= 設定を行うパラメータ <data>= 設定データ		
	<item>	<paramater>	<data>
	SWIDth	ALGO	ENVELOpe THResh RMS PKRMs <NRf>[DB] TH TH2 K MFIT MDIFF
	SMSR	SMODE	SMSR1 SMSR2 SMSR3 SMSR4 SMASK MDIFF
	RMS	ALGO	RMS PKRMs TH K MDIFF
	POWER	SPAN	<NRf>[M]
	OSNR	MDIFF	<NRf>[DB]
		NALGo	AFIX MFIX ACENter MCENter PIT 0 1 2 3 4 NAREa MAREa FALGo NBW SPOWER IRANge
			<NRf>[M] <NRf>[M] LINear GAUSSs LOrenz 3RD 4TH 5TH 0 1 2 3 4 5 <NRf>[M] PEAK INTEgral 0 1 <NRf>
例	:CALCULATE:PARAMETER:DFBLD SWIDTH,ALGO,THRESH :CALCULATE:PARAMETER:DFBLD? SWIDTH,ALGO -> THR :CALCULATE:PARAMETER:DFBLD SMSR,SMASK,0.5NM :CALCULATE:PARAMETER:DFBLD? SMSR,SMASK -> +5.00000000E-010		
解説	・ 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。 (SWIDth、SMODE の組み合わせなど) ・ シーケンシャルコマンドです。		

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:FILB**tm**

機能 FILTER-BTM 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:FILBtm<wsp>
<item>,<paramater>,<data>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:FILBtm?<wsp><item>,<paramater>
<item>= パラメータ設定を行う解析アイテム
<paramater>= 設定を行うパラメータ
<data>= 設定データ

<item>	<paramater>	<data>
BLEVel	SW	OFF ON 0 1
BWAVelength	SW	OFF ON 0 1
CWAVelength	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	PEAK BOTTom
	TH	<Nrf>[DB]
	MDIFF	<Nrf>[DB]
NWIDth	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	PEAK BOTTom
	TH	<Nrf>[DB]
	MDIFF	<Nrf>[DB]
XTALK	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	PEAK BOTTom BLEVel GRID
	TH	<Nrf>[DB]
	MDIFF	<Nrf>[DB]
	CSPace	<Nrf>[M]
	SARea	<Nrf>[M]

例 :CALCULATE:PARAMETER:
FILBTM CWAVELENGTH,ALGO,BOTTOM
:CALCULATE:PARAMETER:
FILBTM CWAVELENGTH,ALGO -> BOTT
:CALCULATE:PARAMETER:
FILBTM XTALK,CSPACE,0.2NM
:CALCULATE:PARAMETER:
FILBTM? XTALK,CSPACEe
-> +2.00000000E-010

解説

- 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。
(CWAVelength と SARea の組み合わせなど)
- AQ6373/AQ6373B の場合、次の <data> のパラメータを設定できません。
GRID
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:FIL**Pk**

機能 FILTER PEAK 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:FILPk<wsp><item>,<paramater>,<data>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:FILPk?<wsp><item>,<paramater>
<item>= パラメータ設定を行う解析アイテム
<paramater>= 設定を行うパラメータ
<data>= 設定データ

<item>	<paramater>	<data>
PLEVel	SW	OFF ON 0 1
PWAVelength	SW	OFF ON 0 1
MWAVelength	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	THResh RMS
	TH	<Nrf>[DB]
	K	<Nrf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<Nrf>[DB]
SWIDth	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	THResh RMS
	TH	<Nrf>[DB]
	K	<Nrf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<Nrf>[DB]
XTALK	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	THResh PLEVel GRID
	TH	<Nrf>[DB]
	K	<Nrf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<Nrf>[DB]
	CSPace	<Nrf>[M]
	SARea	<Nrf>[M]
RWIDth	SW	OFF ON 0 1
	TH	<Nrf>[DB]
	MDIFF	<Nrf>[DB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:FILPK SWIDTH,
ALGO,THRESH
:CALCULATE:PARAMETER:FILPK? SWIDTH,
ALGO -> THR
:CALCULATE:PARAMETER:FILPK XTALK,
CSPACE,0.5NM
:CALCULATE:PARAMETER:FILPK? XTALK,
CSPACE -> +5.00000000E-010

解説

- 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。
(SWIDth と CSPace の組み合わせなど)
- AQ6373 の場合、次の <data> のパラメータを設定できません。
GRID
- シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:FPLD

機能 FP-LD 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
FPLD<wsp><item>,<paramater>,<data>
:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
FPLD?<wsp><item>,<paramater>
<item>= パラメータ設定を行う解析アイテム
<paramater>= 設定を行うパラメータ
<data>= 設定データ

<item>	<paramater>	<data>
SWIDth	ALGO	ENVELOPE THRESH RMS PKRMS
	TH	<NRf> [DB]
	TH2	<NRf> [DB]
	K	<NRf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<NRf> [DB]
MWAVelength	ALGO	ENVELOPE THRESH RMS PKRMS
	TH	<NRf> [DB]
	TH2	<NRf> [DB]
	K	<NRf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<NRf> [DB]
TPOWER	OFFSET	<NRf> [DB]
MNUMber	ALGO	ENVELOPE THRESH RMS PKRMS
	TH	<NRf> [DB]
	TH2	<NRf> [DB]
	K	<NRf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<NRf> [DB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:FPLD SWIDTH,
ALGO, THRESH
:CALCULATE:PARAMETER:FPLD? SWIDTH,
ALGO -> THR
:CALCULATE:PARAMETER:FPLD
TPOWER, OFFSET, 1.0DB
:CALCULATE:PARAMETER:FPLD?
TPOWER, OFFSET -> +1.00000000E+000

解説

- 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。
(SWIDTH と OFFSET の組み合わせなど)
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:LED

機能 LED 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
LED<wsp><item>,<paramater>,<data>
:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
LED?<wsp><item>,<paramater>
<item>= パラメータ設定を行う解析アイテム
<paramater>= 設定を行うパラメータ
<data>= 設定データ

<item>	<paramater>	<data>
SWIDth	ALGO	ENVELOPE THRESH RMS PKRMS
	TH	<NRf> [DB]
	TH2	<NRf> [DB]
	K	<NRf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<NRf> [DB]
MWAVelength	ALGO	ENVELOPE THRESH RMS PKRMS
	TH	<NRf> [DB]
	TH2	<NRf> [DB]
	K	<NRf>
	MFIT	OFF ON 0 1
	MDIFF	<NRf> [DB]
TPOWER	OFFSET	<NRf> [DB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:LED SWIDTH,
ALGO, THRESH
:CALCULATE:PARAMETER:LED? SWIDTH,
ALGO -> THR
:CALCULATE:PARAMETER:LED TPOWER,
OFFSET, 1.0DB
:CALCULATE:PARAMETER:LED? TPOWER,
OFFSET -> +1.00000000E+000

解説

- 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。
(SWIDTH と OFFSET の組み合わせなど)
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:A**ALGo**

機能 NF 解析機能の ASE レベルの測定アルゴリズムを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:AALGo<wsp><algorhythm>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:AALGo?
<algorhythm> = 測定アルゴリズム
AFIX : AUTO FIX
MFIx : MANUAL FIX
ACENter : AUTO CENTER
MCENter : MANUAL CENTER

応答 0= AUTO FIX
1= MANUAL FIX
2= AUTO CENTER
3= MANUAL CENTER

例 :CALCULATE:PARAMETER:NF:AALGO MFIx
:CALCULATE:PARAMETER:NF:AALGO? -> 1

解説 • AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
• シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:F**ALGo**

機能 NF 解析機能の ASE レベル測定時のフィッティング関数を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:FALGo<wsp><algorhythm>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:FALGo?
<algorhythm>= フィッティング関数
LINear : LINEAR
GAUSS : GAUSS
LORENz : LORENZ
3RD : 3RD POLY
4TH : 4YH POLY
5TH : 5TH POLY

応答 0= LINEAR
1= GAUSS
2= LORENZ
3= 3RD POLY
4= 4YH POLY
5= 5TH POLY

例 :CALCULATE:PARAMETER:NF:FALGO GAUSS
:CALCULATE:PARAMETER:NF:FALGO? -> 1

解説 • AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
• シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:F**Area**

機能 NF 解析機能の ASE レベル測定時のフィッティング範囲を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:FARea<wsp><NRf> [M]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:FARea?
<NRf>= フィッティング範囲 [m]

例 :CALCULATE:PARAMETER:NF:FAREA 0.80NM
:CALCULATE:PARAMETER:NF:FAREA?
-> +8.00000000E-10

解説 • フィッティング範囲の設定が "Between CH" のとき (ASE レベルの測定アルゴリズムが "AUTO-CTR" または "MANUAL-CTR" に設定されているとき) は、0 を返します。
• AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
• シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:I**OFFset**

機能 NF 解析機能のレベルオフセット値 (信号光) を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:IOFFset<wsp><NRf> [dB]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:IOFFset?
<NRf>= 信号光のレベルオフセット値 [dB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:NF:IOFFSET 10.00
:CALCULATE:PARAMETER:NF:IOFFSET?
-> +1.00000000E+001

解説 • AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
• シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:I**RANge**

機能 EDFA-NF 解析機能の信号光パワー算出時の積分周波数範囲を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:IRANge<wsp><NRf>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:IRANge?
<NRf>= 積分範囲 [GHz]

例 :CALCulate:PARAMeter:NF:IRANGE 40
:CALCulate:PARAMeter:NF:IRANGE?
-> +4.00000000E+001

解説 • AQ6373/AQ6373B/AQ6375 では無効なコマンドです。
• シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MARea

機能	NF 解析機能の ASE レベル測定時のマスク範囲を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MARea<wsp><NRf>[M] :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MARea? <NRf>= マスク範囲 [m]
例	:CALCULATE:PARAMETER:NF:MAREA 0.40NM :CALCULATE:PARAMETER:NF:MAREA? -> +4.00000000E-10
解説	<ul style="list-style-type: none">・ マスク範囲の設定が "---" のとき (ASE レベル測定時のフィッティング関数が "LINEAR" に設定されているとき) は、0 を返します。・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MDIFF

機能	NF 解析機能のチャネル検出の山谷差を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MDIFF<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:MDIFF? <NRf>= 山谷差の値 [dB]
例	:CALCULATE:PARAMETER:NF:MDIFF 3.00DB :CALCULATE:PARAMETER:NF:MDIFF? -> +3.00000000E+000
解説	<ul style="list-style-type: none">・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:OFFSET

機能	NF 解析機能のレベルオフセット値 (出力光) を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:OFFSET<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:OFFSET? <NRf>= 出力光のレベルオフセット値 [dB]
例	:CALCULATE:PARAMETER:NF:OFFSET 10.00 :CALCULATE:PARAMETER:NF:OFFSET? -> +1.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none">・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:PDISPLAY

機能	NF 解析機能のフィッティングに使用したデータを波形画面上に表示するかどうかを設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:PDISPLAY<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:PDISPLAY? 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:PARAMETER:NF:PDISPLAY ON :CALCULATE:PARAMETER:NF:PDISPLAY? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">・ この設定値が ON のときは、フィッティングに使用したデータを波形画面上に表示します。・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:TH

機能	NF 解析機能のチャネル検出のしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:TH<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:TH? <NRf>= しきい値 [dB]
例	:CALCULATE:PARAMETER:NF:TH 20.00DB :CALCULATE:PARAMETER:NF:TH -> +2.00000000E+001
解説	<ul style="list-style-type: none">・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:RBWIDTH

機能	NF 計算の分解能値算出方法を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:RBWIDTH<wsp>MEASured CAL 0 1 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:NF:RBWIDTH? MEASured 0: 波形から THRESH 3dB 解析で求めた値を用いる CAL 1: 本機器内部に記憶されている分解能実力値を用いる
例	応答 0=MEASURED、1=CAL :CALCULATE:PARAMETER:NF:RBWIDTH MEASURED :CALCULATE:PARAMETER:NF:RBWIDTH? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none">・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:SN NOise

機能	NF 計算に Shot Noise を含むか含まないかを設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:SN Oise<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:SN Oise? OFF 0 : NF 計算に Shot Noise を含まない ON 1 : NF 計算に Shot Noise を含む 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:PARAMETER:NF:SNOISE OFF :CALCULATE:PARAMETER:NF:SNOISE? -> 0
解説	・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:SP POWer

機能	EDFA-NF 解析機能の信号光パワー算出方法を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:SP OWer<wsp>PEAK INTEgral 0 1 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NF:SP OWer? PEAK 0 : モードピークのレベルを信号光パワーとする INTEgral 1 : スペクトルを積分したパワーを信号光パワーとする
例	:CALCulate:PARAMeter:NF:SPOWer PEAK :CALCulate:PARAMeter:NF:SPOWer? -> 0
解説	・ AQ6373/AQ6373B/AQ6375 では無効なコマンドです。 ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NOTC h:K

機能	ノッチ幅解析機能の倍率を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]: NOTCh:K<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]: NOTCh:K? <NRf>= 倍率
例	:CALCULATE:PARAMETER:NOTCH:K 2.00 :CALCULATE:PARAMETER:NOTCH:K? -> +2.00000000E+000
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NOTC h:TH

機能	ノッチ幅解析機能のしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]: NOTCh:TH<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]: NOTCh:TH? <NRf>= しきい値 [dB]
例	:CALCULATE:PARAMETER:NOTCH:TH 3.00DB :CALCULATE:PARAMETER:NOTCH:TH? -> +3.00000000E+000
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NOTC h:TYPE

機能	ノッチ幅解析機能の解析方向を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]: NOTCh:TYPE<wsp>PEAK BOTTom 0 1 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:NOTCh :TYPE? PEAK: 波形のピークレベルを基準として解析 BOTTom: 波形のボトムレベルを基準として解析 応答 0=PEAK、1=BOTTom
例	:CALCULATE:PARAMETER:NOTCH:TYPE BOTTOM :CALCULATE:PARAMETER:NOTCH:TYPE? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:PMD: TH

機能	PMD 解析機能のしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:PMD: TH<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:PMD: TH? <NRf>= しきい値 [dB]
例	:CALCULATE:PARAMETER:PMD:TH 10.00DB :CALCULATE:PARAMETER:PMD:TH? -> +1.00000000E+001

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:POWER:OFFSet

機能 POWER 解析機能のオフセット値を設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:POWER:OFFSet<wsp><NRf>[DB]**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:POWER:OFFSet?
<NRf>=offset 値 [dB]

例 **:CALCULATE:PARAMETER:POWER:OFFSET 1.00DB**
:CALCULATE:PARAMETER:POWER:OFFSET?
-> +1.00000000E+000

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SMSR:MASK

機能 SMSR 解析機能のマスク値を設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SMSR:MASK<wsp><NRf>[M]**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SMSR:MASK?
<NRf>= マスク値 [m]

例 **:CALCULATE:PARAMETER:SMSR:MASK 2.0nm**
:CALCULATE:PARAMETER:SMSR:MASK ?
-> +2.00000000E-009

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SMSR:MODE

機能 SMSR 解析機能の解析モードを設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SMSR:MODE<wsp>SMSR1|SMSR2|SMSR3|SMSR4**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SMSR:MODE?

例 **:CALCULATE:PARAMETER:SMSR:MODE SMSR1**
:CALCULATE:PARAMETER:SMSR:MODE?
-> SMSR1

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:K

機能 ENVELOPE 法によるスペクトル幅解析機能の倍率を設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:K**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:K
<NRf>= 倍率

例 **:CALCULATE:PARAMETER:SWENVELOPE:K 2.00**
:CALCULATE:PARAMETER:SWENVELOPE:K?
-> +2.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:TH1

機能 ENVELOPE 法によるスペクトル幅解析機能のサーチのしきい値を設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:TH1<wsp><NRf>[DB]**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:TH1?
<NRf>= サーチのしきい値 [dB]

例 **:CALCULATE:PARAMETER:SWENVELOPE:TH1 3.00**
:CALCULATE:PARAMETER:SWENVELOPE:TH1?
-> +3.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:TH2

機能 ENVELOPE 法によるスペクトル幅解析機能のしきい値を設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:TH2<wsp><NRf>[DB]**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWENvelope:TH2?
<NRf>= しきい値 [dB]

例 **:CALCULATE:PARAMETER:SWENVELOPE:TH2 10.00db**
:CALCULATE:PARAMETER:SWENVELOPE:TH2?
-> +1.00000000E+001

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWPKrms:K

機能 PEAK-RMS 法によるスペクトル幅解析機能の倍率を設定 / 問い合わせます。

構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWPKrms:K<wsp><NRf>[DB]**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWPKrms:K?
<NRf>= 倍率

例 **:CALCULATE:PARAMETER:SWPKRMS:K 2.00**
:CALCULATE:PARAMETER:SWPKRMS:K?
-> +2.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWPKrms:TH

機能 PEAK-RMS 法によるスペクトル幅解析機能のしきい値を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWPKrms:TH<wsp><NRf>[DB]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWPKrms:TH?
<NRf>= しきい値 [dB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:SWPKRMS:TH 3.00db
:CALCULATE:PARAMETER:SWPKRMS:TH?
-> +3.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWRMs:K

機能 RMS 法によるスペクトル幅解析機能の倍率を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWRMs:K<wsp><NRf>[DB]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWRMs:K?
<NRf>= 倍率

例 :CALCULATE:PARAMETER:SWRMS:K 2.00
:CALCULATE:PARAMETER:SWRMS:K?
-> +2.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWRMs:TH

機能 RMS 法によるスペクトル幅解析機能のしきい値を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWRMs:TH<wsp><NRf>[DB]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWRMs:TH?
<NRf>= しきい値 [dB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:SWRMS:TH 3.00db
:CALCULATE:PARAMETER:SWRMS:TH?
-> +3.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHResh:K

機能 THRESH 法によるスペクトル幅解析機能の倍率を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHResh:K<wsp><NRf>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHResh:K?
<NRf>= 倍率

例 :CALCULATE:PARAMETER:SWTHRESH:K 2.00
:CALCULATE:PARAMETER:SWTHRESH:K?
-> +2.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHresh:MFIT

機能 THRESH 法によるスペクトル幅解析機能のモードフィットを有効にするかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHresh:MFIT<wsp>OFF|ON|0|1
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHresh:MFIT?
応答 0=OFF、1=ON

例 :CALCULATE:PARAMETER:SWTHRESH:MFIT ON
:CALCULATE:PARAMETER:SWTHRESH:MFIT?
-> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHresh:TH

機能 THRESH 法によるスペクトル幅解析機能のしきい値を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHresh:TH<wsp><NRf>[DB]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:SWTHresh:TH?
<NRf>= しきい値 [dB]

例 :CALCULATE:PARAMETER:SWTHRESH:TH 3.00DB
:CALCULATE:PARAMETER:SWTHRESH:TH?
-> +3.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM:

DMASK

機能	WDM 解析機能のチャンネル・マスクしきい値を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DMASK<wsp><NRf>[DB] :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DMASK? <NRf>= しきい値 [dB](-999: マスク OFF)
例	:CALCULATE:PARAMETER:WDM:DMASK -999 :CALCULATE:PARAMETER:WDM:DMASK? -> -9.99000000E+002
解説	<ul style="list-style-type: none"> レベルがこのパラメータ以下のチャンネルは、チャンネルとして検出されません。 チャンネルマスク機能を OFF にするには、しきい値として -999 を設定します。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM:

DTYPE

機能	WDM 解析機能の解析結果の表示形式を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DTYPE<wsp><display type> :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DTYPE? <display type>= 表示形式 ABSolute= 絶対値表示 RELative= 相対値表示 MDRift= 過去の測定波長を基準としたドリフト値表示 GDRift= グリッド波長を基準としたドリフト値表示
応答	0= 絶対値表 1= 相対値表示 2= 過去の測定波長を基準としたドリフト値表示 3= グリッド波長を基準としたドリフト値表示
例	:CALCULATE:PARAMETER:WDM:DTYPE: ABSOLUTE :CALCULATE:PARAMETER:WDM:DTYPE: ABSOLUTE? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none"> AQ6373/AQ6373B の場合、次の <display type> を設定できません。 GDRift, RELative シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM:

DUAL

機能	WDM 解析機能の SNR 計算モードを設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DUAL<wsp>OFF ON 0 1 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DUAL? 応答 0=OFF、1=ON
例	:CALCULATE:PARAMETER:WDM:DUAL ON :CALCULATE:PARAMETER:WDM:DUAL? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> この設定値が ON のときは、SNR の計算に TRACE A と TRACE B のデータを使用します。 この設定値が OFF のときは、SNR の計算にアクティブトレースのデータを使用します。 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM:

FALGo

機能	WDM 解析機能のノイズレベル測定時のフィッティング関数を設定 / 問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: FALGo<wsp><algorithm> :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: FALGo? <algorithm>= フィッティング関数 LINEar: LINEAR GAUSS: GAUSS LOREnz: LORENZ 3RD: 3RD POLY 4TH: 4YH POLY 5TH: 5TH POLY
応答	0=LINEAR 1=GAUSS 2=LORENZ 3=3RD POLY 4=4YH POLY 5=5TH POLY
例	:CALCULATE:PARAMETER:WDM:FALGO GAUSS :CALCULATE:PARAMETER:WDM:FALGO? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:IRANge

機能	WDM 解析機能の信号光パワー算出時の積分周波数範囲を設定／問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:IRANge<wsp><NRf> :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:IRANge?
例	<NRf> 積分周波数範囲 [GHz] :CALCulate:PARAMeter:WDM:IRANge 40 :CALCulate:PARAMeter:WDM:IRANge? ->4.00000000E+001
解説	・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375 では無効なコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MARea

機能	WDM 解析機能のノイズレベル測定時のマスク範囲を設定／問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MARea<wsp><NRf> [M] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MARea?
例	:CALCulate:PARAMeter:WDM:MAREA 0.40NM :CALCulate:PARAMeter:WDM:MAREA? -> +4.00000000E-10
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MDIFF

機能	WDM 解析機能のチャネル検出の山谷差を設定／問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MDIFF<wsp><NRf> [DB] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MDIFF? <NRf>= 山谷差の値 [dB]
例	:CALCulate:PARAMeter:WDM:MDIFF 3.00DB :CALCulate:PARAMeter:WDM:MDIFF
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MMReset

機能	WDM 解析機能のドリフト値の MAX 値と MIN 値をリセットします。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:MMReset
例	:CALCulate:PARAMeter:WDM:MMRESET
解説	・ "DISPLAY TYPE" (:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:DTYpe コマンドにより設定) が "DRIFT" 以外の場合は、実行エラーになります。 ・シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NALGo

機能	WDM 解析機能のノイズレベル測定のアロリズムを設定／問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NALGo<wsp><algorhythm> :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NALGo? <algorhythm>= アルゴリズム AFIX 0= AUTO FIX MFIx 1= MANUAL FIX ACENter 2= AUTO CENTER MCENter 3= MANUAL CENTER PIT 4= PIT
応答	0=AUTO FIX 1=MANUAL FIX 2= AUTO CENTER 3=MANUAL CENTER 4=PIT
例	:CALCulate:PARAMeter:WDM:NALGO ACENTER :CALCulate:PARAMeter:WDM:NALGO? -> 2
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NARea

機能	WDM 解析機能のノイズレベル測定時の測定範囲を設定／問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NARea<wsp><NRf> [M] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NARea? <NRf>=NOISE AREA [m]
例	:CALCulate:PARAMeter:WDM:NAREA 0.80NM :CALCulate:PARAMeter:WDM:NAREA? -> +8.00000000E-10
解説	シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NBW

機能	WDM 解析機能のノイズ帯域幅を設定／問い合わせます。
構文	:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NBW<wsp><NRf> [M] :CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:NBW? <NRf>= ノイズ帯域幅 [m]
例	:CALCulate:PARAMeter:WDM:NBW 0.10NM :CALCulate:PARAMeter:WDM:NBW? -> +1.00000000E-010
解説	シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:OSLOpe

- 機能 WDM 解析機能の最小自乗近似直線を求める機能を有効にするかどうかを設定 / 問い合わせます。
- 構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:OSLOpe**<wsp>**OFF|ON|0|1**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:OSLOpe?
応答 0=OFF、1=ON
- 例 **:CALCULATE:PARAMETER:WDM:OSLOP ON**
:CALCULATE:PARAMETER:WDM:OSLOP? -> 1
- 解説
- この設定値が ON のときは、各チャネルのピークの最小自乗直線を計算し、波形画面上に描画します。
 - シーケンシャルコマンドです

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:PDISplay

- 機能 WDM 解析機能のフィッティングに使用したデータを波形画面上に表示するかどうかを設定 / 問い合わせます。
- 構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:PDISplay**<wsp>**OFF|ON|0|1**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:PDISplay?
応答 0=OFF、1=ON
- 例 **:CALCULATE:PARAMETER:WDM:PDISPLAY ON**
:CALCULATE:PARAMETER:WDM:PDISPLAY? -> 1
- 解説
- この設定値が ON のときは、フィッティングに使用したデータを波形画面上に表示します。
 - シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:RCH

- 機能 WDM 解析機能のオフセット波長 / レベルの計算時の基準チャネルを設定 / 問い合わせます。
- 構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:RCH**<wsp><integer>
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:RCH?
<integer>= 基準チャネル番号
(0: 最もレベルの大きいチャネル)
- 例 **:CALCULATE:PARAMETER:RCH 10**
:CALCULATE:PARAMETER:RCH? -> 10
- 解説
- この設定値が 0 のときは、最もレベルの大きいチャネルが基準チャネルになります。
 - シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:RELation

- 機能 WDM 解析機能の波長 / レベル相対値の表示形式を設定 / 問い合わせます。
- 構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:RELation**<wsp>**OFFSET|SPACing|0|1**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:RELation?
OFFSET|0 = 任意のチャネルを基準としたオフセット値を表示
SPACing|1 = 隣のチャネルに対するオフセット値を表示
応答 0=OFFSET、1=SPACING
- 例 **:CALCULATE:PARAMETER:WDM:RELATION SPACING**
:CALCULATE:PARAMETER:WDM:RELATION? -> 1
- 解説
- "DISPLAY TYPE" (:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:DTYPE コマンドにより設定) が "ABSOLUTE" 以外の場合は、実行エラーになります。
 - シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:SPOwer

- 機能 WDM 解析機能の信号光 / パワー算出方法をを設定 / 問い合わせます。
- 構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:SPOwer**<wsp>**PEAK|INTEgral|0|1**
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:SPOwer?
PEAK|0 = モードピークを信号光 / パワーとする
INTEgral|1 = スペクトルを積分した / パワーを信号光 / パワーとする
- 例 **:CALCULATE:PARAMETER:WDM:SPOwer PEAK**
:CALCULATE:PARAMETER:WDM:SPOwer? -> 0
- 解説
- シーケンシャルコマンドです。
 - AQ6375 では無効なコマンドです。

:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:TH

- 機能 WDM 解析機能のチャネル検出のしきい値を設定 / 問い合わせます。
- 構文 **:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:TH**<wsp><NRf>[DB]
:CALCulate:PARAMeter[:CATegory]:WDM:TH?
<NRf>= しきい値 [dB]
- 例 **:CALCULATE:PARAMETER:WDM:TH 20.00db**
:CALCULATE:PARAMETER:WDM:TH -> +2.00000000E+001
- 解説 シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFBottom

機能 WDM FILTER-BTM 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
WFBottom<wsp><item>,<paramater>,<data>
:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
WFBottom?<wsp><item>,<paramater>
<item>= パラメータ設定を行う解析アイテム
<paramater>= 設定を行うパラメータ
<data>= 設定データ

<item>	<paramater>	<data>
NWAVelength	ALGO	BOTtom NPEak NBOtTom GFIT GRID
	MDIFF	<NRf>[DB]
	TH	<NRf>[DB]
	TBAND	<NRf>[M]
BWAVelength	SW	OFF ON 0 1
CWAVelength	SW	OFF ON 0 1
	ALGO	NPEak NBOtTom
	TH	<NRf>[DB]
SBAND	SW	OFF ON 0 1
	TH	<NRf>[DB]
EBAND	SW	OFF ON 0 1
	TH	<NRf>[DB]
	TBAND	<NRf>[M]
RIPple	SW	OFF ON 0 1
	TBAND	<NRf>[M]
XTALK	SW	OFF ON 0 1
	SPACing	<NRf>[M]
	TBAND	<NRf>[M]

例 :CALCULATE:PARAMETER:
WFBOTTOM NWAY,ALGO,NPEAK
:CALCULATE:PARAMETER:
WFBOTTOM? NWAY,ALGO -> NPE
:CALCULATE:PARAMETER:
WFBOTTOM BWAVELENGTH,SW,OFF
:CALCULATE:PARAMETER:
WFBOTTOM? BWAVELENGTH,SW -> 0

解説

- 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。
(NWAVelength,SPACing の組み合わせなど)
- AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WFPeak

機能 WDM FILTER-PEAK 解析機能のパラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
WFPeak<wsp><item>,<paramater>,<data>
:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:
WFPeak?<wsp><item>,<paramater>
<item>= パラメータ設定を行う解析アイテム
<paramater>= 設定を行うパラメータ
<data>= 設定データ

<item>	<paramater>	<data>
NWAVelength	ALGO	PEAK MEAN GFIT GRID
	MDIFF	<NRf>[DB]
	TH	<NRf>[DB]
	TBAND	<NRf>[M]
PWAVelength	SW	OFF ON 0 1
CWAVelength	SW	OFF ON 0 1
	TH	<NRf>[DB]
SBAND	SW	OFF ON 0 1
	TH	<NRf>[DB]
PBAND	SW	OFF ON 0 1
	TH	<NRf>[DB]
	TBAND	<NRf>[M]
RIPple	SW	OFF ON 0 1
	TBAND	<NRf>[M]
XTALK	SW	OFF ON 0 1
	SPACing	<NRf>[M]
	TBAND	<NRf>[M]

例 :CALCULATE:PARAMETER:
WFPEAK NWAY,ALGO,PEAK
:CALCULATE:PARAMETER:
WFPEAK? NWAY,ALGO -> PEAK
:CALCULATE:PARAMETER:
WFPEAK BWAVELENGTH,SW,OFF
:CALCULATE:PARAMETER:
WFPEAK? BWAVELENGTH,SW -> 0

解説

- 存在しないパラメータの組み合わせのときは実行エラーになります。
(NWAVelength,SPACing の組み合わせなど)
- AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- シーケンシャルコマンドです。

:CALCulate:PARAmeter:COMMON:MDIFF

機能 解析機能で使用するチャネル検出のための山谷差パラメータを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALCulate:PARAmeter:COMMON:
MDIFF<wsp><NRf>[DB]
:CALCulate:PARAmeter:COMMON:MDIFF?

例 :CALCULATE:PARAMETER:COMMON:
MDIFF 3.00DB
:CALCULATE:PARAMETER:COMMON:MDIFF
-> +3.00000000E+000

解説 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

CALibration Sub System コマンド

:CALibration:ALIGn[:IMMediate]

機能	内蔵の基準光源を用いてモノクロメータの光軸調整を実行します。
構文	:CALibration:ALIGn[:IMMediate]
例	:CALIBRATION:ALIGN
解説	被オーバーラップコマンドです。

:CALibration:ALIGn:EXTeRnal[:IMMediate]

機能	外部光源を用いてモノクロメータの光軸調整を実行します。
構文	:CALibration:ALIGn:EXTeRnal[:IMMediate]
例	:CALIBRATION:ALIGN:EXTERNAL
解説	<ul style="list-style-type: none">被オーバーラップコマンドですAQ6370D の基準光源無しモデル (-L0) で使用可能なコマンドです

:CALibration:ALIGn:INTeRnal[:IMMediate]

機能	内蔵の基準光源を用いてモノクロメータの光軸調整を実行します。
構文	:CALibration:ALIGn:INTeRnal[:IMMediate]
例	:CALIBRATION:ALIGN:INTERNAL
解説	<ul style="list-style-type: none">被オーバーラップコマンドですAQ6370D で使用可能なコマンドです。

:CALibration:BANDwidth[:BWIDth[:IMMediate]]

機能	分解能校正を実行します。
構文	:CALibration:BANDwidth[:BWIDth[:IMMediate]]
例	:CALIBRATION:BANDWIDTH:IMMEDIATE
解説	<ul style="list-style-type: none">分解能校正が完了すると、オペレーションステータスレジスタの Bit3 Cal/Alignment が 1 になります。詳細は 6.4 節をご覧ください。被オーバーラップコマンドです。AQ6370C/AQ6370D で使用可能なコマンドです。

:CALibration:BANDwidth[:BWIDth:INITialize]

機能	分解能校正値をクリアします。
構文	:CALibration:BANDwidth[:BWIDth:INITialize]
例	:CALIBRATION:BANDWIDTH:INITIALIZE
解説	<ul style="list-style-type: none">シーケンシャルコマンドです。AQ6370C/AQ6370D で使用可能なコマンドです。

:CALibration:BANDwidth[:BWIDth:WAVelength?]

機能	分解能校正を実行した光源の波長を問い合わせます。
構文	:CALibration:BANDwidth[:BWIDth:WAVelength?]
応答	<NRf> = 光源の波長 単位 m
例	:CALIBRATION:BANDWIDTH:WAVELENGTH? -> 1.550000000E-006
解説	<ul style="list-style-type: none">分解能校正が未実施の場合は 0 を返します。シーケンシャルコマンドです。AQ6370C/AQ6370D で使用可能なコマンドです。

:CALibration:POWer:OFFSet:TABLE

機能	レベルオフセットテーブルを設定 / 問い合わせます。
構文	:CALibration:POWer:OFFSet:TABLE<wsp><integer>,<NRf> [DB] :CALibration:POWer:OFFSet:TABLE?<wsp><integer> <integer>= 波長 [nm] <NRf>= レベルオフセット値 [dB]
例	:CALIBRATION:POWER:OFFSET:TABLE 1550,-0.1DB :CALIBRATION:POWER:OFFSET:TABLE? 1550 -> -1.000000000E-001
解説	<ul style="list-style-type: none">レベルオフセットテーブルのうち、<integer>により指定された波長のオフセット値を設定 / 問い合わせます。シーケンシャルコマンドです。

:CALibration:WAVelength:EXTeRnal[:IMMediate]

機能	外部基準光源による波長校正を実行します。
構文	:CALibration:WAVelength:EXTeRnal[:IMMediate]
例	:CALIBRATION:WAVELENGTH:EXTERNAL1
解説	<ul style="list-style-type: none">校正に使用する外部基準光源の種類は、CALibration:WAVelength:EXTeRnal:SOURce コマンドで設定されます。校正に使用する外部基準光源の波長は、CALibration:WAVelength:EXTeRnal:WAVelenght コマンドで設定されます。被オーバーラップコマンドです。

**:CALibration:WAVelength:EXternal:SOU
Rce**

機能 外部基準光源による波長校正で使用する光源の種類を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALibration:WAVelength:EXternal:
SOURce<wsp>LASer | GASCell | EMISsion
| 0 | 1 | 2
:CALibration:WAVelength:EXternal:
SOURce?

例 LASer= 外部基準光源にレーザを使用する
GASCell= 外部基準光源にガスセルを使用する
EMISsion= 外部基準光源に輝線光源を使用する
応答 0= レーザ、1= ガスセル、2= 輝線光源

例 :CALIBRATION:WAVELENGTH:EXTERNAL1:
SOURCE LASER
:CALIBRATION:WAVELENGTH:EXTERNAL1:
SOURCE? -> 0

解説

- ・ レベルオフセットテーブルのうち、<integer>により指定された波長のオフセット値を設定 / 問い合わせます。
- ・ AQ6373/AQ6373B の場合、次のパラメータを設定できません。
GASCell, 1
- ・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6375/
AQ6375B の場合、次のパラメータを設定できません。
EMISsion, 2
- ・ シーケンシャルコマンドです。

**:CALibration:WAVelength:EXternal:WAV
elength**

機能 外部基準光源による波長校正で使用する光源の波長を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALibration:WAVelength:EXternal:
WAVelength<wsp><NRf>[M]
:CALibration:WAVelength:EXternal:
WAVelength?
<NRf>= 外部基準光源の波長 [nm]

例 :CALIBRATION:WAVELENGTH:EXTERNAL1:
WAVELENGTH 1550.000NM
:CALIBRATION:WAVELENGTH:EXTERNAL1:
WAVELENGTH? -> +1.55000000E-006

解説 シーケンシャルコマンドです。

**:CALibration:WAVelength:INTernal[:IM
Mediate]**

機能 内部基準光源による波長校正を実行します。

構文 :CALibration:WAVelength:
INTernal[:IMMediate]

例 :CALIBRATION:WAVELENGTH:INTERNAL1

解説

- ・ AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・ 被オーバーラップコマンドです。

:CALibration:WAVelength:OFFSet:TABLE

機能 波長オフセットテーブルを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALibration:POWer:OFFSet:
TABLE<wsp><integer>,<NRf>
:CALibration:POWer:OFFSet:
TABLE?<wsp><integer>
<integer>= 波長 (nm で指定)
<NRf>= 波長オフセット値 (nm で指定)

例 :CALIBRATION:WAVELENGTH:OFFSET:TABLE
1550,-0.1
:CALIBRATION:WAVELENGTH:OFFSET:
TABLE? 1550 -> -1.00000000E-001

解説

- ・ 波長オフセットテーブルのうち、<integer>により指定された波長のオフセット値を設定 / 問い合わせます。
- ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALibration:ZERO[:AUTO]

機能 レベルのオートオフセット機能を有効にするかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :CALibration:ZERO[:AUTO]<wsp>
OFF|ON|0|1|ONCE
:CALibration:ZERO[:AUTO]?
応答 0=OFF、1=ON

例 :CALIBRATION:ZERO ONCE
:CALIBRATION:ZERO? -> 1

解説

- ・ 掃引停止のときに、このパラメータで "ONCE" を選択すると、オフセット調整が 1 度実行されます。このとき、この設定の ON/OFF は変化しません。
- ・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ではオフセット調整を開始した時点でこのコマンドの動作は完了します。そのため、AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ではオフセット調整実行中でも次のコマンドを実行できます。オフセット調整の実行状態は :CALibration:ZERO[:AUTO]:STATus? コマンドで問い合わせることができます。
- ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALibration:ZERO[:AUTO]:INTERval

機能 レベルのオートオフセット機能を実行する時間間隔を設定 / 問い合わせます。

構文 :CALibration:ZERO[:AUTO]:INTERval<wsp>
<integer>
:CALibration:ZERO[:AUTO]:INTERval?
<integer>= 実行間隔 (分単位で指定)

例 :CALIBRATION:ZERO:INTERVAL 20
:CALIBRATION:ZERO:INTERVAL? -> 20

解説

- ・ このパラメータで時間を設定すると、実行時を起点として、設定された時間間隔でオートオフセット調整が実行されます。
- ・ AQ6373/AQ6373B に有効なコマンドです。
- ・ シーケンシャルコマンドです。

:CALibration:ZERO[:AUTO]:STATus?

機能 オフセットの実行状態を問い合わせます。

構文 :CALibration:ZERO[:AUTO]:STATus?

0: オフセット実行中ではない。

1: オフセット実行中である。

例 :CALIBRATION:ZERO:STATUS? -> 1

解説

- ・ シーケンシャルコマンドです。
- ・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

DISPlay Sub System コマンド

:DISPlay:COLOr

機能 画面色のモードを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay:COLOr<wsp><mode>

:DISPlay:COLOr?

<mode>= 画面色モード

0= 白黒モード

1～5= モード 1～5

例 :DISPLAY:COLOR 1

:DISPLAY:COLOR? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]

機能 画面表示をするかしないかを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]<wsp>OFF|ON|0|1

:DISPlay[:WINDow]?

応答 0=OFF、1=ON

例 :DISPLAY OFF

:DISPLAY? -> 0

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:OView:POSition

機能 ZOOM 時に表示される OVER VIEW 表示の ON/OFF や位置を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:OView:

POSition<wsp>OFF|LEFT|RIGHT|0|1|2

:DISPlay[:WINDow]:OView:POSition?

OFF= 表示 OFF

LEFT= 画面左側に表示

RIGHT= 画面右側に表示

応答 0=OFF、1=LEFT、2=RIGHT

例 :DISPLAY:OVIEW:POSITION RIGHT

:DISPLAY:OVIEW:POSITION? -> 2

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:OView:SIZE

機能 ZOOM 時に表示される OVER VIEW 表示のサイズを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:OView:

SIZE<wsp>LARGE|SMALL|0|1

:DISPlay[:WINDow]:OView:SIZE?

LARGE=OVERVIEW サイズ大

SMALL= OVERVIEW サイズ小

応答 0=LARGE、1=SMALL

例 :DISPLAY:OVIEW:SIZE LARGE

:DISPLAY:OVIEW:SIZE? -> 0

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:SPLit

機能 画面表示を 2 分割にするかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:

SPLit<wsp>OFF|ON|0|1

:DISPlay[:WINDow]:SPLit?

応答 0=OFF、1=ON

例 :DISPLAY:SPLIT ON

:DISPLAY:SPLIT? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:LOWer

機能 2 分割表示のときに、下側に割り当てられたトレースを固定するかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:

LOWer<wsp>OFF|ON|0|1

:DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:LOWer?

応答 0=OFF、1=ON

例 :DISPLAY:SPLIT:HOLD:LOWER ON

:DISPLAY:SPLIT:HOLD:LOWER? -> 1

解説

- ・画面表示が 2 分割表示モードになってないときは実行エラーになります。

:DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:UPPer

機能 2 分割表示時に、上側に割り当てられたトレースを固定するかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:

UPPer<wsp>OFF|ON|0|1

:DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD:UPPer?

応答 0=OFF、1=ON

例 :DISPLAY:SPLIT:HOLD:UPPER ON

:DISPLAY:SPLIT:HOLD:UPPER? -> 1

解説

- ・画面表示が 2 分割表示モードになってないときは実行エラーになります。
- ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition

機能 2 分割表示時に、トレースを上段画面と下段画面のどちらに表示するかを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:SPLit

:POSition<wsp><trace name>,UP|LOW|0|1

:DISPlay[:WINDow]:SPLit:

POSition?<wsp><trace name>

<trace name>= トレース名

(TRA,TRB,TRC,TRD,TRE,TRF,TRG)

UP= 上段に表示

LOW= 下段に表示

応答 0=UP、1=LOW

例 :DISPLAY:SPLIT:POSITION TRA,UP

:DISPLAY:SPLIT:POSITION? TRA -> 0

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TEXT:CLear

機能 ラベルを消去します。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TEXT:CLear
 例 :DISPLAY:TEXT:CLEAR
 解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TEXT:DATA

機能 ラベルを設定 / 問い合わせます。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TEXT:
 DATA<wsp><string>
 :DISPlay[:WINDow]:TEXT:DATA?
 <string>= ラベル文字列 (最大 56 文字)
 例 :DISPLAY:TEXT:
 DATA "Optical Spectrum Analyzer"
 :DISPLAY:TEXT:DATA?
 -> Optical Spectrum Analyzer
 解説
 ・ ラベル文字列は最大 56 文字。57 文字以上指定した場合、57 文字目以降は無視されます。
 ・ ラベルがない場合には、スペース 1 文字を戻します。
 ・ シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:CENTer

機能 表示スケールの X 軸の中心波長を設定 / 問い合わせます。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 CENTER<wsp><NRf>[M|HZ]
 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 CENTER?
 <NRf>= 中心波長 [m|Hz]
 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B
 の場合
 <NRf> [m|Hz]
 AQ6375/AQ6375B の場合
 <NRf> [m|Hz|m⁻¹]
 例 :DISPLAY:TRACE:X:CENTER 1550.000NM
 :DISPLAY:TRACE:X:CENTER?
 -> +1.550000000E-006
 解説
 ・ シーケンシャルコマンドです。
 ・ AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:INITialize

機能 表示スケールの X 軸パラメータを初期化します。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 INITialize
 例 :DISPLAY:TRACE:X:INITIALIZE
 解説
 ・ 本コマンド実行後、以下のパラメータが測定スケールで初期化されます。
 ZOOM CENTER, ZOOM SPAN, ZOOM START, ZOOM STOP
 ・ シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SMScale

機能 現在の表示スケールのパラメータを、測定スケールに設定します。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 SMScale
 例 :DISPLAY:TRACE:X:SMSCALE
 解説
 ・ 本コマンド実行後、以下のパラメータが表示スケールで初期化されます。
 CENTER, SPAN, START, STOP
 ・ シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SPAN

機能 表示スケールの X 軸のスパンを設定 / 問い合わせます。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 SPAN<wsp><NRf>[M|HZ]
 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SP
 AN?
 <NRf>= スパン [m|Hz]
 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B
 の場合
 <NRf> [m|Hz]
 AQ6375/AQ6375B の場合
 <NRf> [m|Hz|m⁻¹]
 例 :DISPLAY:TRACE:X:SPAN 20.0NM
 :DISPLAY:TRACE:X:SPAN? ->
 +2.000000000E-008
 解説
 ・ シーケンシャルコマンドです。
 ・ AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:SRAnge

機能 解析範囲を表示スケールの範囲に限定するかどうかを設定 / 問い合わせます。
 構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 SRAnge<wsp>OFF|ON|0|1
 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
 SRAnge?
 応答 0=OFF、1=ON
 例 :DISPLAY:TRACE:X:SRANGE on
 :DISPLAY:TRACE:X:SRANGE? -> 1
 解説 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:ST

ARt

機能 表示スケールの X 軸の開始波長を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
START<wsp><NRf>[M|HZ]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
START?

<NRf> = 開始波長 [m|Hz]

応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B
の場合

<NRf> [m|Hz]

AQ6375/AQ6375B の場合

<NRf> [m|Hz|m⁻¹]

例 :DISPLAY:TRACE:X:START 1540.000NM
:DISPLAY:TRACE:X:START?
-> +1.54000000E-006

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:ST

OP

機能 表示スケールの X 軸の終了波長を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
STOP<wsp><NRf>[M|HZ]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:X[:SCALe]:
STOP?

<NRf> = 終了波長 [m|Hz]

応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B
の場合

<NRf> [m|Hz]

AQ6375/AQ6375B の場合

<NRf> [m|Hz|m⁻¹]

例 :DISPLAY:TRACE:X:STOP 1560.000NM
:DISPLAY:TRACE:X:STOP?
-> +1.56000000E-006

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMAsk

機能 設定されたしきい値以下のレベルの波形表示をマスクするかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:
NMAsk<wsp><NRf>[DB]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMAsk?
<NRf>= しきい値 [dB](-999: マスク機能 OFF)

例 :DISPLAY:TRACE:Y:MASK -999
:DISPLAY:TRACE:Y:MASK? ->
-9.99000000E+002

解説

- ・レベルがこのパラメータ以下の波形表示はマスクされます。
- ・マスク機能を OFF にするには、しきい値として -999 を設定します。
- ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMAsk:TYPE

機能 しきい値以下のレベルの波形表示をマスクするときの表示方法を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMAsk:
TYPE<wsp>VERTical|HORizontal|0|1
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMAsk:TYPE?
VERTical = マスク値以下をゼロとして波形表示
HORizontal = マスク値以下をマスク値として波形表示

応答 0=VERTical、1=HORizontal

例 :DISPLAY:TRACE:Y:MASK:TYPE VERTICAL
:DISPLAY:TRACE:Y:MASK:TYPE? -> 0

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:DN

UmbEr

機能 レベル軸の表示分割数を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:
DNUmber<wsp>8|10|12
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y[:SCALe]:
DNUmber?

8、10、12 = 表示分割数

例 :DISPLAY:TRACE:Y:DNUMBER 10
:DISPLAY:TRACE:Y:DNUMBER? -> 10

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:BLEVel

機能 レベル軸のメインスケールがリニア時のベースレベルを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
BLEVel<wsp><NRf>[W]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
BLEVel?

<NRf>= ベースレベル値 [W]

例 :DISPLAY:TRACE:Y1:BLEVEL 1.0MW
:DISPLAY:TRACE:Y1:BLEVEL?
-> +1.00000000E-003

解説

- ・W 以外の単位が指定されたときは実行エラーになります。
- ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:PDIVision

機能 レベル軸のメインスケールを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
PDIVision<wsp><NRF>[DB]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
PDIVision?

例 <NRF> = レベルスケール [dB]
:DISPLAY:TRACE:Y1:PDIV 5.0DB
:DISPLAY:TRACE:Y1:PDIV?
-> +5.00000000E+000

解説 ・ dB 以外の単位が指定されたときは実行エラーになります。
・ シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:RLEVEL

機能 レベル軸のメインスケールの基準レベルを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
RLEVEL<wsp><NRF>[DBM | W]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
RLEVEL?

例 <NRF> = 基準レベル [dBm | W]
:DISPLAY:TRACE:Y1:RLEVEL -30dbm
:DISPLAY:TRACE:Y1:RLEVEL?
-> -3.00000000E+001

解説 ・ パラメータで単位を省略したときは、レベル軸のメインスケールが LOG モードなら DBM、リニアモードなら W で設定されます。
・ レベル軸のメインスケールの LOG/ リニアモードの設定状態と、本コマンドのパラメータで指定された単位が一致しないときは、メインスケールの LOG/ リニアモードに合わせて本コマンドのパラメータが解釈されます (スケールの単位は変更されない)。例えば、メインスケールが LOG の場合に、本コマンドにより基準レベルを 1mW に設定すると、基準レベルは 0dBm に設定されます。
・ シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:RPOSITION

機能 レベル軸のメインスケールの基準レベルの位置を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
RPOSITION<wsp><integer>[DIV]
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
RPOSITION?
<integer> = 基準レベルの位置

例 :DISPLAY:TRACE:Y1:RPOSITION 10DIV
:DISPLAY:TRACE:Y1:RPOSITION? -> 10

解説 ・ レベル軸の表示分割数設定以上の値を基準レベルの位置に指定した場合は、基準レベルの位置はスケールの一番上になります。
・ シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:SPACING

機能 レベル軸のメインスケールのスケールモードを設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
SPACING<wsp>LOGarithmic|LINear|0|1
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:SP
ACING?

LOGarithmic = LOG スケール
LINear = リニアスケール
応答 0 = LOGarithmic、1 = LINear

例 :DISPLAY:TRACE:Y1:SPACING LINIER
:DISPLAY:TRACE:Y1:SPACING? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:UNIT

機能 レベル軸のメインスケールの単位を設定 / 問い合わせます。

構文 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
UNIT<wsp><unit>
:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]:
UNIT?

DBM = dBm
W = W
DBM/NM = dBm/nm または dBm/THz
W/NM = W/nm または W/THz
応答 0 = dBm
1 = W
2 = DBM/NM
3 = W/NM

例 :DISPLAY:TRACE:Y1:UNIT DBM/NM
:DISPLAY:TRACE:Y1:UNIT? -> 2

解説 ・ シーケンシャルコマンドです。
・ AQ6375 の場合、波数モードのときはパラメータを設定できません。波数モードのときでも、クエリコマンドは動作します。

7.6 機器固有コマンド

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:AUTO

機能	レベル軸のサブスケールの自動設定機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: AUTO<wsp>OFF ON 0 1 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: AUTO? 応答 0=OFF、1=ON
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:AUTO ON :DISPLAY:TRACE:Y2:AUTO? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:LENGTH

機能	レベル軸のサブスケールの単位が dB/km 時に使用される光ファイバーの長さを設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: LENGTH<wsp><NRf>[KM] :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: LENGTH? <NRf>= 光ファイバーの長さ [km]
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:LENGTH 99.999KM :DISPLAY:TRACE:Y2:LENGTH? -> +9.999900000E+001
解説	・サブスケールの単位が "dB/km" 以外に設定されているときは、実行エラーになります。 ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:OLEVel

機能	レベル軸のサブスケールのオフセットレベルを設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: OLEVel<wsp><NRf>[DB DB/KM] :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:OL EVel? <NRf> = オフセットレベル [dB dB/km]
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:OLEVEL 10DB/KM :DISPLAY:TRACE:Y2:OLEVEL? -> +1.000000000E+001
解説	・サブスケールの単位に "dB", "dB/km" 以外が設定されているときは、実行エラーになります。 ・パラメータで単位を省略したときは、レベル軸のサブスケールが dB モードなら dB、dB/km モードのなら dB/km で設定されます。 ・現在のサブスケールの設定単位 (:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:UNIT) と異なる単位が指定された場合は、実行エラーになります。 ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:PDIVision

機能	レベル軸のサブスケールを設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: PDIVision<wsp><NRf>[DB DB/KM %] :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: PDIVision? <NRf>= レベルスケール [dB dB/km %]
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:PDIVISION 5.0% :DISPLAY:TRACE:Y2:PDIVISION? -> +5.000000000E+000
解説	・パラメータで単位を省略したときは、レベル軸のサブスケールの設定単位が、このパラメータの設定単位として使用されます。 ・現在のサブスケールの設定単位 (:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:UNIT) と異なる単位が指定された場合は、実行エラーになります。 ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:RPOSITION

機能	レベル軸のサブスケールの基準レベルの位置を設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: RPOSITION<wsp><integer>[DIV] :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: RPOSITION? <integer>= 基準レベルの位置
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:RPOSITION 10DIV :DISPLAY:TRACE:Y2:RPOSITION? -> 10
解説	・レベル軸の表示分割数設定以上の値を基準レベルの位置に指定した場合は、基準レベルの位置はスケールの一番上になります。 ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:SMINimum

機能	レベル軸のサブスケールがリニアまたは % の設定時の、スケール下端の値を設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: SMINimum<wsp><NRf>[%] :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: SMINimum? <NRf>= スケール下端の値 [%]
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:SMINIMUM 0% :DISPLAY:TRACE:Y2:SMINIMUM? -> 0
解説	・パラメータで単位を省略したときは、レベル軸のサブスケールの設定単位が、このパラメータの設定単位として使用されます。 ・現在のサブスケールの設定単位 (:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]:UNIT) と異なる単位が指定された場合は、実行エラーになります。 ・シーケンシャルコマンドです。

:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALE]:UNIT

機能	レベル軸のサブスケールの単位を設定 / 問い合わせます。
構文	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALE]:UNIT<wsp><unit> :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALE]:UNIT? <unit>= 単位 DB=dB 表示 LINear= リニア表示 DB/KM=dB/km 表示 %= % 表示
応答	0=DB 1=LINear 2=DB/KM 3=%
例	:DISPLAY:TRACE:Y2:UNIT DB/KM :DISPLAY:TRACE:Y2:UNIT? -> 2
解説	シーケンシャルコマンドです。

FORMat Sub System コマンド

:FORMat[:DATA]

機能	GP-IB でのデータ転送に用いられるフォーマットを設定 / 問い合わせます。
構文	:FORMat[:DATA]<wsp>REAL[, 64 , 32] ASCII :FORMat[:DATA]?
例	ASCII=ASCII フォーマット (default) REAL[,64]=REAL フォーマット (64bits) REAL,32=REAL フォーマット (32bits) FORMAT:DATA REAL, 64 FORMAT:DATA? -> REAL, 64 FORMAT:DATA REAL, 32 FORMAT:DATA? -> REAL, 32 FORMAT:DATA ASCII FORMAT:DATA? -> ASCII
解説	<ul style="list-style-type: none"> 本コマンドにより REAL フォーマット (バイナリ) に設定した場合、以下のコマンドの出力データが REAL フォーマットで出力されます。 :CALCulate:DATA:CGAin? :CALCulate:DATA:CNF? :CALCulate:DATA:CPOWers? :CALCulate:DATA:CSNR? :CALCulate:DATA:CWAVelengths? :TRACe[:DATA]:X? :TRACe[:DATA]:Y? 初期値は ASCII モードです。 *RST コマンド実行時には ASCII モードにリセットされます。 ASCII フォーマットは、数値をカンマで区切ったリストで出力されます。 例: 12345,12345,.... REAL フォーマットはデフォルトでは 64bits 浮動小数点バイナリ数値の固定長ブロックで出力されます。 パラメータで "REAL,32" と指定した場合は、32bits 浮動小数点バイナリで出力されます。 固定長ブロックは IEEE 488.2 で定義されており、"#"(ASCII)、このあとの長さ指定のバイト数を表す 1 個の数字 (ASCII)、長さ指定 (ASCII)、指定された長さのバイナリデータの順で構成されます。バイナリデータは 8bytes (64bits) または 4bytes(32bits) の浮動小数点のデータ列で構成されます。浮動小数点データは下位バイトから上位バイトの順で構成されます。 例: #18[8 個の <byte data>] #280[80 個の <byte data>] #48008[8008 個の <byte data>] 32bits 浮動小数点バイナリで出力されるデータでは、64bits 浮動小数点バイナリで転送した場合に比べて、数値の桁落ちが発生する場合があります。 シーケンシャルコマンドです。

HCOPY Sub System コマンド

:HCOPY:DESTination

機能	印刷の出力先を設定 / 問い合わせます。
構文	:HCOPY:DESTination<wsp>INTernal FILE 0 2 :HCOPY:DESTination? INTernal= 内蔵プリンタ FILE= ファイル 応答 0=INTernal 2=FILE
例	:HCOPY:DESTINATION FILE :HCOPY:DESTINATION? -> 2
解説	<ul style="list-style-type: none"> シーケンシャルコマンドです。 AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では INTernal パラメータは使用できません。

:HCOPY[:IMMediate]

機能	画面表示のハードコピーを実行します。
構文	:HCOPY[:IMMediate]
例	:HCOPY
解説	被オーバーラップコマンドです。

:HCOPY[:IMMediate]:FEED

機能	内蔵プリンタのペーパーのフィードを実行します。
構文	:HCOPY[:IMMediate]: FEED<wsp>[<integer>] <integer> = フィード量を 1 ~ 10 で指定 (単位 : × 5mm)
例	:HCOPY:FEED
解説	<ul style="list-style-type: none"> <integer> を省略したときは約 5mm ペーパーフィードします。 シーケンシャルコマンドです。 AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では使用できないコマンドです。

:HCOPY[:IMMediate]:FUNCTION:CALCulate:LIST

機能	解析機能の実行結果を印刷します。
構文	:HCOPY[:IMMediate]:FUNCTION: CALCulate:LIST
例	:HCOPY:FUNCTION:CALCULATE:LIST
解説	<ul style="list-style-type: none"> 解析機能が未実施の場合は実行エラーになります。 被オーバーラップコマンドです。

:HCOPY[:IMMediate]:FUNCTION:MARKer:LIST

機能	マーカリストを印刷します。
構文	:HCOPY[:IMMediate]:FUNCTION:MARKer: LIST
例	:HCOPY:FUNCTION:MARKER:LIST
解説	<ul style="list-style-type: none"> マーカが存在しない場合でも実行エラーにはなりません。 被オーバーラップコマンドです。

INITiate Sub System コマンド

:INITiate[:IMMediate]

機能	掃引を実行します。
構文	:INITiate[:IMMediate]
例	:INITiate
解説	<ul style="list-style-type: none"> 掃引は :ABORT コマンドで停止できます。 掃引モード (AUTO, SINGLE, REPEAT, SEGMENT MEASURE) は、:INITiate:SMODE コマンドで設定します。 掃引モードが REPEAT に設定 (:INITiate:SMODE REPEAT) されている場合、本コマンドを実行しすると、掃引を開始した時点でコマンドの動作を完了します。この場合、本コマンドはシーケンシャルコマンドになります。 掃引モードが AUTO, SINGLE, SEGMENT MEASURE のいずれかの場合、本コマンドを実行すると、掃引が終了した時点でコマンドの動作を完了します。この場合、本コマンドは、被オーバーラップコマンドになります。

:INITiate:SMODE

機能	掃引モードを設定 / 問い合わせます。
構文	:INITiate:SMODE<wsp><sweep mode> :INITiate:SMODE? <sweep mode>= 掃引モード SINGLE= SINGLE 掃引モード REPEAT= REPEAT 掃引モード AUTO= AUTO 掃引モード SEGMENT= SEGMENT
応答	1=SINGLE 2=REPEAT 3=AUTO 4=SEGMENT
例	:INITiate:SMODE REPEAT :INITiate:SMODE? -> 2
解説	シーケンシャルコマンドです。

MEMory Sub System コマンド

:MEMory:CLEar

機能	指定した波形メモリの内容をクリアします。
構文	:MEMory:CLEar<wsp><integer> <integer> = メモリ番号
例	:MEMORY:CLEAR 10
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定された波形メモリが既にクリアされている場合でも、実行エラーにはならない。 シーケンシャルコマンドです。

:MEMory:EMPTy?

機能	指定した波形メモリに波形が登録済みかどうかを問い合わせます。
構文	:MEMory:EMPTy?<wsp><integer> <integer> = メモリ番号
例	:MEMORY:EMPTY? 10 -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:MEMory:LOAD

機能	指定した波形メモリから、指定したトレースに波形を取得します。
構文	:MEMory:LOAD<wsp><integer>, <trace name> <integer> = メモリ番号 <trace name> = トレース (TRA,TRB,TRC,TRD,TRE,TRF,TRG)
例	:MEMORY:LOAD 10,TRA
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定した波形メモリに波形が未登録の場合は、WARNING メッセージが表示されます。 シーケンシャルコマンドです。

:MEMory:STORe

機能	指定したトレースの波形を、指定した波形メモリに保存します。
構文	:MEMory:STORe<wsp><integer>, <trace name> <integer> = メモリ番号 <trace name> = トレース (TRA,TRB,TRC,TRD,TRE,TRF,TRG)
例	:MEMORY:STORE 10,TRA
解説	<ul style="list-style-type: none"> 指定したトレースに波形データがない場合は、WARNING メッセージが表示されます。 シーケンシャルコマンドです。

MMEMory Sub System コマンド

概要

- ・ <"filename"> にディレクトリ名を含む場合は、以下の方法で指定します。
 - ・ 絶対パス指定
<"file name"> の先頭が文字 "\" の場合は絶対パス指定。
 - ・ 相対パス指定
<"file name"> の先頭が文字 "\" 以外の場合は、現在のカレントディレクトリからの相対パス指定。
カレントディレクトリは、:MMEMory:CDIRectory コマンドで指定します。
- ・ INTernal|EXTernal の指定が省略された場合は、カレントドライブに対するアクセスになります。
カレントドライブは、:MMEMory:CDrive コマンドで指定します。
- ・ ファイルの保存時にファイル名の拡張子を省略した場合、データの種類の応じた拡張子が付加されます。
- ・ ファイルを読み込むときは、ファイル名の拡張子を省略できません。

:MMEMory:ANAMe

機能	自動ファイル名の命名規則を設定 / 問い合わせます。
構文	:MMEMory:ANAMe<wsp>NUMBer DATE 0 1 :MMEMory:ANAMe? NUMBer 0 番号 DATE 1 タイムスタンプ
例	:MMEMORY:ANAME DATE :MMEMORY:ANAME? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none"> AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B 用のコマンドです。 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:CATalog?

機能	カレントディレクトリの全ファイルリストを問い合わせます。
構文	:MMEMory:CATalog?<wsp>[INTernal EXTernal][,<directory name>] INTernal = 内部メモリのカレントディレクトリ内のファイルリストを取得 EXTernal = USB ストレージメディアのカレントディレクトリ内のファイルリストを取得 directory name = ディレクトリ名 応答 <free size>,<file number>,<file name>, <file name>,<...>,<file name> <free size> = <NRf> ディスクの空きサイズ [KB](1KB=1024bytes) <file number> = <integer> ファイルの数 <file name> = ファイル名
例	:MMEMORY:CATALOG? INTERNAL,"\\TEST\\SAMPLE" -> +1.91176800E+006,2, test0001.wv6,test0002.wv6
解説	シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:MMEMory:CDIRectory

機能 カレントディレクトリを変更 / 問い合わせます。
構文 :MMEMory:CDIRectory<wsp>
<directory name>
:MMEMory:CDIRectory?
<directory name>= 変更するディレクトリ名
例 :MMEMORY:CDIRECTORY "\test\sample"
:MMEMORY:CDIRECTORY? -> \test\sample
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:CDRive

機能 カレントドライブを変更 / 問い合わせます。
構文 :MMEMory:CDRive<wsp>INTERNAL|
EXTERNAL
:MMEMory:CDRive?
INTERNAL= カレントドライブを内蔵メモリにと
する
EXTERNAL= カレントドライブを外部 USB スト
レージにする
例 :MMEMORY:CDRIVE INTERNAL
:MMEMORY:CDRIVE -> INT
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:COPY

機能 指定したファイルをコピーします。
構文 :MMEMory:COPY<wsp>
<"source file name">[,INTERNAL|
EXTERNAL],<"destination file name">
[,INTERNAL| EXTERNAL]
<"source file name">= コピー元のファイル名
<"destination file name">= コピー先のファイル名
例 :MMEMORY:COPY "test001.wv6"
,, "test002.wv6"
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:DATA?

機能 指定したファイルのデータを取得します。
構文 :MMEMory:DATA?<wsp><"file name">
[,INTERNAL| EXTERNAL]
<"file name">= 読み込み対象となるファイル名
応答 読み込みデータ ('#' で始まる固定長
binary block data)
例 :MMEMORY:DATA? "test.csv",internal ->
#18ABCDEFGH
解説
・ 転送できるファイルのサイズは 1MB 以内です。
・ 固定長ブロックデータのフォーマットについて
は、:FORMat コマンドを参照してください。
・ シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:DElete

機能 指定したファイルを削除します。
構文 :MMEMory:DElete<wsp><"file name">
[,INTERNAL| EXTERNAL]
<"file name">= 削除するファイルのファイル名
例 :MMEMORY:DELETE "test002.wv6",
internal
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:LOAD:ATRace

機能 指定した波形ファイル (全トレース) をトレース
に読み込みます
構文 :MMEMory:LOAD:ATRace<wsp>
<"file name"> [,INTERNAL|EXTERNAL]
<"file name">= 読み込むファイルのファイル名
INTERNAL|EXTERNAL= 読み込み元のドライブ
例 :MMEMORY:LOAD:ATRACE "test001.csv",
internal
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:LOAD:DLOGging

機能 指定したデータロギングファイルを読み込みま
す。
構文 :MMEMory:LOAD:DLOGging<wsp><"filename
>[,INTERNAL|EXTERNAL]
<"filename">= 読み込むファイルのファイル名
INTERNAL|EXTERNAL= 読み込み元のドライブ
例 :MMEMORY:LOAD:DLOGGING "test001.
LG8", INTERNAL
解説
・ データロギング実行中は本コマンドは無効にな
ります。
・ シーケンシャルコマンドです。
・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可
能なコマンドです。

MMEMory:LOAD:MEMory

機能 指定した波形ファイルを指定したメモリに読み込
みます。
構文 :MMEMory:LOAD:MEMory<wsp><integer>,
<"file name">[,INTERNAL| EXTERNAL]
<integer>= 読み込むメモリ番号
<"file name">= 読み込むファイルのファイル名
INTERNAL| EXTERNAL= 読み込み元のドライブ
例 :MMEMORY:LOAD:MEMORY 1,
"test001.wv6" INTERNAL
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:LOAD:PROGram

機能 指定したプログラムファイルを指定したプログラ
ム番号に読み込みます。
構文 :MMEMory:LOAD:PROGram
<wsp><integer>,<"file name">
[,INTERNAL| EXTERNAL]
<trace name>= 読み込むプログラム番号
<"file name">= 読み込むファイルのファイル名
INTERNAL| EXTERNAL= 読み込み元のドライブ
例 :MMEMORY:LOAD:
PROGRAM 1, "test001.pg6", INTERNAL
解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:LOAD:SETTing

機能 指定したセッティングファイルを読み込みます。

構文 :MMEMory:LOAD:SETTing<wsp>
<"file name">[,INTernal| EXTernal]
<"file name"> =読み込むファイルのファイル名
= INTernal|EXTernal =読み込み元のドライブ

例 :MMEMory:LOAD:
SETTing "test001.st6", INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:LOAD:TEMPlate

機能 指定したテンプレートファイルを読み込みます。

構文 :MMEMory:LOAD:TEMPlate<wsp>
<template>,
<"file name">[,INTernal| EXTernal]
<template> = 読み込み先のテンプレート
(UPPER| LOWER| TARGET)
<"file name"> = 読み込むファイルのファイル名
INTernal| EXTernal =読み込み元のドライブ

例 :MMEMory:LOAD:
SETTing UPPER,"test001.csv", INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:LOAD:TRACe

機能 指定した波形ファイルを指定したトレースに読み込みます。

構文 :MMEMory:LOAD:
TRACe<wsp><trace name>,
<"file name"> [,INTernal| EXTernal]
<trace name> =読み込むトレース
<"file name"> =読み込むファイルのファイル名
INTernal| EXTernal =読み込み元のドライブ

例 :MMEMory:LOAD:
TRACE TRA,"test001.wv6", INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:MDIRectory

機能 ディレクトリを新規に作成します。

構文 :MMEMory:MDIRectory<wsp>
<"directory name">[,INTernal| EXTernal]
<"directory name"> =作成するディレクトリ名
INTernal| EXTernal =作成先のドライブ

例 :MMEMory:MDIRECTORY "sample2",
INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:REMOve

機能 USB ストレージメディアを取り外せる状態にします。また、USB ストレージメディアを取り外せる状態かを問い合わせします。

構文 :MMEMory:REMOve
:MMEMory:REMOve?
応答 0= 取り外し可、1= 取り外し不可

例 :MMEMory:REMOVE
:MMEMory:REMOVE? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:REName

機能 指定したファイルのファイル名を変更します。

構文 :MMEMory:REName<wsp>
<"new file name">,<"old file name">
[,INTernal| EXTernal]
<"new file name"> =新しいファイル名
<"old file name"> =古いファイル名
INTernal| EXTernal =対象ドライブ

例 :MMEMory:RENAME "test001.wv6",
"test002.wv6", INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORE:ARESuIt

機能 解析結果を、指定したファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORE:ARESuIt<wsp>
<"file name">[,INTernal| EXTernal]
<"file name">= 保存するファイル名
INTernal| EXTernal= 保存先のドライブ

例 :MMEMory:STORE:ARESuIt "test001",
INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORE:ATRace

機能 全トレースの波形データを、指定した波形ファイルに保存します

構文 :MMEMory:STORE:ATRace<wsp><"file name"> [,INTernal|EXTernal]
<"file name"> = 保存するファイル名
INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMory:STORE:ATRACE "test001",
INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORE:DATA

機能 各種データを、指定したファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORE:DATA<wsp>
<"file name">[,INTernal| EXTernal]
<"file name"> =保存するファイル名
INTernal| EXTernal =保存先のドライブ

例 :MMEMory:STORE:DATA "test001",
INTERNAL

解説

- 保存するデータの種類
は、:MMEMory:STORE:DATA:ITEM コマンドで指定します。
- 保存する際に、ファイルを上書きするか追記するかは、:MMEMory:STORE:DATA:MODE コマンドで指定します。
- シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:MMEMory:STORe:DATA:ITEM

機能	データを保存する際のアイテムを設定 / 問い合わせます。
構文	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp><item>, OFF ON 0 1 :MMEMory:STORe:DATA:ITEM?<wsp><item> <item> DATE= 保存時の日時 LABel= ラベル DATA=DATA エリアのデータ CONDition= 設定条件 OWindow=OUTPUT WINDOW TRACe= 波形データ OFF= 保存しない ON= 保存する 応答 0=OFF、1=ON
例	:MMEMORY:STORE:DATA:ITEM TRACE,OFF :MMEMORY:STORE:DATA:ITEM? TRACE -> 0
解説	シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:DATA:MODE

機能	データを保存する際にファイルを上書きするか追記するかを設定 / 問い合わせます。
構文	:MMEMory:STORe:DATA:MODE<wsp>ADD OVER 0 1 :MMEMory:STORe:DATA:MODE? ADD= 追記モード OVER= 上書きモード 応答 0=ADD、1=OVER
例	:MMEMORY:STORE:DATA:MODE OVER :MMEMORY:STORE:DATA:MODE? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:DATA:TYPE

機能	データを保存する際のファイルフォーマットを設定 / 問い合わせます。
構文	:MMEMory:STORe:DATA:TYPE<wsp>CSV DT 0 1 :MMEMory:STORe:DATA:TYPE? CSV=CSV 形式 DT= 機器固有のデータ形式 AQ6370C/AQ6370D の場合、DT=DT8 形式 AQ6373/AQ6373B の場合、DT=DT9 形式 AQ6375/AQ6375B の場合、DT=DT7 形式 応答 0=CSV、1=DT7 ~ DT9
例	:MMEMORY:STORE:DATA:TYPE DT8 :MMEMORY:STORE:DATA:TYPE? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:DLOGging

機能	データロギング結果を指定したファイルに保存します。
構文	:MMEMory:STORe:DLOGging<wsp> <"file name">[,INTernal EXTernal] <"file name"> = 保存するファイル名 INTernal EXTernal = 保存先のドライブ
例	:MMEMORY:STORE:DLOGGING "test001",INTERNAL
解説	・データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 ・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:MMEMory:STORe:DLOGging:CSAVe

機能	データロギング結果をファイルに保存するときに、CSV 形式のデータを保存するかどうかを設定 / 問い合わせします。
構文	:MMEMory:STORe:DLOGging:CSAVe<wsp>OFF ON 0 1 :MMEMory:STORe:DLOGging:CSAVe? OFF = CSV 形式のデータを保存しない ON = CSV 形式のデータを保存する 応答 0 = OFF、1 = ON
例	:MMEMORY:STORE:DLOGGING:CSAVE ON :MMEMORY:STORE:DLOGGING:CSAVE? -> 1
解説	・データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 ・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:MMEMory:STORe:DLOGging:TSAVe

機能	データロギング結果をファイルに保存するときに、一時保存した波形ファイルを保存するかどうかを設定 / 問い合わせします。
構文	:MMEMory:STORe:DLOGging:TSAVe<wsp>OFF ON 0 1 :MMEMory:STORe:DLOGging:TSAVe? OFF: 保存しない ON: 保存する 応答 0 = OFF、1 = ON
例	:MMEMORY:STORE:DLOGGING:TSAVE ON :MMEMORY:STORE:DLOGGING:TSAVE? -> 1
解説	・データロギング実行中は本コマンドは無効になります。 ・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:MMEMory:STORe:GRAPhics

機能 波形画面を、指定した画像ファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORe:GRAPhics<wsp>B&W|COLor|PCOLor,BMP|TIFF,<"file name">[,INTernal|EXTernal]

B&W|COLor|PCOLor = 保存する際のカラーモード
 B&W = 白黒モード
 COLor = カラーモード
 PCOLor = プリセットカラー (波形カラー + 背景白黒)

BMP|TIFF = 保存形式
 BMP = BMP 形式
 TIFF = TIFF 形式

<"file name"> = 保存するファイル名
 INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMORY:STORE:GRAPHICS COLOR,BMP,"test001",INTERNAL

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・PCOLor は AQ6373B/AQ6375B で使用可能なパラメータです。

:MMEMory:STORe:MEMory

機能 指定したメモリを、指定した波形ファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORe:MEMory<wsp><integer>,BIN|CSV,<"file name">[,INTernal|EXTernal]

<integer> = 保存するメモリ番号
 BIN|CSV = 保存形式
 BIN = バイナリ形式
 CSV = テキスト形式

<"file name"> = 保存するファイル名
 INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMORY:STORE:MEMORY 1,CSV,"test001",INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:PROGram

機能 指定したプログラムを、指定したファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORe:PROGram<wsp><integer>,<"file name">[,INTernal|EXTernal]

<integer> = 保存するプログラム番号
 <"file name"> = 保存するファイル名
 INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMORY:STORE:PRORAM 1,"test001",INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:SETTing

機能 セットアップ情報を、指定したファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORe:SETTing<wsp><"file name">[,INTernal|EXTernal]

<"file name"> = 保存するファイル名
 INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMORY:STORE:SETTING "test001",INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:TEMPlate

機能 指定したテンプレートデータを、指定したファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORe:TEMPlate<wsp><template>,<"file name">[,INTernal|EXTernal]

<template> = 保存するテンプレート (UPPER|LOWER|TARGET)
 <"file name"> = 保存するファイル名
 INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMORY:STORE:TEMPLATE UPPER,"test001",INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

:MMEMory:STORe:TRACe

機能 指定したトレースを、指定した波形ファイルに保存します。

構文 :MMEMory:STORe:TRACe<wsp><trace name>,BIN|CSV,<"file name">[,INTernal|EXTernal]

<trace name> = 保存するトレース
 BIN|CSV = 保存形式
 BIN = バイナリ形式
 CSV = テキスト形式

<"file name"> = 保存するファイル名
 INTernal|EXTernal = 保存先のドライブ

例 :MMEMORY:STORE:TRACE TRA,CSV,"test001",INTERNAL

解説 シーケンシャルコマンドです。

PROGram Sub System コマンド

:PROGram:EXECute

機能	指定したプログラムを実行します。
構文	:PROGram:EXECute<wsp><integer> <integer> = 実行するプログラム番号
例	:PROGRAM:EXECUTE 1
解説	被オーバーラップコマンドです。

SENSe Sub System コマンド

:SENSe:AVERage:COUNT

機能	各測定ポイントごとの平均化回数を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:AVERage:COUNT<wsp><integer> :SENSe:AVERage:COUNT? <integer> = 平均化回数
例	:SENSe:AVERAGE:COUNT 100 :SENSe:AVERAGE:COUNT? -> 100
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:BANDwidth|:BWIDth**[:RESolution]**

機能	測定分解能を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:BANDwidth :BWIDth[:RESolution] <wsp><NRf> [M Hz] :SENSe:BANDwidth :BWIDth [:RESolution]? <NRf> = 測定分解能 [m Hz]
応答	AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 <NRf> [m Hz] AQ6375/AQ6375B の場合 <NRf> [m Hz m ⁻¹]
例	:SENSe:BANDWIDTH:RESOLUTION 20PM :SENSe:BANDWIDTH? -> +2.00000000E-012
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:SENSe:CHOPper

機能	チョッパモードを設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:CHOPper<wsp>OFF SWITCh 0 2 :SENSe:CHOPper?
応答	0=OFF、2=SWITCH
例	:SENSe:CHOPPER SWITCH :SENSe:CHOPPER? -> 2
解説	<ul style="list-style-type: none"> ・測定感度設定 (:SENSe:SENSe コマンド) が NORMAL HOLD, NORMAL AUTO のときは、本コマンドでチョッパモードを ON しても、Chopper は機能しません。 ・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375/AQ6375B では無効なコマンドです。

:SENSe:CORRection:LEVel:SHIFt

機能	レベルのオフセット値を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:CORRection:LEVel: SHIFt<wsp><NRf> [DB] :SENSe:CORRection:LEVel:SHIFt? <NRf> = レベルオフセット値 [dB]
例	:SENSe:CORRECTION:LEVEL:SHIFT 0.2DB :SENSe:CORRECTION:LEVEL:SHIFT? -> +2.00000000E-001
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:CORRection:RVELOCITY:MEDIUm

機能 波長の基準を空気と真空のどちらにするかを設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:CORRection:RVELOCITY:
MEDIUm <wsp>AIR |VACuum|0|1
:SENSe:CORRection:RVELOCITY:MEDIUm?
AIR= 空気を基準
VACuum= 真空を基準
応答 0=AIR
1=VACuum

例 :SENSe:CORRection:RVELOCITY:
MEDIUm VACuum
:SENSe:CORRection:RVELOCITY:MEDIUm?
-> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:CORRection:WAVElength:SHIFt

機能 波長のオフセット値を設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:CORRection:WAVElength:
SHIFt<wsp><Nrf> [M]
:SENSe:CORRection:WAVElength:SHIFt?
<Nrf>= 波長オフセット値 [m]
例 :SENSe:CORRection:WAVElength:
SHIFt 0.05NM
:SENSe:CORRection:WAVElength:SHIFt?
-> +5.00000000E-011

解説 シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SENSe

機能 測定感度を設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:SENSe<wsp><sense>
:SENSe:SENSe?
<sense>= 感度設定/パラメータ
NHLD=NORMAL HOLD
NAUT=NORMAL AUTO
NORMaL=NORMAL
MID=MID
HIGH1=HIGH1 または HIGH1/CHOP
HIGH2=HIGH2 または HIGH2/CHOP
HIGH3=HIGH3 または HIGH3/CHOP
応答 0=NHLD
1=NAUT
2=MID
3=HIGH1
4=HIGH2
5=HIGH3
6=NORMAL

例 :SENSe:SENSe MID
:SENSe:SENSe? -> 2

解説 シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SETTing:CORRection

機能 分解能補正機能を設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:SETTing:CORRection<wsp>OFF|
ON|0|1|2|MODE1|MODE2
:SENSe:SETTing:CORRection?
応答 0=OFF、1=MODE1 で ON、
2=MODE2 で ON(AQ6370D)

例 :SENSe:SETTing:CORRection ON
:SENSe:SETTing:CORRection? -> 1

解説
・シーケンシャルコマンドです。
・クエリの応答で 2 を返すのは AQ6370D だけです。
・AQ6375 では無効なコマンドです。

:SENSe:SETTing:FCONnetcor

機能 ファイバコネクタモードを設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:SETTing:FCONnetcor<wsp>NORMaL|
ANGLeD|0|1
:SENSe:SETTing:FCONnetcor?
NORMaL = 標準モード
ANGLeD = 斜め研磨ファイバーモード
応答 0 = NORMaL
1 = ANGLeD

例 :SENSe:SETTing:FCONnetcor ANGLeD
:SENSe:SETTing:FCONnetcor? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SETTing:FIBer

機能 ファイバの口径モードを設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:SETTing:FIBer<wsp>SMALl|
LARGe|0|1
:SENSe:SETTing:FIBer?
SMALl= 標準モード
LARGe= 大口径ファイバモード
応答 0=SMALl、1=LARGe

例 :SENSe:SETTing:FIBer LARGe
:SENSe:SETTing:FIBer? -> 1

解説
・シーケンシャルコマンドです。
・AQ6373/AQ6373B だけに有効なコマンドです。

:SENSe:SETTing:SMOothing

機能 スムージング機能を設定 / 問い合わせます。

構文 :SENSe:SETTing:SMOothing<wsp>OFF|
ON|0|1
:SENSe:SETTing:SMOothing?
応答 0=OFF、1=ON

例 :SENSe:SETTing:SMOothing ON
:SENSe:SETTing:SMOothing? -> 1

解説
・シーケンシャルコマンドです。
・AQ6373/AQ6373B/AQ6375B だけに有効なコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:SENSe:SWEep:POINts

機能	測定サンプル数を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:POINts<wsp><integer> :SENSe:SWEep:POINts? <integer> = 測定サンプル数
例	:SENSe:SWEep:POINts 20001 :SENSe:SWEep:POINts? -> 20001
解説	<ul style="list-style-type: none">測定サンプル数の自動設定機能 (SENSe:SWEep:POINts:AUTO コマンド) が ON のときは、設定されている測定サンプル数を問い合わせできます。測定サンプル数の自動設定機能 (SENSe:SWEep:POINts:AUTO コマンド) が ON のときは、本コマンドを実行すると自動的に OFF に設定されます。本コマンドで測定サンプル数を設定すると、測定サンプル間隔 (SENSe:SWEep:STEP コマンド) は自動的に設定されます。AQ6375 では HIGH1 ~ HIGH3 を設定すると、HIGH1/CHOP ~ HIGH3/CHOP になります。シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SWEep:POINts:AUTO

機能	測定サンプル数を自動で設定する機能を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:POINts: AUTO<wsp>OFF ON 0 1 :SENSe:SWEep:POINts:AUTO? 応答 0=OFF、1=ON
例	:SENSe:SWEep:POINts:AUTO ON :SENSe:SWEep:POINts:AUTO? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">本コマンドで、測定サンプル数の自動設定機能を ON にすると、測定サンプル数と測定サンプル間隔 (SENSe:SWEep:STEP) は自動的に設定されます。シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SWEep:SEGMENT:POINts

機能	SEGMENT MEASURE を行うときの、一度に測定するサンプリング数を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:SEGMENT: POINts<wsp><integer> :SENSe:SWEep:SEGMENT:POINts? <integer> = 測定サンプリング数
例	:SENSe:SWEep:SEGMENT:POINts 100 :SENSe:SWEep:SEGMENT:POINts? -> 100
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SWEep:SPEEd

機能	掃引速度を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:SPEEd<wsp>1x 2x 0 1 :SENSe:SETTing:FCOnnector? 1x 0 : 標準 2x 1 : 倍速 応答 0=1x、1=2x
例	:SENSe:SWEep:SPEEd 2x :SENSe:SWEep:SPEEd? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">シーケンシャルコマンドです。AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:SENSe:SWEep:STEP

機能	測定サンプル間隔を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:STEP<wsp><NRf> [M] :SENSe:SWEep:STEP? <NRf> = 測定サンプル間隔 [m]
例	:SENSe:SWEep:STEP 1PM :SENSe:SWEep:STEP? -> +1.00000000E-012
解説	<ul style="list-style-type: none">測定サンプル数の自動設定機能 (SENSe:SWEep:POINts:AUTO コマンド) が ON のときは、設定されている測定サンプル間隔を問い合わせできます。測定サンプル数の自動設定機能 (SENSe:SWEep:POINts:AUTO コマンド) が ON の場合は、本コマンドを実行すると自動的に OFF に設定されます。本コマンドにより測定サンプル間隔を設定すると、測定サンプル数 (SENSe:SWEep:POINts) は自動的に設定されます。シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SWEep:TIME:0NM

機能	0nm 掃引モードでの、測定の開始から終了までにかかる時間を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:TIME: 0NM<wsp><integer>[SEC] :SENSe:SWEep:TIME:0NM? <integer> = 測定時間 [sec] (0=MINIMUM)
例	:SENSe:SWEep:TIME:0NM 10SEC :SENSe:SWEep:TIME:0NM? -> 10
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:SWEep:TIME:INTERval

機能	繰り返し掃引時の掃引開始から次の掃引開始までの時間を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:TIME: INTERval<wsp><integer>[SEC] :SENSe:SWEep:TIME:INTERval? <integer> = 測定時間 [sec] (0= MINIMUM)
例	:SENSe:SWEep:TIME:INTERval 100sec :SENSe:SWEep:TIME:INTERval? -> 100
解説	シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:SENSe:SWEep:TLSSync

機能	同期掃引機能の ON/OFF を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:SWEep:TLSSync<wsp>OFF ON 0 1 :SENSe:SWEep:TLSSync? 応答 0=OFF、1=ON
例	:SENSe:SWEep:TLSSync ON :SENSe:SWEep:TLSSync? -> 1
解説	・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では無効なコマンドです。

:SENSe:WAVelength:CENTer

機能	測定条件の中心波長を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:WAVelength:CENTer<wsp> <Nrf> [M HZ] :SENSe:WAVelength:CENTer? <Nrf> = 測定中心波長 [m] 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 <Nrf> [m Hz] AQ6375/AQ6375B の場合 <Nrf> [m Hz m ⁻¹]
例	:SENSe:WAVelength:CENTer 1550.000NM :SENSe:WAVelength:CENTer? -> +1.550000000E-006
解説	・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:SENSe:WAVelength:SPAN

機能	測定条件の測定スパンを設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:WAVelength:SPAN<wsp> <Nrf> [M HZ] :SENSe:WAVelength:SPAN? <Nrf> = 測定スパン [m] 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 <Nrf> [m Hz] AQ6375/AQ6375B の場合 <Nrf> [m Hz m ⁻¹]
例	:SENSe:WAVelength:SPAN 20.0NM :SENSe:WAVelength:SPAN? -> +2.000000000E-008
解説	・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:SENSe:WAVelength:SRANge

機能	掃引範囲をラインマーカ L1、L2 間に限定するかどうかを設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:WAVelength: SRANge<wsp>OFF ON 0 1 :SENSe:WAVelength:SRANge? 応答 0=OFF、1=ON
例	:SENSe:WAVelength:SRANge ON :SENSe:WAVelength:SRANge? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SENSe:WAVelength:STARt

機能	測定条件の測定開始波長を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:WAVelength:STARt<wsp> <Nrf> [M HZ] :SENSe:WAVelength:STARt? <Nrf> = 測定開始波長 [m] 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 <Nrf> [m Hz] AQ6375/AQ6375B の場合 <Nrf> [m Hz m ⁻¹]
例	:SENSe:WAVelength:STARt 1540.000NM :SENSe:WAVelength:STARt? -> +1.540000000E-006
解説	・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

:SENSe:WAVelength:STOP

機能	測定条件の測定終了波長を設定 / 問い合わせます。
構文	:SENSe:WAVelength:STOP<wsp> <Nrf> [M HZ] :SENSe:WAVelength:STOP? <Nrf> = 測定終了波長 [m] 応答 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合 <Nrf> [m Hz] AQ6375/AQ6375B の場合 <Nrf> [m Hz m ⁻¹]
例	:SENSe:WAVelength:STOP 1560.000NM :SENSe:WAVelength:STOP? -> +1.560000000E-006
解説	・シーケンシャルコマンドです。 ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数で設定するには波数モードのときに単位を付けなくて、数値だけを入力します。

STATUS Sub System コマンド**:STATUS:OPERation:CONDition?**

機能 Operation ステータスの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

構文 :STATUS:OPERation:CONDition?

例 :STATUS:OPERATION:CONDITION? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:STATUS:OPERation:ENABLE

機能 Operation ステータスの Enable レジスタの内容を設定 / 問い合わせます。

構文 :STATUS:OPERation:
ENABLE<wsp><integer>
:STATUS:OPERation:ENABLE?
<integer>= Operation ステータスの Enable レジスタの内容

例 :STATUS:OPERATION:ENABLE 8
:STATUS:OPERATION:ENABLE? -> 8

解説 シーケンシャルコマンドです。

:STATUS:OPERation[:EVENT]?

機能 Operation ステータスの Event レジスタの内容を問い合わせます。

構文 :STATUS:OPERation[:EVENT]?

例 :STATUS:OPERATION? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:STATUS:PRESet

機能 イベントレジスタをクリアし、イネーブルレジスタの全ビットをセットします。

構文 :STATUS:PRESet

例 :STATUS:PRESET

解説

- ・本コマンドを実行すると、レジスタが以下のようになります。
 - ・ Operation ステータスの Event レジスタが 0 にクリア
 - ・ Operation ステータスの Enable レジスタ全ビットを 0 にセット
 - ・ Questionable ステータスの Event レジスタが 0 にクリア
 - ・ Questionable ステータスの Enable レジスタ全ビットを 0 にセット
- ・ 本コマンドを実行しても、スタンダードイベントステータスレジスタとスタンダードイベントステータスイネーブルレジスタは変わりません。
- ・ シーケンシャルコマンドです。

:STATUS:QUEStionable:CONDition?

機能 Questionable ステータスの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

構文 :STATUS:QUEStionable:CONDition?

例 :STATUS:QUESTIONABLE:CONDITION? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:STATUS:QUEStionable:ENABLE

機能 Questionable ステータスの Enable レジスタの内容を読み書きします。

構文 :STATUS:QUEStionable:
ENABLE<wsp><integer>
:STATUS:QUEStionable:ENABLE?
<integer>= Questionable ステータスの Enable レジスタの内容

例 :STATUS:QUESTIONABLE:ENABLE 8
:STATUS:QUESTIONABLE:ENABLE? -> 8

解説 シーケンシャルコマンドです。

:STATUS:QUEStionable[:EVENT]?

機能 Operation ステータスの Event レジスタの内容を問い合わせます。

構文 :STATUS:QUEStionable[:EVENT]?

例 :STATUS:QUESTIONABLE:? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

SYStem Sub System コマンド

:SYStem:BUZZer:CLICk

機能 クリックしたときにブザーを鳴らすかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :SYStem:BUZZer:CLICk<wsp>OFF|ON|0|1
:SYStem:BUZZer:CLICk?

応答 0=OFF、1=ON

例 :SYSTEM:BUZZER:CLICK ONn
:SYSTEM:BUZZER:CLICK? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:SYStem:BUZZer:WARning

機能 警告時にブザーを鳴らすかどうかを設定 / 問い合わせます。

構文 :SYStem:BUZZer:WARning<wsp>OFF|ON|0|1
:SYStem:BUZZer:WARning?

応答 0=OFF、1=ON

例 :SYSTEM:BUZZER:WARNING ON
:SYSTEM:BUZZER:WARNING? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

:SYStem:COMMunicate:CFORmat

機能 本機器の GP-IB コマンドのフォーマットを設定 / 問い合わせます。

構文 :SYStem:COMMunicate:CFORmat<wsp><mode>
:SYStem:COMMunicate:CFORmat?

<mode>=GP-IB コマンドフォーマット

AQ6370C の場合

AQ6317=AQ6317 互換モード
AQ6370C=AQ6370C モード

AQ6370D の場合

AQ6317=AQ6317 互換モード
AQ6370D=AQ6370D モード

AQ6373 の場合

AQ6317=AQ6317 互換モード
AQ6373=AQ6373 モード

AQ6373B の場合

AQ6317=AQ6317 互換モード
AQ6373B=AQ6373B モード

AQ6375 の場合

AQ6317=AQ6317 互換モード
AQ6375=AQ6375 モード

AQ6375B の場合

AQ6317=AQ6317 互換モード
AQ6375B=AQ6375B モード

応答 AQ6370C の場合
0=AQ6317、1=AQ6370C

AQ6370D の場合
0=AQ6317、1=AQ6370D

AQ6373 の場合
0=AQ6317、1=AQ6373

AQ6373B の場合
0=AQ6317、1=AQ6373B

AQ6375 の場合
0=AQ6317、1=AQ6375

AQ6375B の場合
0=AQ6317、1=AQ6375B

例 :SYSTEM:COMMUNICATE:CFORMAT AQ6375
syst:comm:cformat? -> 1

解説

- 本コマンドは AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードのときに有効なコマンドです。AQ6317 互換モードのときに本コマンドを実行するとコマンドエラーになります。
- AQ6317 互換モードの場合、GP-IB コマンドのフォーマットを設定するときは、次のコマンドを使用してください。
コントロールコマンド
CFORM* (*:0=AQ6317 互換モード,1=AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モード)
クエリコマンド
CFORM? (戻り値:0=AQ6317 互換モード,1=AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モード)
- コマンド実行時の状態によらずに、GP-IB コマンドを使用して AQ6317 互換モードに本機器を設定するには、下記のコマンドを実行します。ただし、コマンドを実行したときに、既に AQ6317 互換モードだった場合は、コマンドエラーになりますが無視してください。
:SYStem:COMMunicate:CFORmat<wsp>
AQ6317
- コマンド実行時の状態によらずに、GP-IB コマンドを使用して AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードに本機器の状態を設定するには、下記のコマンドを実行します。ただし、コマンドを実行したときに既に AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードだった場合は、コマンドエラーになりますが無視してください。
CFORM1
- シーケンシャルコマンドです。

:SYStem:COMMunicate:GPiB2:ADDRess

機能 本機器の GP-IB2 ポートの GPIB アドレスを設定 / 問い合わせます。

構文 :SYStem:COMMunicate:GPiB2:
ADDRess<wsp><integer>

:SYStem:COMMunicate:GPiB2:ADDRess?

例 :SYSTEM:COMMUNICATE:GPiB2:ADDRESS 2
:SYSTEM:COMMUNICATE:GPiB2:ADDRESS?
-> 2

解説

- AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では無効なコマンドです。
- シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:SYSTem:COMMunicate:GPIB2:SCONtroller

機能	本機器の GP-IB2 ポートのシステムコントローラ機能の有効 / 無効を設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:COMMunicate:GPIB2:SCONtroller <wsp>OFF ON 0 1 :SYSTem:COMMunicate:GPIB2:SCONtroller? OFF 0 : システムコントローラ機能が無効になります。 ON 1 : システムコントローラ機能が有効になります。
例	:SYSTEM:COMMUNICATE:GPIB2:SCON ON :SYSTEM:COMMUNICATE:GPIB2:SCON? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">・ 波長可変光源と同期掃引をするため、本機器の GP-IB2 ポートをシステムコントローラとして使用する場合は「有効」に設定してください。・ シーケンシャルコマンドです。・ AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では無効なコマンドです。

:SYSTem:COMMunicate:GPIB2:TLS:ADDRESS

機能	本機器の GP-IB2 ポートに接続する波長可変光源の GPIB アドレスを設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:COMMunicate:GPIB2:TLS: ADDRESS<wsp><integer> :SYSTem:COMMunicate:GPIB2:TLS: ADDRESS?
例	<integer> = 波長可変光源の GPIB アドレス :SYSTEM:COMMUNICATE:GPIB2:TLS: ADDRESS 20 :SYSTEM:COMMUNICATE:GPIB2:TLS: ADDRESS? -> 20
解説	<ul style="list-style-type: none">・ 同期掃引機能で使用する波長可変光源の GP-IB アドレスを設定します。・ シーケンシャルコマンドです。・ AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B では無効なコマンドです。

:SYSTem:COMMunicate:LOCKout

機能	ローカルロックアウトを設定 / 解除します。
構文	:SYSTem:COMMunicate:LOCKout<wsp> OFF ON 0 1 :SYSTem:COMMunicate:LOCKout? OFF 0 : ローカルロックアウトを解除します。 ON 1 : ローカルロックアウトを設定します。
例	:SYSTEM:COMMUNICATE:LOCKOUT OFF :SYSTEM:COMMUNICATE:LOCKOUT? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none">・ リモートインターフェースをイーサネットにしているときに有効なコマンドです。GP-IB インタフェースの場合、インタフェースメッセージとして用意されています。・ ローカルロックアウト中にイーサネット接続が解除されたときは、ローカルロックアウトの状態にかかわらず、ローカル状態になります。・ シーケンシャルコマンドです。・ AQ6370C/AQ6370D で使用可能なコマンドです。

:SYSTem:COMMunicate:RMONitor

機能	リモートモニタ機能の有効 / 無効を設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:COMMunicate:RMONitor<wsp> OFF ON 0 1 :SYSTem:COMMunicate:RMONitor? OFF 0 : リモートモニタ機能が無効になります。 ON 1 : リモートモニタ機能が有効になります。
例	:SYSTEM:COMMUNICATE:RMONITOR OFF :SYSTEM:COMMUNICATE:RMONITOR? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none">・ シーケンシャルコマンドです。・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:SYSTem:DATE

機能	本機器のシステム日付を設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:DATE<wsp><year>,<month>,<day> :SYSTem:DATE? <year>= 年 <month>= 月 <day>= 日
例	:SYSTEM:DATE 2006,03,01 :SYSTEM:DATE? -> 2006,03,01
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:DISPlay:TRANSPARENT

機能	測定画面の割り込みウインドウと OVER VIEW ウインドウを半透過するかどうかを設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:DISPlay:TRANSPARENT<wsp>OFF ON 0 1 :SYSTem:DISPlay:TRANSPARENT? 応答 0=OFF、1=ON
例	:SYSTEM:DISPLAY:TRANSPARENT OFF :SYSTEM:DISPLAY:TRANSPARENT? -> 0
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:DISPlay:UNCAl

機能	UNCAL 時の警告メッセージを表示するかどうかを設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:DISPlay:UNCAl<wsp>OFF ON 0 1 :SYSTem:DISPlay:UNCAl? 応答 0=OFF、1=ON
例	:SYSTEM:DISPLAY:UNCAL OFF :SYSTEM:DISPLAY:UNCAL? -> 0
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:ERRor[:NEXT]?

機能	エラーキューのデータを問い合わせ、キューから削除します。
構文	:SYSTem:ERRor[:NEXT]? <integer>= エラー番号
例	:SYSTEM:ERROR? -> 100
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:GRID

機能 本機器のグリッド設定を設定 / 問い合わせます。

構文 :SYSTem:GRID<wsp><grid>

:SYSTem:GRID?

<grid>= グリッド設定

12.5GHZ=12.5GHz Spacing

25GHZ=25GHz Spacing

50GHZ=50GHz Spacing

100GHZ=100GHz Spacing

200GHZ=200GHz Spacing

CUSTom= ユーザによるカスタム設定

応答 0=12.5GHz

1=25GHz

2=50GHz

3=100GHz

4=200GHz

5=CUSTom

例 :SYSTem:GRID 50GHZ

:SYSTem:GRID? -> 2

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:GRID:CUSTom:CLear:ALL

機能 カスタムグリッドをクリアし、初期値に戻します。

構文 :SYSTem:GRID:CUSTom:CLear:ALL

例 :SYSTem:GRID:CUSTOM:CLEAR:ALL

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:GRID:CUSTom:DELeTe

機能 カスタムグリッドの指定グリッドを削除します。

構文 :SYSTem:GRID:CUSTom:

DELeTe<wsp><integer>

<integer> = 削除するグリッドの番号

例 :SYSTem:GRID:CUSTOM:DELETE 10

解説

- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:GRID:CUSTom:INSert

機能 カスタムグリッドで新しいグリッドを挿入します。

構文 :SYSTem:GRID:CUSTom:

INSert<wsp><NRf>[M|HZ]

<NRf> = 挿入するグリッド波長 / 周波数 [m|Hz]

例 :SYSTem:GRID:CUSTOM:INSERT 1550.123NM

解説

- ・:SYSTem:GRID が CUSTom 以外の状態では、実行エラーになります。
- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:GRID:CUSTom:SPACing

機能 カスタムグリッドのグリッド間隔を設定 / 問い合わせます。

構文 :SYSTem:GRID:CUSTom:SPACing<wsp><NRf>

[GHZ]

:SYSTem:GRID:CUSTom:SPACing?

<NRf>= グリッド間隔 [GHz]

例 :SYSTem:GRID:CUSTOM:SPACING 12.5

:SYSTem:GRID:CUSTOM:SPACING?

-> +1.25000000E+001

解説

- ・:SYSTem:GRID が CUSTom 以外の状態では、実行エラーになります。
- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:GRID:CUSTom:STARt

機能 カスタムグリッドの開始波長を設定 / 問い合わせます。

構文 :SYSTem:GRID:CUSTom:STARt<wsp><NRf>

[M | HZ]

:SYSTem:GRID:CUSTom:STARt?

<NRf>= グリッドの開始波長 [m|Hz]

例 :SYSTem:GRID:CUSTOM:START 1550.000NM

:SYSTem:GRID:CUSTOM:START?

-> +1.55000000E-006

解説

- ・:SYSTem:GRID が CUSTom 以外の状態では、実行エラーになります。
- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:GRID:CUSTom:STOP

機能 カスタムグリッドの終了波長を設定 / 問い合わせます。

構文 :SYSTem:GRID:CUSTom:

STOP<wsp><NRf>[M|HZ]

:SYSTem:GRID:CUSTOM:STOP?

<NRf>= グリッドの終了波長 [m|Hz]

例 :SYSTem:GRID:CUSTOM:STOP 1560.000NM

:SYSTem:GRID:CUSTOM:STOP?

-> +1.56000000E-006

解説

- ・:SYSTem:GRID が CUSTom 以外の状態では、実行エラーになります。
- ・シーケンシャルコマンドです。
- ・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。
- ・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

7.6 機器固有コマンド

:SYSTem:GRID:REfERENCE

機能	本機器のグリッド設定の基準周波数を設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:GRID:REfERENCE<wsp><Nrf> [HZ] :SYSTem:GRID:REfERENCE? <Nrf>= グリッドの基準周波数 [Hz]
例	:SYSTEM:GRID:REFERENCE 193.1000HZ :SYSTEM:GRID:REFERENCE ? -> +1.93000000E+014
解説	<ul style="list-style-type: none">・シーケンシャルコマンドです。・AQ6373/AQ6373B では無効なコマンドです。・AQ6375/AQ6375B の場合、波数モードのときは実行できません。

:SYSTem:INfORMation?

機能	機種固有情報 (MODEL コードや SPECIAL コード) を問い合わせます
構文	:SYSTem:INfORMation?<wsp><integer> <integer>= 取得する機種固有情報の種類 0 = MODEL コード 1 = SPECIAL コード
例	:SYSTEM:INFORMATION? 0 → AQ6370C-M/ FC/RFC/B5 :SYSTEM:INFORMATION? 1 → NONE
解説	<ul style="list-style-type: none">・機種固有情報 (MODEL コードや SPECIAL コード) を出力します。・SPECIAL コード情報が無い場合は" NONE" を返します。・シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:INfORMation:FSPeED?

機能	機器内部の CPU 冷却用ファンの回転数を問い合わせます。
構文	:SYSTem:INfORMation:FSPeED? 応答 <integer> = 回転数 [rpm]
例	:SYST:INF:FSP? -> 6700
解説	<ul style="list-style-type: none">・AQ6375B 用のコマンドです。他の機種で本コマンドを実行した場合の応答は -1 です。・シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:OLOck

機能	操作キーをロックするかしないかを設定 / 問い合わせします。
構文	:SYSTem:OLOck<wsp>OFF ON 0 1, <"password"> :SYSTem:OLOck? OFF = ロックしない (ロック状態の解除) ON = ロックする <"password"> = 4 桁のパスワード文字列 使用できる文字列は、0 ~ 9 の数字だけです。 応答 0=OFF、1=ON
例	:SYST:OLOC ON, "1234" :SYST:OLOC? -> 1
解説	<ul style="list-style-type: none">・AQ6370C、AQ6370D、AQ6373B、AQ6375B 用のコマンドです。・シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:PRESet

機能	本機器の状態を初期化します。
構文	:SYSTem:PRESet
例	:SYSTEM:PRESET
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:TIME

機能	本機器の時刻を設定 / 問い合わせます。
構文	:SYSTem:TIME<wsp><hour>,<minute>,<second> :SYSTem:TIME? <hour>= 時 <minute>= 分 <second>= 秒
例	:SYSTEM:TIME 22,10,01 :SYSTEM:TIME? -> 22,10,1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:SYSTem:VERSion?

機能	本機器の SCPI の互換バージョンを問い合わせます。
構文	:SYSTem:VERSion?
例	:SYSTEM:VERSION? -> 1999.0
解説	シーケンシャルコマンドです。

TRACe Sub System コマンド

:TRACe:ACTive

機能 アクティブトレースを設定 / 問い合わせます。
 構文 :TRACe:ACTive<wsp><trace name>
 :TRACe:ACTive?
 <trace name>= アクティブトレース
 TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G
 例 :TRACe:ACTive TRA
 :TRACe:ACTive? -> TRA
 解説 シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:ATTRibute[:<trace name>]

機能 指定したトレースの属性を設定 / 問い合わせます。
 構文 :TRACe:ATTRibute[:<trace name>
 <wsp><attribute>
 :TRACe:ATTRibute[:<trace name>]?
 <trace name>= トレース
 TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G
 <attribute> = 属性
 WRITe = WRITE
 FIX = FIX
 MAX = MAX HOLD
 MIN = MIN HOLD
 RAVG = ROLL AVG
 CALC = CALC
 応答 0=WRITe
 1=FIX
 2=MAX
 3=MIN
 4=RAVG
 5=CALC
 例 :TRACe:ATTRibute:TRA WRITe
 :TRACe:ATTRibute:TRA? -> 0
 解説
 • <trace name> を省略すると、アクティブトレースに対してコマンドが実行されます。
 • <trace name> を指定すると、指定したトレースが、コマンド実行後のアクティブトレースに設定されます。
 • CALC トレースを設定した場合、:CALCulate:MATH コマンドで計算式を設定します。
 • シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:ATTRibute:RAVG[:<trace name>]

機能 指定したトレースの平均化回数を設定 / 問い合わせます。
 構文 :TRACe:ATTRibute:RAVG
 [:<trace name><wsp><integer>
 :TRACe:ATTRibute:RAVG[:<trace name>]?
 <trace name>= トレース
 TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G
 <integer>= ROLL AVG の平均化回数
 例 :TRACe:ATTRibute:RAVG:TRA 10
 :TRACe:ATTRibute:RAVG:TRA? -> 10
 解説
 • 本コマンドを実行すると、設定されたトレースの属性は "ROLL AVG" になります。
 • <trace name> を省略すると、アクティブトレースに対してコマンドが実行されます。
 • <trace name> を指定すると、指定したトレースが、コマンド実行後のアクティブトレースに設定されます。
 • シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:COpy

機能 指定したトレースのデータを別のトレースにコピーします。
 構文 :TRACe:COpy<wsp><source trace name>,
 <destination trace name>
 <source trace name>= コピー元のトレース
 <destination trace name>= コピー先トレース
 例 :TRACe:COpy TRA,TRB
 解説 シーケンシャルコマンドです。

:TRACe[:DATA]:SNUMber?

機能 指定したトレースのデータサンプル数を問い合わせます。
 構文 :TRACe[:DATA]:SNUMber?<wsp><trace name>
 <trace name> = 取得したいトレース
 例 :TRACe:DATA:SNUMber? -> 50001
 解説
 • データが無いトレースの場合は 0 を返します。
 • シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:TRACe[:DATA]:X?

機能	指定したトレースの波長軸データを問い合わせます。
構文	:TRACe[:DATA]:X?<wsp><trace name> [,<start point>,<stop point>] <trace name>= 転送するトレース TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G <start point>= 転送するサンプル範囲 (開始点) (1 ~ 50001) <stop point>= 転送するサンプル範囲 (終了点) (1 ~ 50001)
例	:TRACE:X? TRA -> +1.55000000E-006,+1.55001000E- 006,+1.55002000E-006,....
解説	<ul style="list-style-type: none">・波長モード / 周波数モードに関わらず、単位は波長値 (m) で出力されます。・<start point>,<stop point> のパラメータを省略したときは、指定トレースの全サンプルデータが出力されます。 この時出力されるデータ数は、:TRACe[:DATA]:SNUMber? コマンドで調べることができます。・:FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。・シーケンシャルコマンドです。

:TRACe[:DATA]:Y?

機能	指定したトレースのレベル軸データを問い合わせます。
構文	:TRACe[:DATA]:Y?<wsp><trace name> [,<start point>,<stop point>] <trace name>= 転送するトレース TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G <start point>= 転送するサンプル範囲 (開始点) (1 ~ 50001) <stop point>= 転送するサンプル範囲 (終了点) (1 ~ 50001)
応答	ASCII 時: <NRf>,<NRf>,...,<NRf> BINARY 時: '#<integer><byte num> <data byte>
例	:TRACE:Y? TRA -> -1.00000000E+001,-1.00000000E+001,- 1.00000000E+001,....
解説	<ul style="list-style-type: none">・波長モード / 周波数モードに関わらず、短波長側のレベルデータから長波長側のレベルデータの順序で出力されます。・レベルスケールが LOG のときは LOG 値で出力されます。・レベルスケールがリニアのときはリニア値 (mW) で出力されます。・<start point>,<stop point> のパラメータを省略したときは、指定トレースの全サンプルデータが出力されます。 このとき出力されるデータ数は、:TRACe[:DATA]:SNUMber? コマンドで調べることができます。・:FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。・シーケンシャルコマンドです。

:TRACe[:DATA]:Y:PDENsity?

機能	パワースペクトル密度トレースデータを問い合わせます。
構文	TRACe[:DATA]:Y:PDENsity? <wsp> <trace name>,<NRf>[m] [,<start point>,<stop point> <trace name>= 演算対象トレース <NRf>= 正規化帯域幅 [m] <start point>= 転送するサンプル範囲 (開始点) (1 to 50001) <stop point>= 転送するサンプル範囲 (終了点) (1 to 50001)
例	:trac:y:pden? tra,0.1nm -> -5.36017335E+001,-5.36143380E+001, -5.34441639E+001,....
解説	<ul style="list-style-type: none">・レベルスケールが LOG のときは LOG 値で出力されます。・レベルスケールがリニアのときはリニア値で出力されます。・<start point>,<stop point> のパラメータを省略したときは、指定トレースの全サンプルデータが出力されます。・:FORMat[:DATA] の設定により、ASCII データまたは BINARY データで出力されます。・AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B 用のコマンドです。・シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:DELeTe

機能	指定したトレースのデータをクリアします。
構文	:TRACe:DELeTe<wsp><trace name> <trace name>= 転送するトレース TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G
例	:TRACE:DELETE TRA
解説	シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:DELeTe:ALL

機能	すべてのトレースのデータをクリアします。
構文	:TRACe:DELeTe:ALL
例	:TRACE:DELETE:ALL
解説	シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:STATe[:<trace name>]

機能	指定したトレースの表示状態を設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:STATe[:<trace name>]<wsp>OFF ON 0 1 :TRACe:ACTive? <trace name>= 転送するトレース TRA ~ TRG= トレース A ~ トレース G OFF= トレースを非表示する (BLANK) ON= トレースを表示にする (DISP) 応答 0=OFF、1=ON
例	:TRACE:STATE OFF :TRACE:STATE OFF? -> 0
解説	<ul style="list-style-type: none">・<trace name> を省略すると、アクティブトレースに対してコマンドが実行されます。・<trace name> を指定すると、指定したトレースが、コマンド実行後のアクティブトレースに設定されます。・シーケンシャルコマンドです。

TRACe:TEMPlate:DATA

機能	指定したテンプレートにデータを追加 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:DATA<wsp><template>, <wavelength>[M],<level>[DB] :TRACe:TEMPlate:DATA?<wsp><template> <template> = テンプレート (UPPer LOWer TARGet) <wavelength> = 追加するテンプレートデータの 波長 [nm] <level>= 追加するテンプレートデータの レベル [dB] 応答 <integer>,<wavelength>,<level>,<wavel ength>,<level>,...,<level> <integer> = データポイント数 <wavelength> = 波長値 [m] <level> = レベル値 [dB] 例 :TRACe:TEMPlate:DATA TARGET,1550NM, -10dbm :TRACe:TEMPlate:DATA? TARGET -> 3,+1.54000000E-006,-1.00000000E+001, +1.54500000E-006,-5.00000000E+000, +1.55000000E-006,-1.00000000E+001 解説 <ul style="list-style-type: none"> 指定したテンプレートにデータを追加します。 データを追加したあと、波長順にデータを並び替えます。 テンプレートデータの最大データ数を越えてデータを追加すると実行エラーになります。 シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:DATA:ADElete

機能	指定したテンプレートのデータをすべて削除します。
構文	:TRACe:TEMPlate:DATA:ADElete<wsp> <template> <template>= テンプレート (UPPer LOWer TARGet) 例 :TRACe:TEMPlate:DATA:ADELETE TARGET 解説 <ul style="list-style-type: none"> 指定したテンプレートのデータがすべて削除されます。 シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:DATA:ETYPe

機能	指定したテンプレートの外挿モードを設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:DATA: ETYPe<wsp><template>,<type> <template> = テンプレート (UPPer LOWer TARGet) <type> 外挿タイプ A = 外挿タイプ A B = 外挿タイプ B NONE = 外挿無し 応答 0=NONE、1=A、2=B 例 :TRACe:TEMPlate:DATA: ETYPe TARGET,NONE :TRACe:TEMPlate:DATA: ETYPe? target -> NONE 解説 シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:DATA:MODE

機能	指定したテンプレートの絶対値モード / 相対値モードを設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:DATA: MODE<wsp><template>,<mode> <template> = テンプレート (UPPer LOWer TARGet) <mode> = モード (ABSolute RELative) ABSolute = 絶対値モード RELative = 相対値モード 応答 0=ABSolute、1=RELative 例 :TRACe:TEMPlate:DATA: MODE TARGET,RELATIVE :TRACe:TEMPlate:DATA: MODE? TARGET -> REL 解説 シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:DISPlay

機能	指定したテンプレートの表示 ON/OFF を設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate: DISPlay<wsp><template>,OFF ON 0 1 :TRACe:TEMPlate:DISPlay?<wsp> <template> <template>= テンプレート (UPPer LOWer TARGet) OFF= 表示 OFF ON= 表示 ON 応答 0=OFF、1=ON 例 :TRACe:TEMPlate:DISPlay TARGET,OFF :TRACe:TEMPlate:DISPlay? TARGET -> 0 解説 シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

:TRACe:TEMPlate:GONogo

機能	テンプレート機能の Go / No go 判定機能の ON / OFF を設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:GONogo<wsp>OFF ON 0 1 :TRACe:TEMPlate:GONogo? OFF= 判定機能 OFF ON= 判定機能 ON 応答 0=OFF、1=ON
例	:TRACE:TEMPLATE:GONOGO OFF :TRACE:TEMPLATE:GONOGO? -> 0
解説	シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:LEVel:SHIFt

機能	テンプレートのレベルシフト量を設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:LEVel: SHIFt<wsp><Nrf>[DB] :TRACe:TEMPlate:LEVel:SHIFt? <Nrf>= レベルシフト量 [dB]
例	:TRACE:TEMPLATE:LEVEL:SHIFT -1db :TRACE:TEMPLATE:LEVEL:SHIFT? -> -1.00000000E+000
解説	シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:RESult?

機能	テンプレート機能の Go / No go 判定結果を問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:RESult? 応答 0= No go、1= Go
例	:TRACE:TEMPLATE:RESULT? -> 1
解説	シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:TTYPe

機能	テンプレート機能の Go/No go 判定の判定タイプを設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:TTYPe<wsp><type> :TRACe:TEMPlate:TTYPe? <type>= 判定タイプ UPPer=Upper ラインだけ判定 LOWer=Lower ラインだけ判定 U&L=Upper ラインと LOWer ラインの両方を判定 応答 0=UPPer、1=LOWer、2=U&L
例	:TRACE:TEMPLATE:TTYPE U&L :TRACE:TEMPLATE:TTYPE? -> 2
解説	シーケンシャルコマンドです。

:TRACe:TEMPlate:WAVelength:SHIFt

機能	テンプレートの波長シフト量を設定 / 問い合わせます。
構文	:TRACe:TEMPlate:WAVelength: SHIFt<wsp><Nrf>[M] :TRACe:TEMPlate:WAVelength:SHIFt? <Nrf>= 波長シフト量 [m]
例	:TRACE:TEMPLATE:WAVELENGTH:SHIFT -5NM :TRACE:TEMPLATE:WAVELENGTH:SHIFT? -> -5.00000000E-009
解説	シーケンシャルコマンドです。

TRIGger Sub System コマンド

:TRIGger[:SEquence]:DELay

機能	トリガディレイを設定 / 問い合わせます。
構文	:TRIGger[:SEquence]: DELay<wsp><Nrf>[S] :TRIGger[:SEquence]:DELay? <Nrf>=delay [sec]
例	:TRIGGER:DELAY 100.0US :TRIGGER:DELAY? -> +1.00000000E-004
解説	・ 本コマンドを実行すると、外部トリガモードが有効になります。 (TRIGger[:SEquence]:STATe ON) ・ シーケンシャルコマンドです。

:TRIGger[:SEquence]:GATE:ITIME

機能	ゲートサンプリングのサンプルインターバルを設定 / 問い合わせします。
構文	:TRIGger[:SEquence]:GATE:ITIME<wsp><N Rf>[S] :TRIGger[:SEquence]:GATE:ITIME? <Nrf> = サンプリングインターバル 応答 <Nrf> = サンプリングインターバル [S]
例	:TRIGGER:SEQUENCE:GATE:ITIME 100ms :TRIGGER:SEQUENCE:GATE:ITIME? -> +1.00000000E-001
解説	・ シーケンシャルコマンドです。 ・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:TRIGger[:SEquence]:GATE:LOGic

機能	ゲートサンプリングのゲート信号論理を設定 / 問い合わせします。
構文	:TRIGger[:SEquence]:GATE:LOGic<wsp>PO SI NEGA 0 1 :TRIGger[:SEquence]:GATE:LOGic? POSI = ゲート信号が HIGH レベルのときにサンプリング NEGA = ゲート信号が LOW レベルのときにサンプリング 応答 0 = POSI、1 = NEGA
例	:TRIGGER:SEQUENCE:GATE:LOGIC POSI :TRIGGER:SEQUENCE:GATE:LOGIC? -> 0
解説	・ シーケンシャルコマンドです。 ・ AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なコマンドです。

:TRIGger[:SEquence]:SLOPe

機能 トリガエッジを設定 / 問い合わせます。

構文 :TRIGger[:SEquence]:SLOPe<wsp>RISE|FALL|0|1
:TRIGger[:SEquence]:SLOPe?
RISE=RISE
FALL=FALL
応答 0=RISE、1=FALL

例 :TRIGGER:SLOPE RISE
:TRIGGER:SLOPE? -> 0

解説

- ・ 本コマンドを実行すると、外部トリガモードが有効になります。
- ・ シーケンシャルコマンドです。

:TRIGger[:SEquence]:STATe

機能 外部トリガモードを設定 / 問い合わせます。

構文 :TRIGger[:SEquence]:STATe<wsp>OFF|ON|PHOLD|0|1|2
:TRIGger[:SEquence]:STATe?
OFF: 外部トリガ OFF
ON: 外部トリガモード
PHOLD: ピークホールドモード
GATE: ゲートサンプリング
応答 0=OFF、1=ON、2=PHOLD、3=GATE

例 :TRIGGER:STATE ON
:TRIGGER:STATE? -> 1

解説

- ・ シーケンシャルコマンドです。
- ・ ゲートサンプリングは AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B で使用可能なパラメータです。

:TRIGger[:SEquence]:INPut

機能 入力トリガ端子の信号を設定 / 問い合わせます。

構文 :TRIGger[:SEquence]:INPut<wsp>ETRigger|STRigger|SENable|0|1|2
:TRIGger[:SEquence]:INPut?
ETRigger|0: サンプルトリガ
STRigger|1: スィープトリガ
SENable|2: サンプルイネーブル

例 :TRIGGER:INPUT STRIGGER
:TRIGGER:INPUT? -> 1

解説

シーケンシャルコマンドです。

:TRIGger[:SEquence]:OUTPut

機能 出力トリガ端子の信号を設定 / 問い合わせます。

構文 :TRIGger[:SEquence]:OUTPut<wsp>OFF|SSTatus|0|1
:TRIGger[:SEquence]:OUTPut?
OFF: OFF
SSTatus: スィープステータス
応答 0=OFF、1=SSTatus

例 :TRIGGER:OUTPUT SSTATUS
:TRIGGER:OUTPUT? -> 1

解説

シーケンシャルコマンドです。

:TRIGger[:SEquence]:PHOLd:HTIME

機能 ピークホールドモードのホールドタイムを設定 / 問い合わせます。

構文 :TRIGger[:SEquence]:PHOLd:HTIME<wsp><NRf>[s]
:TRIGger[:SEquence]:PHOLd:HTIME?
<NRf>= ホールドタイム [s]

例 :TRIGGER:PHOLD:HTIME 100MS
:TRIGGER:PHOLD:HTIME?
-> +1.00000000E-1

解説

シーケンシャルコマンドです。

7.6 機器固有コマンド

UNIT Sub System コマンド

:UNIT:POWer:DIGit

機能 レベル値の小数点以下の表示桁数を設定 / 問い合わせます。

構文 :UNIT:POWer:DIGit<wsp>1|2|3

:UNIT:POWer:DIGit?

1、2、3= 表示桁数

例 :UNIT:POWer:DIGIT 3

:UNIT:POWer:DIGIT? -> 3

解説 シーケンシャルコマンドです。

:UNIT:X

機能 X 軸の単位を設定 / 問い合わせます。

構文 :UNIT:X<wsp>WAVelength|FREQuency|

WNUMber|0|1|2

:UNIT:X?

パラメータ

AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合

WAVelength|0: 波長

FREQuency|1: 周波数

AQ6375/AQ6375B の場合

WAVelength|0: 波長

FREQuency|1: 周波数

WNUMber|2: 波数

応答 0=WAVelength、1=FREQuency、

2=WNUMber

例 :UNIT:X FREQUENCY

UNIT:X? -> 1

解説 シーケンシャルコマンドです。

7.7 解析結果出力フォーマット

解析結果の出力について

解析機能の解析結果は、CALCulate:DATA? コマンドで一括して取得できます。
解析が実行されていないときはクエリエラーになります。

解析機能毎の出力データ・フォーマット

各解析機能ごとの出力データフォーマットは以下のとおりです。

<center wl> 等の略号の内容については、「CALCulate:DATA? コマンドの出力データ略号一覧」(7-98 ページ) を参照してください。

THRESH, ENVELOPE, PK-RMS

<center wl>,<spec wd>,<mode num>

RMS

<center wl>,<spec wd>

NOTCH

<center wl>,<notch wd>

SMSR

- SMSR1, SMSR2

<peak wl>,<peak lvl>,<2nd peak wl>,<2nd peak lvl>,<delta wl>,<delta lvl>

- SMSR3, SMSR4

<peak wl>,<peak lvl>,<2nd peak wl(L)>,<2nd peak lvl(L)>,<delta wl(L)>,<delta lvl(L)>,<2nd peak wl(R)>,<2nd peak lvl(R)>,<delta wl(R)>,<delta lvl(R)>

POWER

<total pow>

DFB-LD

<spec sr>,<peak wl>,<peak lvl>,<mode ofst>,<smsr>

FP-LD

<spec wd>,<peak wl>,<peak lvl>,<center wl>,<total pow>,<mode num>

LED

<spec wd>,<peak wl>,<peak lvl>,<center wl>,<total pow>

PMD

<left mode peak>,<right mode peak>,<pmd>

WDM

- ABSOLUTE, CH RELATION=OFFSET

<ch num>,<center wl>,<peak lvl>,<offset wl>,<offset lvl>,<noise>,<snr>,...

- ABSOLUTE, CH RELATION=SPACING

<ch num>,<center wl>,<peak lvl>,<spacing>,<lvl diff>,<noise>,<snr>,...

- **RELATIVE**

<ch num>,<grid wl>,<center wl>,<rel wl>,<peak lvl>,<noise>,<snr>,...

- **DRIFT(MEAS)**

<ch num>,<grid wl>,<center wl>,<wl diff max>,<wl diff min>,<ref lvl>,<peak lvl>,<lvl diff max>,<lvl diff min>,...

- **DRIFT(GRID)**

<ch num>,<ref wl>,<center wl>,<wl diff max>,<wl diff min>,<ref lvl>,<peak lvl>,<lvl diff max>,<lvl diff min>,...

EDFA-NF

<ch num>,<center wl>,<input lvl>,<output lvl>,<ase lvl>,<resoln>,<gain>,<nf>,...

FILTER-PK

<peak wl>,<peak lvl>,<center wl>,<spec wd>,<l-xtalk>,<r-xtalk>,<ripple>

FILTER-BTM

<btm wl>,<btm lvl>,<center wl>,<notch wd>,<l-xtalk>,<r-xtalk>

WDM FIL-PK

<ch num>,<nominal wl>,<peak wl>,<peak lvl>,<xdb wd>,<center wl>,<xdb sb>,<xdb pb>,<ripple>,<l-xtalk>,<r-xtalk>,...

※ SW=OFF のアイテムも出力されます

WDM FIL-BTM

<ch num>,<nominal wl>,<btm wl>,<btm lvl>,<xdb ntwd>,<center wl>,<xdb sb>,<xdb eb>,<ripple>,<l-xtalk>,<r-xtalk>,...

※ SW=OFF のアイテムも出力されます

COLOR

<dominant wl>,<x col>,<y col>,<z col>

CALCulate:DATA? コマンドの出力データ略号一覧

略号	内容	format	出力単位
<center wl>	中心波長	<NRf>	m / Hz
<spec wd>	スペクトル幅	<NRf>	m / Hz
<mode num>	モード数	<integer>	
<notch wd>	ノッチ幅	<NRf>	m / Hz
<peak wl>	ピーク波長	<NRf>	m / Hz
<peak lvl>	ピークレベル	<NRf>	dBm
<2nd peak wl>	2nd ピーク波長	<NRf>	m/Hz
<2nd peak lvl>	2nd ピークレベル	<NRf>	dB
<delta wl>	波長差	<NRf>	m/Hz
<delta lvl>	レベル差	<NRf>	dB
<mode ofst>	モードオフセット	<NRf>	m/Hz
<smsr>	SMSR 値	<NRf>	dB
<smsr(L)>	SMSR 値 (短波長側)	<NRf>	dB
<smsr(R)>	SMSR 値 (長波長側)	<NRf>	dB
<mode ofst(L)>	モードオフセット (短波長側)	<NRf>	m/Hz
<mode ofst(R)>	モードオフセット (長波長側)	<NRf>	m/Hz
<2nd peak wl(L)>	2nd ピーク波長 (短波長側)	<NRf>	m/Hz
<2nd peak wl(R)>	2nd ピーク波長 (長波長側)	<NRf>	m/Hz
<2nd peak lvl(L)>	2nd ピークレベル (短波長側)	<NRf>	dB
<2nd peak lvl(R)>	2nd ピークレベル (長波長側)	<NRf>	dB
<delta wl(L)>	波長差 (短波長側)	<NRf>	m/Hz
<delta wl(R)>	波長差 (長波長側)	<NRf>	m/Hz
<delta lvl(L)>	レベル差 (短波長側)	<NRf>	dB
<delta lvl(R)>	レベル差 (長波長側)	<NRf>	dB
<power>	パワー値	<NRf>	dB/W
<total pow>	トータルパワー値	<NRf>	dB/W
<mode num>	モード数	<integer>	
<left mode peak>	モードピーク周波数 (左)	<NRf>	Hz
<right mode peak>	モードピーク周波数 (右)	<NRf>	Hz
<pmd>	PMD 値	<NRf>	ps
<ch num>	チャンネル数	<integer>	
<offset wl>	オフセット波長	<NRf>	m/Hz
<offset lvl>	オフセットレベル	<NRf>	dB
<noise>	ノイズレベル	<NRf>	dBm/NBW
<snr>	SNR 値	<NRf>	dB
<grid wl>	グリッド波長	<NRf>	m/Hz
<rel wl>	相対波長	<NRf>	m/Hz
<wl diff max>	波長差 (MAX)	<NRf>	m/Hz
<wl diff min>	波長差 (MIN)	<NRf>	m/Hz
<ref lvl>	相対レベル	<NRf>	dB
<lvl diff max>	レベル差 (MAX)	<NRf>	dB
<lvl diff min>	レベル差 (MIN)	<NRf>	dB
<input lvl>	入力レベル	<NRf>	dBm
<output lvl>	出力レベル	<NRf>	dBm
<ase lvl>	ASE レベル	<NRf>	dBm/RES
<resoln>	測定分解能	<NRf>	m
<gain>	ゲイン	<NRf>	dB
<nf>	NF 値	<NRf>	dB
<l-xtalk>	クロストーク値 (左)	<NRf>	dB
<r-xtalk>	クロストーク値 (右)	<NRf>	dB
<ripple>	リップル幅	<NRf>	m/Hz

7.7 解析結果出力フォーマット

略号	内容	format	出力単位
<nominal wl>	基準波長	<NRf>	m/Hz
<xdb wd>	XdB 幅	<NRf>	m/Hz
<xdb sb>	XdB stop-band	<NRf>	m/Hz
<xdb pb>	XdB pass-band	<NRf>	m/Hz
<xdb eb>	XdB elimination-band	<NRf>	m/Hz
<dominant wl>	ドミナント波長	<NRf>	m/Hz
<x col>	色度座標 (x)	<NRf>	
<y col>	色度座標 (y)	<NRf>	
<z col>	色度座標 (z)	<NRf>	
<color temp>	色温度	<NRf>	K
<dev>	偏差	<NRf>	

8.1 プログラムの編集

プログラム機能を使用するには、あらかじめプログラムを作成して本機器に登録しておく必要があります。

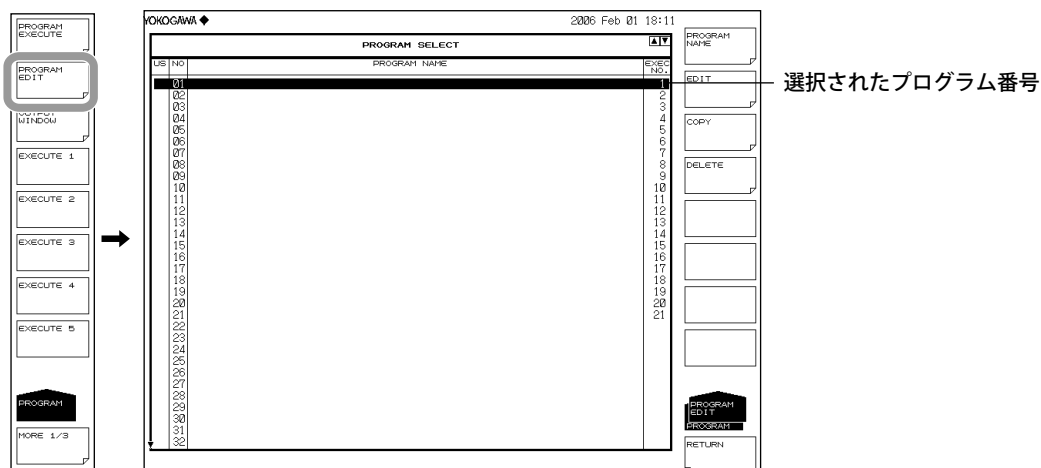
操 作

1. PROGRAM を押します。
Program メニューが表示されます。
2. PROGRAM EDIT のソフトキーを押します。
プログラム登録画面が表示されます。

Note

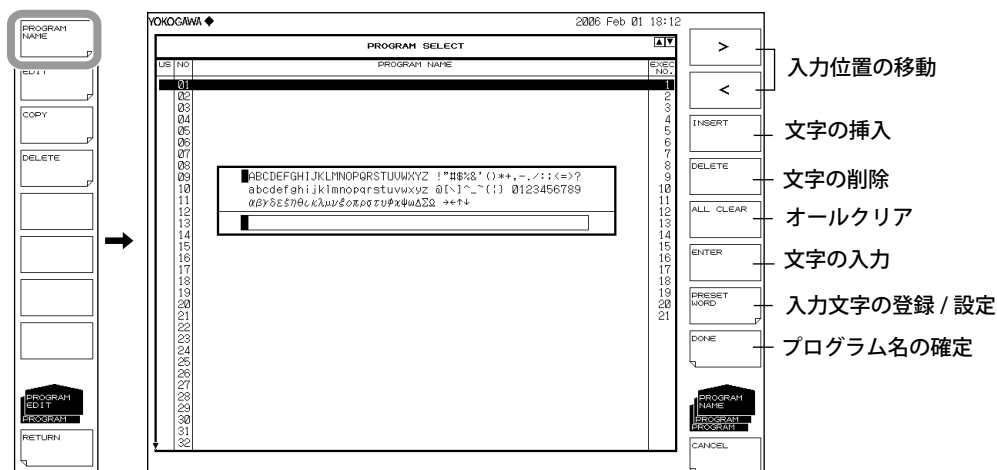
- ・ 1 画面に 32 個のプログラム名が表示されます。
- ・ プログラムが登録されているプログラム番号の US 列には" *" が表示されます。
- ・ EXECUTE NO. 列には、プログラムを割り当てた EXECUTE 1 ～ EXECUTE 21 のソフトキーに対応する番号が表示されます。
EXECUTE 1 ～ EXECUTE 21 のソフトキーへの割り当て方については「8.2 プログラムの実行」をご覧ください。

3. ロータリノブまたは矢印キーで登録番号を選択します。



プログラム名の設定

4. PROGRAM NAME のソフトキーを押します。
プログラム名の入力画面が表示されます。
5. ロータリノブ、ソフトキーを使って、プログラム名を入力します。
6. プログラム名を入力したら、DONE のソフトキーを押します。プログラム名が確定され、プログラム登録画面に戻ります。設定したプログラム名が、プログラム登録画面に表示されます。



Note

入力した文字列を登録して再利用したり、以前に登録した文字列を利用する場合は、PRESET WORD のソフトキーを押してください。

文字列の登録

プログラム名の入力画面に文字列を入力した状態で、PRESET WORD のソフトキーを押します。

登録番号を選択して、SAVE のソフトキーを押します。プログラム名の入力画面に入力した文字列が登録されます。

登録されている文字列の利用

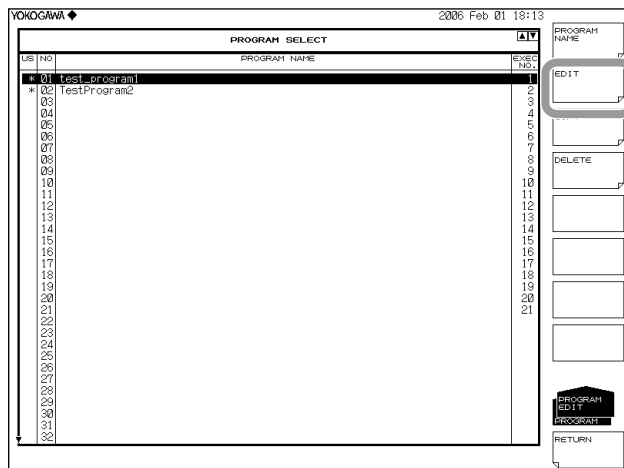
PRESET WORD のソフトキーを押します。

利用する文字列の番号を選択して、RECALL のソフトキーを押します。選択した文字列がプログラム名として入力されます。

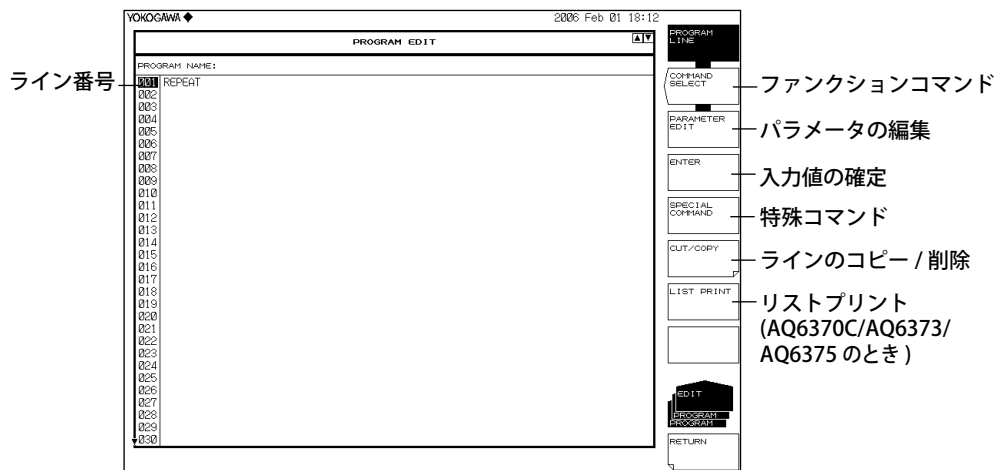
プログラムの編集

7. プログラム登録画面で、編集するプログラムを選択し、**EDIT** のソフトキーを押します。

プログラム編集画面が表示されます。

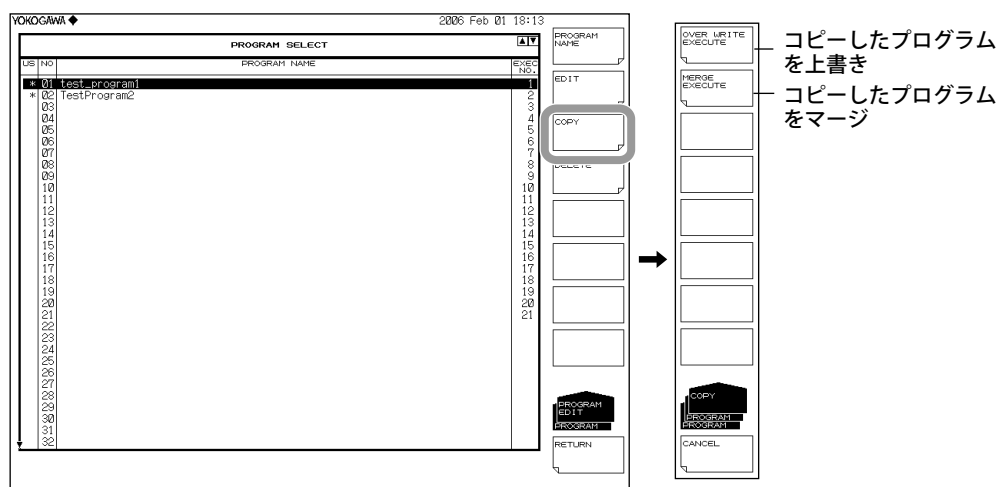


8. ロータリノブまたは矢印キーで編集するラインを選択します。コマンドパラメータが設定されているラインを選択した場合は、**PARAMETER EDIT** のソフトキーが有効になります。
9. ソフトキーを使って、プログラムを編集します。各ソフトキーによる設定内容については、8-6 ページ～ 8-7 ページをご覧ください。
10. プログラムの編集が終了したら、**RETURN** のソフトキーを押します。



プログラムのコピー / マージ (まとめる)

11. 操作 2 のプログラム登録画面で、コピー元のプログラムを選択します。
12. COPY のソフトキーを押します。



コピーしたプログラムを上書き

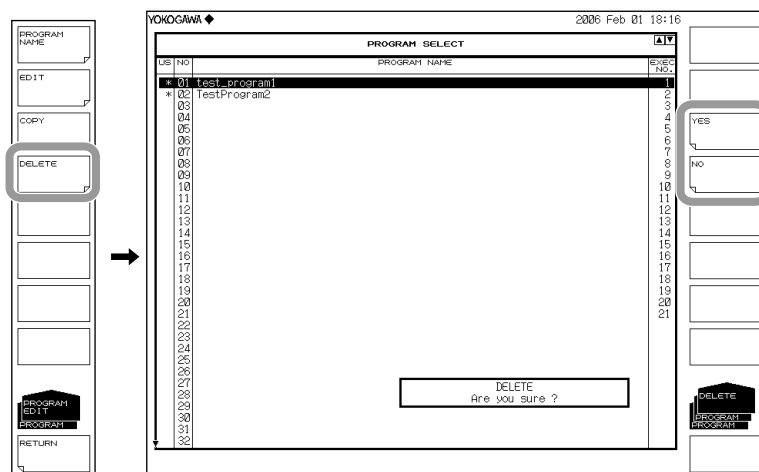
13. コピー先のプログラムを選択し、**OVER WRITE EXECUTE**(上書き)のソフトキーを押します。コピーしたプログラムが、選択したプログラムに上書きされます。

コピーしたプログラムをマージ

14. 操作 12 のあと、コピー先のプログラムを選択し、**MERGE EXECUTE**(マージ)のソフトキーを押します。コピーしたプログラムの内容が、コピー先として選択したプログラム内容の後ろにペーストされ、一つのプログラムになります。

プログラムの削除

15. 操作 2 のプログラム登録画面で、削除するプログラムを選択します。
16. DELETE のソフトキーを押します。確認のメッセージが表示されます。



17. 削除する場合は **YES**、削除を中止する場合は **NO** のソフトキーを押します。

プログラムの編集操作について

プログラムを編集するときの、各ソフトキーの操作について説明します。
プログラム編集画面 (PROGRAM を押して、PROGRAM EDIT > EDIT ソフトキー) を開いた状態から説明します。

コマンドの選択

コマンドには以下の2種類があります。

ファンクションコマンド

ファンクションスイッチ (ソフトキーの内容も含む) と同じ機能を実行するコマンドです。

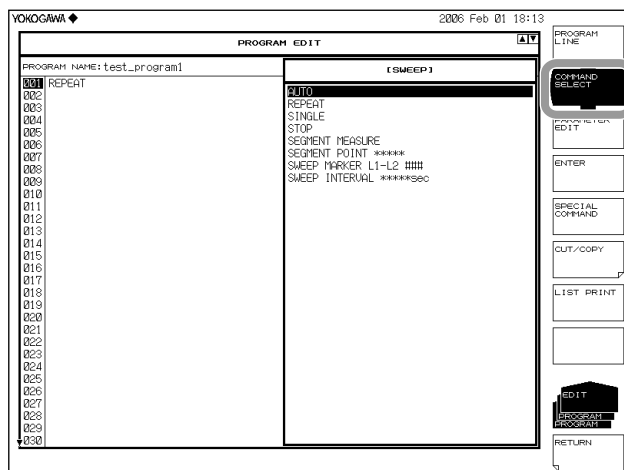
(SINGLE や SPAN などのソフトキーに対応したコマンド)

特殊コマンド

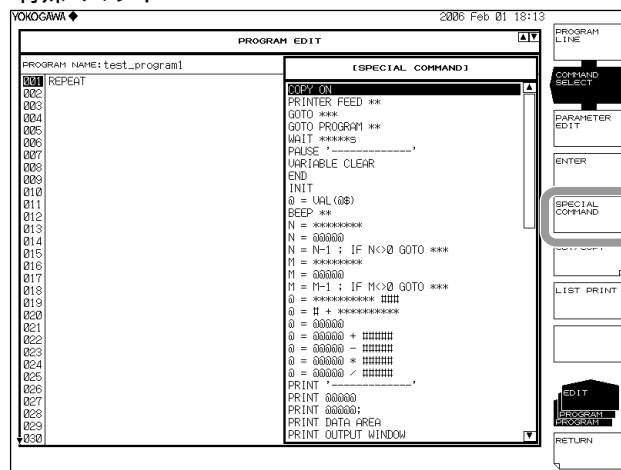
ジャンプ命令、条件判断などのプログラム制御命令や外部機器への制御命令、データの出力命令などがあります。

1. ファンクションコマンドを選択する場合は **COMMAND SELECT** のソフトキー、特殊コマンドを選択する場合は **SPECIAL COMMAND** のソフトキーを押します。ファンクションコマンドまたは特殊コマンドの選択画面が表示されます。

ファンクションコマンド



特殊コマンド



2. **ロータリノブ**または**矢印キー**でコマンドを選択して、**ENTER**のソフトキーを押します。選択したコマンドが入力されます。パラメータ設定が必要なコマンドを入力した場合は、パラメータの設定画面が表示されます。
3. パラメータを入力して、**ENTER**のソフトキーを押します。パラメータが設定されます。

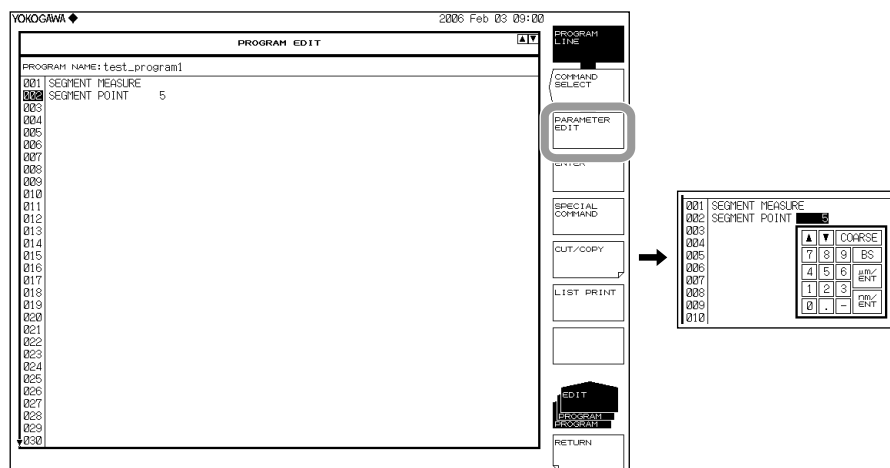
Note

- ・ コマンドの「****」部は数値、「###」部は選択パラメータ、「-----」部はテキスト入力部です。
- ・ ファンクションコマンドは、マウスを使った操作でも設定できます。マウスを右クリックするとパネルキー一覧が表示されます。左クリックで選択したパネルキーに対応したファンクションコマンドが入力されます。

パラメータの編集

入力されているコマンドのパラメータを変更します。

1. ロータリノブまたは矢印キーで、パラメータを変更するコマンドが入力されているラインを選択します。PARAMETER EDIT のソフトキーが有効になります。
2. PARAMETER EDIT のソフトキーを押します。パラメータの設定画面が表示されます。



3. パラメータを入力して、ENTER のソフトキーを押します。パラメータが設定されます。

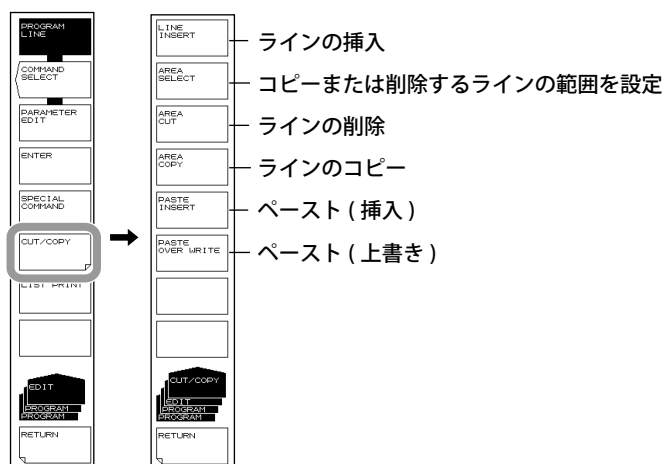
Note

パラメータの種類によって表示されるパラメータの設定画面が異なります。

ラインの挿入 / コピー / 削除

ラインの内容をコピーしたり、削除します。

1. CUT/COPY のソフトキーを押します。CUT/COPY 画面が表示されます。



ラインの挿入

2. ロータリノブまたは矢印キーでラインを挿入するライン番号を選択します。
3. LINE INSERT のソフトキーを押します。選択したライン番号の上に、1 ライン挿入されます。

Note

200 ラインすべてにコマンドが入力されている場合は、挿入できません。

ラインの削除

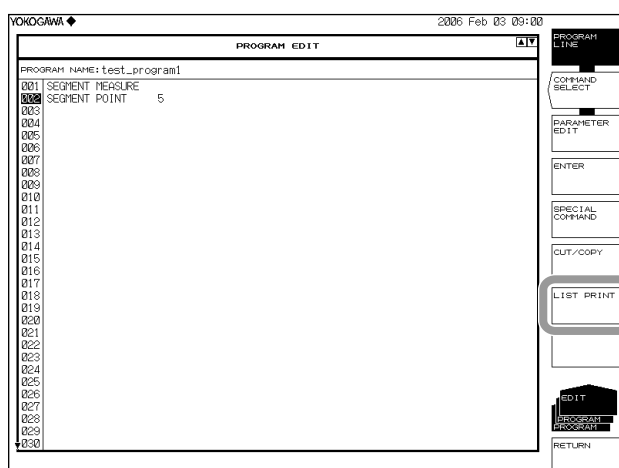
- 1 ライン削除する場合は、ロータリノブで削除するラインを選択します。
複数のラインを削除する場合は、削除する先頭または末尾ラインを選択したあと、**AREA SELECT** のソフトキーを押します。
ロータリノブまたは**矢印キー**で削除する範囲を設定します。
3. **AREA CUT** のソフトキーを押します。設定した範囲のラインが削除されます。
削除したラインを元に戻すときは、**UNDO/LOCAL** を押します。

ラインのコピー

2. 1 ラインコピーする場合は、ロータリノブまたは**矢印キー**でコピー元のラインを選択します。
複数のラインをコピーする場合は、コピーする先頭または末尾ラインを選択したあと、**AREA SELECT** のソフトキーを押します。
ロータリノブまたは**矢印キー**でコピーする範囲を設定します。
3. **AREA COPY** のソフトキーを押します。設定した範囲のラインがコピーされます。
4. ロータリノブまたは**矢印キー**でコピー先のラインを選択します。
5. コピーした内容を挿入する場合は、**PASTE INSERT** のソフトキーを押します。
コピーした内容を上書きする場合は、**PASTE OVER WRITE** のソフトキーを押します。
コピー先として選択したラインを先頭にして、コピーした内容がペーストされます。
ペーストとした内容を元に戻すときは、**UNDO/LOCAL** を押します。

プログラムリストのプリント (AQ6370C/AQ6373/AQ6375)

1. **.LIST PRINT** のソフトキーを押します。内蔵プリンタでプログラムリストがプリントされます。



Note

内蔵プリンタが装着されていない場合は、LIST PRINT のソフトキーを操作できません。

解 説

プログラム

最大で 64 個のプログラムを登録できます。

それぞれのプログラムをプログラムキーに登録して、直接ソフトキーを押して、プログラムを実行できます。

コマンド

実行できるコマンドには、2 種類あります。

ファンクションコマンド

(SINGLE や SPAN などのソフトキーに対応したコマンド)

特殊コマンド

ジャンプ命令、条件判断などのプログラム制御命令や外部機器への制御命令、データの出力命令など

コマンドの詳細については「8.3 プログラム機能用コマンド」をご覧ください。

プログラムのマージ

2 つの異なるプログラムを、一つのプログラムにまとめることができます。

コピーしたプログラムの内容を、指定したプログラムの内容のあとにペーストします。

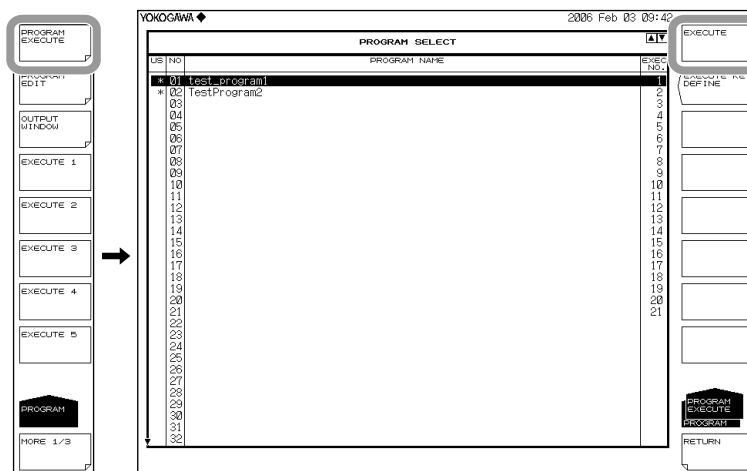
8.2 プログラムの実行

プログラムの実行方法には、プログラムを指定して実行する方法と、プログラムをソフトキーに割り当てて直接実行する方法があります。

操 作

プログラムを指定して実行

1. PROGRAM を押します。
Program メニューが表示されます。
2. PROGRAM EXECUTE のソフトキーを押します。プログラム選択画面が表示されます。



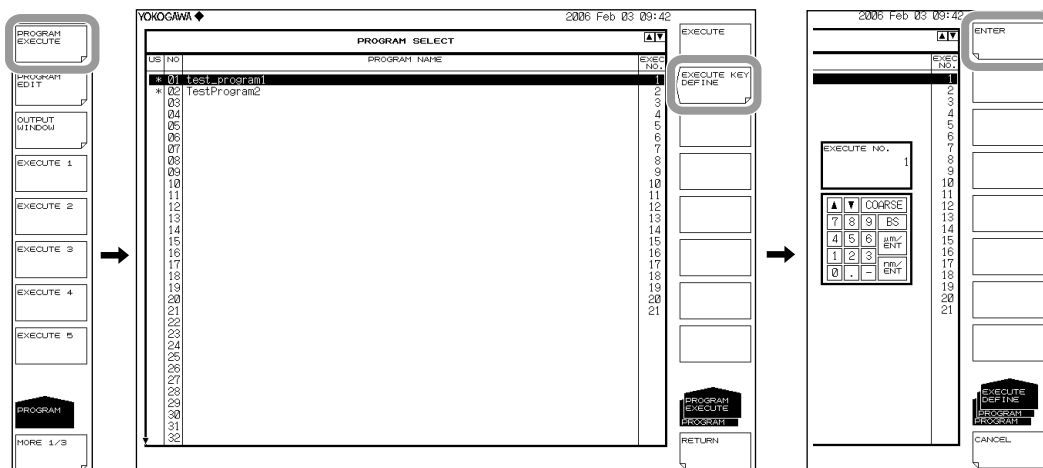
3. ロータリノブまたは矢印キーで実行するプログラムを選択します。
4. EXECUTE のソフトキーを押します。プログラムが実行されます。

Note

プログラムを途中で止める場合は、PROGRAM EXIT のソフトキーを押します。

プログラムをソフトキーに割り当てて直接実行 ソフトキーへの割り当て

1. PROGRAM を押します。
Program メニューが表示されます。
2. PROGRAM EXECUTE のソフトキーを押します。プログラム選択画面が表示されます。



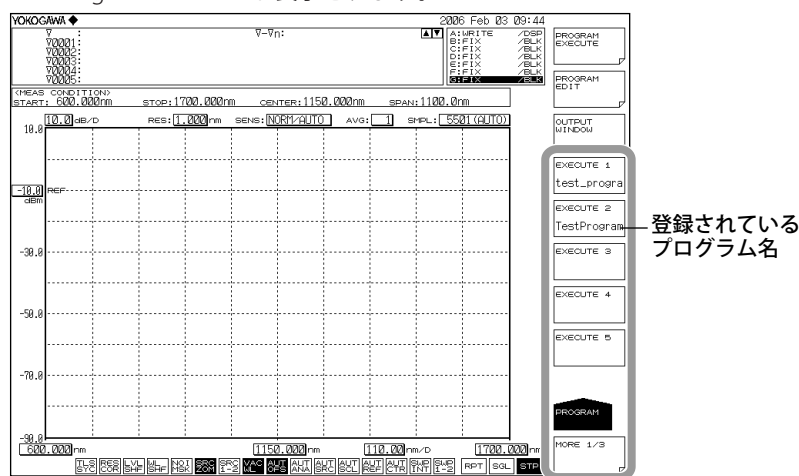
3. ロータリノブまたは矢印キーで割り当てるプログラムを選択します。
4. EXECUTE KEY DEFINE のソフトキーを押します。割り当てるソフトキーを設定する画面が表示されます。
5. 1～21 の範囲でソフトキー番号を設定して ENTER のソフトキーを押します。すでにプログラムが割り当てられている番号を設定した場合は、上書きされます。

Note

ひとつのプログラムを複数のソフトキーに割り当てることはできません。

プログラムの実行

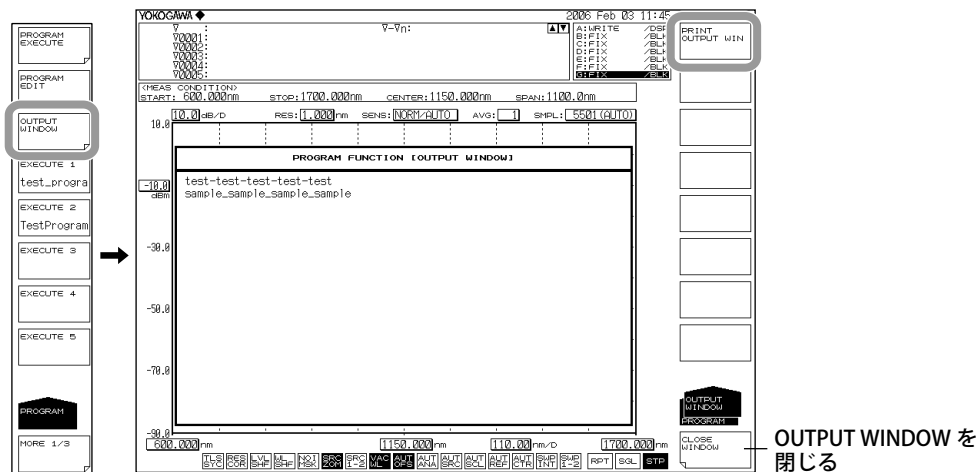
1. PROGRAM を押します。
Program メニューが表示されます。



2. EXECUTE 1～EXECUTE 21 のソフトキーを押します。ソフトキーに割り当てられたプログラムが実行されます。

OUTPUT WINDOW の表示

1. **PROGRAM** を押します。
Program メニューが表示されます。
2. **OUTPUT WINDOW** のソフトキーを押します。OUTPUT WINDOW が表示されます。



Note

OUTPUT WINDOW に表示するデータがないときは、OUTPUT WINDOW のソフトキーを操作できません。

DATA OUTPUT コマンドを実行して出力されたデータや文字が表示されます。

3. OUTPUT WINDOW の内容を内蔵プリンタでプリントする場合は、**PRINT OUTPUT WIN** のソフトキーを押します (AQ6370C/AQ6373/AQ6370D のとき)。
4. OUTPUT WINDOW を閉じる場合は、**CLOSE WINDOW** のソフトキーを押します。

Note

- ・ 特殊コマンドの「OUTPUT WINDOW CLEAR」を実行するまで、OUTPUT WINDOW の内容は保持されます。
- ・ OUTPUT WINDOW の内容をファイルに保存できます。詳細は本体取扱説明書 (IM AQ6370C-01JA、IM AQ6370D-01JA、IM AQ6373-01JA、IM AQ6373B-01JA、IM AQ6375-01JA、IM AQ6375B-01JA) をご覧ください。
- ・ OUTPUT WINDOW の内容が 200 行を超えた場合は、1 行目から順に消去されます。
- ・ 本機器の電源を OFF にすると、OUTPUT WINDOW の内容は消去されます。

解 説**特殊コマンドによる動作**

プログラム実行中に、コマンドによって次のような動作をします。

“PAUSE ‘-----’ ” が入力されているプログラムを実行した場合

プログラムが一時停止状態になります。

“PAUSE ‘-----’ ” で入力した文字列がメッセージとともに表示され、プログラムが一時停止状態になります。

プログラムの実行を再開するには、CONTINUE のソフトキーを押します。

リモートコントロールでプログラムを実行した場合は、“PAUSE ‘-----’ ” コマンドは無視されます。

“DATA INPUT ----- ‘;@’ ” コマンドが入力されているプログラムを実行した場合

プログラムを実行したときに、データ入力を要求するウィンドウが表示されます。

@ の変数によって、2 種類のウィンドウが表示されます。

文字列変数の場合： ラベル入力時と同様な方法でファイル名を入力し、DONE のソフトキーを押します。

数値変数の場合： データ入力ウィンドウが表示されます。ロータリーノブ、矢印キーまたはテンキーで、任意の数値を設定します。

リモートコントロールでプログラムを実行した場合は、“DATA INPUT ----- ‘;@’ ” コマンドは無視されます。

“DATA OUTPUT @@@@” によるデータ出力

プログラムを実行したときに、出力データを表示するための OUTPUT WINDOW が表示されます。

OUTPUT WINDOW に、“@@@@” で指定した変数の内容が表示されます。

OUTPUT WINDOW には、最大 200 行の内容が表示されます。

一度に表示できるのは、最大 20 行です。20 行以上のデータを表示する場合は、ロータリーノブまたは矢印キーでスクロールします。

OUTPUT WINDOW をプログラム実行中に表示させることができます。

設定方法は、特殊コマンドの “OUTPUT WINDOW ###” コマンドを使用します。

ただし、プログラムが終了すると、OUTPUT WINDOW 表示は消えます。

プログラム実行時のエラー

プログラム実行時にエラーが発生すると、エラー内容を示すエラー番号が表示されて、プログラム実行を中止します。

エラー番号の分類

300 ～ 307 手動操作では有り得ない設定を行った場合のエラー

320 ～ 326 特殊コマンドに関するエラー

340 ～ 347 入出力に関するエラー

360 ～ 369 外部メモリに関するエラー

380 ～ 383 その他のエラー

上記の番号は GP-IB コマンドの SYSTem:ERRor[:NEXT]? で読み出すことができます (「7.6 機器固有コマンド」参照)。

No.	メッセージ	発生原因	コマンドが有効な機器の形名
300	Parameter out of range	パラメータを変数で設定するコマンドにおいて、変数の値が範囲外または未定義である。	
302	Scale unit mismatch	"LINE MKR3 or 4" コマンドにおいて、アクティブトレースの Y 軸スケールとパラメータの単位が異なる。	
303	No data in Active trace	アクティブトレースがデータなし状態で、移動マーカ設定、ピーク (またはボトム) サーチ、解析機能を実行した。	
304	Marker value out of range	移動マーカ、ライン設定コマンドにおいて、指定した波長が掃引範囲外だった。	
305	No data in trace A or B	"EDFA NF" コマンド実行時、トレース A、B に波形が無かった。	
306	Invalid data	トレースのメモリ SAVE または内部メモリ / 外部メモリ書き込み実行時に、トレースがデータなし状態だった。	
307	Unsuitable Write item	"WRITE DATA" 実行時、データ項目が全て OFF 設定だった。	
320	Undefined variable	未定義の変数の含んだコマンドを実行した。	
321	Variable unit mismatch	2 つ以上の変数を含むコマンドにおいて、各変数の単位が一致しない。	
322	Overflow	演算においてオーバーフローが発生した。	
323	Undefined marker variable	マーカが表示されていないときに、マーカ値の変数を含むコマンドを実行した。	
324	Invalid marker variable	スペクトル幅サーチ、ピークサーチ等を実行した直後以外で、対応する変数を含むコマンドを実行した。	
325	Undefined line number	GOTO コマンドの飛び先が 1 ～ 200 以外になっている。	
326	F1 greater than F2	"IF F1 <=@@<=F2" コマンド実行時、F1>F2 となっている。	
340	Printer paper empty	プリンタの記録紙がない。	AQ6370C/ AQ6373/AQ6375
341	Printer head up	プリンタのヘッドアップ用レバーが上がっているためプリントできない。	AQ6370C/ AQ6373/AQ6375
345	Option does not respond	外部機器が応答しない。	
346	Option is not connected	外部機器が接続されていない。	
347	GP-IB2 not system controller	GP-IB2 ポート上のシステムコントローラが外部コンピュータに設定されている。	AQ6370C/ AQ6373/AQ6375
360	Disk full	外部メモリの空き容量が足りないため、ファイルが作成できない。	
361	Disk not inserted	外部メモリが接続されていない。	
362	Disk is write protected	外部メモリが書き込み禁止に設定されている。	
363	Disk not initialized	外部メモリが初期化されていない。または、本機器では使用できないフォーマットで初期化されている。	
364	Directory full	ディレクトリ領域が一杯で、ファイルが作成できない。	

8.2 プログラムの実行

No.	メッセージ	発生原因	コマンドが有効な機器の形名
365	File not found	指定したファイルが見つからず、読み出しができない。または、ディスク上にファイルがない。	
366	File is write protected	ファイルが READ ONLY 属性になっているため、書き換えや削除ができない。	
367	No data	保存するデータがない。	
368	File is not a trace file	波形ファイルではないので読み出しができない。	
369	Illegal file name	ファイル名が不適切なため、保存ができない。	
370	File type mismatch	指定したファイルの種類がコマンドと一致しないため、ファイルの保存 / 読み出しができない。	
371	Directory already exist	すでに同じ名前のディレクトリがあるため、ディレクトリが作成できない。	
380	Undefined program	プログラムが未登録状態で実行しようとした。	
381	Syntax error	コマンドが間違っている。(何らかの理由によりプログラムが書き変わった。)	
382	Program nesting over	プログラムのネストが深すぎてネスティングできない。	
383	Program reentrant error	GOTO コマンドの飛び先が自身のプログラム番号と同じため、ループ動作になり再帰できない。	

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムで使用するコマンドには、パネルキーから入力するファンクションコマンドと、その他の特殊コマンドがあります。

変数

プログラムで可以使用する変数を、下表に示します。

種類	変数名	内容
汎用変数	E、G～K、 O～R、T、U、 V、X、Y、Z*	汎用の数値変数が入ります。
	A\$, B\$, C\$, D\$	汎用の文字列変数が入ります。
GP-IB 変数	S	シリアルポートを行い、受け取ったステータスバイトを格納します。 汎用の数値変数としても利用可能です。
	A\$, B\$, C\$, D\$	GP-IB2 ポートで受信したデータ (AQ6370C/AQ6373/AQ6375) 汎用の文字列変数としても利用可能です。
		日時 / ファイル名変数
	FILES\$	最後にファイルアクセスしたときのファイル名が入ります。
	TIME\$	日付・時刻が入ります。(例 2005 Sep 08 20:45:37)
マーカ変数	WM	移動マーカの波長値が入ります。
	W1	固定マーカ 1 の波長値が入ります。
	W2	固定マーカ 2 の波長値が入ります。
	W2-W1	固定マーカ 2 と 1 の波長差が入ります。
	W(CH)	固定マーカ (CH : 1 ~ 1024) の波長値が入ります。
	LM	移動マーカのレベル値が入ります。
	L1	固定マーカ 1 のレベル値が入ります。
	L2	固定マーカ 2 のレベル値が入ります。
	L2-L1	固定マーカ 2 と 1 のレベル差が入ります。
	L(CH)	固定マーカ (CH : 1 ~ 1024) のレベル値が入ります。
拡張マーカ変数 (AQ6370C/ AQ6370D/ AQ6373B/ AQ6375B の場合 に有効)	WAM1	拡張マーカ 1 の波長値が入ります。
	WAM2	拡張マーカ 2 の波長値が入ります。
	WAM3	拡張マーカ 3 の波長値が入ります。
	WAM4	拡張マーカ 4 の波長値が入ります。
	WAM2-WAM1	拡張マーカ 2 と 1 の波長差が入ります。
	WAM4-WAM3	拡張マーカ 4 と 3 の波長差が入ります。
	LAM1	拡張マーカ 1 のレベル値が入ります。
	LAM2	拡張マーカ 2 のレベル値が入ります。
	LAM3	拡張マーカ 3 のレベル値が入ります。
	LAM4	拡張マーカ 4 のレベル値が入ります。
	LAM2-LAM1	拡張マーカ 2 と 1 のレベル差が入ります。
	LAM4-LAM3	拡張マーカ 4 と 3 のレベル差が入ります。
ANALYSIS 変数	SPWD	スペクトル幅サーチ実行時のスペクトル幅が入ります。
	PKWL	ピーク (またはボトム) サーチまたはスペクトル幅サーチ実行時のピーク (またはボトム) 波長値が入ります。
	MEANWL	スペクトル幅サーチ実行時の中心波長が入ります。
	PKLVL	ピーク (またはボトム) サーチまたはスペクトル幅サーチ実行時のピーク (またはボトム) レベル値が入ります。
	MODN	スペクトル幅サーチ実行時のモード本数が入ります。
	SMSR	SMSR 測定実行時のサイドモード抑圧比 (レベル差) が入ります。
	SMSR2	SMSR3/4 測定実行時のサイドモード抑圧比 (レベル差) の長波長側の値が入ります (AQ6370C/AQ6370D のみ)
	WDMCHN	WDM 解析実行時の検出されたチャンネル数が入ります。
	WDMWL(CH)	WDM 解析実行時の CH チャンネルの中心波長が入ります。
	WDMVLV(CH)	WDM 解析実行時の CH チャンネルのレベルが入ります。
	WDMSNR(CH)	WDM 解析実行時の CH チャンネルの SNR が入ります。
	MKPWR	マーカ間パワー測定実行時のパワーが入ります。
	PMD	PMD 解析の PMD 値が入ります。

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

種類	変数名	内容
ANALYSIS 変数	AQ6373/AQ6373B の場合、無効な変数	
	NFCHN	EDFA-NF 解析実行時の検出されたチャネル数が入ります。
	NFWL(CH)	EDFA-NF 解析実行時の CH チャネルの中心波長が入ります。
	NFLVLI(CH)	EDFA-NF 解析実行時の CH チャネルの入力信号レベルが入ります。
	NFLVLO(CH)	EDFA-NF 解析実行時の CH チャネルの出力信号レベルが入ります。
	NFASELV(CH)	EDFA-NF 解析実行時の CH チャネルの ASE レベルが入ります。
	NFGAIN(CH)	EDFA-NF 解析実行時の CH チャネルの GAIN が入ります。
	NFNF(CH)	EDFA-NF 解析実行時の CH チャネルの NF が入ります。
プログラム制御変数	AQ6373/AQ6373B に有効な変数	
	DOMWL	ドミナント波長測定時のドミナント波長値が入ります。
	XCOL	COLOR 解析実行時の色度座標値 X が入ります。
	YCOL	COLOR 解析実行時の色度座標値 Y が入ります。
	ZCOL	COLOR 解析実行時の色度座標値 Z が入ります。
テンプレート変数	M	ループ用カウンタが入ります。
	N	ループ用カウンタが入ります。
	F1	条件判定用の変数が入ります。
	F2	条件判定用の変数が入ります。
	CH	配列変数にアクセスするときの要素番号用変数が入ります (1 ~ 1024)。
テンプレート変数	GONO	GO/NO-GO 判定結果が入ります。

変数による四則演算の原則

単位付きの変数を演算に使用した場合、演算結果の単位は、以下のようになります。

計算式	結果
(単位付き) × (単位なし)	単位付き
(単位付き)/(単位なし)	単位付き
(単位なし) + (単位なし)	単位なし
(単位なし) - (単位なし)	単位なし
(単位なし) × (単位なし)	単位なし
(単位なし)/(単位なし)	単位なし
(nm)+(nm)	(nm)
(nm) - (nm)	(nm)
(nm)/(nm)	単位なし
(dB)+(dB)	(dB)
(dB) - (dB)	(dB)
(dBm)+(dB)	(dBm)
(dBm) - (dB)	(dBm)
(dBm) - (dBm)	(dB)
(#W)+(#W)	(#W)
(#W) - (#W)	(#W)
(#W)/(#W)	単位なし

Note

- dBm/nm、W/nm、dB/km、% の単位については、変数上それぞれ dBm、W、dB、単位なしとして扱います。
- 変数の単位により上記のように演算を行い、演算後の結果に単位を付けます。
- 上記以外の組み合わせで演算を行った場合 (単位の異なる変数同士を加減乗除した場合) 演算結果は単位なしとなります。
- #W の単位については、
 - 1 mW=1
 - 1 μW=0.001
 - 1 nW=0.000001
 - 1 pW=0.000000001
 として扱います。

“@=VAL(@\$)” コマンドの仕様

@\$ の文字列中の数値 (符号または数字で始まる) の前にある数字以外の文字列は無視し、以下を変換します。

- ・ “、”
- ・ 次の文字列またはデリミタまでの数字

@\$ の文字列中に数値が存在しない場合は、変数 @ に “0” を代入します。

ファンクションコマンド一覧

ファンクションコマンドごとに、それぞれのプログラムコマンドの内容を説明します。
 プログラムコマンドが有効な光スペクトラムアナライザの形名とパラメータ範囲および扱える変数を示します。
 AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B、AQ6375、AQ6375B について、一部の機器だけに有効なコマンドには、その形名を記載しています。すべての機器に有効なコマンドには、形名を記載していません。

SWEEP

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
AUTO	オート掃引	
REPEAT	リピート掃引	
SINGLE	シングル掃引	
STOP	掃引停止	
SEGMENT MEASURE	停止中の波長位置から指定した ポイント数だけ測定	
SEGMENT POINT *****	SEGMENT MEASURE キーで測定 するポイント数を設定	1 ～ 50001 (1 step)
SWEEP MKR L1-L2 ####	マーカ間掃引機能の ON/OFF を 選択	### : ON or OFF
SWEEP INTVL *****sec	リピート掃引時のインターバル 時間を設定	MINIMUM、1 ～ 99999sec(1step) (0 設定で MINIMUM になります。)

Note

一覧表に形名の記載のないプログラムコマンドは、AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B、AQ6375、AQ6375B すべてに有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

CENTER

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
CENTER WL ****.***nm	測定中心波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000nm (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1200.000nm(0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 2400.000nm(0.001 step)
CENTER WL @@@@	変数 @@@@ の値を、測定 中心波長に設定	@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), PKWL, MEANWL, WDMWL(CH), NFWL(CH)
	AQ6370C/AQ6370D の場合に 有効な変数	WAM1, WAM2, WAM3, WAM4
CENTER FREQ ***.***THz	測定中心周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 500.0000THz (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 856.5000THz (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 125.0000 ~ 250.0000THz (0.0001 step)
CENTER FREQ @@@@	変数 @@@@ の値を、測定 中心周波数に設定	@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, W(CH), PKWL, MEANWL, WDMWL(CH), NFWL(CH)
CENTER WNUM ****.***cm ⁻¹	測定中心波数を設定	AQ6375/AQ6375B 4167.000 ~ 8333.000cm ⁻¹ (0.001 step)
CENTER WNUM @@@@	変数 @@@@ の値を、測定 中心波数に設定	AQ6375/AQ6375B @@@@: G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), PKWL, MEANWL
START WL ****.***nm	測定開始波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 50.000 ~ 1700.000nm (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 1.000 ~ 1200.000nm (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 600.000 ~ 2400.000nm (0.001 step)
START FREQ ***.***THz	測定開始周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 11.5000 ~ 500.0000THz (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 10.0000 ~ 856.5000THz (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 60.0000 ~ 250.0000THz (0.0001 step)
START WNUM ****.***cm ⁻¹	測定開始波数を設定	AQ6375/AQ6375B 2067.000 ~ 8333.000cm ⁻¹ (0.001 step)
STOP WL ****.***nm	測定終了波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 2250.000nm (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1625.000nm(0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 3000.000nm(0.001 step)

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
STOP FREQ ***.***THz	測定終了周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 665.0000 (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 999.9000 (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 125.0000 ~ 315.0000 (0.0001 step)
STOP WNUM ****.***cm ⁻¹	測定終了波数を設定	AQ6375/AQ6375B 4167.000 ~ 10433.000cm ⁻¹ (0.001 step)
PEAK->CENTER	アクティブトレース上の波形 の中心周波数に設定	
MEAN WL->CENTER	アクティブトレース上でスペ クトル幅サーチを行い、結果 の中心波長を測定中心波長に 設定	
AUTO CENTER ###	掃引が終了するたびに実行す る <PEAK → CENTER> 機能の ON/OFF を選択	### : ON or OFF
VIEW SCALE->MEAS SCALE	現在の表示条件を測定条件に 設定	

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

SPAN

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
SPAN WL ****.nm	測定スパンを設定	AQ6370C/AQ6370D 0.0 ~ 1100.0nm (0.1 step) AQ6373/AQ6373B 0、0.5 ~ 850.0nm (0.1 step) AQ6375/AQ6375B 0、0.5 ~ 1200.0nm (0.1 step)
SPAN WL @@@@	変数 @@@@ の値を測定スパン に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@ : E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、 S、T*、U*、V*、X、Y、Z、W2-W1、 SPWD、WAM2-WAM1、WAM4-WAM3
SPAN FREQ ***.***THz	測定スパンを設定	AQ6370C/AQ6370D 0.0 ~ 330.00THz (0.01 step) AQ6373/AQ6373B 0、0.05 ~ 610.00THz (0.01 step) AQ6375/AQ6375B 0.01 ~ 130.00THz (0.01 step)
SPAN FREQ @@@@	変数 @@@@ の値を測定スパン に設定	@@@@ : E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、 S、T*、U*、V*、X、Y、Z、W2-W1、 SPWD、WAM2-WAM1、WAM4-WAM3
SPAN WNUM ****.cm ⁻¹	測定スパンを設定	AQ6375/AQ6375B 0.5 ~ 4200.0cm ⁻¹ (0.1 step)
SPAN WNUM @@@@	変数 @@@@ の値を測定スパン に設定	@@@@ : G、H、I、J、K、P、Q、R、S、X、Y、Z、 W2-W1、SPWD

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
START WL ****.***nm	測定開始波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 50.000 ~ 1700.000nm (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 1.000 ~ 1200.000nm (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 600.000 ~ 2400.000nm (0.001 step)
START FREQ ***.***THz	測定開始周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 11.5000 ~ 500.0000THz (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 10.0000 ~ 856.5000THz (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 60.0000 ~ 250.0000THz (0.0001 step)
START WNUM ****.***cm ⁻¹	測定開始波数を設定	AQ6375/AQ6375B 2067.000 ~ 8333.000cm ⁻¹ (0.001 step)
STOP WL ****.***nm	測定終了波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 2250.000nm (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1625.000nm(0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 3000.000nm (0.001 step)
STOP FREQ ***.***THz	測定終了周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 665.0000THz (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 999.9000THz (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 125.0000 ~ 315.0000THz (0.0001 step)
STOP WNUM ****.***cm ⁻¹	測定終了波数を設定	AQ6375/AQ6375B 4167.000 ~ 10433.000cm ⁻¹ (0.001 step)
Δλ->SPAN	アクティブトレース上でスペクトル幅サーチを行い、結果を測定スパンに設定	
0nm SWEEP TIME **sec	測定スパン 0nm で掃引する場合の掃引時間を設定	0(MINIMUM)、1 ~ 50 (1step)
VIEW SCALE-> MEAS SCALE	現在の表示条件を測定条件に設定	

LEVEL

AQ6375/AQ6375B の場合、横軸が波数モードに設定されているときは、以下のコマンドが無効になります。

LEVEL UNIT ##### ##### : dBm、dBm/nm

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
REFERENCE LEVEL ***.*dBm	LOG スケール時の基準レベル値を設定	-90.0 ~ 30.0dBm (0.1 step)
REFERENCE LEVEL ***.###	LIN スケール時の基準レベル値を設定	1.00pW ~ 1000mW (1.00 ~ 9.99[pW、nW、μW、mW] : 0.01 step 10.0 ~ 99.9(100)[pW、nW、μW、 (mW)] : 0.1 step 100 ~ 999 [pW、nW、μW、mW] : 1 step(## は、pW、nW、μW、mW のいずれ かを選択
REFERENCE LEVEL @@@@@	変数 @@@@@ の値を、基準レベル値に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, LM, L1, L2, L(CH), PKLVL, WDM LVL(CH), NFLVI(CH), NFLVO(CH), NFASELV(CH), MKPWR, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4
LEVEL SCALE **.*dB/D	レベルスケール値を設定	0(LINEAR)、0.1 ~ 10.0dB/DIV (0.1 step)
LEVEL SCALE @@@@@	変数 @@@@@ の値をレベルスケールに設定	@@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, L2-L1, SMSR, SMSR2, WDM SNR(CH), NFNF(CH), LAM2-LAM1, LAM4-LAM3
BASE LEVEL ****	リニアスケール時の下端値の設定単位は REF LEVEL で設定されているものを使用 スケールの上単位の 90% を越えてしまう場合は実行時にエラー	0 ~ 900(0.1 step)
PEAK->REF LEVEL	アクティブトレース上の波形のピークレベルを基準レベル値に設定	
AUTO REF LEVEL ###	掃引終了ごとに実行する <PEAK->REF LEVEL> 機能の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
LEVEL UNIT #####	レベルスケールの単位設定	##### : dBm、dBm/nm
Y SCALE DIVISION ##DIV	レベルスケールの分割数を設定	##: 8, 10, 12
REF LEVEL POSITION **DIV	レベルスケール上の 基準レベルの位置を設定	0 ~ 12 (1 step)
SUB SCALE LOG **.*dB/D	LOG スケール時のサブ スケール値を設定	0.1 ~ 10.0dB/DIV (0.1 step)
SUB SCALE LIN *.*./D	LIN スケール時のサブ スケール値を設定	0.005 ~ 1.250 (0.005 step)
SUB SCALE **.*dB/km	dB/km スケール時のサブ スケール値を設定	0.1 ~ 10.0 (0.1 step)
SUB SCALE **.*%/D	%/D スケール時のサブ スケール値を設定	0.5 ~ 125.0 (0.1 step)
OFFSET LEVEL **.*dB	LOG スケール時のサブスケールのオフセット値を設定	-99.9 ~ 99.9 (0.1 step)
OFFSET LEVEL ***.*dB/km	dB/km スケール時のサブ スケールのオフセット値を設定	-99.9 ~ 99.9 (0.1 step)
SCALE MINIMUM **.*	リニアスケール時のサブ スケールの下端値を設定	0.00 ~ 12.50 (0.01 step)

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
SCALE MINIMUM ***. %	%/D スケール時のサブスケール の下端値を設定	0.0 ~ 1250.0 (0.1 step)
LENGTH **.***km	ファイバ長の設定	0.001 ~ 99.999 (0.001 step)
AUTO SUB SCALE ###	サブスケールを演算トレースの 波形より自動設定	###: ON/OFF
SUB REF LEVEL POSITION **DIV	サブレベルスケール上の基準 レベルの位置を設定	0 ~ 12 (1 step)

Note

AQ6375/AQ6375B の場合、横軸が波数のときは LEVEL UNIT に dBm/nm や W/nm を選択できません。

SETUP

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
RESOLUTION WL *.***nm	波長分解能を設定	AQ6370C/AQ6370D 0.020 ~ 2.000 (1-2-5 step) AQ6373/AQ6373B 0.010 ~ 10.00 (1-2-5 step) AQ6375/AQ6375B 0.050 ~ 2.000 (1-2-5 step)
RESOLUTION WL @@@@	変数 @@@@ の値を波長 分解能に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, W2-W1, SPWD, WAM2-WAM1, WAM4-WAM2
RESOLUTION FREQ ***GHz	周波数分解能を設定	AQ6370C/AQ6370D 4 ~ 400 (1-2-4 step) AQ6373/AQ6373B 2 ~ 2000 (1-2-4 step) AQ6375/AQ6375B 10 ~ 400 (1-2-4 step)
RESOLUTION FREQ @@@@	変数 @@@@ の値を周波 数分解能に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, W2-W1, SPWD
RESOLUTION WNUM *.**cm ⁻¹	波数分解能を設定	AQ6375/AQ6375B 0.10 ~ 5.00 (1-2.5-5 step)
RESOLUTION WNUM @@@@	変数 @@@@ の値を波数 分解能に設定	AQ6375/AQ6375B @@@@: G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z, W2-W1, SPWD
SENS NORMAL/HOLD	測定感度を NORMAL/ HOLD に設定	
SENS NORMAL/AUTO	測定感度を NORMAL/ AUTO に設定	
SENS NORMAL	測定感度を NORMAL に設 定	
SENS MID	測定感度を MID に設定	
SENS HIGH1	測定感度を HIGH1 に設定	AQ6370C/AQ6370D
SENS HIGH1/CHOP	測定感度を HIGH1/CHOP に設定	AQ6375/AQ6375B
SENS HIGH2	測定感度を HIGH2 に設定	AQ6370C/AQ6370D
SENS HIGH2/CHOP	測定感度を HIGH2/CHOP に設定	AQ6375/AQ6375B
SENS HIGH3	測定感度を HIGH3 に設定	AQ6370C/AQ6370D
SENS HIGH3/CHOP	測定感度を HIGH3/CHOP に設定	AQ6375/AQ6375B
CHOPPER #####	チョッパモードの切り替 え	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B #####: OFF/SWITCH
AVERAGE TIMES ***	平均化回数を設定	1 ~ 999 (1 step)

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
AVERAGE TIMES @	平均化回数の値を変数@の値に設定	@: E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z、M、N
SAMPLING POINT AUTO ###	1 掃引あたりのサンプリングポイントを自動設定	###: ON/OFF
SAMPLING POINT *****	1 掃引あたりサンプリングポイントを設定	101 ~ 50001 (1 step)
SAMPLING POINT @	サンプルポイントを変数@の値に設定	@: E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z、M、N
SAMPLING INTERVAL *.**** nm	1 掃引あたりの測定サンプリング間隔を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B 0.001 ~ SPAN/101 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 0.002 ~ SPAN/101 (0.001 step)
SAMPLING INTERVAL @	1 掃引あたりのサンプリング間隔を変数@の値に設定	AQ6370C/AQ6370D @: E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z、W2-W1、SPWD、WAM2-WAM1、WAM4-WAM3
MEASURE WAVELENGTH AIR	測定波長を空気波長に設定	
MEASURE WAVELENGTH VACUUM	測定波長を真空波長に設定	
X SCALE UNIT WAVELENGTH	X 軸を波長表示モードに設定	
X SCALE UNIT FREQUENCY	X 軸を周波数表示モードに設定	
X SCALE UNIT WAVENUMBER	X 軸を波数表示モードに設定	AQ6375/AQ6375B
SWEEP SPEED ##	掃引速度の設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ##: 1x/2x
PLS LIGHT MEASURE OFF	パルス光測定モードを OFF	
PEAK HOLD****msec	PEAK HOLD パルス光測定モードで、HOLD 時間を設定	****: 1 ~ 9999
EXTERNAL TRIGGER MODE	外部トリガモードに設定	
EXTERNAL TRIGGER EDGE RISE	外部トリガ信号の立ち下がりエッジを検出	
EXTERNAL TRIGGER EDGE FALL	外部トリガ信号の立ち上がりエッジを検出	
EXTERNAL TRIGGER DELAY ****.ms	外部トリガ信号検出後、データを取得するまでの遅延時間設定	0.0 ~ 1000.0 (0.1 step)
GATE MODE ****.msec	ゲートサンプルモードで、サンプリングインターバルタイムを設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ****: 0.1 ~ 1000.0 (0.1step)
GATE LOGIC POSI	ゲートサンプルモードの信号論理を正論理に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
GATE LOGIC NEGA	ゲートサンプルモードの信号論理を負論理に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
TLS SYNC SWEEP ###	同期掃引機能の ON/OFF 設定	AQ6370C/AQ6375 ###: ON/OFF
RESOLUTION CORRECTION ###	波長分解能補正機能の ON/OFF 設定 AQ6370D では MODE1 で ON、MODE2 で ON、OFF の設定	AQ6370D ###: ON(MODE1)/ON(MODE2)/OFF AQ6370C/AQ6373/AQ6373B ###: ON/OFF
SMOOTHING ###	スムージング機能の ON/OFF 設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B ###: ON/OFF
FIBER CORE SIZE #####	ファイバの口径モードの設定	AQ6373/AQ6373B #####: SMALL/LARGE
FIBER CONNECTOR #####	光ファイバのコネクタ種類の設定	AQ6370C/AQ6370D #####: NORMAL/ANGLED

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

TRACE

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
ACTIVE TRACE #	TRACE # をアクティブトレースに設定	# : A ~ G
DISPLAY #	TRACE # を表示モードに設定	# : A ~ G
BLANK #	TRACE # を非表示モードに設定	# : A ~ G
WRITE #	TRACE # を書き込みモードに設定	# : A ~ G
FIX #	TRACE # をデータ固定モードに設定	# : A ~ G
MAX HOLD #	TRACE # を最大値検出モードに設定	# : A ~ G
MIN HOLD #	TRACE # を最小値検出モードに設定	# : A ~ G
ROLL AVG # ***	TRACE # を逐次加算平均モードに設定	# : A ~ G、2 ~ 100 (1 step)
C=A-B(LOG)	TRACE C を TRACE A-B の演算モード (LOG) に設定	
C=B-A(LOG)	TRACE C を TRACE B-A の演算モード (LOG) に設定	
C=A+B(LOG)	TRACE C を TRACE A+B の演算モード (LOG) に設定	
C=A+B(LIN)	TRACE C を TRACE A+B の演算モード (LIN) に設定	
C=A-B(LIN)	TRACE C を TRACE A-B の演算モード (LIN) に設定	
C=B-A(LIN)	TRACE C を TRACE B-A の演算モード (LIN) に設定	
C=1-k(A/B) k=*.****	TRACE C を 1-k(TRACE A/B) の演算 モードに設定	1.0000 ~ 20000.0000 (0.0001 step)
C=1-k(B/A) k=*.****	TRACE C を 1-k(TRACE B/A) の演算 モードに設定	1.0000 ~ 20000.0000 (0.0001 step))
F=C-D(LOG)	TRACE F を TRACE C-D の演算モード (LOG) に設定	
F=D-C(LOG)	TRACE F を TRACE D-C の演算モード (LOG) に設定	
F=C+D(LOG)	TRACE F を TRACE C+D の演算モード (LOG) に設定	
F=D-E(LOG)	TRACE F を TRACE D-E の演算 モード (LOG) に設定	
F=E-D(LOG)	TRACE F を TRACE E-D の演算モード (LOG) に設定	
F=D+E(LOG)	TRACE F を TRACE D+E の演算モード (LOG) に設定	
F=C+D(LIN)	TRACE F を TRACE C+D の演算モード (LIN) に設定	
F=C-D(LIN)	TRACE F を TRACE C-D の演算モード (LIN) に設定	
F=D-C(LIN)	TRACE F を TRACE D-C の演算モード (LIN) に設定	
F=D+E(LIN)	TRACE F を TRACE D+E の演算モード (LIN) に設定	
F=D-E(LIN)	TRACE F を TRACE D-E の演算モード (LIN) に設定	
F=E-D(LIN)	TRACE F を TRACE E-D の演算モード (LIN) に設定	
G=C-F(LOG)	TRACE G を TRACE C-F の演算モード (LOG) に設定	
G=F-C(LOG)	TRACE G を TRACE F-C の演算モード (LOG) に設定	
G=C+F(LOG)	TRACE G を TRACE C+F の演算モード (LOG) に設定	
G=E-F(LOG)	TRACE G を TRACE E-F の演算モード (LOG) に設定	

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
G=F-E(LOG)	TRACE G を TRACE F-E の演算モード (LOG) に設定	
G=E+F(LOG)	TRACE G を TRACE E+F の演算モード (LOG) に設定	
G=C+F(LIN)	TRACE G を TRACE C+F の演算モード (LIN) に設定	
G=C-F(LIN)	TRACE G を TRACE C-F の演算モード (LIN) に設定	
G=F-C(LIN)	TRACE G を TRACE F-C の演算モード (LIN) に設定	
G=E+F(LIN)	TRACE G を TRACE E+F の演算モード (LIN) に設定	
G=E-F(LIN)	TRACE G を TRACE E-F の演算モード (LIN) に設定	
G=F-E(LIN)	TRACE G を TRACE F-E の演算モード (LIN) に設定	
G=NORM A	TRACE A の正規化データを TRACE G に表示するように設定	
G=NORM B	TRACE B の正規化データを TRACE G に表示するように設定	
G=NORM C	TRACE C の正規化データを TRACE G に表示するように設定	
G=CURVE FIT A **dB	TRACE A のカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
G=CURVE FIT B **dB	TRACE B のカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
G=CURVE FIT C **dB	TRACE C のカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
G=CURVE FIT PEAK A **dB	TRACE A のピークカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
G=CURVE FIT PEAK B **dB	TRACE B のピークカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
G=CURVE FIT PEAK C **dB	TRACE C のピークカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
G=MARKER FIT **dB	設置された▽マーカのカーブフィット処理データを TRACE G に表示するように設定	0 ~ 99 (1 step)
CVFIT OPERATION AREA ####	カーブフィット処理データを作成するときの計算対象範囲を設定	#### : ALL/IN L1-L2/OUT L1-L2
CURVE FIT/CURVE FIT PEAK ALGO ####	カーブフィット処理データを作成するときのフィッティング関数を設定	#### : GAUSS/LORENZ/ 3RD POLY/4TH POLY / 5TH POLY
TRACE #->#	データを変数 @ の TRACE から、変数 @ の TRACE へコピー	#: A ~ G
TRACE # CLEAR	TRACE # のデータをクリア	#: A ~ G
ALL TRACE CLEAR	すべての TRACE のデータをクリア	

8.3 プログラム機能用コマンド

ZOOM

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
ZOOM CENTER WL ****.***nm	表示スケールの中心波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1200.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
ZOOM CENTER @@@@@	変数 @@@@@ の値を、表示ス ケール の中心波長に設定	@@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), PKWL, MEANWL, WDMWL(CH), NFWL(CH), WAM1, WAM2, WAM3, WAM4
ZOOM CENTER FREQ ***.***THz	表示スケールの中心周波数を設 定	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 500.0000(0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 856.5000(0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 125.0000 ~ 250.0000(0.0001 step)
ZOOM CENTER FREQ @@@@@	変数 @@@@@ の値を、表示ス ケール の中心周波数に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), PKWL, MEANWL, WDMWL(CH), NFWL(CH), WAM1, WAM2, WAM3, WAM4
ZOOM CENTER WNUM****.***cm ⁻¹	表示スケールの中心波数を設定	AQ6375/AQ6375B 4167.000 ~ 8333.000cm ⁻¹ (0.001 step)
ZOOM CENTER WNUM@@@@@	変数 @@@@@ の値を、表示ス ケール の中心波数に設定	@@@@@: G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), PKWL, MEANWL
ZOOM SPAN WL ****.***nm	表示スケールのスパンを設定	AQ6370C/AQ6370D 0.1 ~ 1100.0nm (0.1 step) AQ6373/AQ6373B 0.1 ~ 850.0nm (0.1 step) AQ6375/AQ6375B 0.1 ~ 1200.0nm (0.1 step)
ZOOM SPAN WL @@@@@	変数 @@@@@ の値を、表示ス ケール のスパンに設定	@@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, W2-W1, SPWD
ZOOM SPAN FREQ ***.***THz	表示スケールのスパンを設定	AQ6370C/AQ6370D 0.01 ~ 330.00THz (0.01 step) AQ6373/AQ6373B 0.01 ~ 610.00THz (0.01 step) AQ6375/AQ6375B 0.01 ~ 130.00THz (0.01 step)
ZOOM SPAN FREQ @@@@@	変数 @@@@@ の値を、表示ス ケール のスパンに設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, W2-W1, SPWD, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3
ZOOM SPAN WNUM ****.***cm ⁻¹	表示スケールのスパンを設定	AQ6375/AQ6375B 0.5 ~ 4200.0cm ⁻¹ (0.1 step)
ZOOM SPAN WNUM @@@@@	変数 @@@@@ の値を、表示ス ケール のスパンに設定	AQ6375/AQ6375B @@@@@: G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z, W2-W1, SPWD

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
ZOOM START WL ****.***nm	表示スケールの開始波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 50.000 ~ 1699.950 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 1.000 ~ 1199.950 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 600.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
ZOOM START FREQ ***.***THz	表示スケールの開始周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 11.5000 ~ 499.9950 (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 10.0000 ~ 856.4950 (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 60.0000 ~ 250.0000 (0.0001 step)
ZOOM START WNUM ****.***cm ⁻¹	表示スケールの開始波数を設定	AQ6375/AQ6375B 2067.000 ~ 8333.000cm ⁻¹ (0.001 step)
ZOOM STOP WL ****.***nm	表示スケールの終了波長を設定	AQ6370C/AQ6370D 600.050 ~ 2250.000 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.050 ~ 1625.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 3000.000 (0.001 step)
ZOOM STOP FREQ ***.***THz	表示スケールの終了周波数を設定	AQ6370C/AQ6370D 176.5050 ~ 665.0000(0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0050 ~ 999.9000(0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 125.0000 ~ 315.0000(0.0001 step)
ZOOM STOP WNUM ****.***cm ⁻¹	表示スケールの終了波数を設定	AQ6375/AQ6375B 4167.000 ~ 10433.000cm ⁻¹ (0.001 step)
PEAK->ZOOM CENTER	アクティブトレース上の波形の ピーク波長を表示スケールの中心 波長に設定	
OVERVIEW DISPLAY OFF	ZOOM 時の OVERVIEW 表示を OFF に設定	
OVERVIEW DISPLAY LEFT	ZOOM 時の OVERVIEW 表示を波 形画面の左側に設定	
OVERVIEW DISPLAY RIGHT	ZOOM 時の OVERVIEW 表示を波 形画面の右側に設定	
OVERVIEW SIZE LARGE	ZOOM 時の OVERVIEW 表示を大 きい表示に設定	
OVERVIEW SIZE SMALL	ZOOM 時の OVERVIEW 表示を小 さい表示に設定	
ZOOM INITIALIZE	表示スケールを初期状態に戻す	

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

DISPLAY

プログラムコマンド 内容		コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
NORMAL DISPLAY	画面を通常表示モードに設定	
SPLIT DISPLAY	画面を 2 分割表示モードに設定	
TRACE # UPPER	トレース # を 2 分割表示の上側の画面 # : A ~ G に設定	
TRACE # LOWER	トレース # を 2 分割表示の下側の画面 # : A ~ G に設定	
UPPER HOLD ###	2 分割表示の上側の画面を固定	### : ON/OFF
LOWER HOLD ###	2 分割表示の下側の画面を固定	### : ON/OFF
LABEL '---56 文字 ---'	ラベルエリアにラベルコメントを表示 コメントの最後にセミコロン ";" をつけ ると次の LABEL コマンドで指定された コメント (変数の値) は、続けて表示	
LABEL @@@@	変数 @@@@ の内容をラベルエリアに 表示	AQ6370C/AQ6370D @@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), W2-W1, LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMLVL(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASLV(CH), NFGAIN(CH), NFNH(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH, AS, BS, CS, DS, FILE\$, TIME\$, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4, LAM2-LAM1, LAM4-LAM3
LABEL @@@@;	変数 @@@@ の内容をラベル表示 次の LABEL コマンドで指定されたコメ ント (変数の値) は、続けて表示する。	AQ6370C/AQ6370D @@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), W2-W1, LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMLVL(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASLV(CH), NFGAIN(CH), NFNH(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH, AS, BS, CS, DS, FILE\$, TIME\$, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4, LAM2-LAM1, LAM4-LAM3
LABEL CLEAR	ラベルエリアのラベルコメントを消去	
NOISE MASK ***dB	設定レベル以下の波形データをマスク して表示	OFF(-999), -100 ~ 0 (1 step)
MASK LINE VERTICAL	ノイズマスク機能においてマスク値以 下をゼロに設定	
MASK LINE HORIZONTAL	ノイズマスク機能においてマスク値 以下をマスク値に設定	
TRACE # CLEAR	TRACE # のデータをクリア	# : A ~ G
ALL TRACE CLEAR	全 TRACE のデータをクリア	

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
DISPLAY OFF	画面の表示を OFF に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
DISPLAY ON	画面の表示を ON に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

MARKER

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
MARKER ****.***nm	マーカをアクティブトレース波形の指定波長位置に設定 (波長値による)	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1200.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 600.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
MARKER ***.***THz	マーカをアクティブトレース波形の指定波長位置に設定 (周波数値による)	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 500.0000 (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 856.5000 AQ6375/AQ6375B 60.0000 ~ 250.0000 (0.0001 step)
MARKER ****.***cm ⁻¹	マーカをアクティブトレース波形の指定波長位置に設定 (波数値による)	AQ6375/AQ6375B 2067.000 ~ 8333.000 (0.001 step)
MARKER @@@@	マーカを変数 @@@@ の波長位置に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), MEANWL, PKWL, WDMWL(CH), NFWL(CH), WAM1, WAM2, WAM3, WAM4
SET MARKER ****	移動マーカの位置に固定マーカ **** を設定	1 ~ 1024 (1 step)
SET MARKER @	移動マーカの位置に変数 @ の固定マーカを設定	@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, N, M,
CLEAR MARKER ****	固定マーカ **** を消去	1 ~ 1024 (1 step)
CLEAR MARKER @	変数 @ の固定マーカを消去	@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, N, M
MARKER->CENTER	マーカの波長値を測定中心波長に設定	
MARKER->ZOOM CENTER	マーカの波長値を表示スケールの中心波長に設定	
MARKER->REF LEVEL	マーカのレベル値を基準レベルに設定	
ADV MARKER ##,****.***nm	拡張マーカを指定波長位置に設定 (波長値による)	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B /AQ6375B ## : M1, M2, M3, M4 ****.*** : 600.000 ~ 1700.000 (0.001step)
ADV MARKER ##,***.***THz	拡張マーカを指定周波数位置に設定 (周波数値による)	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B /AQ6375B ## : M1, M2, M3, M4 ***.*** : 176.5000 ~ 500.0000 (0.001step)
ADV MARKER ##,@@@@	拡張マーカを変数 @@@@@ の波長位置に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B /AQ6375B ## : M1, M2, M3, M4 @@@@ : E, G, H, I, J, K, O, P, Q, R, S, T, U, V, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, MEANWL, PKWL, WDMWL(CH), NFWL(CH)
ADV MARKER TRACE ##,###	拡張マーカのトレースを ### に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B /AQ6375B ## : M1, M2, M3, M4 ###: TRA/TRB/TRC/TRD/TRE/TRF/TRG
ADV MARKER SELECT ##,#####	拡張マーカの種類を ##### に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1, M2, M3, M4 ##### : OFF/NORMAL/DENSITY/INTEGRAL

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド 内容		コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
ADV MARKER INTEGRAL RANGE ##,***.GHz	拡張マーカの積分範囲を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1、M2、M3、M4 ***. : 1.0 ~ 999.9 (0.1step)
ADV MARKER PEAK SEARCH ##	ピークをサーチして拡張マーカを設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1、M2、M3、M4
ADV MARKER BOTTOM SEARCH ##	ボトムをサーチして拡張マーカを設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1、M2、M3、M4
ADV MARKER NEXT SEARCH ##	現在位置の次のレベルのピーク／ボトムをサーチして拡張マーカを設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1、M2、M3、M4
ADV MARKER SEARCH RIGHT ##	現在位置の右側のピーク／ボトムをサーチして拡張マーカを設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1、M2、M3、M4
ADV MARKER SEARCH LEFT ##	現在位置の左側のピーク／ボトムをサーチして拡張マーカを設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ## : M1、M2、M3、M4
ADV MARKER BANDWIDTH **.nm	パワースペクトル密度マーカの正規化帯域を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B **. : 0.1 ~ 10.0 (0.1step)
ADV MARKER ALL CLEAR	画面上の拡張マーカを消去する	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
ALL MARKER CLEAR	画面上のマーカを消去する	
LINE MARKER1 ****.***nm	ラインマーカ 1 を指定波長位置に設定 (波長値による)	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1200.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 600.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
LINE MARKER1 ***.***THz	ラインマーカ 1 を指定周波数位置に設定 (周波数値による)	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 500.0000 (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 856.5000 (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 60.0000 ~ 250.0000 (0.0001 step)
LINE MARKER1 ****.***cm ⁻¹	ラインマーカ 1 を指定波長位置に設定 (波数値による)	AQ6375/AQ6375B 2067.000 ~ 8333.000 (0.001 step)
LINE MARKER1 @@@@@	ラインマーカ 1 を変数 @@@@@ の波長位置に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@ : E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z、WM、W1、W2、W(CH)、MEANWL、PKWL、WDMWL(CH)、NFWL(CH)、WAM1、WAM2、WAM3、WAM4
LINE MARKER2 ****.***nm	ラインマーカ 2 を指定波長位置に設定 (波長値による)	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1200.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 600.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
LINE MARKER2 ***.***THz	ラインマーカ 2 を指定周波数位置に設定 (周波数値による)	AQ6370C/AQ6370D 176.5000 ~ 500.0000 (0.0001 step) AQ6373/AQ6373B 250.0000 ~ 856.5000 (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 60.0000 ~ 250.0000 (0.0001 step)
LINE MARKER2 ****.***cm ⁻¹	ラインマーカ 2 を指定波長位置に設定 (波数値による)	AQ6375/AQ6375B 2067.000 ~ 8333.000 (0.001 step)
LINE MARKER2 @@@@@	ラインマーカ 2 を変数 @@@@@ の波長位置に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@ : E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z、WM、W1、W2、W(CH)、MEANWL、PKWL、WDMWL(CH)、NFWL(CH)
LINE MARKER3 ***.***dB	ラインマーカ 3 を指定レベルに設定	-139.90 ~ 159.90 (0.01 step)

プログラムコマンド 内容		コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
LINE MARKER3 ***.***dBm	ラインマーカ 3 を指定レベルに設定	-210.00 ~ 50.00 (0.01 step)
LINE MARKER3 *.***##	ラインマーカ 3 を指定レベルに設定	1.00pW ~ 1000mW (1.00 ~ 9.99[pW, nW, μW, mW] : 0.01 step 10.0 ~ 99.9(100) [pW, nW, μW, (mW)]: 0.1 step 100 ~ 999 [pW, nW, μW, mW] : 1 step) ## は、pW, nW, μW, mW のいずれかを選択
LINE MARKER3 **.***	ラインマーカ 3 を指定レベルに設定	0.00 ~ 2500.00 (0.01 step)
LINE MARKER3 @@@@@	ラインマーカ 3 を変数 @@@@@ の レベル位置に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, LM, L1, L2, L(CH), PKLVL, WDMLVL(CH), NFLVI(CH), NFLVO(CH), LAM1, LAM2, LAM3, LAM4
LINE MARKER4 ****.***dB	ラインマーカ 4 を指定レベルに設定	NFASELV(CH), MKPWR -139.90 ~ 159.90 (0.01 step)
LINE MARKER4 ****.***dBm	ラインマーカ 4 を指定レベルに設定	-210.00 ~ 50.00 (0.01 step)
LINE MARKER4 *.***##	ラインマーカ 4 を指定レベルに設定	1.00pW ~ 1000mW (1.00 ~ 9.99[pW, nW, μW, mW] : 0.01 step 10.0 ~ 99.9(100) [pW, nW, μW, (mW)]: 0.1 step 100 ~ 999 [pW, nW, μW, mW] : 1 step) ## は、pW, nW, μW, mW のいずれかを選択
LINE MARKER4 **.***	ラインマーカ 4 を指定レベルに設定	0.00 ~ 2500.00 (0.01 step)
LINE MARKER4 @@@@@	ラインマーカ 4 を変数 @@@@@ の レベル位置に設定	AQ6370C/AQ6370D @@@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, LM, L1, L2, L(CH), PKLVL, WDMLVL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASELV(CH), MKPWR, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4
MARKER L1-L2-> SPAN	ラインマーカ 1 と 2 で囲まれた範囲を測定スパンに設定	
MARKER L1-L2-> ZOOM SPAN	ラインマーカ 1 と 2 で囲まれた範囲を表示スケールのスパンに設定	
LINE MARKER CLEAR	画面上のラインマーカをクリア	
MARKER OFFSET LIST	移動マーカに対する差を表示	
MARKER SPACING LIST	隣のマーカに対する差を表示	
MARKER AUTO UPDATE ###	固定マーカのレベル位置をアクティブトレース波形に追従	### : ON/OFF
MARKER UNIT nm	波長マーカ値を波長表示に設定	
MARKER UNIT THz	波長マーカ値を周波数表示に設定	
MARKER UNIT cm ⁻¹	波長マーカ値を波数表示に設定	AQ6375
SEARCH/ANA L1-L2 ###	ラインマーカ 1 と 2 で囲まれた範囲での解析機能の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
SEARCH/ANA	表示スケール範囲での解析機能	### : ON/OFF
ZOOM AREA ###	ON/OFF を選択	
MARKER LIST PRINT	マルチマーカの値をプリントアウトする	AQ6370C/AQ6373/AQ6375

* 汎用変数の E, O, T, U, V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

PEAK SEARCH

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
PEAK SEARCH	アクティブトレース上の波形に対して ピークをサーチ	
BOTTOM SEARCH	アクティブトレース上の波形に対して 行ボトムをサーチ	
NEXT SRCH	アクティブトレース上の波形ピーク / ボトムレベルの次のピーク / ボトムを サーチ	
NEXT SRCH RIGHT	アクティブトレース上の波形ピーク / ボトムマーカの右側のピーク / ボトム をサーチ	
NEXT SRCH LEFT	アクティブトレース上の波形ピーク / ボトムマーカの左側のピーク / ボトム をサーチ	
SET MARKER ****	移動マーカの位置に固定マーカ **** を 設定	1 ~ 1024 (1 step)
SET MARKER @	移動マーカの位置に変数 @ の 固定マーカを設定	@ : G、H、I、J、K、P、Q、R、S、 X、Y、Z、S、N、M
CLEAR MARKER ****	固定マーカ **** を消去	1 ~ 1024 (1 step)
CLEAR MERKER @	変数 @ の固定マーカを消去	@ : G、H、I、J、K、P、Q、R、S、 X、Y、Z、S、N、M
ALL MARKER CLEAR	画面上のマーカを消去	
AUTO SEARCH ###	掃引ごとに行うピーク / ボトムサーチ 機能の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
MODE DIFF **.**.dB	ピークサーチ、波形解析で使用する モード判定基準のレベル差を設定	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
SEARCH/ANA L1-L2 ###	ラインマーカ 1 と 2 で囲まれた範囲で の解析機能の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
SEARCH/ANA ZOOM AREA ###	表示スケール範囲での解析機能 ON/OFF を選択	### : ON/OFF
SEARCH MODE #####	サーチモードの設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ##### : SINGLE/MULTI
MULTI SEARCH THRESH **.**.dB	マルチサーチのしきい値の設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B 0.01 ~ 99.99 (0.01 step)
MULTI SEARCH SORT BY #####	マルチサーチ検出リストの並び順の設 定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ##### : WL/LEVEL
MARKER LIST PRINT	マルチマーカの値をプリントアウトする	AQ6370C/AQ6373/AQ6375

ANALYSIS

AQ6373/AQ6373B の場合、WDM から始まるすべてのコマンドは、WDM を OSNR(WDM) に読み替えてください。

例) WDM ANALYSIS → OSNR(WDM) ANALYSIS

以下のコマンドが無効になります。

EDFA-NF から始まるすべてのコマンド

AQ6375 の場合、波数マーカが設定されているときは、以下のコマンドが無効になります。

- ・ WDM から始まるすべてのコマンド
- ・ EDFA-NF から始まるすべてのコマンド
- ・ FILTER から始まるすべてのコマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
SPEC WD THRESH ***dB	指定されたしきい値により、THRESH 法によるスペクトル幅サーチを行う	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
PARAM THRESH K***	THRESH 法によるスペクトル幅サーチの倍率を設定	1.00 ~ 10.00 (0.01 step)
PARAM THRESH MODE FIT ###	THRESH 法によるスペクトル幅サーチ実行時にマーカをモードのピークに設定する機能を ON/OFF	### : ON/OFF
SPEC WD ENV ***dB	指定されたしきい値により、エンベロープ法によるスペクトル幅サーチを実行	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
PARAM ENV TH2 ***dB	エンベロープ法によるスペクトル幅サーチのしきい値を設定	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
PARAM ENV K ***dB	エンベロープ法によるスペクトル幅サーチの倍率を設定	1.00 ~ 10.00 (0.01 step)
SPEC WD RMS ***dB	指定されたしきい値により、RMS 法によるスペクトル幅サーチを行う	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
PARAM RMS K ***	RMS 法によるスペクトル幅サーチの倍率を設定	1.00 ~ 10.00 (0.01 step)
SPEC WD PEAK RMS ***dB	指定されたしきい値により、RMS 法によるスペクトル幅サーチを実行	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
PARAM PEAK RMS K ***	PEAK-RMS 法によるスペクトル幅サーチの倍率を設定	1.00 ~ 10.00 (0.01 step)
SPEC WD NOTCH ***dB	指定されたしきい値により、NOTCH 幅を測定	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
PARAM NOTCH K ***	NOTCH 幅測定による倍率を設定	1.00 ~ 10.00 (0.01 step)
NOTCH FROM #####	ノッチ幅測定を行う際の基準を設定	##### : PEAK/BOTTOM
SMSR *	SMSR 測定時の実行モードを設定	1、2、3、4
SMSR MASK ±***nm	SMSR1 測定時のピーク近傍のマスク範囲を設定	0.00 ~ 99.99 (0.01 step)
POWER	POWER 解析の実行	
POWER OFFSET ***dB	パワー測定における補正值を設定	-10.00 ~ 10.00 (0.01 step)
DFB-LD ANALYSIS	DFB-LD に必要な解析の実行	
FP-LD ANALYSIS	FP-LD に必要な解析の実行	
LED ANALYSIS	LED に必要な解析の実行	
PMD ANALYSIS	PMD に必要な解析の実行	
PMD THRESH ***dB	PMD 解析におけるしきい値の設定	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
WDM ANALYSIS	WDM 測定に必要な解析の実行	
WDM THRESH **:***dB	WDM 解析のしきい値を設定	0.1 ~ 99.9 (0.1 step)
WDM MODE DIFF **:***dB	WDM 解析時のチャンネル判別の最小山谷 差を設定	0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
WDM DISPLAY MASK OFF	チャンネル表示をマスクするときのレベル しきい値を非設定	
WDM DISPLAY MASK ****:***dB	チャンネル表示をマスクするときのレベル しきい値を設定	-100.00 ~ 0.00 (0.01 step)
WDM NOISE ALGO AUTO FIXFIX	ノイズレベル測定アルゴリズムを AUTO に設定	
WDM NOISE ALGO MANUAL FIX	ノイズレベル測定アルゴリズムを MANUAL FIX に設定	
WDM NOISE ALGO AUTO CTR	ノイズレベル測定アルゴリズムを AUTO CTR に設定	
WDM NOISE ALGO MANUAL CTR	ノイズレベル測定アルゴリズムを MANUAL CTR に設定	
WDM NOISE ALGO PIT	ノイズレベル測定アルゴリズムを PIT に 設定	
WDM NOISE AREA ***nm	ノイズレベル解析に使用する範囲を、 チャンネル波長を中心とした範囲で設定	0.01 ~ 10.00 (0.01 step)
WDM NOISE AREA @	ノイズレベル解析に使用する範囲を、@:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、 チャンネル波長を中心として、変数 @ の R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z 範囲に設定	
WDM MASK AREA *:***nm	マスクする信号光スペクトル範囲を、 チャンネル波長を中心として設定	0.01 ~ 10.00 (0.01 step)
WDM MASK AREA @	マスクする信号光スペクトル範囲を、@:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、 チャンネル波長を中心として、変数 @ の R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z 範囲に設定	
WDM FITTING ALGO LINEAR	ノイズレベルを求めるフィッティングア ルゴリズムを直線補間モードに設定	
WDM FITTING ALGO GAUSS	ノイズレベルを求めるフィッティングア ルゴリズムを正規分布曲線モードに設定	
WDM FITTING ALGO LORENZ	ノイズレベルを求めるフィッティングア ルゴリズムをローレンツ曲線モードに設 定	
WDM FITTING ALGO 3RD POLY	ノイズレベルを求めるフィッティングア ルゴリズムを 3 次式モードに設定	
WDM FITTING ALGO 4TH POLY	ノイズレベルを求めるフィッティングア ルゴリズムを 4 次式モードに設定	
WDM FITTING ALGO 5TH POLY	ノイズレベルを求めるフィッティングア ルゴリズムを 5 次式モードに設定	
WDM NOISE BANDWIDTH *:***nm	ノイズ測定時の帯域幅を設定	0.01 ~ 1.00 (0.01 step)
WDM DUAL TRACE ###	WDM 解析時に TRACE A、B 両方を使用 するように設定	### : ON/OFF
WDM DISPLAY ABSOLUTE	WDM 解析結果表示を絶対値表示に設定	
WDM DISPLAY RELATIVE	WDM 解析結果表示を相対値表示に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375
WDM DISPLAY DRIFT MEAS	WDM 解析結果表示をドリフト値表示 (過去の測定波長を基準) に設定	
WDM DISPLAY DRIFT GRID	WDM 解析結果表示をドリフト値表示 (グリッド波長を基準) に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
WDM CH RELATION #####	WDM 解析表示が絶対値表示のとき、 チャンネル間のレベル絶対値の表示形式 を設定	##### : OFFSET/SPACING
WDM REF CHANNEL HIGHEST	CH RELATION 設定が OFFSET 時の基準 チャンネルを最もレベルの大きいチャネ ルに設定	
WDM CHANNEL NO ****	CH RELATION 設定が OFFSET 時の基準 チャンネルを設定	1 ~ 1024 (1 step)
WDM MAX/MIN RESET	ドリフト (MEAS、GRID) 測定時の MAX/MIN データをリセット	
WDM OUTPUT SLOPE ###	チャンネルピークの最小自乗近似直線を 表示	### : ON/OFF
WDM POINT DISPLAY ###	フィッティングに使用したデータ範囲 を波形画面上に表示	### : ON/OFF
WDM SIGNAL POWER #####	信号光パワーの計算方法を設定	#####: PEAK/INTEGRAL AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/ AQ6373B/AQ6375B
WDM INTEGRAL RANGE ***GHz	信号光パワー積分範囲を設定	1.0 ~ 999.9 (0.1 step) AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/ AQ6373B/AQ6375B
COLOR ANALYSIS	COLOR 解析を実行	AQ6373/AQ6373B
EDFA NF ANALYSIS	EDFA-NF 測定に必要な解析を実行	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF THRESH **.*dB	EDFA-NF 解析のしきい値を設定 0.1 ~ 99.9(0.1 step)	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B 0.1 ~ 99.9(0.1 step)
EDFA NF MODE DIFF **.*dB	EDFA-NF 解析時のチャンネル判別の最小 山谷差を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B 0.01 ~ 50.00 (0.01 step)
EDFA NF OFFSET(IN) ***.*dB	NF および Gain 算出に使用する信号光 のオフセット値を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B -99.99 ~ 99.99 (0.01 step)
EDFA NF OFFSET(IN) @@@@@	NF および Gain 算出に使用する信号光 のオフセット値を変数 @@@@@ に設 定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B @@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
EDFA NF OFFSET(OUT) ***.*dB	NF および Gain 算出に使用する出力光 のオフセット値を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B -99.99 ~ 99.99 (0.01 step)
EDFA NF OFFSET(OUT) @@@@@	NF および Gain 算出に使用する出力光 のオフセット値を変数 @@@@@ に設 定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B @@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
EDFA NF ASE ALGO AUTO FIX	ASE レベル測定アルゴリズムを AUTO FIX に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF ASE ALGO MANUAL FIX	ASE レベル測定アルゴリズムを MANUAL FIX に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF ASE ALGO AUTO CTR	ASE レベル測定アルゴリズムを AUTO CTR に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF ASE ALGO MANUAL CTR	ASE レベル測定アルゴリズムを MANUAL CTR に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF ASE AREA **.*nm	ASE レベル解析に使用する範囲を、チャ ネル波長を中心とした範囲で設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B 0.01 ~ 10.00 (0.01 step)
EDFA NF ASE AREA @	ASE レベル解析に使用する範囲を、変 数 @@@@@ を中心とした範囲 で設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B @@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
EDFA NF MASK AREA **.*nm	マスクする信号光スペクトル範囲を、 チャンネル波長を中心として設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B 0.01 ~ 10.00 (0.01 step)
EDFA NF MASK AREA @	マスクする信号光スペクトル範囲を、 変数 @@@@@ を中心として設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B @@@@@:E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
EDFA NF FITTING ALGO LINEAR	ASE レベルを求めるフィッティング アルゴリズムを直線補間モードに設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF FITTING ALGO GAUSS	ASE レベルを求めるフィッティング アルゴリズムを正規分布曲線モードに設 定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF FITTING ALGO LORENZ	ASE レベルを求めるフィッティング アルゴリズムをローレンツ曲線モードに 設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF FITTING ALGO 3RD POLY	ASE レベルを求めるフィッティング アルゴリズムを 3 次式モードに設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF FITTING ALGO 4TH POLY	ASE レベルを求めるフィッティング アルゴリズムを 4 次式モードに設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF FITTING ALGO 5TH POLY	ASE レベルを求めるフィッティング アルゴリズムを 5 次式モードに設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF POINT DISPLAY ###	フィッティングに使用したデータ範囲を 波形画面上に表示	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B ### : ON/OFF
EDFA NF RES BW MEASURED	分解能値に波形から THRESH 3dB 解析で 求めた値を用いる	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF RES BW CAL DATA	分解能値に本機器内部に記憶されている 分解能実力値を用いる	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
EDFA NF SHOT NOISE ###	NF 計算に Shot Noise を含む / 含まない を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B ### : ON/OFF
EDFA NF SIGNAL POWER #####	信号光パワーの計算方法を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B #####: PEAK/INTEGRAL
EDFA NF INTEGRAL RANGE **.*GHz	信号光パワー積分範囲を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B 1.0 ~ 999.9 (0.1step)
FILTER(PEAK) ANALYSIS	光フィルタ (PEAK) 解析を実行	
FILTER(BOTTOM) ANALYSIS	光フィルタ (BOTTOM) 解析を実行	
WDM FILTER(PEAK) ANALYSIS	マルチチャンネル型の光フィルタ (PEAK) 解析の実行	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
WDM FILTER (BOTTOM) ANALYSIS	マルチチャンネル型の光フィルタ (BOTTOM) 解析の実行	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/ AQ6375B
SWITCH DISPLAY TO TRACE&TABLE	解析結果表示において波形とテーブルを 両方表示	
SWITCH DISPLAY TO TABLE	解析結果表示においてテーブルのみを表 示	
SWITCH DISPLAY TO TRACE	解析結果表示においてトレースのみを表 示	
SWITCH DISPLAY TO GRAPH&TABLE	解析結果表示においてグラフとテーブル を両方表示	AQ6370C/AQ6370D
SWITCH DISPLAY TO GRAPH	解析結果表示においてグラフのみを表示	AQ6370C/AQ6370D
AUTO ANALYSIS ###	掃引毎に行う波形解析機能の ON/OFF を 選択	### : ON/OFF
ANALYSIS RESULT PRINT	解析結果をプリントアウト	AQ6370C/AQ6373/AQ6375
RESULT WRITE INT: '#####.***'	ファイル名を指定して解析結果を内部メ モリ内に保存	'#####.***': ファイル名
RESULT WRITE EXT:'#####.***'	ファイル名を指定して解析結果を外部メ モリ内に保存	'#####.***': ファイル名
RESULT WRITE INT	解析結果を内部メモリ内に保存。 ファイル名は自動で付けられる	
RESULT WRITE EXT	解析結果を外部メモリ内に保存。 ファイル名は自動で付けられる	

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
RESULT WRITE INT @@	ファイル名を指定して解析結果を、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモ リ内に保存	@@：A\$、B\$、C\$、D\$

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

MEMORY

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
SAVE #->MEMORY **	選択した TRACE の内容を指定された番号のメモリから書き込む	0 ～ 63 (1 step) #: A、B、C、D、E、F、G
SAVE #->MEMORY @	選択した TRACE の内容を変数 @ の番号のメモリから書き込む	@: E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z #: A、B、C、D、E、F、G
RECALL MEMORY **->#	選択した TRACE の内容を指定された番号のメモリから読み込む	0 ～ 63 (1 step) #: A、B、C、D、E、F、G
RECALL MEMORY @->#	選択した TRACE の内容を変数 @ の番号のメモリから読み込む	@: E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z #: A、B、C、D、E、F、G
CLEAR MEMORY **	メモリ中のトレースデータを消去	0 ～ 63 (1 step)
CLEAR MEMORY @	変数 @ で指定されたメモリ中のトレースデータを消去	@: E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

FILE

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
WRITE TRACE # INT: '#####.***'	指定された TRACE データをファイル名を指定して内部メモリ内に保存	#: A、B、C、D、E、F、G '#####.***': ファイル名
WRITE TRACE # EXT: '#####.***'	指定された TRACE データをファイル名を指定して外部メモリ内に保存	#: A、B、C、D、E、F、G '#####.***': ファイル名
WRITE TRACE # INT	指定された TRACE データを内部メモリ内に保存 ファイル名は自動で付けられる	#: A、B、C、D、E、F、G
WRITE TRACE # EXT	指定された TRACE データを外部メモリ内に保存 ファイル名は自動で付けられる	#: A、B、C、D、E、F、G
WRITE TRACE # INT @@	指定された TRACE データを、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモリ内に保存	#: A、B、C、D、E、F、G @@: A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE TRACE # EXT @@	指定された TRACE データを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	#: A、B、C、D、E、F、G @@: A\$, B\$, C\$, D\$
TRACE WRITE: BINARY	データ保存のフォーマットを BINARY に設定	
TRACE WRITE: CSV	データ保存のフォーマットを CSV 形式に設定	
WRITE ALL TRACE INT: '#####.***'	全 TRACE データをファイル名を指定して内部メモリ内に保存	'#####.***': ファイル名
WRITE ALL TRACE EXT: '#####.***'	全 TRACE データをファイル名を指定して外部メモリ内に保存	'#####.***': ファイル名
WRITE ALL TRACE INT	全 TRACE データを内部メモリ内に保存 ファイル名は自動で付けられる	
WRITE ALL TRACE EXT	全 TRACE データを外部メモリ内に保存 ファイル名は自動で付けられる	
WRITE ALL TRACE INT @@	全 TRACE データを、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモリ内に保存	@@: A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE ALL TRACE EXT @@	全 TRACE データを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	@@: A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE MEMORY ** INT: '#####.***'	ファイル名を指定してメモリデータを内部メモリ内に保存	** : 0 ～ 63 (1 step) '#####.***': ファイル名
WRITE MEMORY ** EXT: '#####.***'	ファイル名を指定してメモリデータを外部メモリ内に保存	** : 0 ～ 63 (1 step) '#####.***': ファイル名
WRITE MEMORY ** INT	メモリのデータを内部メモリ内に保存 ファイル名は自動で付けられる	** : 0 ～ 63 (1 step)
WRITE MEMORY ** EXT	メモリのデータを外部メモリ内に保存 ファイル名は自動で付けられる	** : 0 ～ 63 (1 step)
WRITE MEMORY ** INT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモリ内に保存	** : 0 ～ 63 (1 step) @@: A\$, B\$, C\$, D\$

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
WRITE MEMORY ** EXT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE GRAPH INT: '#####.***'	ファイル名を指定してグラフィックデータを内部メモリ内に保存	'#####.***' : ファイル名
WRITE GRAPH EXT: '#####.***'	ファイル名を指定してグラフィックデータを外部メモリ内に保存	'#####.***' : ファイル名
WRITE GRAPH INT	グラフィックデータを内部メモリ内に保存 保存ファイル名は自動で付けられる	
WRITE GRAPH EXT	グラフィックデータを外部メモリ内に保存 保存ファイル名は自動で付けられる	
WRITE GRAPH INT @@	グラフィックデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモリ内に保存	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE GRAPH EXT @@	グラフィックデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
GRAPH COLOR MODE: B&W	グラフィックのカラーモードを白黒に設定	
GRAPH COLOR MODE: COLOR	グラフィックのカラーモードをスクリーンカラーモードに設定	
GRAPH COLOR MODE: PRESET COLOR	グラフィックのカラーモードをプリセットカラー(波形カラー + 背景白黒)に設定	
GRAPH TYPE:BMP	グラフィックのファイル形式を BMP に設定	
GRAPH TYPE:TIFF	グラフィックのファイル形式を TIFF に設定	
WRITE SETTING INT: '#####.ST7'	ファイル名を指定してセッティングデータを内部メモリに保存	AQ6375/AQ6375B '#####.ST7' : ファイル名
WRITE SETTING INT: '#####.ST8'	ファイル名を指定してセッティングデータを内部メモリに保存	AQ6370C/AQ6370D '#####.ST8' : ファイル名
WRITE SETTING INT: '#####.ST9'	ファイル名を指定してセッティングデータを内部メモリに保存	AQ6373/AQ6373B '#####.ST9' : ファイル名
WRITE SETTING EXT: '#####.ST7'	ファイル名を指定してセッティングデータを外部メモリに保存	AQ6375/AQ6375B '#####.ST7' : ファイル名
WRITE SETTING EXT: '#####.ST8'	ファイル名を指定してセッティングデータを外部メモリに保存	AQ6370C/AQ6370D '#####.ST8' : ファイル名
WRITE SETTING EXT: '#####.ST9'	ファイル名を指定してセッティングデータを外部メモリに保存	AQ6373/AQ6373B '#####.ST9' : ファイル名
WRITE SETTING INT	セッティングデータを内部メモリに保存 保存ファイル名は自動で付けられる	
WRITE SETTING EXT	セッティングデータを外部メモリに保存 保存ファイル名は自動で付けられる	
WRITE SETTING INT @@	セッティングデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモリに保存	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE SETTING EXT @@	セッティングデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリに保存	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
DATA:ADD WRITE	データファイルを追加書き込み	
DATA:OVER WRITE	データファイルを上書き	
DATA WRITE:CSV	データの保存フォーマットを CSV 形式に設定	
DATA WRITE:DT7	データの保存フォーマットを DT7 形式に設定	AQ6375/AQ6375B
DATA WRITE:DT8	データの保存フォーマットを DT8 形式に設定	AQ6370C/AQ6370D
DATA WRITE:DT9	データの保存フォーマットを DT9 形式に設定	AQ6373/AQ6373B
WRITE MEMORY ** EXT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE MEMORY ** EXT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE MEMORY ** EXT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE MEMORY ** EXT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
WRITE MEMORY ** EXT @@	メモリのデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリ内に保存	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE DATA EXT	ファイル名を指定してデータを外部メモリに保存 ファイル名は自動で付けられる	
WRITE DATA INT @@	ファイル名を指定してデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で内部メモリに保存	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE DATA EXT @@	ファイル名を指定してデータを、変数 @@ で指定されたファイル名で外部メモリに保存	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
DATA DATE&TIME ###	日付と時刻の出力の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
DATA LABEL ###	ラベル出力の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
DATA DATA AREA ###	データエリアの出力の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
DATA CONDITION ###	測定条件の出力の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
DATA TRACE DATA ###	波形データの出力の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
DATA OUTPUT WINDOW ###	PROGRAM 機能の OUTPUT WINDOW の内容の出力の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
READ TRACE # INT: '#####.\$\$\$'	指定された TRACE データをファイル名を指定して内部メモリから読み込む	#####.\$\$\$' : ファイル名 # : A、B、C、D、E、F、G
READ TRACE # EXT: '#####.\$\$\$'	指定された TRACE データをファイル名を指定して外部メモリから読み込む	#####.\$\$\$' : ファイル名 # : A、B、C、D、E、F、G
READ TRACE # INT @@	変数 @@ で指定されたファイル名の TRACE データを、内部メモリから読み込む	# : A、B、C、D、E、F、G @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ TRACE # EXT @@	変数 @@ で指定されたファイル名の TRACE データを、外部メモリから読み込む	# : A、B、C、D、E、F、G @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ ALL TRACE INT: '#####.CSV'	全 TRACE データをファイル名を指定して内部メモリから読み込む	#####.CSV' : ファイル名
READ ALL TRACE EXT: '#####.CSV'	全 TRACE データをファイル名を指定して外部メモリから読み込む	#####.CSV' : ファイル名
READ ALL TRACE INT @@	変数 @@ で指定されたファイル名の TRACE データを、内部メモリから読み込む	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ ALL TRACE EXT @@	変数 @@ で指定されたファイル名の TRACE データを、外部メモリから読み込む	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ MEMORY ** INT:'#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してメモリデータを内部メモリから読み込む	#####.\$\$\$' : ファイル名 0 ~ 63 (1 step)
READ MEMORY ** EXT:'#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してメモリデータを外部メモリから読み込む	#####.\$\$\$' : ファイル名 0 ~ 63 (1 step)
READ MEMORY ** INT @@	変数 @@ で指定されたファイル名のメモリデータを、内部メモリから読み込む	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ MEMORY **	変数 @@ で指定されたファイル名のメモリデータを、外部メモリから読み込む	** : 0 ~ 63 (1 step) @@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ SETTING INT: '#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してセッティングデータを内部メモリから読み込む	#####.\$\$\$' : ファイル名
READ SETTING EXT: '#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してセッティングデータを外部メモリ内から読み込む	#####.\$\$\$' : ファイル名
READ SETTING INT @@	変数 @@ で指定されたファイル名のセッティングデータを、内部メモリから読み込む	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ SETTING EXT @@	変数 @@ で指定されたファイル名のセッティングデータを、外部メモリから読み込む	@@ : A\$, B\$, C\$, D\$
READ DATA INT: '#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してデータを内部メモリから読み出す	#####.\$\$\$' : ファイル名

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
READ DATA EXT: '#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してデータを外部メモリから読み出す	'#####.\$\$\$': ファイル名
READ DATA INT @@	変数 @@ で指定されたファイル名の @@: A\$, B\$, C\$, D\$ データを、内部メモリから読み出す	
READ DATA EXT @@	変数 @@ で指定されたファイル名の @@: A\$, B\$, C\$, D\$ データを、外部メモリから読み出す	
READ TEMPLATE EXT: '#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してテンプレートデータを外部メモリから読み込む	'#####.\$\$\$': ファイル名
READ TARGET LINE EXT:'#####.\$\$\$'	ファイル名を指定してターゲットラインデータを外部メモリから読み込む	'#####.\$\$\$': ファイル名
DELETE INT: '#####.\$\$\$'	内部メモリのファイルを消去	'#####.\$\$\$': ファイル名
DELETE EXT: '#####.\$\$\$'	外部メモリのファイルを消去	'#####.\$\$\$': ファイル名
DELETE INT @@	内部メモリの、変数 @@ で指定されたファイルを消去	@@: A\$, B\$, C\$, D\$
DELETE EXT @@	外部メモリの、変数 @@ で指定されたファイルを消去	@@: A\$, B\$, C\$, D\$
RENAME INT:## @@	内部メモリの、変数 ## で指定されたファイルのファイル名を、変数 @@ で指定されたファイル名に変更	##, @@: A\$, B\$, C\$, D\$
RENAME EXT:## @@	外部メモリの、変数 ## で指定されたファイルのファイル名を、変数 @@ で指定されたファイル名に変更	##, @@: A\$, B\$, C\$, D\$
REMOVE USB STORAGE	USB ストレージメディアをオフラインにする	
WRITE LOGGING INT:#####.LG7	ファイル名を指定してロギングデータを内部メモリに保存	#####.LG7: ファイル名
WRITE LOGGING EXT:#####.LG7	ファイル名を指定してロギングデータを外部メモリに保存	#####.LG7: ファイル名
WRITE LOGGING INT:#####.LG8	ファイル名を指定してロギングデータを内部メモリに保存	#####.LG8: ファイル名
WRITE LOGGING EXT:#####.LG8	ファイル名を指定してロギングデータを外部メモリに保存	#####.LG8: ファイル名
WRITE LOGGING INT:#####.LG9	ファイル名を指定してロギングデータを内部メモリに保存	#####.LG9: ファイル名
WRITE LOGGING EXT:#####.LG9	ファイル名を指定してロギングデータを外部メモリに保存	#####.LG9: ファイル名
WRITE LOGGING INT	ファイル名を自動で付けてロギングデータを内部メモリに保存	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
WRITE LOGGING EXT	ファイル名を自動で付けてロギングデータを外部メモリに保存	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B
WRITE LOGGING INT@@	変数 @@ で指定されたファイル名を付けてロギングデータを内部メモリに保存	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B @@: A\$, B\$, C\$, D\$
WRITE LOGGING EXT@@	変数 @@ で指定されたファイル名を付けてロギングデータを外部メモリに保存	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B @@: A\$, B\$, C\$, D\$
LOGGING SAVE CSV###	データロギングの保存時に CSV データを保存するかしないかの設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ###: ON/OFF
LOGGING SAVE TRACE###	データロギングの保存時に波形データを保存するかしないかの設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B ###: ON/OFF
READ LOGGING INT:#####.\$\$\$	ファイル名を指定してロギングデータを内部メモリから読み込む	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B #####.\$\$\$: ファイル名
READ LOGGING EXT:#####.\$\$\$	ファイル名を指定してロギングデータを外部メモリから読み込む	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B #####.\$\$\$: ファイル名
READ LOGGING INT@@	変数 @@ で指定されたファイル名のロギングデータを内部メモリから読み込む	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B @@: A\$, B\$, C\$, D\$
READ LOGGING EXT@@	変数 @@ で指定されたファイル名のロギングデータを外部メモリから読み込む	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B @@: A\$, B\$, C\$, D\$

8.3 プログラム機能用コマンド

ADVANCE

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
TEMPLATE GO/ NO GO ##	Go/No Go 判定を行うか行わないかの設定	### : ON/OFF
TEMPLATE DISPLAY ###	テンプレート表示の ON/OFF ON:UPPER LINE=ON LOWER LINE=ON TARGET LINE=ON	### : ON/OFF
TEMPLATE DISPLAY UPPER ###	UPPER LINE 表示の ON/OFF	### : ON/OFF
TEMPLATE DISPLAY LOWER ###	LOWER LINE 表示の ON/OFF	### : ON/OFF
TEMPLATE DISPLAY TARGET ###	TARGET LINE 表示の ON/OFF	### : ON/OFF
TMPLATE TEST TYPE UPPER	UPPER LINE での Go/No Go 判定	
TMPLATE TEST TYPE LOWER	LOWER LINE での Go/No Go 判定	
TMPLATE TEST TYPE UP & LOW	UPPER LINE と LOWER LINE での Go/No Go 判定	
TMPLATE WL SHIFT ****.***nm	テンプレートの波長シフト量の設定	-999.999 ~ 999.999 (0.001 step)
TEMPLATE LEVEL SHIFT ***.***dB	テンプレートのレベルシフト量の設 定	-99.99 ~ 99.99 (0.01 step)
DATA LOGGING START	データロギングの開始	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B
DATA LOGGING ITEM#####	データロギングのロギング対象を設 定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ##### : WDM、PEAK、MULTI- PEAK、DFB-LD
DATA LOGGING MODE####	データロギングのモード (最大チャ ネル数 / 最大ロギング回数) を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B #### : MODE1 (MAX 1024ch、 2001times)、MODE2 (MAX 256ch、 10001times)
DATA LOGGING INTERVAL #####	データロギング間隔の設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B #### : SWEEP TIME、1sec、2sec、 5sec、10sec、30sec、1min、2min、 5min、10min
DATA LOGGING TEST DURATION *****s	データロギングの測定時間 (秒) の 設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ***** : 1 ~ 8639999(1 step)
DATA LOGGING PEAK TH TYPE###	データロギングのモード (ピーク / ボトム) 検出しきい値の指定方法の 設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ### : ABS、REL
DATA LOGGING PEAK TH (ABS)****.***dBm	データロギングのモード (ピーク / ボトム) 検出しきい値 (絶対値) の 設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ****.*** : 20.00 ~ -100.00
DATA LOGGING PEAK TH (REL)***.***dB	データロギングのモード (ピーク / ボトム) 検出しきい値 (相対値) の 設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ***.*** : 0.01 ~ 99.99
DATA LOGGING CH MATCHING TH ± *.***nm	データロギングのチャンネルマッチ ング波長 λ のしきい値の設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B *.*** : 0.01 ~ 1.00
DATA LOGGING MEMORY #####	データロギングの波形データの保存 先の設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ### : INTERNAL、EXTERNAL
DATA LOGGING TRACE LOGGING ###	データロギングの波形データを保存 するかしないかの設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B ### : ON/OFF

SYSTEM

AQ6373/AQ6373B の場合、以下のコマンドが無効になります。

SYSTEM GRID から始まるすべてのコマンド

AQ6375/AQ6375B の場合、波数マーカが設定されているときは、以下のコマンドが無効になります。

- SYSTEM GRID から始まるすべてのコマンド
- CUSTOM GRID から始まるすべてのコマンド
- GRID REFERENCE から始まるすべてのコマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
OPTICAL ALIGNMENT	モノクロメータ光学系の光軸の調整を行う	
EXT OPTICAL ALIGNMENT	モノクロメータ光学系の光軸の調整を外部光源を用いて行う	AQ6370D-L0(基準光源無しモデル)
SELF WL CALIBRATION	波長校正を行う光源を内部光源に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/AQ6375B
EXT WL CALIBRATION ****.***nm	波長校正を行う光源を外部光源(レーザータイプ)に設定	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step) AQ6373/AQ6373B 350.000 ~ 1200.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
EXT-GAS WL CALIBRATION****.***nm	波長校正を行う光源を外部光源(ガスセルタイプ)に設定	AQ6370C/AQ6370D 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.000 ~ 2400.000 (0.001 step)
EMIS LINE WL CALIBRATION****.***nm	波長校正を行う光源を外部光源(輝線光源タイプ)に設定	AQ6373B 350.000 ~ 1200.000 (0.001 step)
WL SHIFT **.***nm	波長シフト量を設定	-5.000 ~ 5.000 (0.001 step)
LEVEL SHIFT ***.***dB	レベルシフト量を設定	-60.000 ~ 60.000 (0.001 step)
SYSTEM GRID 200GHz	200GHz SPACING のグリッド テーブルに設定	
SYSTEM GRID 100GHz	100GHz SPACING のグリッド テーブルに設定	
SYSTEM GRID 50GHz	50GHz SPACING のグリッド テーブルに設定	
SYSTEM GRID 25GHz	25GHz SPACING のグリッド テーブルに設定	
SYSTEM GRID 12.5GHz	12.5GHz SPACING のグリッド テーブルに設定	
CUSTOM GRID START WL ****.***nm	ユーザ・グリッドテーブルの開始 波長を入力	1000.0000 ~ 1700.0000 (0.0001 step)
CUSTOM GRID START FREQ ***.***THz	ユーザ・グリッドテーブルの 開始周波数を入力	176.3486 ~ 299.7924 (0.0001 step)
CUSTOM GRID STOP WL ****.***nm	ユーザ・グリッドテーブルの終了 波長を入力	1000.0000 ~ 1700.0000 (0.0001 step)
CUSTOM GRID STOP FREQ ***.***THz	ユーザ・グリッドテーブルの終了 周波数を入力	176.3486 ~ 299.7924 (0.0001 step)
CUSTOM GRID SPACING ***.***GHz	ユーザ・グリッドテーブルの グリッド間隔を入力	0.1 ~ 999.9 (0.1 step)
GRID REFERENCE WL ****.***nm	グリッドテーブルの基準波長を入力	AQ6370C/AQ6370D 1000.0000 ~ 1700.0000 (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 1200.0000 ~ 2400.0000 (0.0001 step)
GRID REFERENCE FREQ ***.***THz	グリッドテーブルの基準周波数を入力	AQ6370C/AQ6370D 176.3486 ~ 299.7924 (0.0001 step) AQ6375/AQ6375B 125.0000 ~ 250.0000 (0.0001 step)

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
REMOTE INTERFACE: GP-IB	リモートインタフェースを GP-IB に設 定	
REMOTE INTERFACE: RS-232	リモートインタフェースを RS-232 に設定	
REMOTE INTERFACE: NETWORK(SOCKET)	リモートインタフェースをイーサネッ ト (SOCKET) に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B
REMOTE INTERFACE: NETWORK(VXI-11)	リモートインタフェースをイーサネッ ト (VXI-11) に設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B
REMOTE INTERFACE: ETHERNET	リモートインタフェースをイーサ ネットに設定	AQ6373/AQ6375
TLS ADDRESS **	同期掃引機能で使用する波長可変光 源の GP-IB アドレスを設定	AQ6370C/AQ6375 0 ~ 30 (1 step)
SELECT COLOR *	画面の表示カラーの選択	1 ~ 5 (1 step)
UNCAL WARNING DISPLAY ###	UNCAL およびワーニングを表示	### : ON/OFF
BUZZER CLICK ###	キーを押したときのクリック音を ON/OFF	### : ON/OFF
BUZZER WARNING ###	ワーニング・エラー発生時のブザー を ON/OFF	### : ON/OFF
LEVEL DISPLAY DIGIT *	マーカエリアと ANALYSIS 結果で表示 されるレベルデータの表示桁数 (小数 点以下) を設定	1 ~ 3 (1 step)
WINDOW TRANSPARENT ###	割込表示と OVEVIEW 表示ウィンド ウを半透過表示する機能の ON/OFF を選択	### : ON/OFF
AUTO OFFSET ###	オートオフセット機能の ON/OFF を 選択	### : ON/OFF
AUTO OFFSET INTERVAL *** min	オートオフセット機能を実行する時 間間隔を設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/ AQ6373B/AQ6375B *** : 整数値
TRIGGER INPUT SAMPLING TRIGGER	トリガ入力モードをサンプリングト リガに設定	
TRIGGER INPUT SWEEP TRIGGER	トリガ入力モードを掃引トリガに設 定	
TRIGGER INPUT SAMPLING ENABLE	トリガ入力モードをサンプリング イネーブルに設定	AQ6370C/AQ6370D/AQ6373B/ AQ6375B
TRIGGER OUTPUT SWEEP STATUS	トリガ出力モードを掃引ステータス に 設定	
TRIGGER OUTPUT OFF	トリガ出力モードを OFF に設定	
REMOVE USB STORAGE	USB ストレージメディアをオフライ ンに設定	
RES BW CALIBRATION	実効分解能校正を実行	AQ6370C/AQ6370D

特殊コマンド一覧表

一般命令

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
COPY ON	プリンタにより画面のハードコピーを行う 画面のハードコピーをファイルに保存する	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 AQ6370D/AQ6373B
PRINTER FEED **	プリンタ用紙をフィードする	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 1 ~ 10 (1 step)
GOTO ***	*** 行にジャンプする	1 ~ 200 (1 step)
GOTO PROGRAM **	プログラム ** にジャンプし、先頭行から 実行。 プログラム ** の内容を実行し終わったら、 元のプログラムに戻る。ただし、プログラ ム ** 内に、"END" コマンドがあると、ジャン プ元には戻らずにプログラムを終了。 本コマンドを使ってプログラムを実行する と、変数は初期化されない。	
WAIT *****S	***** 秒間のウェイトを行います。	1 ~ 99999 (1 step)
PAUSE '---56 文字 ---'	実行を一時停止し、メッセージ用ウィンド ウを表示。 ウィンドウには '' 内のメッセージと <CONTINUE> キーの説明が表示。ソフト キー <CONTINUE> を押すと、ウィンドウ を閉じてプログラムを実行。GP-IB でプロ グラムを起動したときは、一時停止しない。	
VARIABLE CLEAR	プログラム中で使用する全ての変数を初期 化	
END	プログラムを終了	
INIT	パラメータを全て初期状態にする。 ただし、変数はクリアしない	
@=VAL(@\$)	文字変数 @\$ を数値に変換し、変数 @ に代 入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z @\$: A\$, B\$, C\$, D\$
BEEP **	** × 100msec の間、ブザーを鳴らす。	1 ~ 10 (1 step)
REM--56 文字 --	プログラムリスト中にコメントを定義す る。本コマンドは何も処理しないで次の行 に進む。	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

ループ制御

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
N=*****	変数 N に値を代入	1 ~ 99999999 (1 step)
N=@@@@@@	変数 @@@@@@ の内容を変数 N に コピー	@@@@@: MODN, WDMCHN, NFCHN, GONO, M
N-N-1;IF N<>0 GOTO ***	変数 N から 1 を引き、0 でない場合は、*** 行にジャンプ	1 ~ 200 (1 step)
M=*****	変数 M に値を代入	1 ~ 99999999 (1 step)
M=@@@@@@	変数 @@@@@@ の内容を変数 M に コピー	@@@@@: MODN, WDMCHN, NFCHN, GONO, N
M-M-1;IF M<>0 GOTO ***	変数 M から 1 を引き、0 でない場合は、*** 行にジャンプ	1 ~ 200 (1 step)

変数演算

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
@ = ***** ###	変数 @ に値を代入します。 ***** は、符号・小数点を含んで 10 桁以内の実数が指定可能	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, CH *****: -999999999 ~ 999999999 (1 step) ###: nm, dB, dBm, pW, nW, μW, mW, W, THz, cm ⁻¹ , '' (単位無し) (cm ⁻¹ は AQ6375/AQ6375B のみ選択 可)

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
@=#+*****	変数 # に ***** の値を加算し、変数 @ に代入。***** は、符号・小数点を含んで 10 桁以内の実数が指定可能。負の値を設定することにより、変数 # からの減算。	@、#:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z、CH ***** :-99999999 ~ 999999999 (1 step)
@=@@@@@	変数 @@@@@ の内容を変数 @ にコピー	@:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z、CH @@@@@:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z、WM、W1、W2、W2-W1、W(CH)、LM、L1、L2、L2-L1、L(CH)、SPWD、MEANWL、PKWL、PKLVL、MODN、GONO、SMSR、WDMCHN、WDMWL(CH)、WDMLVL(CH)、WDMSNR(CH)、NFCHN、NFWL(CH)、NFLVLI(CH)、NFLVLO(CH)、NFASELV(CH)、NFGAIN(CH)、NFNF(CH)、MKPWR、PMD、M、N、CH、WAM1、WAM2、WAM3、WAM4、WAM2-WAM1、WAM4-WAM3、LAM1、LAM2、LAM3、LAM4、LAM2-LAM1、LAM4-LAM3
@=@@@@@+ #####	変数間で四則演算を実行	####:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z、CH @@@@@:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z、WM、W1、W2、W2-W1、W(CH)、LM、L1、L2、L2-L1、L(CH)、SPWD、MEANWL、PKWL、PKLVL、MODN、GONO、SMSR、WDMCHN、WDMWL(CH)、WDMLVL(CH)、WDMSNR(CH)、NFCHN、NFWL(CH)、NFLVLI(CH)、NFLVLO(CH)、NFASELV(CH)、NFGAIN(CH)、NFNF(CH)、MKPWR、PMD、M、N、CH、WAM1、WAM2、WAM3、WAM4、WAM2-WAM1、WAM4-WAM3、LAM1、LAM2、LAM3、LAM4、LAM2-LAM1、LAM4-LAM3
@=@@@@@-#####		
@=@@@@@*#####		
@=@@@@@/#####		
@\$=@\$	文字変数 @\$ に、文字変数 @\$ をコピー	@\$:A\$,B\$,C\$,D\$
@\$=MID(@\$,@,@)	文字変数 @\$ に、文字変数 @\$ の先頭から数値変数 @ 文字分離れた文字列から @ 分の文字数を代入	@:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z @\$:A\$,B\$,C\$,D\$
@\$='---56 文字 --- '	文字変数 @\$ に、文字列を代入 (最大 56 文字)	@\$:A\$,B\$,C\$,D\$
@\$=@\$+@\$	文字変数 @\$ に、文字変数 @\$ と文字変数 @\$ の文字列を結合した文字列を代入	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B @\$:A\$,B\$,C\$,D\$
@\$=STR(@)	変数 @ を文字列に変換し、文字変数 @\$ に代入	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B @:E*、G、H、I、J、K、O*、P、Q、R、S、T*、U*、V*、X、Y、Z @\$:A\$,B\$,C\$,D\$
@\$=DATEINFO(###)	日時を文字変数 @\$ に代入	AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B @\$:A\$,B\$,C\$,D\$ ####:DATE&TIME,DATE,TIME

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

プリンタ出力 (AQ6370C/AQ6373/AQ6375 にて有効)

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
PRINT '---56 文字 --- '	' 'の文字列を印字。文字列の最後に セミコロン ";" を付けると、印字後、 改行を行わず次の PRINT コマンドで 指定された文字列や変数の値を、続 けて印字	
PRINT @@@@	変数 @@@@ の値を、単位付きで印字	@@@@:G、H、I、J、K、P、Q、R、S、X、 Y、Z、WM、W1、W2、W2-W1、 W(CH)、LM、L1、L2、L2-L1、 L(CH)、SPWD、MEANWL、PKWL、 PKLVL、MODN、GONO、SMSR、 SMSR2、WDMCHN、WDMWL(CH)、 WDMVLV(CH)、WDMSNR(CH)、 NFCHN、NFWL(CH)、NFLVLI(CH)、 NFLVLO(CH)、NFASELV(CH)、 NFGAIN(CH)、NFNF(CH)、MKPWR、 PMD、M、N、CH、A\$、B\$、C\$、 D\$、FILE\$、WAM1、WAM2、 WAM3、WAM4、WAM2-WAM1、 WAM4-WAM3、LAM1、LAM2、 LAM3、LAM4、LAM2-LAM1、 LAM4-LAM3
PRINT @@@@;	変数 @@@@ の値を、単位付きで印字。 印字後、改行を行わず次の PRINT コ マンドで指定された文字列や変数の 値を、続けて印字。	@@@@:G、H、I、J、K、P、Q、R、S、X、 Y、Z、WM、W1、W2、W2-W1、 W(CH)、LM、L1、L2、L2-L1、 L(CH)、SPWD、MEANWL、PKWL、 PKLVL、MODN、GONO、SMSR、 SMSR2、WDMCHN、WDMWL(CH)、 WDMVLV(CH)、WDMSNR(CH)、 NFCHN、NFWL(CH)、NFLVLI(CH)、 NFLVLO(CH)、NFASELV(CH)、 NFGAIN(CH)、NFNF(CH)、MKPWR、 PMD、M、N、CH、A\$、B\$、C\$、 D\$、FILE\$、WAM1、WAM2、 WAM3、WAM4、WAM2-WAM1、 WAM4-WAM3、LAM1、LAM2、 LAM3、LAM4、LAM2-LAM1、 LAM4-LAM3
PRINT DATA AREA	データエリアの内容を印字	
PRINT OUTPUT WINDOW	OUTPUT WINDOW の内容を印字	

8.3 プログラム機能用コマンド

条件判定

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
IF F1 <= @@@@ <= F2 GOTO ***	変数 @@@@ の値が F1 以上 F2 以下であれば、*** 行にジャンプ	@@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W2-W1, W(CH), LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMLVL(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASELV(CH), NFGAIN(CH), NFNF(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH, A\$, B\$, C\$, D\$, FILE\$, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4, LAM2-LAM1, LAM4-LAM3 *** : 1 ~ 200 (1 step)
F1 = ***** ###	変数 F1 に値を代入 ***** は、符号・小数点を含んで 10 桁以内の実数を指定	###: nm, dB, dBm, pW, nW, μW, mW, W, THz, cm ⁻¹ , '' (単位無し) (cm ⁻¹ は AQ6375/AQ6375B のみ選択可) ***** : -999999999 ~ 999999999 (1 step)
F2 = *****	### 変数 F2 に値を代入します。***** は、符号・小数点を含んで 10 桁以内の実数を指定	###: nm, dB, dBm, pW, nW, μW, mW, W, THz, cm ⁻¹ , '' (単位無し) (cm ⁻¹ は AQ6375/AQ6375B のみ選択可) ***** : -999999999 ~ 999999999 (1 step)
F1 = @@@@	変数 @@@@ の内容を、変数 F1 にコピー	@@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W2-W1, W(CH), LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMLVL(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASELV(CH), NFGAIN(CH), NFNF(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4, LAM2-LAM1, LAM4-LAM3
F2 = @@@@	変数 @@@@ の内容を、変数 F2 にコピー	@@@@ : E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W2-W1, W(CH), LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMLVL(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASELV(CH), NFGAIN(CH), NFNF(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH
@ = LEVEL (****.***nm)	アクティブトレース上の波長 ****.***nm の点のレベルを、変数 @ に代入	@ : G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z ****.*** : 600.000 ~ 1700.000 (0.001 step)

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
@ = LEVEL(@@@@)	アクティブトレース上の波長 @@@@ (変数 (の点のレベルを、 変数 @ に代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z @@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W(CH), MEANWL, PKWL, WDMLVL(CH), WDMWL(CH), NFWL(CH)
IF @@@@@ < @@@@@ GOTO ***	2 変数の大小関係と比較し、 条件を満たす場合は *** 行ヘジャンプ	@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W2-W1, W(CH), LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMLVL(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASELV(CH), NFGAIN(CH), NFnF(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4, LAM2-LAM1, LAM4-LAM3 ***: 1 ~ 200 (1 step)
IF @@@@@ = @@@@@ GOTO ***		
IF @@@@@ <> @@@@@ GOTO ***		

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

外部制御

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
SEND ** ' ---56 文字 --- '	GP-IB2 コネクタに接続された、ア ドレス ** の外部機器をリスナに 指定し、' ' 内のコマンドを送出デ リミタは CR/LF	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 0 ~ 30 (1 step)
SEND ** '---56 文字 --- ';@	GP-IB2 コネクタに接続された、ア ドレス ** の外部機器をリスナに 指定し、' ' 内のコマンドに続いて、 変数 @ の値を送出しますデリミ タは CR/LF	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 0 ~ 30 (1 step) @: G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z
SEND ** '---20 文字 ---'; @;'---20 文字 ---'	GP-IB2 コネクタに接続された、ア ドレス ** の外部機器をリスナに 指定し、' ' 内のコマンドに続いて、 変数 @ の値を送出し、' ' 内のコマ ンドを送出デリミタは CR/LF	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 0 ~ 30 (1 step) @: G, H, I, J, K, P, Q, R, S, X, Y, Z
SEND RS232 '---56 文字 --- '	RS-232 コネクタに接続された外 部機器をリスナに指定し、' ' 内 のコマンドを送出デリミタは SET DELIMITER の設定値	
SEND RS232 '---56 文字 --- ';@	RS-232 コネクタに接続された外 部機器をリスナに指定し、' ' 内の コマンドに続いて、変数 @ の値 を送出デリミタは SET DELIMITER の設定値	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
SEND RS232 '---20 文字 ---'; @;'---20 文字 ---'	RS-232 コネクタに接続された外 部機器をリスナに指定し、' ' 内の コマンドに続いて、変数 @ の値 を送出し、さらに ' ' 内のコマンド を送出デリミタは SET DELIMITER の設定値	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	コマンドが有効な機器の形名と パラメータ範囲および扱える変数
SEND LAN @\$, "*****";'---56 文字 ---' ※ @\$: コンピュータ名 または IP アドレス **** : ポート番号	LAN コネクタに接続されている" コンピュータ名"," IP アドレス" および" ポート番号" で指定された外部機器をリストに指定し、'内のコマンドを送出。デリミタは" SET DELIMITER" 設定値	ポート番号 : 1024 ~ 65535 @\$: A\$, B\$, C\$, D\$
SEND LAN @\$, "*****"; '---56 文字 --- ' ;@ ※ @\$: コンピュータ名 または IP アドレス **** : ポート番号	LAN コネクタに接続されている" コンピュータ名"," IP アドレス" および" ポート番号" で指定された外部機器をリストに指定し、'内のコマンドに続いて、変数 @ の値を送出。デリミタは" SET DELIMITER" 設定値	ポート番号 : 1024 ~ 65535 @: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z @\$: A\$, B\$, C\$, D\$
SEND LAN @\$, "*****", ' -- 20 文字 ? ' ;@; " ? 20 文字 ? ' ※ @\$: コンピュータ名 または IP アドレス **** : ポート番号	LAN コネクタに接続されている" コンピュータ名"," IP アドレス" および" ポート番号" で指定されたコマンドに続いて、変数 @ の値を送出し、さらに'内のコマンドを送出。デリミタは" SET DELIMITER" 設定値	ポート番号 : 1024 ~ 65535 @: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z @\$: A\$, B\$, C\$, D\$
RECEIVE **;\$@	GP-IB2 コネクタに接続された、アドレス ** の外部機器をトーカに指定してメッセージを受信し、文字変数 @\$ に代入。 最大 512 文字まで受信可能。 デリミタは CR/LF	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 0 ~ 30 (1 step) @\$: A\$, B\$, C\$, D\$
SEND RS-232 '---56 文字 --- ' ;@\$	RS-232 コネクタに接続された外部機器にクエリコマンドを送信し、外部機器からの受信したメッセージを文字変数 @\$ に代入。最大 512 文字まで受信可能。 デリミタは" SET DELIMITER" 設定値	@\$: A\$, B\$, C\$, D\$
SEND LAN @\$, '*****', '---56 文字 --- ' ;@\$ ※ @\$: コンピュータ名 または IP アドレス **** : ポート番号	LAN コネクタに接続されている変数 @\$ に格納されている" コンピュータ名"," IP アドレス" および" ポート番号" で指定された外部機器に、クエリコマンドを送信します。外部機器からの受信したメッセージを文字変数 @\$ に代入最大 512 文字まで受信可能でデリミタは" SET DELIMITER" 設定値	ポート番号 : 1024 ~ 65535 @\$: A\$, B\$, C\$, D\$
RESET OPTION	GP-IB 2 コネクタに接続された外部機器に対して、リモートの解除、デバイスクリア、インタフェースクリアを実行	AQ6370C/AQ6373/AQ6375
SPOLL **;\$	GP-IB2 コネクタに接続された、アドレス ** の外部機器にシリアルポーリングを行い、ステータスバイトを変数 \$ に代入	AQ6370C/AQ6373/AQ6375 0 ~ 30 (1 step)
SET DELIMITER ###	RS-232、LAN ポートでリモート制御された外部機器に対して、本機器が送受信するデリミタを設定	###: CR, LF, CR+LF

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

測定条件代入

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
@ = CENTER	変数 @ に現在の測定中心波長を代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
@ = SPAN	変数 @ に現在の掃引幅を代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
@ = REF LEVEL	変数 @ に現在の基準レベルを代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
@ = RESOLUTION	変数 @ に現在の測定分解能を代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
@ = SAMPLING POINT	変数 @ に現在のサンプル数を代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
@ = ZOOM CENTER	変数 @ に現在の表示中心波長を代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z
@ = ZOOM SPAN	変数 @ に現在の表示幅を代入	@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z

* 汎用変数の E, O, T, U, V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

ユーザ入出力

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
DATA INPUT '---56 文字 ---';@	プログラムの実行を一時停止し、変数 @ へのユーザからの数値 / 文字列の入力を求める。 画面上には入力用ウィンドウが表示。 ウィンドウには、' ' 内の文字列が表示。 変数 @ が数値変数のときは数値入力、 文字列変数のときは文字列入力の状態になる	@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, A\$, B\$, C\$, D\$
DATA OUTPUT '---56 文字 ---';@	' ' 内の文字列を、出力用ウィンドウ (OUTPUT WINDOW) に出力。文字列の最後にセミコロン ";" を付けると、文字列出力後、改行せずに次の DATA OUTPUT コマンドで指定された文字列や変数の値が、続けて出力	
DATA OUTPUT @@@@@	変数 @@@@@ の値を、出力用ウィンドウ (OUTPUT WINDOW) に単位付きで出力	@@@@@: E*, G, H, I, J, K, O*, P, Q, R, S, T*, U*, V*, X, Y, Z, WM, W1, W2, W2-W1, W(CH), LM, L1, L2, L2-L1, L(CH), SPWD, MEANWL, PKWL, PKLVL, MODN, GONO, SMSR, SMSR2, WDMCHN, WDMWL(CH), WDMVLV(CH), WDMSNR(CH), NFCHN, NFWL(CH), NFLVLI(CH), NFLVLO(CH), NFASELV(CH), NFGAIN(CH), NFNF(CH), MKPWR, PMD, M, N, CH, A\$, B\$, C\$, D\$, FILE\$, TIME\$, WAM1, WAM2, WAM3, WAM4, WAM2-WAM1, WAM4-WAM3, LAM1, LAM2, LAM3, LAM4, LAM2-LAM1, LAM4-LAM3

* 汎用変数の E, O, T, U, V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.3 プログラム機能用コマンド

プログラムコマンド	内容	パラメータ範囲および扱える変数
DATA OUTPUT @@@@@;	変数 @@@@ の値を、出力用ウィンドウ (OUTPUT WINDOW) に単位付きで出力。 文字列出力後、改行せずに次の DATA OUTPUT コマンドで指定された文字列や変数の値を、続けて出力	@@@@@ : E [*] 、G、H、I、J、K、O [*] 、P、Q、R、S、T [*] 、U [*] 、V [*] 、X、Y、Z、WM、W1、W2、W2-W1、W(CH)、LM、L1、L2、L2-L1、L(CH)、SPWD、MEANWL、PKWL、PKLVL、MODN、GONO、SMSR、SMSR2、WDMCHN、WDMWL(CH)、WDMVLVL(CH)、WDMSNR(CH)、NFCHNNFWL(CH)、NFLVLI(CH)、NFLVLO(CH)、NFASELV(CH)、NFGAIN(CH)、NFnF(CH)、MKPWR、PMD、M、N、CH、A\$、B\$、C\$、D\$、FILE\$、TIME\$、WAM1、WAM2、WAM3、WAM4、WAM2-WAM1、WAM4-WAM3、LAM1、LAM2、LAM3、LAM4、LAM2-LAM1、LAM4-LAM3
DATA OUTPUT DATA AREA	データエリアの内容を出力用ウィンドウ (OUTPUT WINDOW) に出力	
OUTPUT WINDOW CLEAR	出力用ウィンドウ (OUTPUT WINDOW) の内容をクリア	
OUTPUT WINDOW ###	出力用ウィンドウ (OUTPUT WINDOW) を画面に表示する / 表示しないを設定	### : ON または OFF

* 汎用変数の E、O、T、U、V は AQ6370C/AQ6370D/AQ6375B にだけ有効です。

8.4 プログラム機能による外部機器制御

プログラム機能を使用して、本機器の各種インターフェイス (GP-IB、RS-232C、LAN ポート) に接続された外部機器を制御することができます。ひとつのプログラムで各インターフェイスに接続された複数の外部機器を制御することも可能です。

GP-IB2 ポートでの外部機器制御

GP-IB2 ポートに接続された機器に対して、リモートコマンドの送信、トーカーデータの受信、シリアルポールを行うことができます。接続された機器の GPIB アドレスをプログラムコマンドで指定し、通信を行います。

GPIB アドレスは、**GPIB2 PORT ADDRESS** キーの設定値と同じアドレスに設定しないでください。同じアドレスに設定すると、正常に外部機器と通信できません。

送信コマンド

SEND ** 'コントロールコマンド / クエリコマンド (56 文字)'

SEND ** 'コントロールコマンド / クエリコマンド (56 文字)' ;@

SEND ** 'コントロールコマンド / クエリコマンド (20 文字)' ;@; 'コントロールコマンド / クエリコマンド (20 文字)'

** : GP-IB コマンド

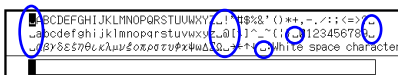
受信コマンド

RECEIVE **;@\$

** : GP-IB コマンド

Note

- PC などのコントローラを GP-IB2 ポートに接続しても、本機器をリモートコントロールすることはできません。
- 波長可変光源やプログラム機能で制御しようとする外部機器を GP-IB1 ポートに接続しても、リモートコントロールすることはできません。
- GP-IB1 と GP-IB2 ポートは、互いに独立しています。したがって、GP-IB1 ポートに接続したコントローラから、GP-IB2 ポートに接続した外部機器に直接メッセージを送ることはできません。
- コントローラが GP-IB1 ポートに接続されている状態で、さらに GP-IB1 ポートと GP-IB2 ポートを接続すると正常に動作しません。
ケーブルを接続しないか、SYSTEM CONTROLLER の設定を OFF に設定してください。初期値は ON です。
- SEND**' コントロールコマンド / クエリコマンド (56 文字)';@ など、コマンド列と変数 @ の間に <wsp> を挿入する場合は、コマンド末尾に " " を挿入してください。



- AQ6370D/AQ6373B/AQ6375B には GP-IB2 ポートはありません。

RS-232C ポートでの外部機器制御

RS-232C ポートに接続された機器に対して、リモートコマンドの送信、トーカーデータの受信、シリアルポーリングを行うことができ、接続された機器のシリアル通信設定に、本機器の設定を合わせて通信を行います。

本機器の RS-232C ポートと外部機器はクロスケーブルで接続してください。

シリアル通信の各種設定は、4 章をご覧ください。

外部機器からクエリデータを受信する場合には、送受信コマンドを使用してください。受信したデータは、@\$ で指定された文字列変数に格納されます。

送信コマンド

SEND RS-232C 'コントロールコマンド (56 文字)'

SEND RS-232C 'コントロールコマンド (56 文字)' ;@

SEND RS-232C 'コントロールコマンド (20 文字)' ;@;' コントロールコマンド (20 文字)'

送受信コマンド

SENDRCV RS-232C 'クエリコマンド (56 文字)' ;@\$

Note

- 接続した外部機器によっては、送信コマンドのデリミタ (区切り文字) (の設定を変更する必要があります。デリミタを変更する場合は、特殊コマンドの SET SEND DELIMITER を使用し、送信コマンドのデリミタを受信側の機器の設定に合わせてください。(初期値は、CR+LF です)
 - SEND RS232C 'コントロールコマンド (56 文字)';@ など、コマンド列と変数 @ の間に <wsp> を挿入する場合は、コマンドの末尾に "␣" を挿入してください。
-

LAN ポートでの外部機器制御

外部機器のコンピュータ名または IP アドレスと、ポート番号をプログラムコマンド上で設定し、通信を行います。

コンピュータ名または IP アドレスは、@\$=' 文字列 (56 文字)' のプログラムコマンドで、文字列変数にあらかじめ入力する必要があります。

外部機器からクエリデータを受信する場合には、送受信コマンドを使用してください。受信したデータは、@\$ で指定された文字列変数に格納されます。

送信コマンド

SEND LAN @\$ **** 'コントロールコマンド (56 文字)'

SEND LAN @\$ **** 'コントロールコマンド (56 文字)' ;@

SEND LAN @\$ **** 'コントロールコマンド (20 文字)';@;' コントロールコマンド (20 文字)'

@\$: コンピュータ名または IP アドレス

****: ポート番号'

送受信コマンド

SENDRCV LAN @\$ **** 'クエリコマンド (56 文字)'

@\$: コンピュータ名または IP アドレス

****: ポート番号

Note

- 本機器の IP アドレスを正しく設定してください。
 - DHCP を使用する場合、本機器の IP アドレスは自動的に設定されます。TCP/IP SETTING の IP ADDRESS SETTING を "AUTO(DHCP)" にセットしてください。
 - 本機器を接続するネットワークの詳細については、接続するネットワークの管理者にご確認ください。
 - SEND LAN@\$**** 'コントロールコマンド (56 文字)';@ など、コマンド列と変数 @ の間に <wsp> を挿入する場合は、コマンドの末尾に "␣" を挿入してください。
-

8.5 サンプルプログラム

ここでは、以下の動作を行う例を示します。

条件

測定条件を設定したあと、シングル掃引を行います。次にスペクトル幅、ピーク波長をサーチしてラベルエリアおよび OUTPUT WINDOW に出力します。この動作を 3 秒間のウェイトをいれて、10 回繰り返します。

001CENTER WL 1555.00nm	}	: 測定条件の設定
002SPAN 10.0nm		
003REFERENCE LEVEL -10.0dBm		
004RESOLUTION 0.1nm		
005AVERAGE TIMES 1		
006SENS NORMAL/HOLD		
007OUTPUT WINDOW CLEAR		: OUTPUT WINDOW のデータをクリア
008OUTPUT WINDOW ON		: OUTPUT WINDOW を表示
009N=10 : ループカウンタ N に 10 をセット		
010SINGLE : シングル掃引を行う		
011SPEC WD THRESH 20.0dB		: スペクトル幅サーチを行う
012DATA OUTPUT 'Wd = ;	}	: OUTPUT WINDOW およびラベルエリアにスペクトル幅を出力
013LABEL 'Wd = ;		
014DATA OUTPUT SPWD;		
015LABEL SPWD ;		
016PEAK SEARCH		: ピークサーチを行う
017DATA OUTPUT 'Pk = ;	}	: OUTPUT WINDOW およびラベルエリアにピーク波長値を出力
018LABEL 'Pk = ;		
019DATA OUTPUT PKWL		
020LABEL PKWL		
021WAIT 3S:3 秒間のウェイトを行う		
022N=N-1 ; IF N <> 0 GOTO 10		: ループカウンタ N から 1 を引き、0 でなければ 010 行へジャンプ
023END : プログラムを終了		

8.5 サンプルプログラム

GP-IB2 コネクタに接続された外部機器を、リスナに指定してデバイスメッセージを送出し、同じ外部機器をトーカーに指定してデータを受け取ります。
受け取ったデータをデータ出力用ウィンドウに表示させます。以上の動作を 10 回繰り返します。

001 OUTPUT WINDOW CLEAR	:OUTPUT WINDOW のデータを クリア
002 OUTPUT WINDOW ON	:OUTPUT WINDOW を表示
003 N=10 : ループカウンタ N に ,10 をセット	
004 SEND 1'B,C1,E1,H1,S '	: アドレス 1 の外部機器をリス ナに指定して、' ' の内容を送 出
005 WAIT 1S:1 秒間のウェイトを行う	
006 RECEIVE 1;A\$: アドレス 1 の外部機器をトー カに指定してデータを受け取 り、文字変数 A\$ に代入
007 DATA OUTPUT @@@@	:A\$ の内容を OUTPUT WINDOW に出力
008 N=N-1;IF N<>0 GOTO 4	: ループカウンタ N から 1 を引 き、0 でなければ 004 行にジャン プ
009 END : プログラムを終了	

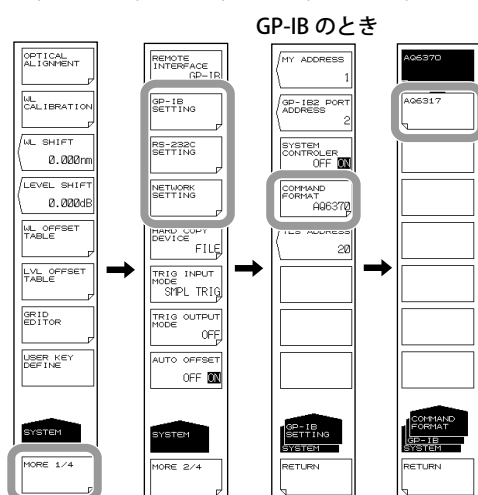
コマンドモードの切替

AQ6317 と互換性のあるコマンドを使用するには、本機器のコマンドモードを AQ6317 モードに設定する必要があります。

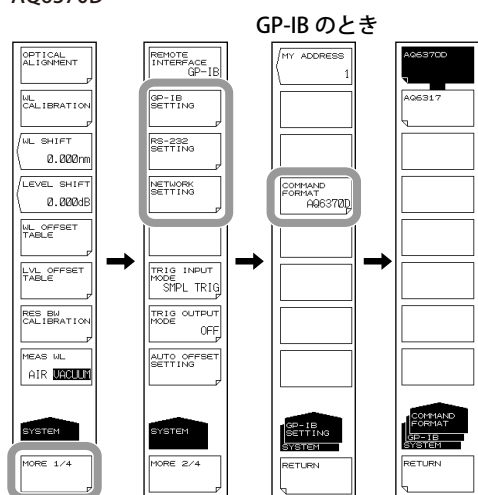
操作

1. **SYSTEM** を押します。システム設定メニューが表示されます。
2. **MORE1/4** のソフトキーを押します。通信インタフェース設定メニューが表示されます。
3. **GP-IB SETTING**、**RS-232C SETTING**、**NETWORK SETTING** のいずれかのソフトキーを押します。使用するインタフェースの設定メニューが表示されます。
4. **COMMAND FORMAT** のソフトキーを押します。コマンドフォーマットの設定メニューが表示されます。
5. **AQ6317** のソフトキーを押します。

AQ6370C/AQ6373/AQ6375/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B



AQ6370D



付

AQ6317 互換の GP-IB コマンドについて

解 説

本機器の GP-IB によるリモート制御は IEEE488.2 規格に準じているため、従来器 AQ6317(IEEE488.1 規格対応)とはリモートコマンドや内部の動作で互換性はありません。しかし、AQ6317 互換モードに設定することにより、AQ6317 の一部コマンドが使用可能になります。ステータスレジスタの動作も AQ6317 と互換性があります。コマンドモードを切り替えると、ステータスレジスタ、キュー、受信バッファ、およびトーカ出力バッファの内容は全て初期化されます。

AQ6317 互換モードでの動作

本機器を AQ6317 互換モードでリモートコントロールすると、以下のように動作します。

- ・ コントロールコマンドやトーカコマンドとして、一部のコマンドを除く AQ6317 のコマンドが使用できます。
- ・ トーカデータは、AQ6317 のフォーマット形式で出力されます。
- ・ 複数のコマンドを一度に送るときのセパレータには、"," を使用します。
- ・ 複数のクエリコマンドを 1 行で受信した場合には、最後のクエリコマンドに対するデータだけを出力します。

コマンドによるコマンドモードの切替

下記の GP-IB コマンドによっても、コマンドモードを切り替えられます。

AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B モードでのコマンド (AQ6317 互換モードのときは無効)

```
:SYSTem:COMMunicate:CFORmat<wsp><mode>
```

```
<mode>=AQ6317|AQ6370|AQ6370C|AQ6370D|AQ6373|AQ6373B|AQ6375|  
AQ6375B|0|1
```

AQ6317=AQ6317 互換モードに切替

AQ6370=AQ6370C/AQ6370D/AQ6375/AQ6373/AQ6373B/AQ6375B モードに切替

AQ6370C=AQ6370C モードに切替 (AQ6370C の場合)

AQ6370D=AQ6370D モードに切替 (AQ6370D の場合)

AQ6373=AQ6373 モードに切替 (AQ6373 の場合)

AQ6373B=AQ6373B モードに切替 (AQ6373B の場合)

AQ6375=AQ6375 モードに切替 (AQ6375 の場合)

AQ6375B=AQ6375B モードに切替 (AQ6375B の場合)

```
:SYSTem:COMMunicate:CFORmat?
```

0=AQ6317

1=AQ6370C または AQ6370D または AQ6373 または AQ6373B または AQ6375 または AQ6375B

AQ6317 互換モードでのコマンド (AQ6370C または AQ6370D または AQ6373 または AQ6373B または AQ6375 または AQ6375B モードのときはコマンドエラーになる)

コントロールコマンド

CFORM*

*:0=AQ6317 互換モード、1=AQ6370C または AQ6370D または AQ6373 または AQ6373B または AQ6375 または AQ6375B モード

CFORM?

0=AQ6317 互換モード、1=AQ6370C または AQ6370D または AQ6373 または AQ6373B または AQ6375 または AQ6375B モード

AQ6317 ステータスバイト

AQ6317 互換モードでのステータスバイトは、AQ6317 のステータスバイトと同様に動作します。

GP-IB コマンドの詳細は、AQ6317 シリーズの取扱説明書を参照してください。

ビット	機能およびセット条件	クリアタイミング
Bit 7	0	
Bit 6	SRQ 信号を送出している	・ シリアルポール時 ・ DCL または SDC 受信時
Bit 5	受信バッファ容量の 512byte を超えるデータを受信したときに “1 ”をセット	・ シリアルポール時 ・ DCL または SDC 受信時 ・ 測定開始時
Bit 4	0	
Bit 3	コマンドデータエラーが発生したときに “1 ”をセット	・ DCL または SDC 受信時 ・ シリアルポール時 ・ 測定開始時
Bit 2	ワーニングエラー (プログラム実行時のエラーも含む) が発生したときに “1 ”をセット。 ワーニングエラーの内容はトーカコマンドで番号を出力可能	・ ワーニングエラー表示が消えたとき ・ シリアルポール時 ・ DCL または SDC 受信時 ・ 測定開始時
Bit 1	コピー、プログラム実行を終了したときに “1 ”をセット	・ シリアルポール時 ・ DCL または SDC 受信時 ・ 測定開始時
Bit 0	掃引終了時 “1 ”をセット	・ シリアルポール時 ・ DCL または SDC 受信時 ・ 測定開始時

付

AQ6317 互換 S GP-IB 対応ユニット

AQ6317 互換コマンド一覧

本機器で使用できる AQ6317 コマンドおよび対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/AQ6375/AQ6375B コマンドは、以下のとおりです。

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
3D	×	-	
3DRCL	×	-	
A+BCL	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A+B (LIN)	
A=B	○	:TRACe:COPI<wsp>TRB, TRA	
A=C	○	:TRACe:COPI<wsp>TRC, TRA	
A-BC	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A-B (LOG)	
A-BCL	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>A-B (LIN)	
ACTV*	○	:TRACe:ACTive<wsp><trace name> <trace name> = TRA TRB TRC	
ANA?	○	:CALCulate:DATA?	トリーフォーマットが異なる
ANGL***	×	-	
AREA*	×	-	
ARES?	×	-	
ARESDSP*	×	-	
ATANA*	○	:CALCulate[:IMMediate]:AUTO<wsp> OFF ON 0 1	
ATCTR*	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum: SCenter:AUTO<wsp>OFF ON 0 1	
ATOFS*	○	:CALibration:ZERO[:AUTO]<wsp> OFF ON 0 1	
ATREF*	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum: SRLevel:AUTO	
ATSCL*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe: Y2[:SCALe]:AUTO<wsp>OFF ON 0 1	
ATSR*	○	:CALCulate:MARKer:AUTO<wsp> OFF ON 0 1	
AUTO	○	:INITiate:SMODE<wsp>AUTO 3; INITiate	
AVG****	△	:SENSe:AVErAge:COUNT<wsp><integer>	パラメータ範囲が異なる
B=A	○	:TRACe:COPI<wsp>TRA, TRB	
B=C	○	:TRACe:COPI<wsp>TRC, TRB	
B-AC	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>B-A (LOG)	
B-ACL	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>B-A (LIN)	
BASL***,*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe: Y1[:SCALe]:SPACing<wsp>LINear 1; :DISPlay[:WINDow]:TRACe: Y1[:SCALe]:BLEVel<wsp><NRf> [MW]	
BD*	○	-	
BLKA	○	:TRACe:STATe:TRA<wsp>OFF 0	
BLKB	○	:TRACe:STATe:TRB<wsp>OFF 0	
BLKC	○	:TRACe:STATe:TRC<wsp>OFF 0	
BTSR	○	:CALCulate:MARKer:MINimum	

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
BZCLK*	○	:SYSTem:BUZZer:CLICk<wsp>OFF ON 0 1	
BZWRN*	○	:SYSTem:BUZZer:WARNIing<wsp> OFF ON 0 1	
C=A	○	:TRACe:COPIY<wsp>TRA, TRC	
C=B	○	:TRACe:COPIY<wsp>TRC, TRB	
CLMES	○	-	
CLR	○	:TRACe:DELeTe<wsp>TRA; :TRACe:DELeTe<wsp>TRB; :TRACe:DELeTe<wsp>TRC	
CNDDT*	○	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp> CONDition, OFF ON 0 1	
COPY*	○	:HCOPIY[:IMMediate]	
CRS*	○	-	
CTR=M	○	:CALCulate:MARKer:SCENter	
CTR=P	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum: SCENter	
CTRF***.***	△	:SENSe:WAVelength:CENTer<wsp> <NRf>[HZ]	パラメータ範囲が異なる
CTRWL****.***	△	:SENSe:WAVelength:CENTer<wsp> <NRf>[M]	パラメータ範囲が異なる
CVFTC**	×	-	TRACE G には同一コマンドあり
CVPKC**	×	-	TRACE G には同一コマンドあり
CWPLS?	△	-	クエリデータが異なる 0:CW 以外 1:CW
D&TDT*	○	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp> DATE, OFF ON 0 1	
DATE?	○	:SYSTem:DATE?	トークフォーマットが異なる
DATE YR.MO.DY	○	:SYSTem:DATE<wsp><year> <month><day>	
TIME HH:MM	○	:SYSTem:TIME<wsp><hour> <minute><second>	
DEFCL*	△	:DISPlay:COLor<wsp><mode> <mode>= 0:B&W, 1~5:model~mode5	表示色が異なる
DEL'@@@.***'	○	:MMEMory:DELeTe<wsp> <"file name">, EXTeRnal	
DFBAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>DFBLd 4	
DFBLD ○; □; △; ****	△	-	
DIR?	×	-	
DISP?	○	-	
DSPA	○	:TRACe:STATe:TRA<wsp>ON 1	
DSPB	○	:TRACe:STATe:TRB<wsp>ON 1	
DSPA?	○	:TRACe:STATe:TRA?	
DSPB?	○	:TRACe:STATe:TRB?	
DSPC	○	:TRACe:STATe:TRC<wsp>ON 1	
DSPC?	○	:TRACe:STATe:TRC?	
DTAD*	○	:MMEMory:STORe:DATA:MODE<wsp> ADD OVER 0 1	
DTARA*	○	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp> DATA, OFF ON 0 1	
DUTCH***;####.##	×	-	

AQ6317 互換コマンド一覧

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
DUTCHF***;###.###	×	-	
DUTLEV**. **	×	-	
DUTSNR**. **	×	-	
EDFCVF*	×	-	
EDFTH**. *	×	-	
EDNF	×	-	
ENVK**. **	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWENvelope:K<wsp><Nrf>	
ENV11**. **	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWENvelope:TH1<wsp><Nrf>[DB]	
ENV22**. **	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWENvelope:TH2<wsp><Nrf>[DB]	
EXEC**	○	:PROGram:EXECute<wsp><integer>	
EXTRG	○	:TRIGger[:SEQuence]:STATe<wsp> OFF ON 0 1	
FIG*	○	:UNIT:POWer:DIGit<wsp>1 2 3	
FILBTM ○; □; △; ***	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILBtm<wsp><item>, <paramater>, <data>	
FILBTMAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>FILBtm 14	
FILPK ○; □; △; ***	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FILPk<wsp><item>, <paramater>, <data>	
FILPKAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>FILPk 13	
FIXA	○	:TRACe:ATTRibute:TRA<wsp>FIX 1	
FIXB	○	:TRACe:ATTRibute:TRB<wsp>FIX 1	
FIXC	○	:TRACe:ATTRibute:TRC<wsp>FIX 1	
FMKR***. ****	△	:CALCulate:MARKer:X<wsp>0, <Nrf>[HZ]	パラメータ範囲が異なる
FPAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>FPLD 5	
FPLD; ○; □; △; ****	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: FPLD<wsp><item>, <paramemter>, <data>	
GP2ADR**	○	:SYSTem:COMMunication:GPiB2: ADDReSS<wsp><integer>	
GRCOL*	△	-	パラメータは 0 と 1 のみ有効
GRFMT*	○	-	
HD*	○	-	
HELP*	×	-	
*IDN?	○	*IDN?	
INIT	○	:SYSTem:PRESet	
KABC	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp> 1-K (A/B)	
KABCK*****. ****	○	:CALCulate:MATH:TRC:K<wsp> <Nrf>	
KBAC	○	:CALCulate:MATH:TRC<wsp>1-K (B/A)	
KYDNE	×	-	
L1FMK***. ****	△	:CALCulate:LMARker:X<wsp>1, <Nrf>[HZ]	パラメータ範囲が異なる
L1MK****. *	△	:CALCulate:LMARker:X<wsp>1, <Nrf>[M]	パラメータ範囲が異なる

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
L1MK?	△	:CALCulate:LMARker:X?<wsp>1	パラメータ範囲が異なる
L2FMK****.****	△	:CALCulate:LMARker:X<wsp>2,<Nrf>[HZ]	パラメータ範囲が異なる
L2MK****.***	△	:CALCulate:LMARker:X<wsp>2,<Nrf>[M]	パラメータ範囲が異なる
L2MK?	△	:CALCulate:LMARker:X?<wsp>2	パラメータ範囲が異なる
L3DB****.**	△	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>3,<Nrf>[DB]	パラメータ範囲が異なる
L3DBM****.**	△	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>3, <Nrf>[DBM]	パラメータ範囲が異なる
L3LN*.***E±**	△	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>3,<Nrf>	パラメータ範囲が異なる
L3MK?	△	:CALCulate:LMARker:Y?<wsp>3	パラメータ範囲が異なる
L4DB****.**	△	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>4,<Nrf>[DB]	パラメータ範囲が異なる
L4DBM****.**	△	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>4, <Nrf>[DBM]	パラメータ範囲が異なる
L4LN*.***E±**	△	:CALCulate:LMARker:Y<wsp>4,<Nrf>	パラメータ範囲が異なる
L4MK?	△	:CALCulate:LMARker:Y?<wsp>4	パラメータ範囲が異なる
LBL '*****'	△	:DISPlay[:WINDow]:TEXT:DATA<wsp> <string>	文字数が異なる
LBLCL	○	:DISPlay[:WINDow]:TEXT:CLear	
LBLDT*	○	:MMEMory:STORe:DATA:ITEM<wsp> LABel,OFF ON 0 1	
LCALT****;#.###	△	:CALibration:POWer:OFFSet:TABLe <wsp><integer>,<Nrf>[DB]	パラメータ範囲が異なる
LDATAR****-R****	○	:TRACe[:DATA]:X?<wsp> <trace name>[,<start point>,<stop point>]	
LDATBR****-R****		:TRACe[:DATA]:Y?<wsp>	
LDATCR****-R****		<trace name>[,<start point>,<stop point>] :TRACe[:DATA]:SNUMber?<wsp><trace name>	
WDATAR****-R****			
WDATBR****-R****			
WDATCR****-R****			
DTNUM A			
DTNUM B			
DTNUM C			
LMEM\$\$R****-R****	○	-	
WMEM\$\$R****-R****			
DTNUM **			

AQ6317 互換コマンド一覧

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
LDTDIG*	○	-	
LED ○; □; △; *****	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: LED<wsp><item>,<paramater>,<data>	
LEDAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>LED 6	
LHLD*	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1; :DISPlay[:WINDow]:SPLit:HOLD: LOWer<wsp>OFF ON 0 1	
LMKCL	○	:CALCulate:LMARker:AOff	
LNGT**,***	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: LENGth<wsp><Nrf>[KM]	
LOFSKM***.*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: OLEVel<wsp><Nrf>[DB/KM]	
LOFST***.*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: OLEVel<wsp><Nrf>[DB]	
LOGLMT***	×	-	
LPF	×	-	
LSCL**,.*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]: SPACing<wsp>LOGarighmic 0; :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]: PDIVision<wsp><integer>[DIV]	
LSUNT*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALe]: UNIT<wsp>DBM DBM/NM	
LTABS	×	-	
LTALM?	×	-	
LTALMDT?	×	-	
LTATSCL*	×	-	
LTATSET	×	-	
LTCH***	×	-	
LTCHCUR***	×	-	
LTINTVL****.*	×	-	
LTL	×	-	
LTLHI***.**	×	-	
LTLLOW***.**	×	-	
LTLVLCTR***.**	×	-	
LTLVLSCL**,.*	×	-	
LTREFINI	×	-	
LTREFSET	×	-	
LTREL	×	-	
LTSNR	×	-	
LTSNRCTR***.**	×	-	
LTSNRLIM***.**	×	-	
LTSNRSCL**,.*	×	-	
LTSWP	×	-	
LTTIME****	×	-	
LTTCUR****	×	-	
LTL	×	-	
LTLCTR****.**	×	-	
LTLIM***.**	×	-	
LTLSPN****.*	×	-	
LVSFT***.**	○	:SENSe:CORRection:LEVel:SHIFt <wsp><Nrf>[DB]	

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
MAXA	○	:TRACe:ATTRibute:TRA<wsp>MAX 2	
MCLR***	△	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp> <marker>,OFF 0	パラメータ範囲が異なる
MEM*	×	-	
MESWL*	○	:SENSe:CORRection:RVELocity: MEDium<wsp>AIR VACuum 0 1	
MIMSK**,**	×	-	
MINB	○	:TRACe:ATTRibute:TRB<wsp>MIN 3	
MKCL	○	:CALCulate:MARKer:AOff	
MKR***	△	:CALCulate:MARKer[:STATe]<wsp> <marker>, ON 1	パラメータ範囲が異なる
MKR?	○	:CALCulate:MARKer:X?<wsp>0	
MKR?****	○	:CALCulate:MARKer:X?<wsp><marker>	パラメータ範囲が異なる
MKR1	○	:CALCulate:MARKer[:STATe] <wsp>1, ON 1	
MKR1?	○	:CALCulate:MARKer:X?<wsp>1	
MKR2	○	:CALCulate:MARKer[:STATe] <wsp>2, ON 1	
MKR2?	○	:CALCulate:MARKer:X?<wsp>2	
MKROS*	○	:CALCulate:MARKer:FUNCTion: FORMat<wsp>OFFSet SPACing 0 1	
MKRPRT	○	:HCOpy[:IMMediate]:FUNCTion: MARKer:LIST	
MKRUP*	○	:CALCulate:MARKer:FUNCTion: UPDate<wsp>OFF ON 0 1	
MKUNT*	○	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp> WAVelength FREQuency 0 1	
MLTMKR*	×	-	
MODFT*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWTHresh:MFIT<wsp>OFF ON 0 1	
MODIF**,**	○	:CALCulate:PARAmeter:COMMon: MDIfF<wsp><NRf>[DB]	
MSKL*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMASt: TYPE<wsp>VERTical HORIZontal 0 1	
NCHMOD*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NOTCh:TYPE<wsp>PEAK BOTTom 0 1	
NCHTH**,*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NOTCh:TH<wsp><NRf>[DB]	
NMSK****	△	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y:NMASt <wsp><NRf>[DB]	パラメータ範囲が異なる
NORMC	×	-	TRACE G には同一コマンドあり
NORMD	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>OFF 0	
NSR	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum:NEXT または :CALCulate:MARKer:MINimum:NEXT	
NSRL	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum:LEFT または :CALCulate:MARKer:MINimum:LEFT	
NSRR	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum:RIGHT または :CALCulate:MARKer:MINimum:RIGHT	

AQ6317 互換コマンド一覧

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
OFIN***.**	×	-	
OFOUT***.**	×	-	
OPALIGN	○	:CALibration:ALIGn[:IMMediate]	
PKHLD****	○	-	
PKSR	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum	
PKSR?	○	-	
PLMES	×	-	・ PEAK HOLD MODE のとき PKHLD**** ・ EXT TRIGGER MODE のとき EXTRG
PLMOD?	○	-	
PLMSK***.**	×	-	
PMD	○	:CALCulate:CATegory<wsp>PMD 9	
PMDTH***.**	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: PMD:TH<wsp><Nrf>[DB]	
PMRPT	×	-	
PMRST	×	-	
PMSGL	×	-	
PMSTP	×	-	
PMST?	×	-	
PMUNT*	×	-	
POFS***.**	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: POWer:OFFSet<wsp><Nrf>[DB]	
PRDEL**	○	-	
PREXT	○	-	
PRFED**	△	:HCOpy[:IMMediate]:FEED	FEED 量
PRMK***.**	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWPKrms:K<wsp><Nrf>	
PRMTH***.*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWPKrms:TH<wsp><Nrf>[DB]	
PWR	○	:CALCulate:CATegory<wsp>POWER 8	
RAVA***	○	:TRACe:ATTRibute:RAVG[:TRA]<wsp> <integer>	
RAVB***	○	:TRACe:ATTRibute:RAVG:TRB<wsp> <integer>	
RCLA**	△	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRA	パラメータ範囲が異なる
RCLB**	△	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRB	パラメータ範囲が異なる
RCLC**	△	:MEMory:LOAD<wsp><integer>,TRC	パラメータ範囲が異なる
RD* ' @@@@ '	○	:MMEMory:LOAD:TRACe<wsp> <trace name>,<"file name">,EXTernal <trace name> = TRA TRB TRC	EXT(外部メモリ) から読み込み
RD3D* ' @@@@ '	×	-	
RDDT ' @@@@ '	○	:MMEMory:LOAD:DATA<wsp> <"file name">,EXTernal	EXT(外部メモリ) から読み込み
RDLT ' @@@@ '	×	-	
RDMEM*** ' @@@@ '	○	:MMEMory:LOAD:MEMory<wsp> <integer>,<"file name">,EXTernal	EXT(外部メモリ) から読み込み
RDPRG*** ' @@@@ '	○	:MMEMory:LOAD:PROGram<wsp> <program number>,<"file name">, EXTernal	EXT(外部メモリ) から読み込み
RDSET ' @@@@ '	○	:MMEMory:LOAD:SETTing<wsp> <"file ame">,EXTernal	EXT(外部メモリ) から読み込み

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
RDTMP'@@@'	△	:MMEMory:LOAD:TEMPlate<wsp> <template>,<"file name">,EXTernal <template> = UPPER LOWer TARGet	EXT(外部メモリ)から読み込み
REF=M	○	:CALCulate:MARKer:SRLevel	
REF=P	○	:CALCulate:MARKer:MAXimum: SRLevel	
REFL***.*	△	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1 [:SCALE]:SPACing<wsp>LOGarighmic 0; :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1 [:SCALE]:RLEVel<wsp><NRf>[DBM]	パラメータ範囲が異なる
REFLM*.**	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALE]: SPACing<wsp>LINear 1; :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALE]: RLEVel<wsp><NRf>[MW]	
REFLN*.**	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALE]: SPACing<wsp>LINear 1; :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALE]: RLEVel<wsp><NRf>[NW]	
REFLP*.**	×	-	
REFLU*.**	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALE]: SPACing<wsp>LINear 1; :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y1[:SCALE]: RLEVel<wsp><NRf>[UW]	
REFL?	△	:DISPlay[:WINDow]:Y1[:SCALE]: RLEVel?	パラメータ範囲が異なる
REL*	×	-	
RESCOR*	○	-	
RESLN*.**	△	:SENSe:BANDwidth :BWIDth [:RESolution]<wsp><NRf>[M]	パラメータ範囲が異なる
RESLNF***	×	-	
RMSK**. **	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: RMS:K<wsp><NRf>	
RMSTH***.*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: RMS:TH<wsp><NRf>[DB]	
RPT	○	:INITiate:SMODE<wsp>REPeat 2 ; :INITiate	
*RST	△	*RST	動作が異なる
SAVEA**	△	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRA	パラメータ範囲が異なる
SAVEB**	△	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRB	パラメータ範囲が異なる
SAVEC**	△	:MEMory:STORe<wsp><integer>,TRC	パラメータ範囲が異なる
SENS?	○	:SENSe:SENSe?	SENS:NORMAL のときは 0
SD*	○	-	
SEGP****	△	:SENSe:SWEEp:SEGMENT:POINts <wsp><integer>	パラメータ範囲が異なる
SGL	○	:INITiate:SMODE<wsp>SINGLE 1	

AQ6317 互換コマンド一覧

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
SHI1	△	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH1 3; :SENSe:CHOPer<wsp>OFF 0	チョッパ 未使用
SHI2	△	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH2 4; :SENSe:CHOPer<wsp>OFF 0	チョッパ 未使用
SHI3	△	:SENSe:SENSe<wsp>HIGH3 5; :SENSe:CHOPer<wsp>OFF 0	チョッパ 未使用
SKM**,*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:UNIT<wsp>DB/KM 2 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf> [DB/KM]	
SLIN*,***	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:UNIT<wsp>LINear 1 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>	
SLOG**,*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:UNIT<wsp>DB 0 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:PDIVision<wsp><NRf>[DB]	
SMEAS	○	:INITIate:SMODE<wsp>SEGment 4	
SMID	○	:SENSe:SENSe<wsp>MID 2	
SMIN***,*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:SMINimum<wsp><NRf>	
SMINP***,*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:SMINimum<wsp><NRf>[%]	
SMPL****	△	:SENSe:SWEep:POINts<wsp><integer>	パラメータ範囲が異なる
SMSR*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SMSR:MODE<wsp>SMSR1 SMSR2	
SNAT	○	:SENSe:SENSe<wsp>NAUT 1	
SNHD	○	:SENSe:SENSe<wsp>NHLD 0	
SP=LM	○	:CALCulate:LMARker:SSPan	
SPAN****,*	△	:SENSe:WAVelength:SPAN<wsp><NRf>[M]	パラメータ範囲が異なる
SPANF***,***	△	-	パラメータ範囲が異なる
SPLIT	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1	
SPN=W	○	-	
SPS***,*	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: UNIT<wsp>% 3 :DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2[:SCALe]: PDIVision<wsp><NRf>[%]	
SRLMK*	○	:CALCulate:LMARker:SRANge<wsp> OFF ON 0 1	
SRMSK***	○	-	
SRQ*	○	*SRE<wsp><integer>	
SSE*	×	-	
SSMSK**,**	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SMSR:MASK<wsp><NRf>[M]	
SSUNT?	○	:DISPlay[:WINDow]:TRACe:Y2 [:SCALe]:UNIT?	

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
STAF***.***	△	:SENSe:WAVelength:STARt<wsp> <Nrf>[HZ]	パラメータ範囲が異なる
STAWL****.***	△	:SENSe:WAVelength:STARt<wsp> <Nrf>[M]	パラメータ範囲が異なる
STP	○	:ABORt	
STPF***.***	△	:SENSe:WAVelength:STOP<wsp><Nrf>[HZ]	パラメータ範囲が異なる
STPWL****.***	△	:SENSe:WAVelength:STOP<wsp><Nrf>[M]	パラメータ範囲が異なる
SW*	○	:CALCulate:CATegory<wsp>SWThresh 0	
SWDSP*	×	-	
SWENV***.***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWENvelope:TH1<wsp><Nrf>[DB]	
SWEEP?	○	-	
SWPI*****	○	:SENSe:SWEep:TIME:INTerval<wsp> <integer>[SEC]	
SWPM*	○	:SENSe:WAVelength:SRANge<wsp> OFF ON 0 1	
SWPRM***.***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWPKrms:TH<wsp><Nrf>[DB]	
SWRMS***.***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: RMS:TH<wsp><Nrf>[DB]	
SWTHR***.***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWThresh:TH<wsp><Nrf>[DB]	
THRK***.***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWThresh:K<wsp><Nrf>	
THRTH***.***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: SWThresh:TH<wsp><Nrf>[DB]	
TIME?	○	-	
TLDAT*****.***; ***.***;***.***	×	:TRACe:TEMPlate:DATA<wsp> <template>,<wavelength>[M], <level>[DB]	
TLDATCLR	△	:TRACe:TEMPlate:DATA:ADElete <wsp><template> <template> = UPPer LOWer TARGet	現在アクティブなテンプレート (UPPER/LOWER/TARGET) が対象
TLDISP*	○	:TRACe:TEMPlate:DISPlay	
TLEXTRA*	△	:TRACe:TEMPlate:EDIT:ETYPe	現在アクティブなテンプレート (UPPER/LOWER/TARGET) が対象
TLGONO*	○	:TRACe:TEMPlate:GONogo	
TLSADR**	○	-	
TLSSYNC*	○	-	
TLVLSFT***.***	○	:TRACe:TEMPlate:WAVelength:SHIFt	
TLRESLT?	○	:TRACe:TEMPlate:RESult?	
TLTYPE*	○	:TRACe:TEMPlate:TTYPe	
TLWLSFT****.***	○	:TRACe:TEMPlate:WAVelength:SHIFt	
TRA?	△	:TRACe:ATTRibute:TRA?	トークフォーマットが異なる 2: MAX HOLD / MIN HOLD

AQ6317 互換コマンド一覧

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
TRB?	△	:TRACe:ATTRIBute:TRB?	トリーフォーマットが異なる 2: MAX HOLD / MIN HOLD
TRC?	×	:TRACe:ATTRIBute:TRC?	
TRFMT*	○	-	
UCWRN*	○	:SYSTem:DISPlay:UNCal<wsp>OFF ON 0 1	
UHLD*	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1; :DISPlay[:WINDow]:SPLit: HOLD:UPPer<wsp>OFF ON 0 1	
ULTRA*	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1; :DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition <wsp>TRA,UP LOW 0 1	
ULTRB*	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1; :DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition <wsp>TRB,UP LOW 0 1	
ULTRC*	○	:DISPlay[:WINDow]:SPLit<wsp>ON 1; :DISPlay[:WINDow]:SPLit:POSition <wsp>TRC,UP LOW 0 1	
WARN?	△	:SYSTem:ERRor[:NEXT]?	
WCAL****.***	△	:CALibration:WAVelength:EXTernal: SOURce<wsp>LASer 0; :CALibration:WAVelength:EXTernal: WAVelength<wsp><NRf>[M]	パラメータ範囲が異なる
WCALG****.***	△	:CALibration:WAVelength:EXTernal: SOURce<wsp>GASCell 1; :CALibration:WAVelength:EXTernal: WAVelength<wsp><NRf>[M]	パラメータ範囲が異なる
WCALS	○	:CALibration:WAVelength:INTernal [:IMMediate]	
WCALT****;#.###	△	:CALibration:WAVelength:OFFSet: TABLe<wsp><integer>,<NRf>[DB]	パラメータ範囲が異なる
WDMAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>WDM 10	
WDMCHAUT*	×	-	該当するパラメータなし
WDMCHSW***;#	×	-	
WDMDIF**.**	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: MDIFf<wsp><NRf>[DB]	WDM Analysis のみ設定され、 NF Analysis には設定されない
WDMDISP*	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]:WDM: DTYPe<wsp><display type> <display type>=ABSolute 0,RELatibe 1,MDRift 2,GDRift 3	パラメータが異なる 0: ABSOLUTE 1: RELATIVE 3: DRIFT(MEAS 4: DRIFT(GRID)
WDMSPMSK***	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:DMASk<wsp><NRf>[DB]	パラメータ範囲が異なる
WMDUAL*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:DUAL<wsp>OFF ON 0 1	
WDMMAX***	×	-	該当するパラメータなし
WDMMR	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:MMReset	

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
WDMNOI*	△	[NOISE_ALGO を AUTO CENTER にする場合] (NOISE POI = CTR に対応) :CALCulate:PARAmeter[:CATegory] :WDM:NALGo<wsp>ACENter 2 [NOISE_ALGO を MANUAL FIX にする場合] (NOISE POI = FIX に対応) :CALCulate:PARAmeter[:CATegory] :WDM:NALGo<wsp>MFIx 1; :CALCulate:PARAmeter[:CATegory] :WDM:FALGo<wsp>LINear 0;	設定値が異なる 0: AUTO-FIX 1: AUTO-CTR WDM Analysis のみ設定され、 NF Analysis には設定されない
WDMNOIBW****	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:NBW<wsp><NRf>[M HZ]	
WDMNOIP**,**	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:FALGo<wsp>LINear 0; :CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:NBW<wsp><NRf>[M]	NOISE ALGO が MANUAL FIX に設定さ れているときのみ動作
WDMOS*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:RELation<wsp>OFFSet SPACing 0 1	
WDMREF*	×	-	
WDMREFDAT*	×	-	
WDMRH	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:RCH<wsp>0	
WDMRN***	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:RCH<wsp><integer>	
WDMSLOPE*	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:OSLope<wsp>OFF ON 0 1	
WDMTCOPY	○	:HCOpy[:IMMediate]:FUNctioN: CALCulate:LIST	
WDMTH**,*	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: WDM:TH<wsp><NRf>[DB]	WDM Analysis のみ設定され、 NF Analysis には設定されない
WDMUNT*	×	:CALCulate:MARKer:UNIT<wsp> WAVelength FREQuency 0 1	
WLSFT**,***	○	:SENSe:CORRection:WAVelength: SHIFt<wsp><NRf>[M]	
WMKR****,***	△	:CALCulate:MARKer:X<wsp>0,<NRf>[M]	パラメータ範囲が異なる
WNFAN	○	:CALCulate:CATegory<wsp>NF 11	
WNFCVF*	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NF:FALGo<wsp><algorithm> <algorithm>=AFIX 0,MFIx 1,ACENter 2,MCENter 3	ASE ALGO が MANUAL FIX または MANUAL CTR に設定されているとき のみ動作
WNFFA**,**	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NF:FARea<wsp><NRf>[M HZ]	ASE ALGO が MANUAL FIX に設定され ているときのみ動作
WNFNP**,**	△	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NF:MARea<wsp><NRf>[M HZ]	下記の条件を全て満たすときのみ動作 1. ASE ALGO が MANUAL FIX または MANUAL CTR に設定されている 2. FITTING ALGO が LINEAR 以外に設定 されている
WNFOFI***,**	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NF:IOFFSet<wsp><NRf>[DB]	
WNFOFO***,**	○	:CALCulate:PARAmeter[:CATegory]: NF:OOFFSet<wsp><NRf>[DB]	
WNFSSE*	×	-	該当するパラメータなし

AQ6317 互換コマンド一覧

AQ6317 シリーズ コントロール コマンド	AQ6317 互換モード での動作	AQ6317 コマンドに対応する AQ6370C/AQ6370D/AQ6373/AQ6373B/ AQ6375/AQ6375B コントロールコマンド	備考
WR* '#####'	○	:MMEMory:STORe:TRACe<wsp> <trace name>,BIN CSV, <"file name">,EXTernal <trace name>=TRA TRB TRC	EXT(外部メモリ)へ保存
WR3D* '#####'	×	-	
WRDT '#####'	○	:MMEMory:STORe:DATA<wsp> <"file name">,EXTernal	EXT(外部メモリ)へ保存
WRGR '#####'	○	:MMEMory:STORe:GRAPhics<wsp> B&W COLor,BMP TIFF, <"file name">,EXTernal	EXT(外部メモリ)へ保存
WRMEM** '#####'	○	:MMEMory:STORe:MEMory<wsp> <integer>,BIN CSV,<"file name">, EXTernal	EXT(外部メモリ)へ保存
WRPRG** '#####'	○	:MMEMory:STORe:PROGram<wsp> <integer>,<"file name">,EXTernal	EXT(外部メモリ)へ保存
WRSET '#####'	○	:MMEMory:STORe:SETTing<wsp> <"file name">,EXTernal	EXT(外部メモリ)へ保存
WRTA	○	:TRACe:ATTRibute:TRA<wsp>WRITe 0	
WRTB	○	:TRACe:ATTRibute:TRB<wsp>WRITe 0	
WRTC	○	:TRACe:ATTRibute:TRC<wsp>WRITe 0	
WRTL* '#####'	×	-	
XUNT*	○	:UNIT:X<wsp>WAVelength FREQuency 0 1	
ZSCL**	×	-	
ZSWPT**	○	:SENSe:SWEep:TIME:0NM<wsp> <integer>[SEC]	

測定感度 HIGH1、HIGH2、HIGH3 について

AQ6370C、AQ6370D、AQ6373、AQ6373B の場合

本機器は、測定感度を HIGH1、HIGH2、HIGH3 に設定しても、SENS/MODE キーの CHOP MODE 設定を SWITCH にしなければチョッパは動作しません。

しかし、AQ6317 シリーズでは、測定感度を HIGH1、HIGH2、HIGH3 に設定すると、内部のモノクロメータの迷光を除去するチョッパが、必ず動作するようになっています。本機器では、互換性を保つ為 AQ6317 コマンドでもチョッパ動作の設定変更できるように AQ6317 互換モード時に動作する下記のコマンドを用意しています。

AQ6317 コマンドでのチョッパ動作設定のコマンド

コントロールコマンド

CHOP*

*: 0 = チョッパ OFF、2 = SWITCH モード

クエリコマンド

CHOP?

戻り値：同上

AQ6375/AQ6375B の場合

本機器は、測定感度を HIGH1、HIGH2、HIGH3 に設定すると、内部のモノクロメータの迷光を除去するチョッパが、必ず動作するようになっています。

索引

A ページ

ABORt Sub System コマンド.....	7-42
ADVANCE.....	8-42
ANALYSIS.....	7-14, 8-33
AQ6317 互換コマンド.....	付 -4
AQ6317 互換モード.....	付 -2
AQ6317 ステータスバイト.....	付 -3
AUTO OFFSET SETTING.....	7-19

C ページ

CALCulate Sub System コマンド.....	7-45
CENTER.....	7-4, 8-18
COLOR.....	7-97, 7-100
COLOR 解析.....	7-50
COPY.....	7-21

D ページ

DCL(Device Clear).....	2-8
DISPLAY.....	7-7, 8-28
DISPlay Sub System コマンド.....	7-72
dominant wl.....	7-102

E ページ

Ethernet.....	3-1
---------------	-----

F ページ

FEED.....	7-21
FIBER CORE SIZE.....	7-6, 8-23
FILE.....	7-16, 8-38
FORMat Sub System コマンド.....	7-77

G ページ

GP-IB1.....	2-1
GP-IB2.....	5-1
GP-IB アドレス.....	2-7
GP-IB ケーブル.....	2-1
GTL(Go To Local).....	2-8

H ページ

HCOPY Sub System コマンド.....	7-78
----------------------------	------

I ページ

IFC(Interface Clear).....	2-8
INITiate Sub System コマンド.....	7-78

L ページ

LEVEL.....	7-5, 8-21
LLO(Local Lockout).....	2-8

M ページ

MARKER.....	7-10, 8-29
MEMORY.....	7-15, 8-38
MEMory Sub System コマンド.....	7-79
MMEMory Sub System コマンド.....	7-79

O ページ

OSNR (WDM).....	7-14
OUTPUT WINDOW.....	8-11

P ページ

PEAK SEARCH.....	7-13, 8-32
PROGRAM.....	7-17
PROGram Sub System コマンド.....	7-84

R ページ

REMOTE PORT NO.....	3-6
REN(Remote Enable).....	2-8
RS-232.....	4-1
RS-232 規定の信号一覧.....	4-3

S ページ

SCPI コマンドのグループ化.....	7-2
SDC(Selected Device Clear).....	2-8
SENSe Sub System コマンド.....	7-84
SETUP.....	7-6, 8-22
SMOOTHING.....	7-6, 8-23
SPAN.....	7-5, 8-19
SPD(Serial Poll Disable).....	2-8
SPE(Serial Poll Enable).....	2-8
STATus Sub System コマンド.....	7-88
SWEEP.....	7-4, 8-17
SYSTEM.....	7-18, 8-43
SYSTEM CONTROLLER.....	5-4
SYStem Sub System コマンド.....	7-89

T ページ

TCP/IP.....	3-3
TLS ADDRESS.....	5-4
TLS アドレス.....	5-4
TRACE.....	7-8, 8-24
TRACe Sub System コマンド.....	7-93
TRIGger Sub System コマンド.....	7-96

U ページ

UNIT Sub System コマンド.....	7-98
---------------------------	------

W ページ

wsp.....	7-1
----------	-----

Z ページ

ZOOM.....	7-7, 8-26
-----------	-----------

索引

ア ページ

アドレスコマンド2-9

イ ページ

イーサネット3-1

エ ページ

エシヨナブルステータスレジスタ6-10

エラーバッファ1-3

エラー番号8-13

オ ページ

応答メッセージターミネータ1-3

オーバーラップコマンド7-1

オペレーションステータスレジスタ6-7

カ ページ

外部機器制御8-53

外部制御8-49

コ ページ

コマンド8-15

コマンドフォーマット2-7

コマンドモード付-1

コンピュータ名3-7

サ ページ

サービスリクエストイネーブルレジスタ6-4

サンプルプログラム

GP-IB2-10

イーサネット3-9

プログラム機能8-55

シ ページ

シーケンシャルコマンド7-1

色度座標7-102

システムコントローラ5-4

出力データ略号7-101

出力バッファ1-3

出力フォーマット7-99

仕様

GP-IB12-4

GP-IB25-2

RS-2324-1

イーサネット3-1

条件判定8-48

シリアル (RS-232)4-1

シンタックス記述7-1

ス ページ

スタンダードイベントステータスレジスタ6-5

ステータスバイトレジスタ6-3

ステータスレジスタ6-1

ソ ページ

測定条件代入8-51

テ ページ

データの問い合わせ1-4

デバイストリガ1-4

ト ページ

トーカ機能2-3

特殊コマンド8-45

特殊コマンドによる動作8-12

ドミナント波長7-102

ニ ページ

入力バッファ1-3

ハ ページ

バッファ1-3

パリティ4-6

ヒ ページ

被オーバーラップコマンド7-1

フ ページ

ファンクションコマンド8-17

プリンタ出力8-47

フローコントロール4-6

プログラム機能8-1

プログラムの実行8-9

プログラムの編集8-3

プログラム名8-2

プログラムメッセージターミネータ1-3

ヘ ページ

変数演算8-45

ホ ページ

ボーレート4-6

ホワイト・スペース7-1

マ ページ

マルチラインメッセージ2-9

メ ページ

メッセージターミネータ1-3

ユ ページ

ユーザ入出力8-51

ユニバーサルコマンド2-9

ユニラインメッセージ2-8

リ ページ

リスナ機能2-3

リモート1-2

リモートコマンド1-3

リモートコマンドツリー7-31

ル ページ

ループ制御8-45

ロ ページ

ローカル1-2